静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告　第235集

有　東　遺　跡

（第17次発掘調査）

第二東名建設事業に伴う本線の代替地

第二東名建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

静岡市－2

2011

中日本高速道路株式会社東京支社
財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所

巻頭図版

SR01 出土遺物

静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告　第235集

有　東　遺　跡

（第 17 次発掘調査）

第二東名建設事業に伴う本線の代替地

第二東名建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

静岡市－２

２０１１

中日本高速道路株式会社東京支社

財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所

序

有東遺跡は、静岡平野南東部の久能街道微高地に位置する弥生時代の拠点集落の一つと考えられています。有東遺跡周辺には、国指定特別史跡登呂遺跡をはじめ小黒遺跡、鷹ノ道遺跡、汐入遺跡、曲金遺跡、豊田遺跡などが認められます。これらの遺跡からは住居跡、墓、水田などが発見され、静岡平野における弥生中期から後期にかけての弥生時代遺跡群の中核の一つであったことが推定されます。

現地における調査は、第二東名高速道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査業務として、日本道路公団静岡建設局（現中日本高速道路株式会社東京支社）の委託により、平成９年５月から平成９年７月にかけて実施しました。調査範囲から建物跡に伴う柱穴群・土坑群・溝状遺構を検出したため、空中写真測量を導入して迅速な記録保存に配慮し、効率的な発掘調査を行うことができました。

本遺跡の資料は静岡平野の歴史を明らかにするだけでなく、静岡県の弥生時代を研究する上で非常に重要なものと考えられます。有東遺跡では現在までに多数の調査が行われており、今回の調査内容を報告書としてまとめるにあたっては、他の研究機関の成果も合わせ、総合的な考察を行うことを目的としました。この報告書が研究者のみならず広く県民の方々に活用され、埋蔵文化財への理解と郷土への愛着が一段と深められることを願うものです。

今回の発掘調査ならびに本書の作成にあたって、中日本高速道路株式会社東京支社、静岡市教育委員会、静岡県教育委員会等の関係機関各位、地元住民の方々より多大な御理解と御協力をいただきました。さらに、多くの方々から御指導、御助言をいただきました。この場を借りて、心よりお礼申し上げます。最後に、現地調査、資料整理に関わった調査研究員、作業員諸氏にも感謝の意を表する次第です。

平成23年１月

財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所

所　長　　石田　　彰

例　言

1．本書は、静岡県静岡市富士見台１丁目に所在する有東遺跡の発掘調査報告書である。

2．第二東名高速道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査は地区（市町村）単位で実施している。静岡市域では本書が第２冊目であるため「第二東名高速道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 静岡市－２」とした。

3．調査は第二東名建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査として、中日本高速道路株式会社（旧日本道路公団静岡建設局）の委託を受け、静岡県教育委員会の指導のもと、財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所が実施した。現地調査・資料整理の期間と担当者は以下のとおりである。なお、調査体制は第２章に明記した。

本 調 査：平成９年５月～平成９年７月　　足立順司、鈴木利明、宮崎覚、伊藤祐啓、福手絵里
資料整理：平成９年８月～平成10年３月　　伊藤祐啓、福手絵里
資料整理：平成21年12月～平成22年３月　　前嶋秀張
資料整理・報告書作成：平成22年４月～平成23年１月　　五味奈々子

4．本書の執筆は常勤嘱託員五味奈々子が行った。

5．調査における協力者などは文末に記載した。

6．弥生土器については篠原和大氏（静岡大学准教授）、石器石材については伊藤通玄氏（静岡大学名誉教授）の指導・助言をいただいた。

7．現地での基準点測量、空中写真撮影及び遺構測量の一部は株式会社フジヤマに委託した。

8．本書で使用した遺物写真はすべて当研究所写真室杉山すず代が撮影した。

9．脆弱遺物の取り上げ及び保存処理、木製品の樹種同定は当研究所保存処理室が実施した。樹種同定の際に作製したプレパラート標本は財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所清水整理事務所が保管している。

10．調査の概要は、当研究所の一部で公開されているが、内容において本書と相違がある場合は本報告書をもって訂正する。

11．本書の編集は財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所があたった。

12．発掘調査の資料は、静岡県教育委員会が保管している。

凡　例

1．座標は平面直角座標第Ⅷ系を用いた国土座標、日本測地系（改正前）を使用している。

2．本書で使用した遺構の表記は次のとおりである。

例）SK16（SK：遺構の種別　16：遺跡内の遺構種別通し番号）

SB：掘立柱建物跡　SD：溝状遺構　SK：土坑　SR：流路

SX：性格不明遺構　SP：小穴　P：SB内のピット

3．遺構図、遺物実測図の縮尺はそれぞれの図版に明記した。

4．遺物番号は、遺物実測図については器種ごとに通し番号を付している。また、遺構図における出土遺物の表記については次の略号を付した。　S：石器　W：木製品

5．本書に用いる色彩に関する用語・記号は、新版「標準土色帳」（農林水産省農林水産技術会議事務局監修 1992）を使用した。

6．本書の図中に用いたスクリントーンなどの使い分けについては、必要なものを各図の中で表記している。

目　次

序／例言／凡例／目次

第１章　位置と環境 …… 1
　1　位置と地理的環境…… 1
　2　歴史的環境と調査歴…… 3

第２章　調査の方法と経過 ……10
　1　調査の体制……10
　2　発掘調査の方法と経過……10
　3　資料整理の方法と経過……12
　4　基本土層……12

第３章　検出遺構 ……14
　1　掘立柱建物跡……14
　2　溝状遺構……18
　3　土　　坑……25
　4　流　　路……34
　5　性格不明遺構……36
　6　小　　穴……36

第４章　出土遺物 ……37
　1　土　　器……37
　2　石　　器……82
　3　木 製 品…… 115

第５章　まとめ…… 120
　1　有東遺跡出土の弥生時代中期土器について…… 120
　2　有東遺跡における集落の変遷について…… 120
　3　有東遺跡における石器製作について…… 121
　4　有東遺跡出土の木製品について…… 122

写真図版
抄　　録

挿　図　目　次

第１図　遺跡位置図…… 1
第２図　遺跡周辺地形図…… 2
第３図　周辺遺跡分布図…… 4
第４図　調査地点位置図…… 8
第５図　グリッド配置図……10
第６図　基本土層図……13
第７図　遺構全体図……15
第８図　SB01～03平面・断面図 ……16
第９図　SB04～05平面・断面図 ……17
第10図　SD01～07・09・12平面・断面図 ……19
第11図　SD08平面・断面図 ……20
第12図　SD10・11平面・断面図 ……21
第13図　SD13平面・断面図 ……21
第14図　SD15～17・19、SK31平面・断面図 …22
第15図　SD18、SK11・12平面・断面図 ……23
第16図　SD20、SK20平面・断面図 ……24
第17図　SK01～06・13平面・断面図 ……26
第18図　SK07～10・14～18平面・断面図 ……27
第19図　SK19平面・断面図 ……28
第20図　SK21・23平面・断面図 ……29
第21図　SK22・24～26平面・断面図 ……30
第22図　SK27・28平面・断面図 ……31
第23図　SK29・30・32平面・断面図 ……32
第24図　SK33平面・断面図 ……33
第25図　SD14、SR01・02、SX01平面・断面図…35
第26図　SD08・09・13出土土器 ……38
第27図　SD14出土土器１ ……39
第28図　SD14出土土器２ ……40
第29図　SD14出土土器３ ……41
第30図　SD14出土土器４ ……42
第31図　SK08～26出土土器 ……43
第32図　SK27～29、SP01～03、SX01出土土器…44
第33図　SR01出土土器１ ……45
第34図　SR01出土土器２ ……46
第35図　SR01出土土器３ ……47
第36図　SR01出土土器４ ……48
第37図　SR01出土土器５ ……49
第38図　SR01出土土器６ ……50
第39図　SR02出土土器１ ……51
第40図　SR02出土土器２ ……52
第41図　SR02出土土器３ ……53
第42図　遺構外出土土器１……54
第43図　遺構外出土土器２……55
第44図　遺構外出土土器３……56
第45図　遺構外出土土器４……57
第46図　遺構外出土土器５……58
第47図　遺構外出土土器６……59
第48図　遺構外出土土器７……60
第49図　遺構外出土土器８……61
第50図　敲石１……83
第51図　敲石２……84
第52図　敲石３……85
第53図　敲石４……86
第54図　凹石１……87
第55図　凹石２……88
第56図　凹石３・砥石１……89
第57図　砥石２……90
第58図　砥石３……91
第59図　砥石４……92
第60図　砥石５……93
第61図　太型蛤刃石斧１……94
第62図　太型蛤刃石斧２……95
第63図　柱状片刃石斧１……96
第64図　柱状片刃石斧２……97
第65図　扁平片刃石斧１……98
第66図　扁平片刃石斧２・乳棒状磨製石斧・
磨製石鏃・石剣……99
第67図　打製刃器・有溝石錘…… 100
第68図　有頭石錘…… 101
第69図　石斧未製品１…… 102
第70図　石斧未製品２…… 103
第71図　石斧未製品３…… 104
第72図　石斧未製品４…… 105
第73図　石斧未製品５…… 106
第74図　石斧未製品６…… 107
第75図　木製品１…… 116
第76図　木製品２…… 117
第77図　木製品３…… 118

挿 表 目 次

第１表　周辺遺跡一覧……5
第２表　調査歴一覧……9
第３表　静岡地区の調査体制……11
第４表　掘立柱建物一覧……18
第５表　溝状遺構一覧……25
第６表　土坑一覧……34
第７表　小穴・流路・性格不明遺構一覧……36
第８表　土器一覧……62
第９表　石器一覧……108
第10表　木製品一覧……119

写 真 図 版 目 次

巻頭図版　SR01出土遺物
図版１　遺跡遠景（南より）
調査区近景（北より）
図版２　調査区南壁土層堆積状況（北より）
第１面完掘状況（北西より）
図版３　第１面杭列検出状況（東より）
第１面粘土ブロック検出状況（東より）
図版４　SD04付近（西より）
SD08西壁土層（東より）
図版５　SD08・SK19検出状況（北より）
SD08・SK19付近（北より）
図版６　SD13検出状況（北より）
SD14検出状況（東より）
図版７　SK01検出状況（北西より）
SK01完掘状況（北より）
図版８　SK08付近（北より）
SK08検出状況（東より）
図版９　SK20検出状況（北より）
SK25検出状況（北より）
図版10　SK28検出状況（東より）
SK29上面検出状況（北より）
図版11　SK29下面検出状況（南より）
SK30検出状況（東より）
図版12　SK32検出状況（南より）
SR01・02検出状況（南西より）
図版13　北側ピット群（北東より）
中間部ピット群（南より）
図版14　中間部ピット群（北より）
南側ピット群（北より）
図版15　南側ピット群（北東より）
南側ピット群（南西より）
図版16　調査区全景（北より）
調査区全景（南より）
図版17　SD14・SK08・SK29出土土器
図版18　SX01・SR01・SR02出土土器
図版19　遺構外出土土器
図版20　SD08・SD09・SD13出土土器
SD14出土土器（壺）
図版21　SD14出土土器（甕）
SD14出土土器（底部）
図版22　SK08～SK27出土土器
SK28・SK29出土土器
図版23　SR01出土土器（壺１）
SR01出土土器（壺２）
図版24　SR01出土土器（甕）
SR01出土土器（底部）
図版25　SR02出土土器（壺・甕）
SR02出土土器（甕・底部）
図版26　遺構外出土土器（壺１）
遺構外出土土器（壺２）
図版27　遺構外出土土器（壺３）
遺構外出土土器（壺４）
図版28　遺構外出土土器（甕１）
遺構外出土土器（甕２）

図版29　遺構外出土土器（底部１）
遺構外出土土器（底部２）
図版30　敲　石
凹　石
図版31　砥石１
砥石２
図版32　砥石３
太型蛤刃石斧
図版33　柱状片刃石斧・乳棒状磨製石斧
扁平片刃石斧
図版34　磨製石鏃・石剣
打製刃器
図版35　石　錘
石斧未製品１
図版36　石斧未製品２
石斧未製品３
図版37　石斧未製品４　軽石
砥石材
図版38　剥片１
剥片２
図版39　木製品１
図版40　木製品２
図版41　SD08出土遺物
SK08出土遺物
図版42　SK23出土遺物
SK25出土遺物
図版43　SK28出土遺物
SK29出土遺物
図版44　SD14出土遺物
SR02出土遺物

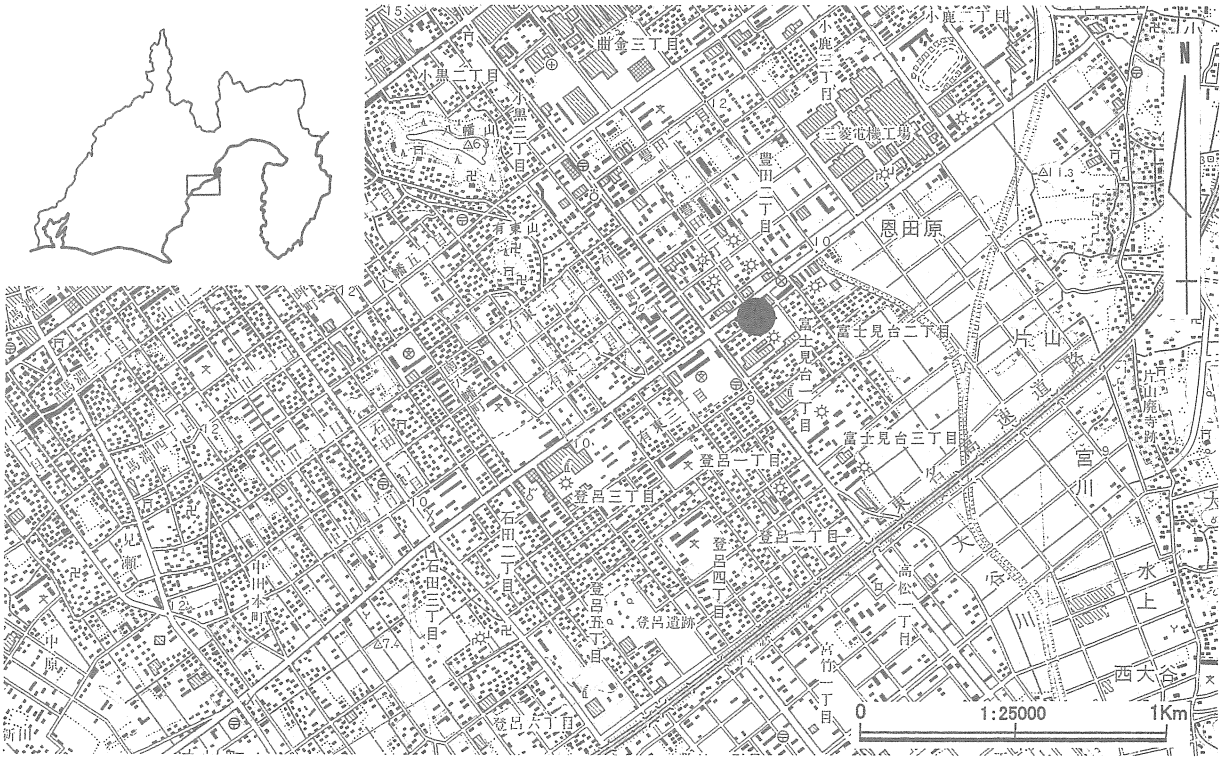
第１章　位置と環境

１　位置と地理的環境

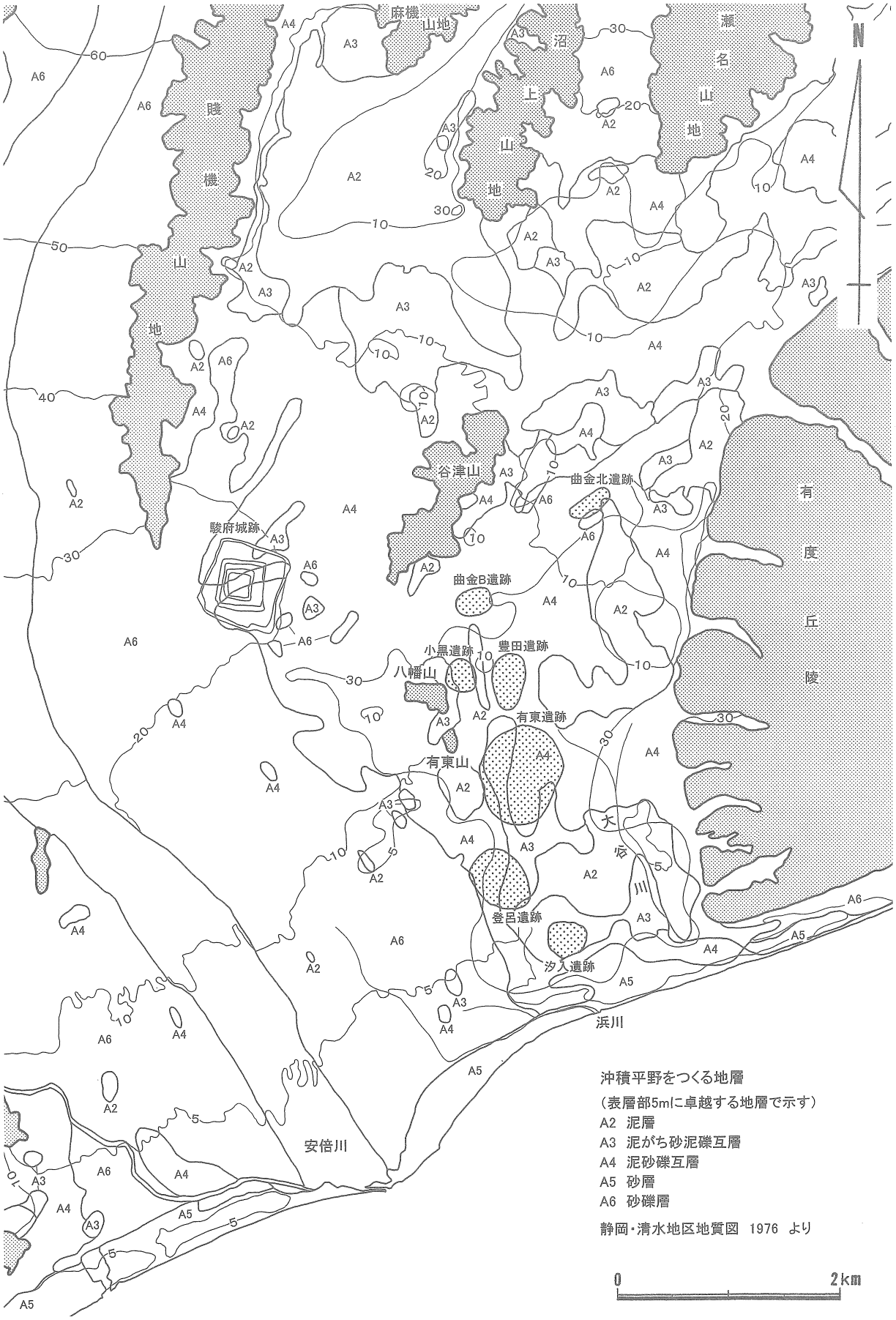
有東遺跡は静岡平野南部の八幡山から南東方向に所在している。遺跡の範囲は南北約900m、東西約750mの広い範囲に及び、海抜は９m前後である。かつては水田と畑地の広がる地域であったが、近年の都市化の中で工場・住宅等の密集する地域となっている（第１図）。

静岡平野の西半部は安倍川扇状地が占めており、末端には多くの微高地が形成されている。平野の中央部に存在する谷津山・八幡山・有東山等の孤立丘と、南北に延びる賤機山が扇状地の東方への拡大を阻止している。平野の東部には低地が存在しており、その東側の有度山西麓には谷から押し出された礫による小扇状地が形成されている。有東遺跡は、静岡平野の北西から南東にのびる久能街道微高地の東端と、その東側の大谷―池田低地の西縁部に立地している。

遺跡周辺の地質を見ると（第２図）、安倍川左岸の扇状地本体部は砂礫層（A6）であり、末端の微高地とその周辺では泥砂礫互層（A4）が見られる。大谷―池田低地では泥層（A2）・泥がち砂泥礫互層（A3）が主体となっている。微高地では安倍川扇状地からの水流によって運ばれた礫の堆積が盛んであるのに対して低地では泥層の中に微高地側からの砂の流入が見られることから、微高地は安倍川によって形成された自然堤防群であり、低地はその後背湿地に相当すると見られている。これらの微高地と後背湿地からなる地形は縄文時代後期には成立していたことが明らかになっており（加藤 1983）、弥生時代中期にはこれらの微高地上に集落が形成され始め、その周辺の湿地帯には水田が営まれている。こうした遺跡周辺の地形景観は、弥生時代中期から古墳時代前期までにはほぼ共通しており、その後は安倍川・藁科川がもたらした自然堆積物や、人為的にもたらされた造成土により微高地と低地の差が縮まり、現在では総体的に変化の少ない地形を成すようになったと考えられている。



第１図　遺跡位置図


麻機山地
沼上山地
瀬名山地
賤機山地
谷津山
有度丘陵
駿府城跡
曲金北遺跡
曲金B遺跡
小黒遺跡
豊田遺跡
八幡山
有東遺跡
有東山
大谷川
登呂遺跡
汐入遺跡
浜川
安倍川
N
沖積平野をつくる地層
（表層部5mに卓越する地層で示す）
A2 泥層
A3 泥がち砂泥礫互層
A4 泥砂礫互層
A5 砂層
A6 砂礫層
静岡・清水地区地質図 1976 より
0
2km

第２図　遺跡周辺地形図

2　歴史的環境と調査歴

（1）歴史的環境

静岡平野周辺では、縄文時代中期以降に遺跡が把握されるようになり、弥生時代中期以降に平野部への進出が本格的に始まる。ここでは旧石器時代から古墳時代までの静岡平野周辺の主な遺跡の概要について述べる（第３図・第１表）。

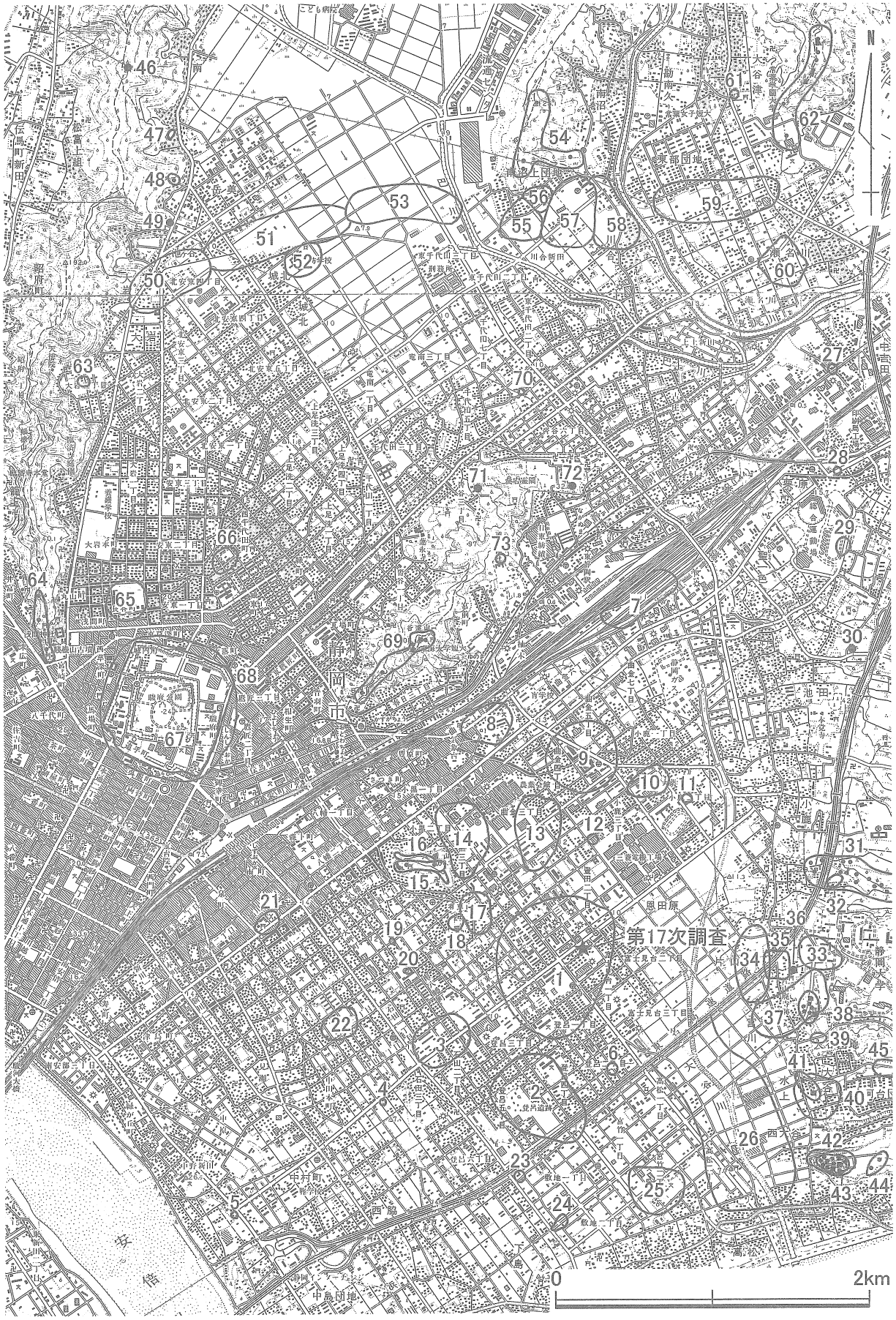
旧石器～縄文時代　静岡平野周辺の旧石器時代の資料は非常に少なく、有度山西麓の宮川遺跡（37）からナイフ形石器の出土が確認されている程度である。本格的な遺跡の形成は縄文時代中期以降に始まり、有度山西麓に井庄段遺跡（40）、上ノ山遺跡（42）が所在しており、住居跡等が確認されている。また、大谷川河口付近の元宮川神明原遺跡（26）では、縄文時代後期～晩期にかけての狩猟・漁労具の出土が確認されている。

弥生時代　中期初頭には安倍川西岸の丘陵上に遺跡が点在するようになり、川合遺跡（57）、元宮川神明原遺跡（26）、瀬名遺跡（59）等平野部の遺跡でも少量の土器が出土している。中期中葉には平野部への進出が本格的に始まり、有東遺跡（1）、豊田遺跡（13）、川合遺跡（57）、瀬名川遺跡（60）等の遺跡において住居跡や方形周溝墓等が構築され、瀬名遺跡（59）では水田も形成されるようになる。中期後半になると遺跡数が増加し、有東遺跡（1）、駿府城内遺跡（68）、川合遺跡（57）等の遺跡で集落とそれに近接する方形周溝墓が確認されている。そのほかにも鷹ノ道遺跡（3）、瀬名遺跡（59）等で方形周溝墓が構築されており、宮川遺跡（37）では丘陵上に土坑墓が確認されている。また、瀬名遺跡（59）、瀬名川遺跡（60）では水田遺構が確認されている。

弥生時代後期には遺跡数および範囲が急速に広がり、水田域の拡大が見られる。有東遺跡（1）、駿府城内遺跡（68）、川合遺跡（57）等の遺跡において集落が継続して営まれており、中期に墓域や居住域となっていた部分の多くが、後期には水田として利用されている。また、登呂遺跡（2）や鷹ノ道遺跡（3）等の遺跡において居住域が成立し、水田と居住域が連続して検出されるようになる。そのほか、瀬名遺跡（59）、瀬名川遺跡（60）等の遺跡において広範囲に広がる水田が確認されている。海岸低地部には下島遺跡（24）、汐入遺跡（25）、有度山西麓には上ノ山遺跡（42）、宮川遺跡（37）等の集落が見られるようになる。また、弥生時代後期に成立するその他の遺跡として、小黒遺跡（14）、元宮川神明原遺跡（26）、曲金A遺跡（9）、豊田遺跡（13）、有明遺跡（17）等が挙げられる。弥生時代後期に成立するこれらの遺跡は古墳時代前期まで継続するものが多く、微高地に居住域または墓域、低地には水田域が形成される状況が続いている。

古墳時代　静岡平野周辺の丘陵部や谷津山・八幡山等の孤立丘上に多くの古墳が築造されるようになる。平野中央部の谷津山丘陵上に所在する谷津山古墳群（69）内の谷津山１号墳（柚木山神古墳）は前期中頃の前方後円墳であり、４世紀後半の築造と考えられている。古墳時代中期になると、平野を囲む丘陵に散在的に比較的有力な古墳が築造される。巴川上流の瀬名丘陵上では瀬名古墳群（62）が造られる。古墳時代後期には群集墳が爆発的に増加し、有度山西麓の小鹿古墳群（31）等に代表されるように、丘陵の奥地まで小規模古墳が密集して分布するようになる。

居住域としては、豊田遺跡（13）、登呂遺跡（2）、上ノ山遺跡（42）等が弥生時代後期から古墳前期まで継続する。また、小黒遺跡（14）、駿府城内遺跡（68）、川合遺跡（57）、鷹ノ道遺跡（3）、元宮川神明原遺跡（26）等の集落が断続的に古墳時代全般に渡って続いている。



第３図　周辺遺跡分布図

第１表　周辺遺跡一覧

番号	遺跡名	時代	遺構・遺物	番号	遺跡名	時代	遺構・遺物
1	有東遺跡	弥生(中・後)、中世	住居跡・水田跡・方形周溝墓	38	宮川古墳群	古墳(後)	横穴式石室、家形・組合箱形石棺
2	登呂遺跡	弥生(後)、古墳	住居跡・高床式倉庫跡、弥生土器	39	清泉寺窪瓦窯跡	古代	窩窯・平窯、瓦
3	鷹ノ道遺跡	弥生(中・後)、古墳	水田跡・方形周溝墓	40	井庄段遺跡	縄文、弥生	住居跡、磨製石斧・縄文土器
4	南消防署内遺跡	弥生、古墳	水田跡、土器片・田下駄・矢板	41	井庄段古墳群	古墳(後)	横穴式石室、埴輪・須恵器・勾玉
5	中野橋下遺跡	弥生(後)	弥生土器・礎板	42	上ノ山遺跡	縄文～古墳	住居跡・高床式倉庫跡・周溝墓
6	天神森遺跡	古墳	土師器	43	上ノ山古墳群	古墳(後)	横穴式石室・須恵器・大刀・勾玉
7	曲金北遺跡	弥生(中)～古代	水田跡・古代東海道	44	東大谷古墳群	古墳(後)	横穴式石室
8	曲金Ｂ遺跡	古墳、古代	住居跡・井戸跡、土師器・須恵器	45	伊庄谷横穴群	古墳(後)	丸玉・鉄鏃・須恵器・土師器・轡
9	曲金Ａ遺跡	弥生、古墳	弥生土器・土師器	46	マルヅッコウ遺跡	古墳	横穴式石室
10	小鹿杉本堀合坪遺跡	平安	井戸跡・水田跡	47	時ヶ谷遺跡	縄文(早)、弥生	縄文土器・石錐・打製石斧・石鏃
11	小鹿蟹田堀合坪遺跡	平安～中世	水田跡	48	唐瀬古墳群	古墳(後)	横穴式石室、玉類・須恵器
12	三菱工場内遺跡	古墳、古代	土師器・須恵器	49	池ヶ谷古墳	古墳(後)	横穴式石室
13	豊田遺跡	弥生、古墳	住居跡・溝、弥生土器・土師器	50	池ヶ谷遺跡	弥生(後)～近世	水田跡
14	小黒遺跡	弥生(末)、古墳(初)	住居跡・高床式倉庫跡、弥生土器	51	岳美遺跡	平安	水田跡
15	八幡山古墳群	古墳(後)	横穴式石室	52	永ヶ島遺跡	弥生、平安	水田跡
16	八幡山城跡	中世	曲輪跡・堀・土塁・塁段・堀切	53	上土遺跡	弥生、平安、中近世	水田跡
17	有明遺跡	弥生(後)	弥生土器	54	南沼上古墳群	古墳	土師器
18	有東砦跡	中世	曲輪跡・土塁・塁段	55	内荒遺跡	奈良～平安、近世	掘立柱建物・水田跡、銅印
19	八幡5丁目遺跡	古墳	土師器・板材	56	川合八反田遺跡	古墳～平安、中近世	住居跡・水田跡、木製品
20	女子商校遺跡	弥生(後)	畦畔、弥生土器	57	川合遺跡	弥生(中)～近世	住居跡・水田跡・方形周溝墓
21	稲川遺跡	古代	土師器・須恵器・灰釉陶器	58	宮下遺跡	奈良～平安、近世	住居跡・水田跡・埋礫土坑群
22	ケイセイ遺跡	古代	土師器・須恵器	59	瀬名遺跡	弥生(中)～近世	水田跡・方形周溝墓
23	水洗遺跡	古墳(前)	土師器・砥石	60	瀬名川遺跡	弥生(中～後)、中世	水田跡、弥生土器・木製品・石器
24	下島遺跡	弥生、古墳	弥生土器・土師器	61	東下遺跡	古墳	土師器・須恵器
25	汐入遺跡	弥生、古墳、中世	住居跡・高床式倉庫跡、弥生土器	62	瀬名古墳群	古墳	前方後円墳・円墳・木炭槨・大刀
26	元宮川神明原遺跡	縄文～中世	住居跡・高床式倉庫跡、祭祀遺物	63	大在家遺跡	古墳	土師器
27	吉ノ口坪遺跡	弥生	弥生土器	64	賤機山古墳群	古墳(後)	横穴式石室、家形石棺
28	道下遺跡	弥生	弥生土器・磨製石斧	65	静岡高校々地内遺跡	弥生	弥生土器
29	栗原遺跡	弥生	弥生土器	66	西千代田遺跡	弥生(後)	弥生土器・矢板等・木製品
30	池田丸山古墳	古墳(後)		67	駿府城跡	中世～近世	石垣・水堀、陶磁器・土師器
31	小鹿古墳群	古墳	横穴式石室	68	駿府城内遺跡	弥生(中)～古代	住居跡・溝、弥生土器・土師器
32	堀ノ内Ｂ遺跡	弥生	弥生土器	69	谷津山古墳群	古墳(前・中・後)	前方後円墳・竪穴式石室・円墳
33	静岡大学校内古墳群	古墳	横穴式石室・組合箱形石棺	70	千代田遺跡	弥生(後)	弥生土器
34	片山遺跡	弥生(後)、古墳、近世	溝、弥生土器・石錐・土師器	71	井上邸古墳	古墳(後)	横穴式石室、耳環・須恵器
35	片山廃寺跡	古代	金堂・講堂、瓦・須恵器・土師器	72	茶臼山遺跡	古墳(後)	大刀・玉類・須恵器
36	白山神社(山神)古墳	古墳	横穴式石室	73	柚木瓦窯跡	古代	平瓦
37	宮川(小段)遺跡	旧石器～古代、近世	土坑・円形周溝墓、ナイフ形石器				

（２）有東遺跡調査歴

有東遺跡は古くから石器・土器等の豊富な出土地として注目され、1938年に加藤明秀・芹沢長介により馬捨場遺跡として紹介されている（加藤・芹沢 1938）。その後、1947・1948年の後藤守一・杉原荘介による調査を皮切りに、2010年３月までに21次の調査が行われ、弥生時代中期から古墳時代に至る集落跡であることが明らかにされている。以下で有東遺跡及びその南側に所在する有東梳子遺跡における各調査の概要について述べる。

第１次調査　遺跡中央部の２箇所にトレンチが設定され、弥生土器、石器、礎板、柱根等が出土した。出土土器は南関東の弥生時代中期後半の宮ノ台式土器に併行するものであり、「有東式土器」の名称が設定された。また、調査から約半年後に調査地近辺で小銅鐸が採集されており、これも有東式土器の段階のものであると考えられている。

第２次調査　土取り作業中に木杭列と井戸枠が露出し、調査を行った。杭列は４列が確認されており、水田の畦畔か住居の周囲にめぐらしたものであると推定されている。出土遺物には弥生時代後期の土器、木製品、臼、銅製の指輪等がある。

第３次調査　静岡市立商業高校の校舎建設に伴う調査であり、弥生時代中期後半の方形周溝墓が４基と溝、土坑等が検出された。方形周溝墓の間から溝が検出され、川跡と推定されている。

第４次調査　静岡県警南警察署の建設に伴う調査であり、下層では、弥生時代中期中葉～中期後半の川跡・溝・土坑・小穴群等が検出されている。川跡からは土器、石器、木製品等が大量に出土しており、中には人面付土器の破片が１点含まれている。上層では調査区全域に広がる弥生時代後期の水田跡が確認され、杭や矢板等で補強された畦畔が検出された。

第５次調査　静岡市立商業高校の体育館建設に伴う調査であり、調査区は第３次調査区の西側に位置している。調査区の北側で弥生時代中期中葉～後葉の方形周溝墓が検出された。南側では弥生時代後期前半の住居跡が１軒検出され、周溝と柱穴が確認されている。上層では、調査区全域で弥生時代後期後半の水田跡が検出され、杭や矢板等で補強された畦畔が検出された。

第６次調査　静岡市立商業高校の校舎建設に伴う調査であり、調査区は第３次調査区の北側に隣接する区域にあたる。第３次調査において検出された弥生時代中期後半の方形周溝墓４基のうち２基の一部分を検出したほか、９基の方形周溝墓が新たに検出されており、周溝内からは土器、石器、ガラス玉等が出土している。

第７次調査　調査区は第４次調査区の西側に隣接しており、冷凍倉庫の解体に伴う立会い調査が行われた。弥生時代中期後半の流路、土坑、小穴が検出され、上層では弥生時代後期の水田跡が検出された。

第８次調査　都市下水路の建設に伴う調査であり、弥生時代中期中葉～中期後半の川跡、溝、方形周溝墓、柱穴を含む小穴、土坑、井戸、水田等の遺構が検出された。川跡は第４次調査で検出された川に連続する可能性が高いと考えられており、川の中から土器、石器、木製品等が大量に出土している。また、調査区の中央からやや東寄りの微高地部分で４～５基の方形周溝墓が検出されている。上層では、弥生時代中期末～後期の水田跡が検出され、杭列で補強した畦畔が確認された。

第９次調査　試掘坑の断面観察調査のため、遺構の内容等は不明である。上層・下層に分かれ、弥生時代中期後半～弥生時代後期の遺構が認められ、遺物が多く出土している。

第10次調査　都市下水路の建設に伴う調査であり、調査区は第８次調査区の西側に連続している。下層では、弥生時代中期中葉～中期後半の川跡、溝、小穴群等が検出された。小穴には柱根を伴っているものもあり、建物群の存在が想定された。また、溝や川跡の内部から土器・石器・木製品が大量に出土した。上層では、弥生時代後期の水田跡が確認され、杭で補強された畦畔が検出された。

第11次調査　室内遊技場建設に伴う調査であり、弥生時代中期後半の遺構として、小穴、溝、土坑、水

田跡が検出された。小穴はほぼ全域で検出されており、柱根及び礎板を伴うものが多く見られた。また、調査区南端部で疑似畦畔状の遺構が検出され、弥生時代中期後半代の水田の存在が推定されている。遺物としては、土器、石器、木製品等が出土した。弥生時代後期の遺構としては住居跡（周溝・柱穴）、溝、水田跡等が検出された。水田跡は弥生時代後期後半以降のものであると推定され、杭列を伴う畦畔状の高まりが検出された。

第12次調査　事務所建設に伴う調査である。弥生時代中期の溝、小穴群が検出され、土器、石器、焼焦げのある木材等が出土した。上層では弥生時代後期の水田跡が検出され、杭で補強された畦畔が確認されている。

第13次調査　事務所建設に伴う調査である。弥生時代中期～後期と見られる溝状遺構・柱穴列・土坑・川跡等が検出された。同一面の遺構の切り合いの数が多いことから長期間持続した集落であり、川が遺構を切り取っていることから、集落の形成後に川の流れの変化があったことが推定された。

第14次調査　室内遊技場の建設に伴う調査である。弥生時代中期後葉～後期前半の溝・柱穴・土坑等が検出され、弥生時代中期後葉を中心とした土器、石器、木製品等が大量に出土した。上層では、弥生時代後期後半から古墳時代前期と考えられる水田土層と杭列を伴う畦畔が確認された。

第15次調査　事務所の建設に伴う調査である。弥生時代中期と見られる方形周溝墓が10基確認され、周溝内から土器・石器等が出土した。上層では古墳時代前期と考えられる溝が一本確認されたが、その性格は不明である。

第16次調査　店舗ビル建設に伴う調査であり、弥生時代中期中葉から後葉の住居跡・柱穴・溝・方形周溝墓等が検出され、土器・石器・木製品が出土した。弥生時代中期の遺構は、その切り合いから住居跡・柱穴・溝が最初に作られ、その後方形周溝墓が作られて墓地となったことが確認された。上層からは弥生時代後期の水田跡が検出された。

第17次調査　第二東名建設事業に伴う本線の代替地であり、本書において報告を行う調査である。弥生時代中期中葉から後葉の建物跡・溝・土坑・流路等が検出され、土器・石器・木製品が出土した。上層からは弥生時代後期～古墳時代前期の水田と見られる土壌が検出されたが、畦畔の確認はできなかった。

第18次調査　集合住宅の建設に伴う調査であり、弥生時代中期の井戸と推定される遺構と、後期前半の住居跡が検出されている。また、弥生時代後期前半から古墳時代前期の水田跡が検出されており、古墳時代前期の水田で確認された畦畔の盛土からは、二次的な焼成を受けたと見られる土器片が多く出土している。

第19次調査　工場の建設に伴う調査である。第11次調査地点の北側に６箇所の調査区が設定された。上層に弥生時代後期の水田と見られる層が検出され、下層から弥生時代中期の溝、土坑等が検出された。溝の中からは土器、石器、木製品等が多く出土している。また、北側の調査区で盛土遺構が確認されており、方形周溝墓の盛土部分である可能性も推定されている。

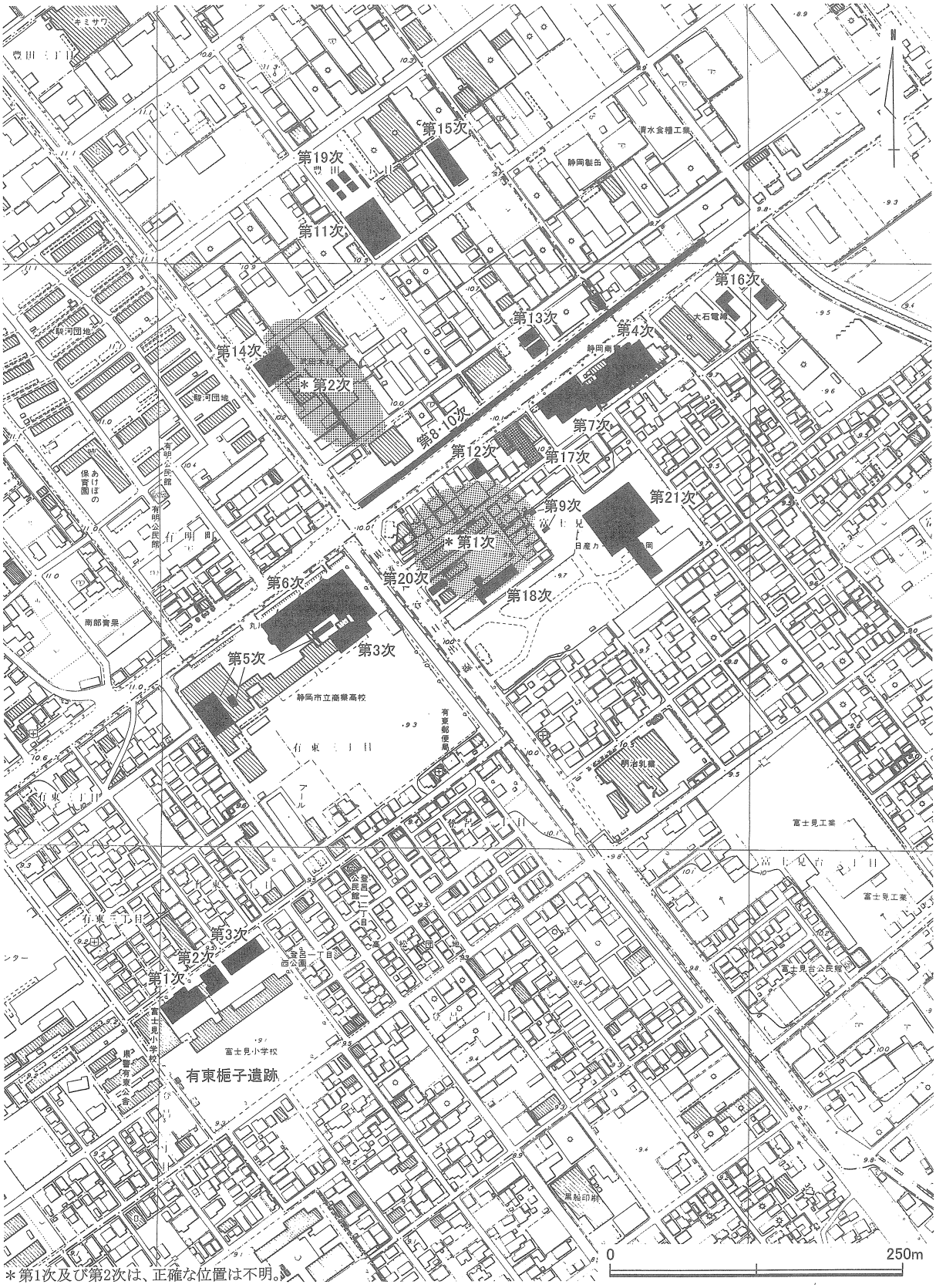
第20次調査　宿舎の建設に伴う調査である。弥生時代中期と見られる溝、土坑等が検出され、土器、石器、木製品が出土している。また、弥生時代後期の水田とそれに伴う畦畔が確認された。

第21次調査　店舗の建設に伴う調査である。弥生時代中期～古墳時代前期と見られる建物跡、土坑、溝、流路等が検出され、土器、石器、木製品が出土した。また、古墳時代のものと見られる畦畔とそれに伴う杭列が確認された。

有東栃子遺跡

有東遺跡の南側に所在している。静岡市立富士見小学校の校舎及びプール建設に伴い、現在までに３次の調査が行われ、弥生時代後期の水田跡が確認されている。水田では、杭、矢板や横板で補強された畦畔や水路が検出され、第３次調査では、大区画畦畔の内部に土盛り畦畔による小区画も検出されてい

る。また、水田耕作土を除去した基盤面状に疑似畦畔が検出されている。



＊第1次及び第2次は、正確な位置は不明。

第４図　調査地点位置図

第２表　調査歴一覧

有東遺跡調査歴一覧

次数	主要検出遺構・出土遺物	調査年	調査主体	文献
1	弥生中期…包含層・柱穴、土器・石器（近隣から小銅鐸出土）	1947～48	杉原荘介・後藤守一	1
2	弥生後期…杭列・井戸、臼・土器・石器・木製品・木製農具・銅環	1948	杉原荘介・後藤守一	2
3	弥生中期…方形周溝墓・土坑、川・土器・石器	1980	静岡市教育委員会	3・4
4	弥生中期…川・掘立柱建物・小穴・土坑、人面付土器・木製品・木製農具・石器・藁束・ヒョウタン 弥生後期…水田（大区画畦畔）、土器・木製品	1981	静岡県教育委員会	5
5	弥生中期…方形周溝墓・土坑、土器・石器・木製品 弥生後期…住居・水田（大区画畦畔）・溝（水路）、土器・木製品	1981	静岡市教育委員会	3・4
6	弥生中期…方形周溝墓・溝、土器・石器・ガラス玉 弥生後期…撹乱により未調査	1989	静岡市教育委員会	6
7	弥生中期…川・小穴・土坑、土器・土器内籾殻・石器 弥生後期…水田杭列確認、土器・鹿角・ヒョウタン	1989	静岡市教育委員会	6
8	弥生中期…川・小穴・方形周溝墓・溝・水田痕跡？、土器・人面付土器・線刻画土器・木製品・木製農具・石器・石剣・ガラス玉・鹿角・編物 弥生後期…水田（大区画畦畔）、土器	1990～91	静岡市教育委員会	7
9	弥生中期…包含層確認、土器 弥生後期…包含層確認、土器	1990	静岡市教育委員会	8
10	弥生中期…川・小穴・溝・住居？、土器・石器・木製品・丸太材 弥生後期…水田（大区画畦畔）、木製農具	1991～92	静岡市教育委員会	9
11	弥生中期…掘立柱建物・小穴・溝・水田疑似畦畔状遺構、土器・石器・木製品 弥生後期…住居・水田（大区画畦畔）・溝、土器・木製品・編物	1991	静岡市教育委員会	9
12	弥生中期…溝（住居址？）・小穴・土坑、土器・石器・焼焦木製品 弥生後期…水田（大区画畦畔・杭列）、土器	1991～92	静岡市教育委員会	9
13	弥生中期…溝（住居址？）・柱穴列・小穴、土器・石器・木製品	1993	静岡市教育委員会	10
14	弥生中期…溝（川？）・掘立柱建物・土坑・小穴、土器・線刻画土器・石器・木製品・木製農具 弥生後期…溝、土器・鳥型土器・木製品 古墳前期…水田（大区画畦畔・杭列）、土器	1995	静岡市教育委員会	11・12
15	弥生中期…方形周溝墓、土器・石器 弥生後期…土採跡？ 古墳前期…溝、土器	1995	静岡市教育委員会	11・13
16	弥生中期…住居址・柱穴・土坑・溝・方形周溝墓・木棺・土採跡、土器・石器・木製品・木製農具 弥生後期…水田（大区画畦畔・杭列・溝）	1995～96	静岡市教育委員会	11・14
17	弥生中期…掘立柱建物・土坑・溝・柱穴・小穴・流路、土器・石器・木製品 弥生後期～古墳前期…水田	1997	静岡県埋蔵文化財調査研究所	15・本書
18	弥生中期…井戸？ 弥生後期～古墳前期…水田・住居址、土器	1997～98	静岡市教育委員会	16
19	弥生中期…盛土遺構（方形周溝墓？）・溝・土坑、土器・石器・木製品	1999～2000	静岡市教育委員会	17・18
20	弥生中期…溝・土坑、土器・石器・木製品 弥生後期…水田、畦畔	2002	静岡県埋蔵文化財調査研究所	19
21	弥生～古墳…畦畔・杭列・建物跡・小穴・溝・流路、土器・石器・木製品 中世…土坑・溝状遺構、土器	2007	パル文化財研究所	20

有東梲子遺跡調査歴一覧

次数	主要検出遺構・出土遺物	調査年	調査主体	文献
1	弥生後期…水田（大区画畦畔）・水路、土器・石器・木製品・木製農具	1981	静岡市教育委員会	21
2	弥生後期…水田（大区画畦畔）、土器・木製品・木製農具	1982	静岡市教育委員会	21
3	弥生後期…水田（大区画畦畔・小区画畦畔）・疑似畦畔状遺構、土器・石器・木製品・木製農具	1987	静岡市教育委員会	22

第２章　調査の方法と経過

１　調査の体制

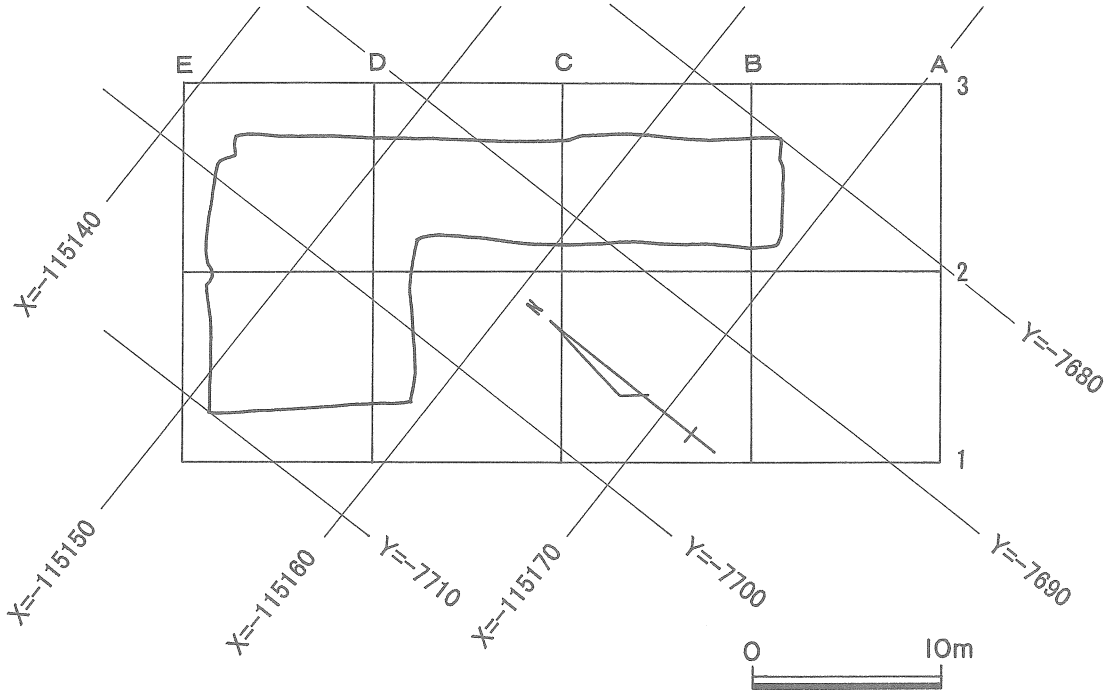
㈶静岡県埋蔵文化財調査研究所では、第二東名建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査にあたり、日本道路公団静岡建設局各工事事務所の管轄に合わせ、工区を設定し調査にあたることとした。静岡工区（静岡市・藤枝市・島田市）のうちの静岡市西部地区（静岡市葵区・駿河区）の確認調査及び本調査は平成９～15年度に実施しており、その体制は第３表のとおりである。

今回の調査対象地は第二東名の建設事業に伴う本線の代替地として選ばれ、有東遺跡の範囲内に含まれることから、日本道路公団と静岡県教育委員会がその取り扱いについて協議を行い、㈶静岡県埋蔵文化財調査研究所によって本調査が実施されることになった。

２　発掘調査の方法と経過

本調査は平成９年５月21日から７月23日までの約２ヶ月間実施しており、調査対象面積は約661㎡である。調査に先立つ準備作業として、５月中旬からコンテナハウス及びフェンスの設置、物品搬入を行った。５月21日から２日間にわたって重機を用いた表土除去を実施し、同時に調査区北東部分に集水マスを設置した。その後、業者による基準杭設定、方位杭設定を行い、調査対象範囲に平行・直行する10m方眼のグリッドを任意に設定し、南東から北西方向にA～D、南西から北東方向に１～２のグリッド番号を付した（第５図）。

５月下旬から排土用ベルトコンベアーを搬入して人力掘削を開始し、遺構面の検出を行った。暗灰色粘土層（第１面）の掘削を行い、水田土壌であることを確認したが、これに伴う畦畔等の遺構は検出されなかった。続いて黒色粘土層（第２面）の精査を行い、６月中旬までに北側黒色粘土層・南側極暗褐



第５図　グリッド配置図

色砂質土層の遺構面を検出し、図面作成を行った。6月下旬から第2面の遺構掘り下げを開始し、遺構図面作成、土層断面図作成、土層断面写真撮影、遺構面写真撮影を行った。7月中旬にベルトコンベアーの返却、機材の片付けを行い、7月22日・23日に埋め戻しを実施して調査を終了した。

出土遺物については、遺構内出土遺物は遺構ごとに取り上げ、遺構外出土遺物はグリッドごとに取り上げた。また、写真撮影は6×7判モノクロ・カラーリバーサルと35㎜判のカラーネガ・モノクロフィルムを使用し、全体写真撮影・空中写真撮影は委託により実施した。

第3表　静岡地区の調査体制

			平成9年度	平成10年度	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度
所長			齋藤　忠	齋藤　忠	齋藤　忠	齋藤　忠	齋藤　忠	齋藤　忠
副所長			池谷和三		山下　晃	山下　晃	山下　晃	飯田英夫
総務部	常務理事兼総務部長		三村田昌昭	伊藤友雄	伊藤友雄	伊藤友雄	粂田徳幸	粂田徳幸
	次長							
	総務課長		初鹿野英治	杉木敏雄	杉木敏雄	杉木敏雄	本杉昭一	本杉昭一
	担当	経理専門員	稲葉保幸	稲葉保幸	稲葉保幸	稲葉保幸	稲葉保幸	稲葉保幸
		総務係長	後藤　稔	田中雅代	田中雅代	田中雅代	山本広子	山本広子
		会計係長	杉田　智	杉田　智	大石真二	大橋　薫	大橋　薫	大橋　薫
		副主任				鈴木秀幸	鈴木秀幸	
		主事			鈴木秀幸			鈴木秋博
		事務員						
調査研究部	部長		石垣英夫	石垣英夫	佐藤達雄	佐藤達雄	佐藤達雄	山本昇平
	次長		栗野克己		佐野五十三	及川　司	栗野克己 及川　司	中嶋郁夫
	次長心得			佐野五十三				
	担当課長		栗野克己	足立順司	及川　司	及川　司	及川　司	中嶋郁夫
	係長							
	工区主任							
	主任調査研究員		足立順司	飯塚晴夫	飯塚晴夫			
	調査研究員		宮崎　覚 河合　修 伊藤裕啓 篠宮晋士 福手絵里	増井啓太 河合　修 川上　努	稲垣聖二子 中川律 青木修 川上　努	川上　努	大畑　要 川上　努 大林　元	大畑　要 川上　努
	副主任							
	事務員							
	保存処理室長						西尾太加二	西尾太加二

			平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成21年度	平成22年度
所長			齋藤　忠	齋藤　忠	齋藤　忠	齋藤　忠	天野　忍	石田　彰
副所長			飯田英夫	飯田英夫				
総務部	常務理事兼総務部長		平松公夫	平松公夫	平松公夫	平松公夫	天野　忍	石田　彰
	次長		鎌田英巳	鎌田英巳	鈴木大二郎	鈴木大二郎	松村　享	松村　享
	総務課長		鎌田英巳	鎌田英巳	鈴木大二郎	鈴木大二郎	松村　享	松村　享
	専門監兼事業係長							稲葉保幸
	担当	経理専門員	稲葉保幸	稲葉保幸	稲葉保幸			
		総務係長	山本広子	佐藤美奈子	佐藤美奈子	佐藤美奈子	山内小百合	瀧　みやこ
		会計係長	野島尚紀	野島尚紀	野島尚紀		杉山和枝	杉山和枝
		副主任					中鉢京子	中鉢京子
		主事	鈴木秋博					
		事務員			調所由美			
調査研究部	部長		山本昇平	山本昇平	石川素久	石川素久		
	次長		中嶋郁夫	中嶋郁夫	中嶋郁夫	稲葉保幸 及川　司	及川　司 稲葉保幸	
	次長心得							
	担当課長		中嶋郁夫	中嶋郁夫	中嶋郁夫	及川　司	及川　司	中鉢賢治
	係長					河合　修	河合　修	溝口彰啓
	工区主任							
	主任調査研究員				河合　修			
	調査研究員		三井文洋 増田充弘 川上　努	川上　努	鈴木淑子	鈴木淑子	前嶋秀張	五味奈々子
	副主任					中鉢京子		
	事務員					調所由美		
	保存処理室長		西尾太加二	西尾太加二	西尾太加二	西尾太加二	西尾太加二	西尾太加二

3　資料整理の方法と経過

第二東名建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査については現地調査を優先するという方針から、資料整理・報告書作成は多くの現地調査が終了した段階で実施することとなった。そこで、これに先行する基礎的整理作業の一部（遺物洗浄・注記・接合・復元・実測・写真整理・図面整理）を現地作業と並行して実施し、本格的な整理作業と報告書の作成に備えた。

静岡工区静岡市西部地区の資料整理は、平成15年度末時点で現地調査がほぼ終了したことから、平成16年度から部分的に開始した。有東遺跡の資料整理は平成21年12月から中原整理事務所で行い、現地写真整理、遺構図版組・トレース、観察表作成を実施した。平成22年度には遺物写真撮影、遺物実測図修正・版組・トレースを行い、これらを編集して報告書を作成した。なお、遺物の写真撮影は４×５判カラーリバーサル・モノクロフィルム、６×７判カラーリバーサル・モノクロフィルムを用いて、当研究所写真室で撮影を行った。また、木製品の保存処理、樹種同定については当研究所保存処理室で実施した。

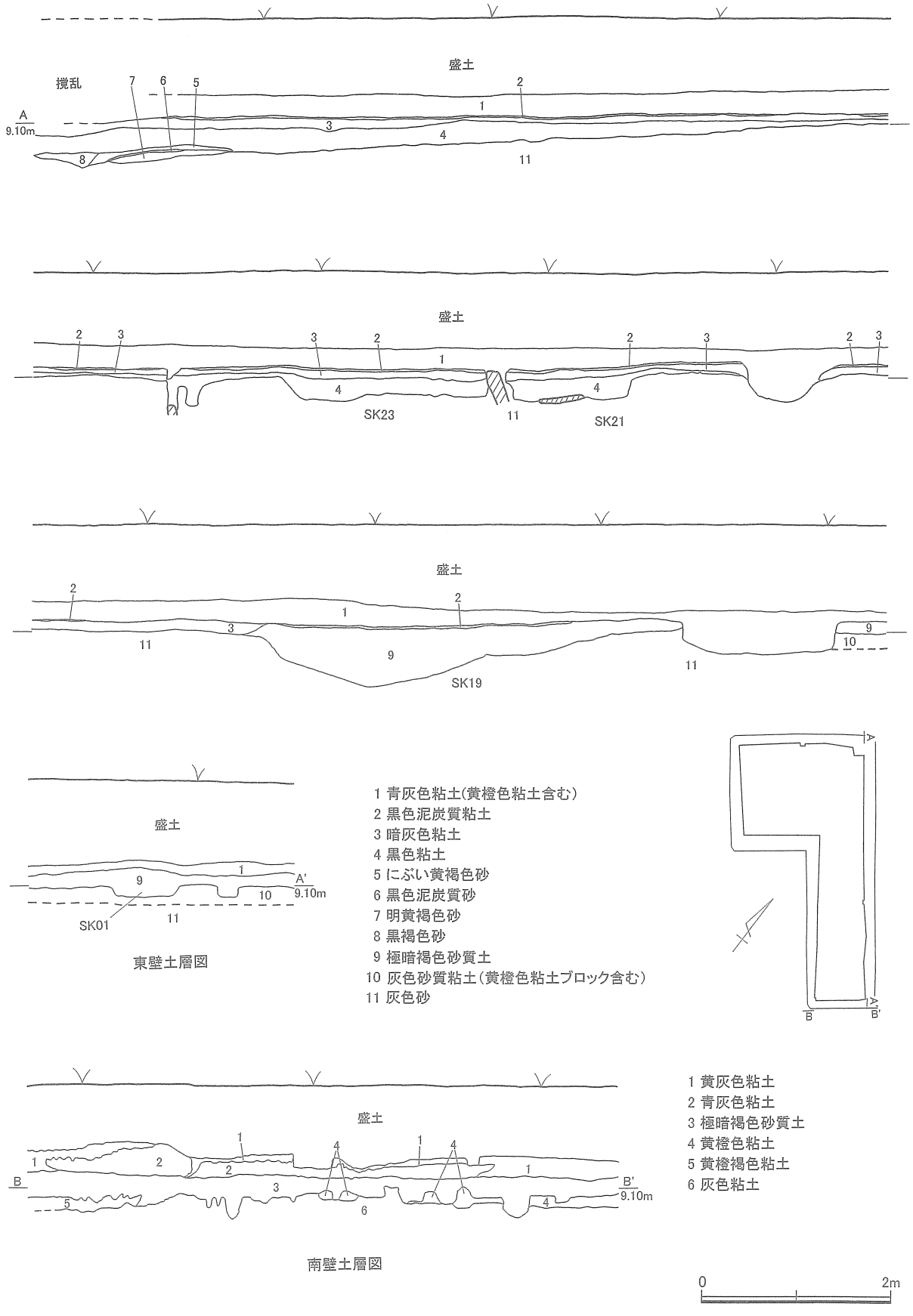
4　基本土層

調査区の基本土層は、東壁土層の堆積状況を基準とした。厚さ約90㎝の盛土の下に、第１層～第11層までの堆積が見られる（第６図）。各土層の特徴は次の通りである。

第１層　青灰色粘土層。
第２層　黒色泥炭質粘土層。厚さ約３～４㎝。
第３層　暗灰色粘土層。厚さ約９～10㎝。調査区南側の微高地部分まで広がっている。
第４層　黒色粘土層。厚さ約20㎝。調査区南側の微高地部分まで広がっている。
第５層　にぶい黄褐色砂層。厚さ約11㎝。橙色の小さい砂礫ブロックを含む。
第６層　黒色泥炭質砂層（無遺物層）。約厚さ３㎝。
第７層　明黄褐色砂層。厚さ約11㎝。
第８層　黒褐色砂層。
第９層　極暗褐色砂質土層。第４層に続いて、調査区南側の微高地部分から南側にかけて広がっている。
第10層　灰色砂質粘土層（黄橙色粘土ブロックを含む）。基盤層であり、遺物は出土していない。
第11層　灰色砂層

このうち、第１層・第２層はいずれも古墳時代以降の水田耕作土であり、第３層は弥生時代後期～古墳時代前期の水田耕作土と見られる。第４層及び第９層からは弥生時代中期中葉～後葉の土器が出土しており、掘立柱建物、溝状遺構、土坑、流路、柱穴等の遺構が検出されている。第５層～第８層は調査区北側で見られ、流路（SR01・02）の堆積土層である。

なお、南壁土層においては、第２層が東壁土層第１層、第３層が東壁土層第９層に対応している。



東壁土層図

南壁土層図

第6図　基本土層図

第３章　検出遺構

今回の調査では、第１面（第３層上面）及び第２面（第４層・第９層上面）で遺構の検出を行った。第１面は調査区北側から南側微高地部分まで続いており、耕作による撹拌を受けていることから水田土壌であることが確認できたものの、畦畔等の区画は把握できなかった。第２面では掘立柱建物、溝状遺構、土坑、流路等の遺構が検出されており（第７図）、弥生時代中期中葉～後葉の土器が集中して出土していることから、第２面の遺構はいずれも弥生時代中期中葉～後葉に属すると考えられ、その上層の第１面は弥生時代後期～古墳時代前期の水田跡であることが推定される。以下、第２面で検出された遺構について説明を行う。

１　掘立柱建物跡（SB：第８図～第９図）

調査区の南端部、中央部、北西部に多くの小穴が集中していることから、建物がくり返し立て替えされた可能性が高いと考えられる。これらの小穴の中で、建物の柱穴としての対応が復元できるものは５基確認できており、ここでは掘立柱建物として扱っている。いずれも１間×１間の建物として確認されている。

SB01（第８図）

C2グリッド東部で検出されている。建物平面は長方形を呈しており、主軸は東西方向を向いている。桁行は1.51m、梁行は1.27mである。柱穴の平面形状はP1～P3が楕円形を呈しており、P4（SK12）が不定形である。柱穴底面の標高は8.81m～8.89mである。

SB02（第８図）

C1グリッド北部からD1グリッド東部にかけて検出されている。建物平面は長方形を呈しており、主軸は北西―南東方向を向いている。桁行は1.75m、梁行は1.45mである。柱穴はP1～P3のみが検出されており、P4に相当する柱穴は未確認である。柱穴の平面形状はP1～P2が楕円形を呈しており、P3が円形である。柱穴底面の標高は8.59m～8.65mである。

SB03（第８図）

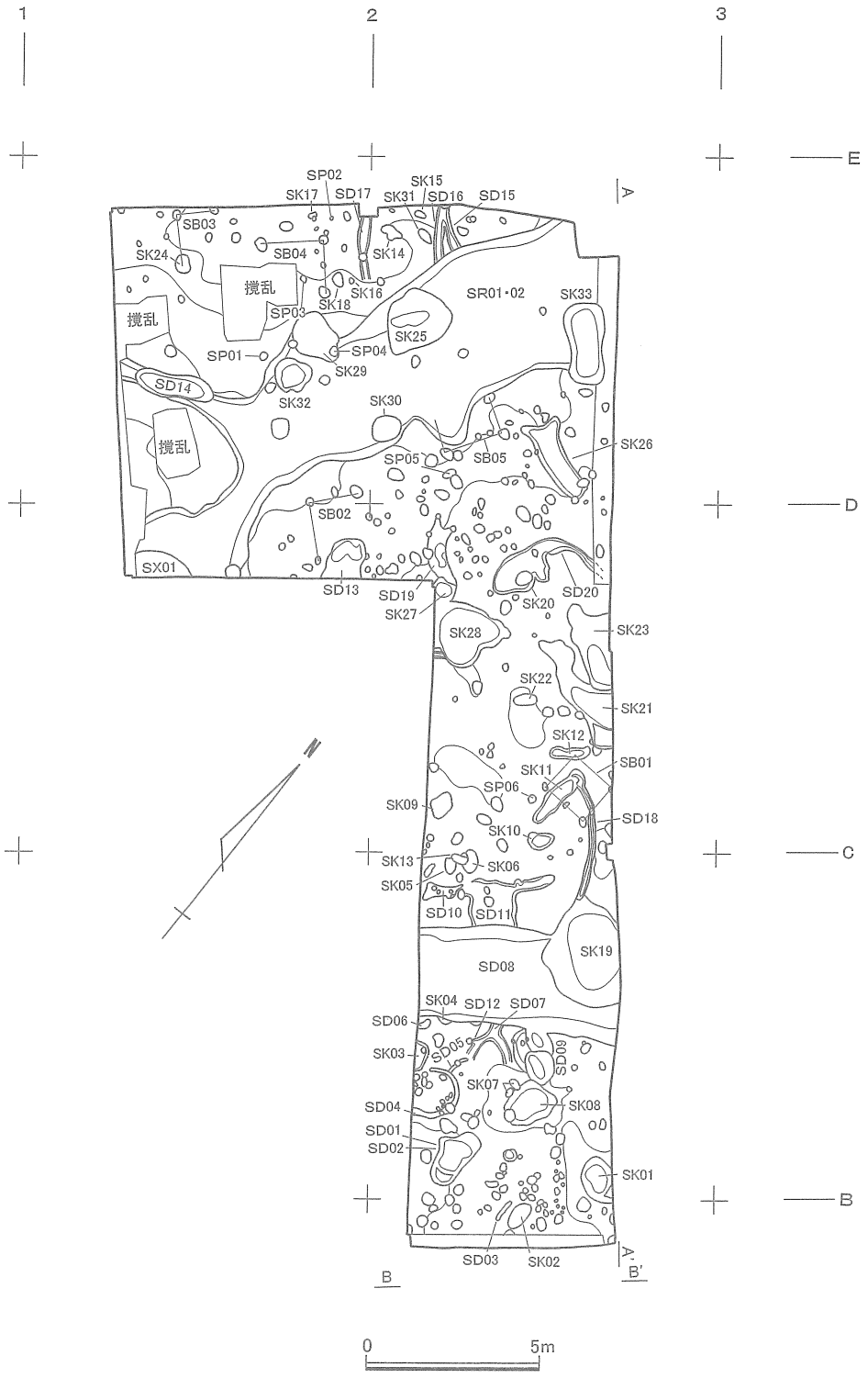
D1グリッド西部で検出されている。建物平面は長方形を呈しており、主軸は北西―南東方向を向いている。桁行は1.46m、梁行は1.09mである。柱穴はP1～P3のみが検出されており、P4に相当する柱穴は未確認である。柱穴の平面形状はP1が隅丸方形、P2～P3が円形である。柱穴底面の標高は8.75m～8.80mである。

SB04（第９図）

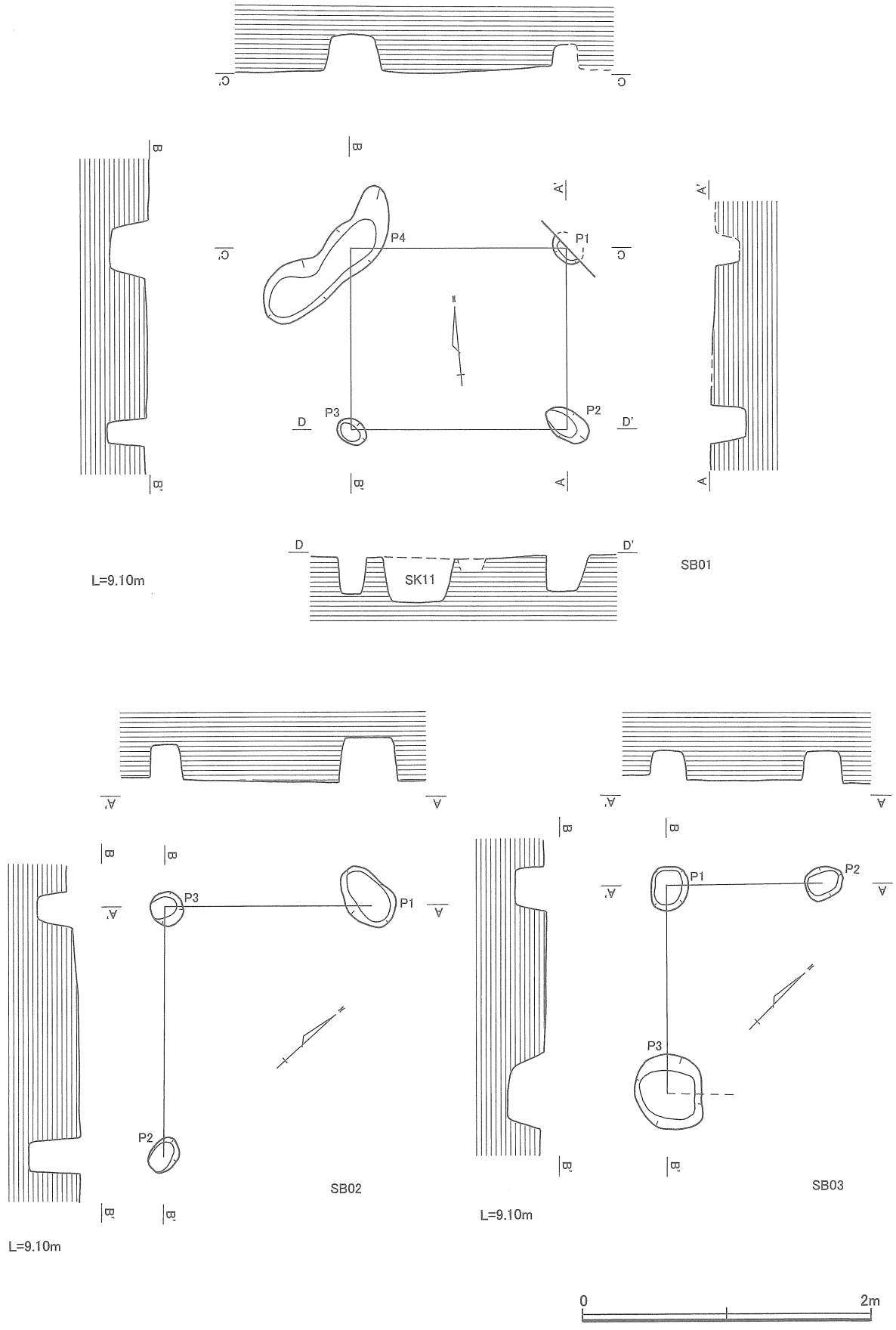
D1グリッド北部で検出されている。建物平面は長方形を呈しており、主軸は南西―北東方向を向いている。桁行は1.82m、梁行は1.53mである。柱穴はP1～P3のみが検出されており、P4に相当する柱穴は撹乱によって切られているため検出できなかった。柱穴の平面形状はP1、P3が円形、P2が不定形である。P2からは柱状片刃石斧（58）が出土している。柱穴底面の標高は8.73m～8.80mである。

SB05（第９図）

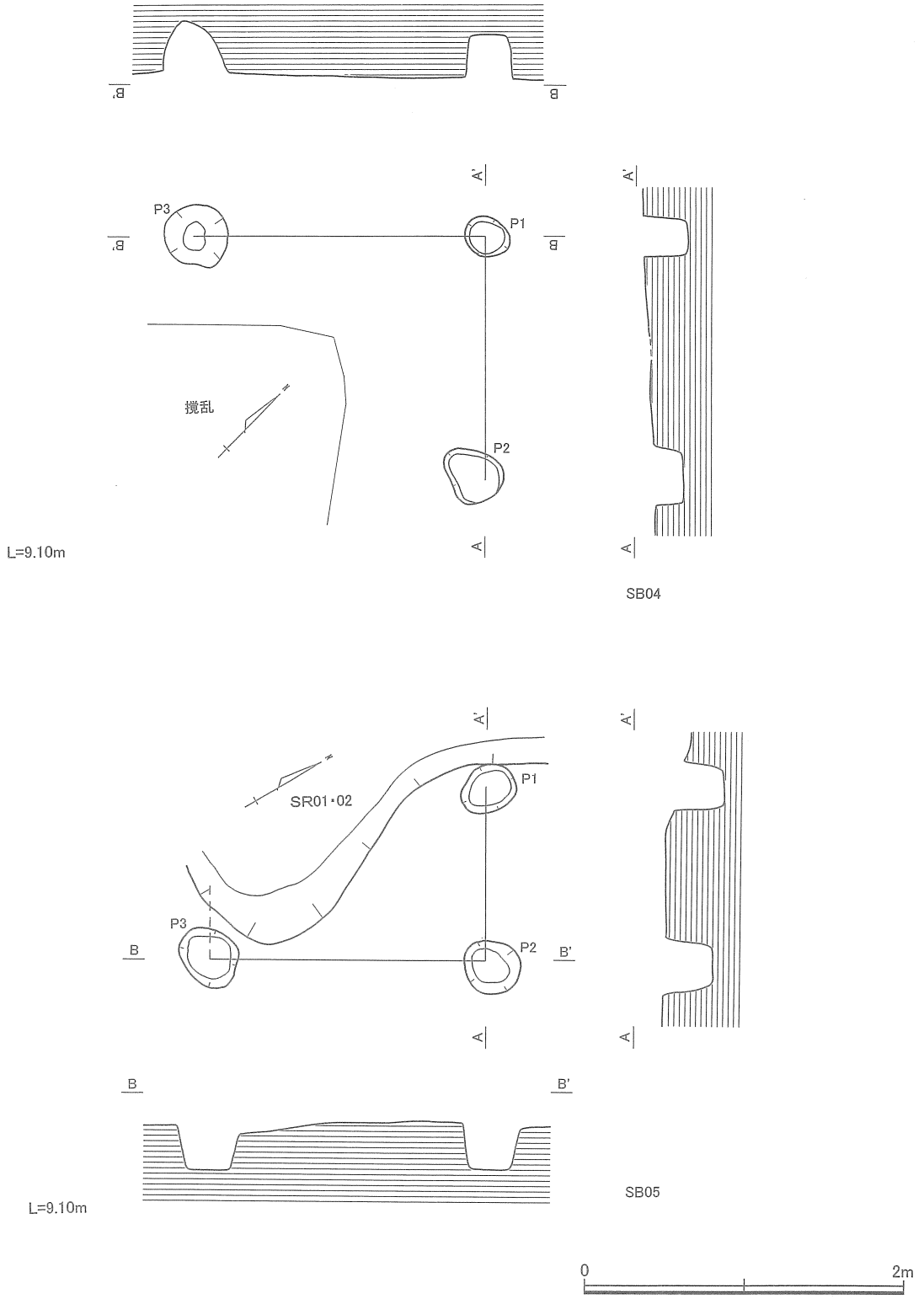
D2グリッド南部で検出されている。建物平面は長方形を呈しており、主軸は南南西―北北東方向を向いている。桁行は1.72m、梁行は1.08mである。柱穴はP1～P3のみが検出されており、P4に相当する柱穴はSR01・02によって切られているため検出できなかった。柱穴の平面形状はいずれも不定形である。柱穴底面の標高は8.54m～8.61mである。


1
2
3
E
D
C
B
A
A'
B'
SP02
SK17
SD17
SK15
SK31
SD16
SD15
SB03
SK24
SB04
SK14
撹乱
SK16
SK18
SR01・02
SK33
撹乱
SP03
SK25
SP01
SP04
SK29
SD14
SK32
SK30
撹乱
SP05
SB05
SK26
SB02
SX01
SD13
SD19
SK27
SK20
SD20
SK28
SK23
SK22
SK21
SK12
SB01
SK11
SP06
SK09
SD18
SK10
SK13
SK06
SK05
SD10
SD11
SK19
SD08
SK04
SD12
SD07
SD06
SD05
SD00
SK03
SK07
SK08
SD04
SD01
SD02
SK01
SD03
SK02
0
5m

第７図　遺構全体図



第８図　SB01～03平面・断面図



第９図　SB04～05平面・断面図

第４表　掘立柱建物一覧

遺構番号	グリッド	桁行(m)	梁行(m)	柱穴番号	規模(cm)　( ):現存			平面形状	底面高(m)
					長　径	短　径	深　さ		
SB01	C－2	1.51	1.27	P1	(25)	(10)	(16)	楕 円 形	8.89
				P2	32	22	25	楕 円 形	8.84
				P3	22	17	27	楕 円 形	8.81
				P4	(118)	(40)	(30)	不 定 形	8.83
SB02	C－1N D－1S	1.75	1.45	P1	48	34	30	楕 円 形	8.60
				P2	26	20	36	楕 円 形	8.59
				P3	23	21	25	円　　形	8.65
SB03	D－1	1.46	1.09	P1	32	25	21	隅丸方形	8.79
				P2	26	22	21	円　　形	8.80
				P3	(52)	(46)	(21)	円　　形	8.75
SB04	D－1	1.82	1.53	P1	28	26	27	円　　形	8.78
				P2	38	36	18	不 定 形	8.80
				P3	40	38	31	円　　形	8.73
SB05	D－2	1.72	1.08	P1	35	30	30	不 定 形	8.54
				P2	37	34	30	不 定 形	8.61
				P3	41	34	29	不 定 形	8.61

2　溝状遺構（SD：第10図～第16図・第25図）

溝状遺構は合計で20基が確認されている。SD01・02・09は土坑状を成している遺構であるが、ここでは溝状遺構として分類している。

SD01・02（第10図）

いずれもB2グリッド東部で検出されている。SD01は北北西―南南東方向に延びており、南南東から北北西にかけて幅が広くなっている。検出長は209cmであり、検出幅は45～108cmである。溝の深さは16cmであり、底面はほぼ平坦である。SD01の覆土は極暗褐色砂質土層であり、SD01の内部からSD02が検出されている。SD02の覆土は黄褐色、青灰色粘土ブロックを含む極暗褐色砂質土層である。

SD03（第10図）

A2グリッド西部で検出されており、南北方向に延びている。検出長は66cm、検出幅は10cmである。溝の底面は平坦であり、深さは６cmである。内部には４基の小穴が溝に沿って並んでおり、布掘りの跡に類似した状態が観察される。遺構の覆土は極暗褐色砂質土層である。

SD04（第10図）

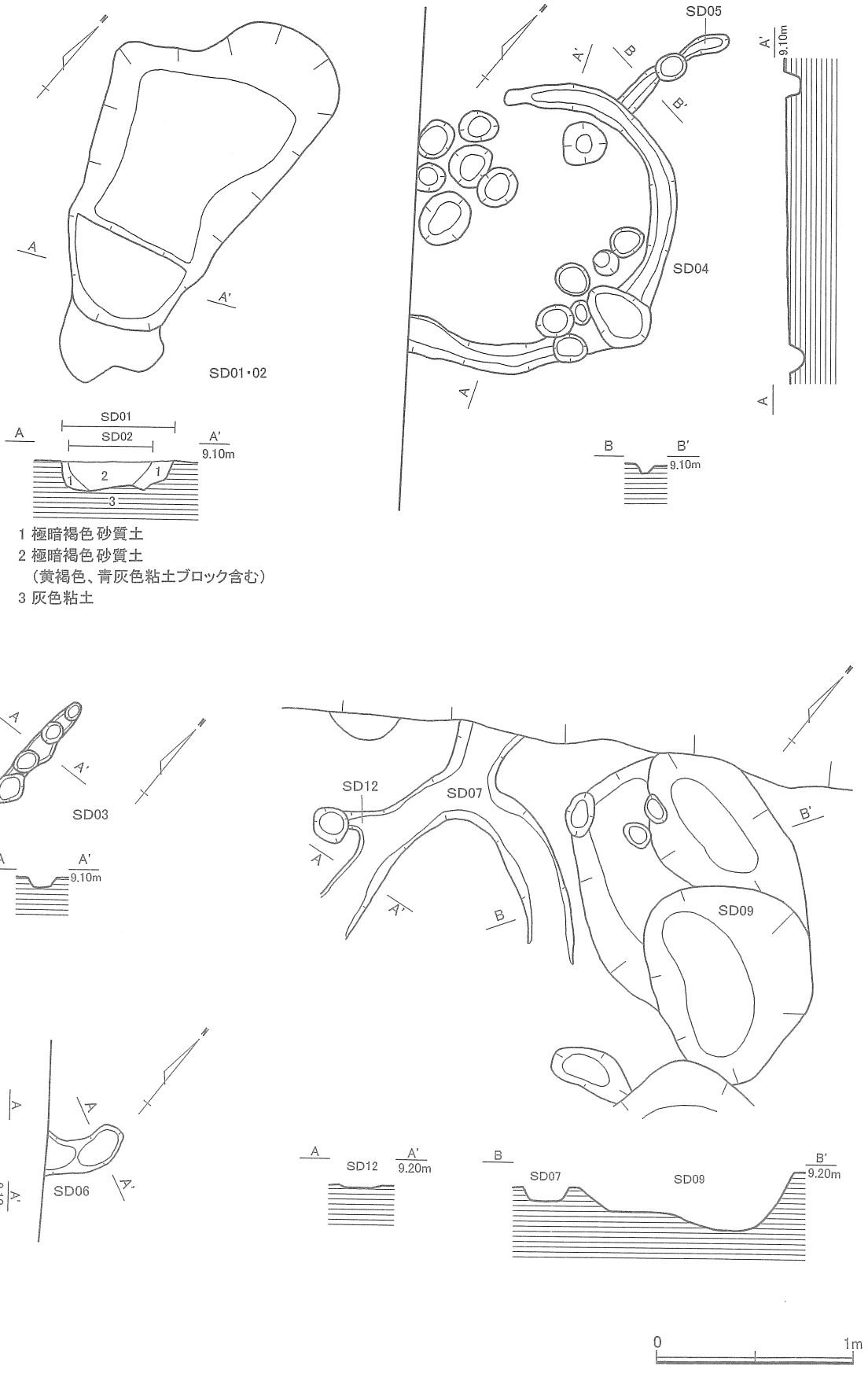
B2グリッド南部で検出されている。径160cm程度の環状の溝であり、東側及び西側に小穴がまとまって見られる。北側にはSD05が接している。検出長は310cm、検出幅は12cmである。断面は逆台形状もしくはU字状に掘り込まれており、深さは９cmである。

SD05（第10図）

B2グリッド南部で検出されている。SD04の北側に接して南北方向に延びており、北側では北北東方向に屈曲している。検出長は66cm、検出幅は10cmであり、断面は逆台形を呈している。深さは４cmであり、SD04よりもやや浅い溝である。中心部分には小穴が接している。

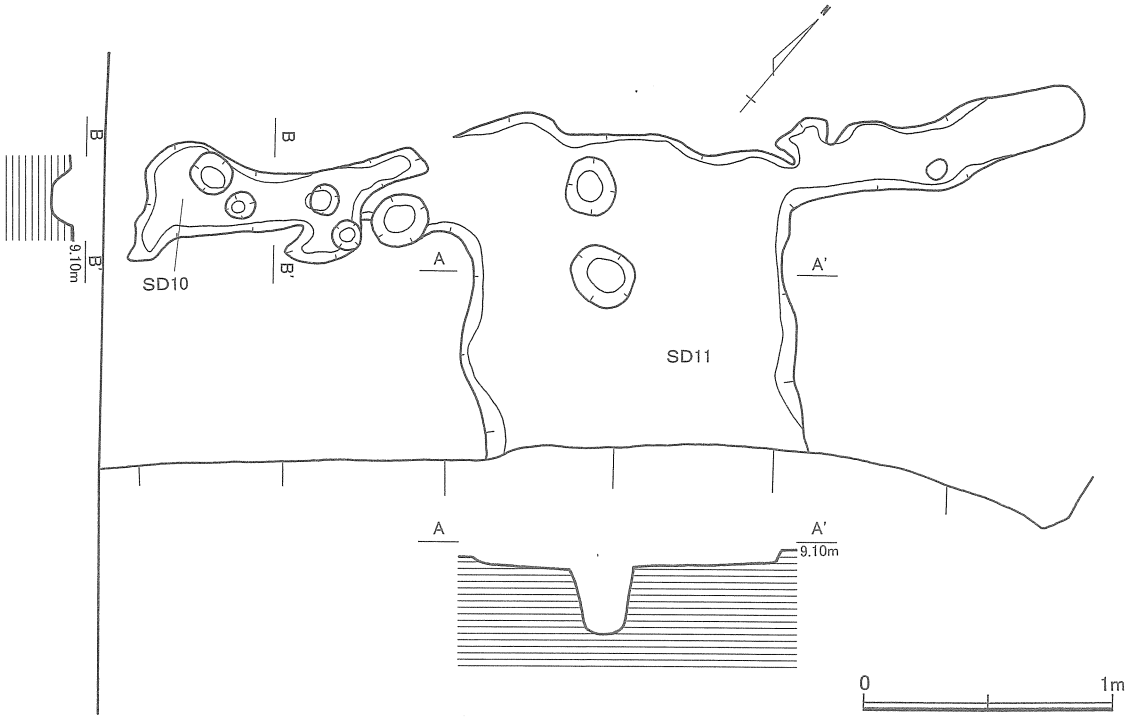
SD06（第10図）

B2グリッド南西部で検出されている。調査区西壁から北東方向に延びており、中心部分から北側に屈曲している。検出長は40cm、検出幅は16～24cmである。底面は平坦であり、深さは10cmである。

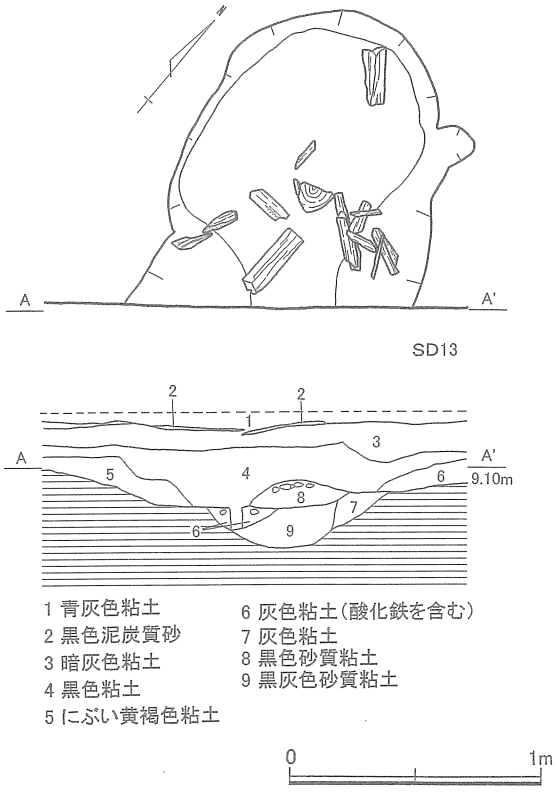


第10図　SD01～07・09・12平面・断面図

第11図　SD08平面・断面図



第12図　SD10・11平面・断面図



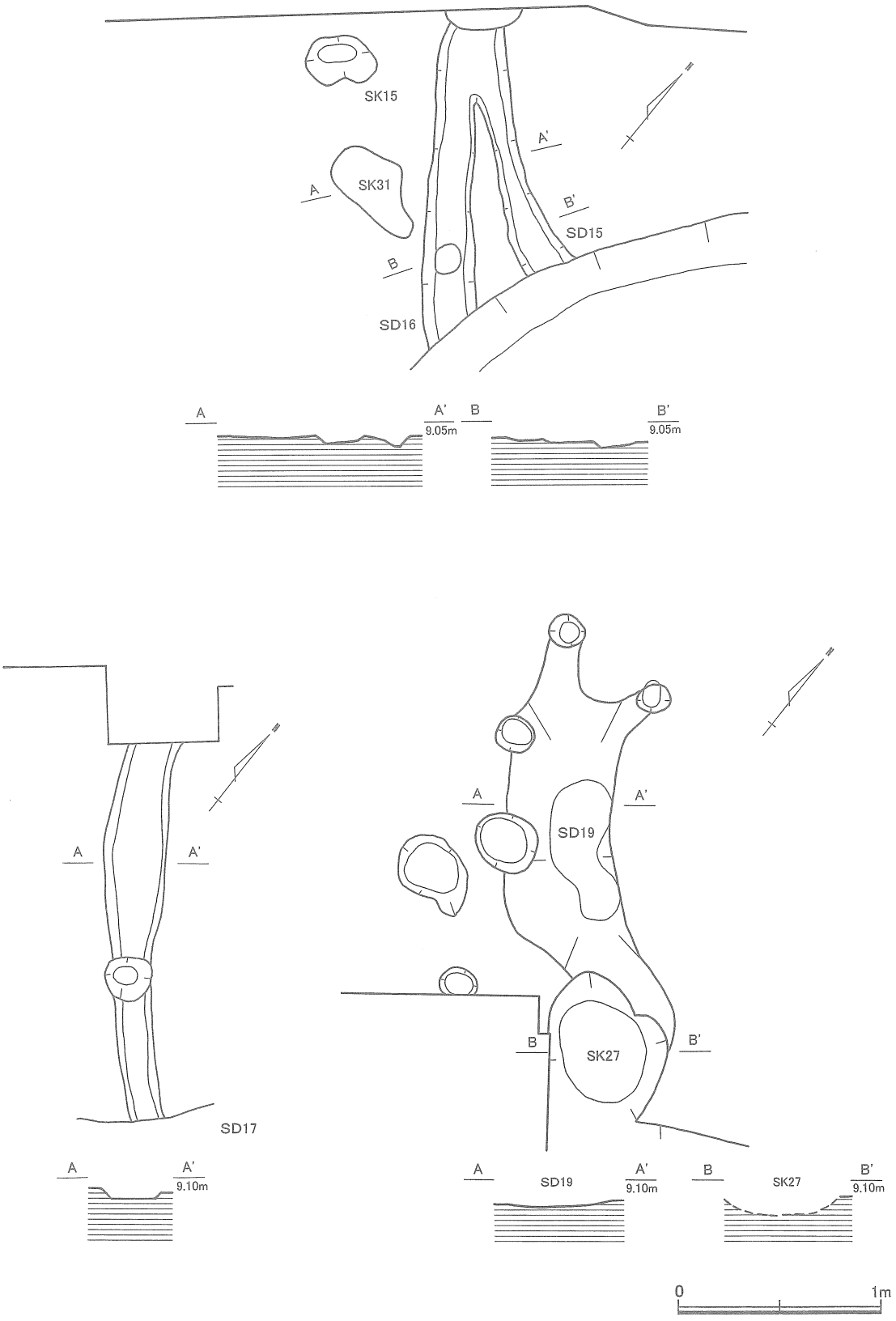
第13図　SD13平面・断面図

SD07（第10図）

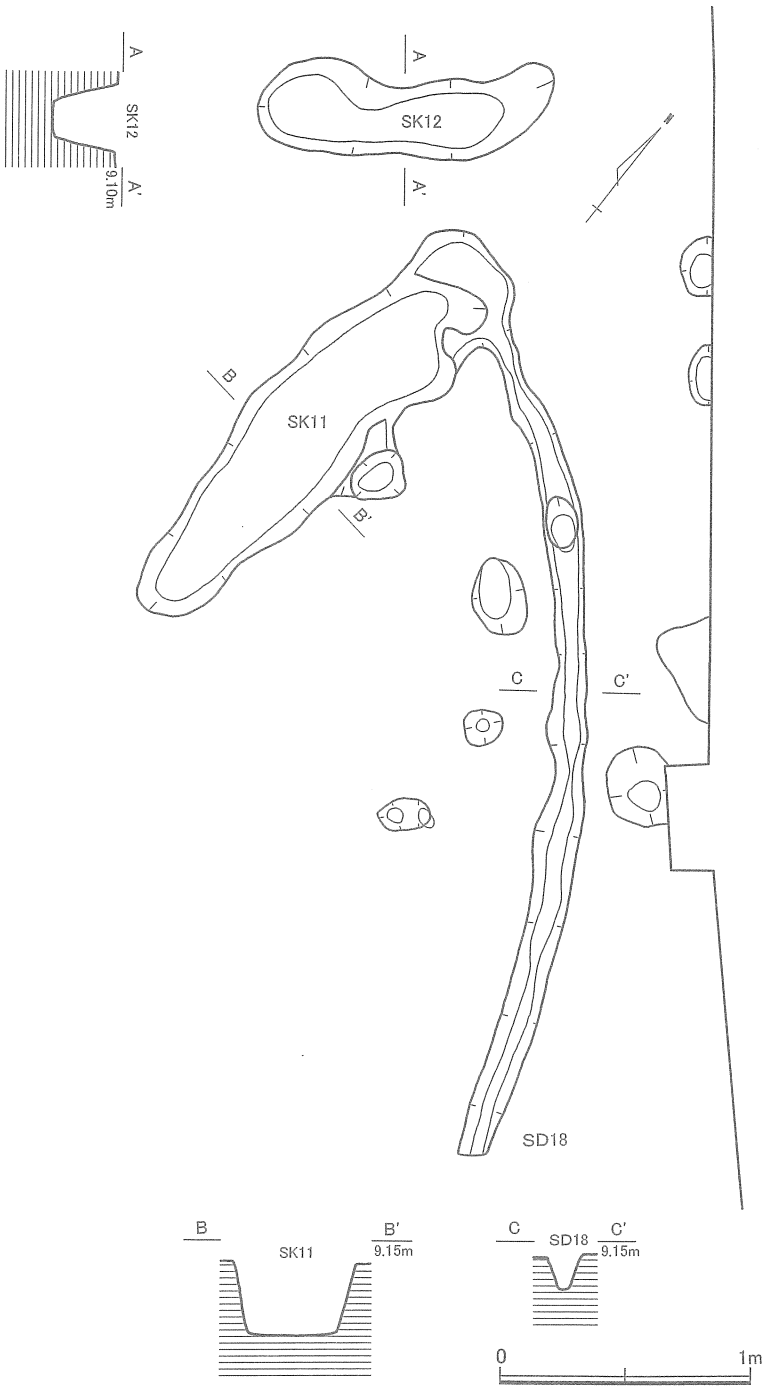
B2グリッド中央部で検出されている。径約140㎝の環状の溝であり、南側が消失している。環の北北西方向から１本の溝が延びており、北側でSD08と接している。また、南西部分ではSD12と連結している。検出長は128㎝、検出幅は22㎝である。底面は平坦に掘り込まれており、深さは９㎝である。

SD08（第11図）

B2グリッド北部から西部にかけて検出されている。南西から北東方向に直線状に延びる太い溝であり、北東部分にSK19が接している。検出長は580㎝、検出幅は264㎝、深さは28㎝であり、溝の北西側ではSD11、南東側ではSD07・09が接している。遺構内の覆土には極暗褐色砂質土層が含まれる。溝の底面は平坦であり、北西側では高低差が緩やかであるのに対し、南東側の断面には段差が存在する様子が確認できる。溝の内部では流木が確認されているほか、北東部分で腐った木片が堆積しており、川が淀んでいる状態と推定される状況が確認できていることから、溝の内部では南



第14図　SD15～17・19、SK31平面・断面図



第15図　SD18、SK11・12平面・断面図

西から北東への水の流れが存在していたと考えられる。遺構内からは、弥生土器（1～12）、敲石（9、12、16）、凹石（20、22）、砥石（38、49）のほか、流木を含めた木製品が出土している。

SD09（第10図）

B2グリッド中央部で検出されており、北西―南東方向に延びている。3基の土坑が重なり合った形状を成しており、深さは北側及び南東側において深くなっている。検出長は172㎝、検出幅は80㎝である。断面はボール状に掘り込まれており、深さは24㎝である。北側ではSD08に接しており、南側でSK08に接している。遺構内からは弥生土器（13～14）が出土している。

SD10（第12図）

B2グリッド西部で検出されており、南西―北東方向に延びている。北東側でSD11と接しており、SD11よりもさらに深く掘り込まれている。底面は平坦であり、検出長は124㎝、検出幅は10～36㎝、深さは9㎝である。

SD11（第12図）

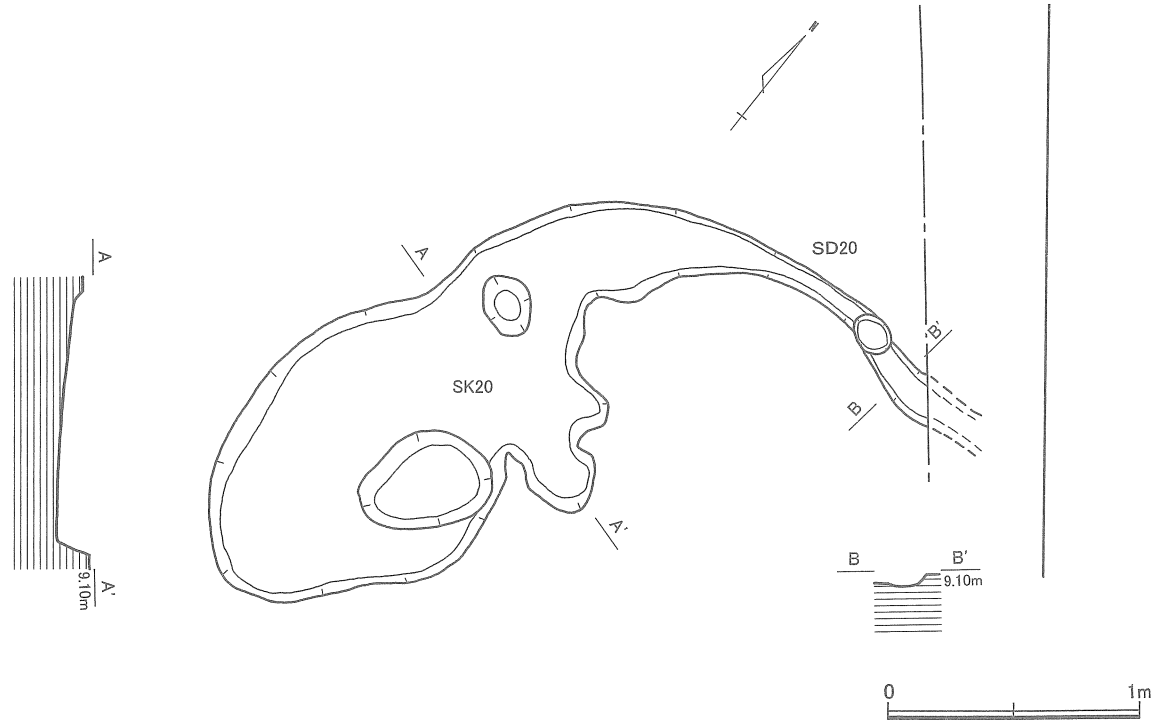
B2グリッド西部で検出されており、南東側でSD08に接している。検出幅134㎝の太い溝が北西―南東方向に延びており、南南西―北北東方向に伸びる検出幅16㎝の細い溝が連結している。南西側でSD10が接続している。検出長は294㎝、深さは6㎝であり、底面は平坦である。

SD12（第10図）

B2グリッド中央部で検出されており、SD07の南西側に連結して南西―北東方向に延びている。検出長は14㎝、検出幅は8㎝、深さは2㎝である。

SD13（第13図）

C1グリッド北部から検出されている。ほぼ南北方向に延びており、南側は調査区南壁に続いている。検出長は120㎝、検出幅は87～108㎝である。深さは22㎝であり、断面はボール形に掘り込まれている。



第16図　SD20、SK20平面・断面図

遺構の覆土として、黒色粘土層、灰色粘土層、黒色砂質粘土層が堆積している。遺構内からは弥生土器（15～16）が出土している。また、内部から複数の木製品が折り重なって出土している状況が確認されている。

SD14（第25図）

D1グリッド中央部で検出されている。SR01の南西側に接しており、西南西―東北東方向に延びている。検出長は218㎝、検出幅は74㎝、深さは26㎝であり、断面は平坦に掘り込まれている。遺構内の覆土にはにぶい黄褐色砂層が含まれる。内部から枝つきの流木が見つかっており、弥生土器（17～90）、敲石（7）、砥石（47）、石錘（103）が出土している。

SD15・16（第14図）

いずれもD2グリッド西部で検出されており、南東側でSR01に接している。北西―南東方向に併行して並んでおり、調査区北壁付近で連結して一本の溝になっている。SD15の検出長は122㎝、検出幅は14㎝、深さは３㎝であり、SD16の検出長は150㎝、検出幅は24㎝、深さは３㎝である。

SD17（第14図）

D1グリッド北部で検出されており、北西―南東方向に延びている。北西側は調査区北壁に接している。検出長は188㎝、検出幅は30㎝、深さは４㎝であり、底面は平坦に掘り込まれている。溝の中心部分で小穴が検出されている。

SD18（第15図）

B2グリッド北部からC2グリッド東部にかけて検出されており、北西から南東方向に向かって弧を描いている。検出長は392㎝、検出幅は16㎝、深さは10㎝であり、断面はV字形に掘り込まれている。北西側でSK11と連結している。

SD19（第14図）

C2グリッド西部で検出されている。北西―南東方向に延びており、南東側で東に屈曲してSK27に接

第５表　溝状遺構一覧

遺構番号	グリッド	検出長(cm)	検出幅(cm)	深さ(cm)
SD01	B－2	209	45～108	16
SD02				
SD03	A－2	66	10	6
SD04	B－2	310	12	9
SD05	B－2	66	10	4
SD06	B－2	40	16～24	10
SD07	B－2	128	22	9
SD08	B－2	580	264	28
SD09	B－2	172	80	24
SD10	B－2	124	10～36	9
SD11	B－2	294	16～134	6
SD12	B－2	14	8	2
SD13	C－1	120	87～108	22
SD14	D－1	218	74	26
SD15	D－2	122	14	3
SD16	D－2	150	24	3
SD17	D－1	188	30	4
SD18	B－2・C－2	392	16	10
SD19	C－2	234	16～50	2
SD20	C－2	160	10～40	4

している。検出長は234㎝、検出幅は16～50㎝、深さは２㎝であり、底面は平坦である。溝の周囲には数基の小穴が見られる。

SD20（第16図）

C2グリッド北部で検出されている。ほぼ東西方向に延びており、SK20の北側に連結して調査区東壁まで続いている。検出長は160㎝、検出幅は10～40㎝、深さは４㎝である。

3　土坑（SK：第17図～第24図）

土坑は33基検出されている。

SK01（第17図）

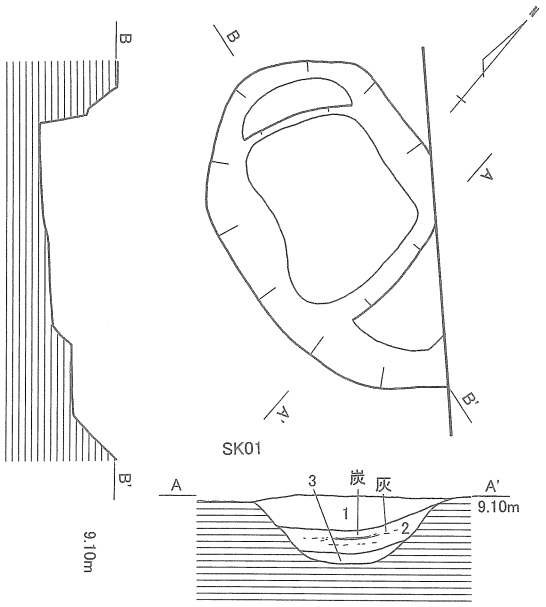
A2グリッド北部からB2グリッド東部にかけて検出されており、平面は楕円形を呈している。北西―南東方向に掘り込まれて調査区東壁に接しており、東壁より南東部分は調査区外のため未確認である。土坑断面は鍋底状に掘り込まれており、底部からは灰白色粘土ブロックを含む暗褐色粘土が検出されている。遺構覆土上層の極暗褐色砂質土層は炭化物や灰を含んでいる。検出長は147㎝、検出幅は89㎝、深さは31㎝である。

SK02（第17図）

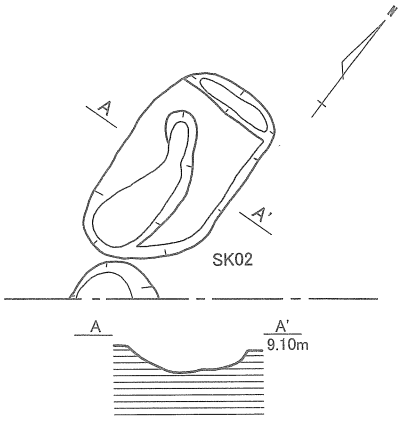
A2グリッド北西部の調査区南壁付近で検出されており、平面は楕円形を呈している。南北方向に掘り込まれ、土坑断面は皿状になっている。検出長は88㎝、検出幅は50㎝、深さは11㎝である。

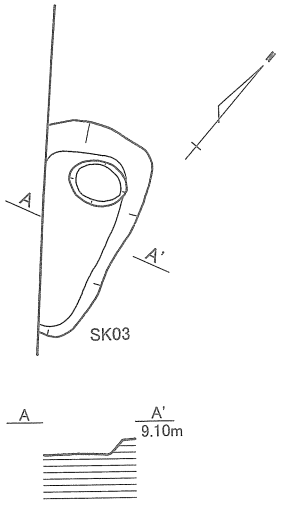
SK03（第17図）

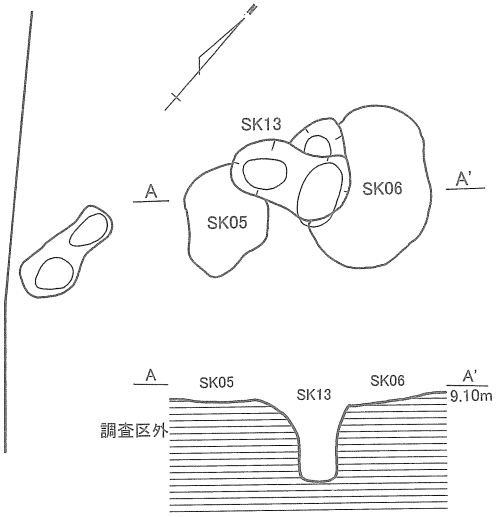
B2グリッド南西部の調査区西壁沿いで検出されており、平面は楕円形を呈している。北北西―南南東方向に掘り込まれており、底面は平坦である。遺構の南西部分は調査区外のため未確認である。検出長は88㎝、検出幅は42㎝である。

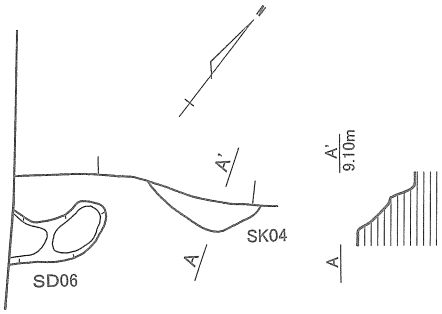


1 極暗褐色砂質土
2 極暗褐色砂質土
（炭化物の一面、灰層を含む）
3 暗褐色粘土
（灰白色粘土ブロックを含む）

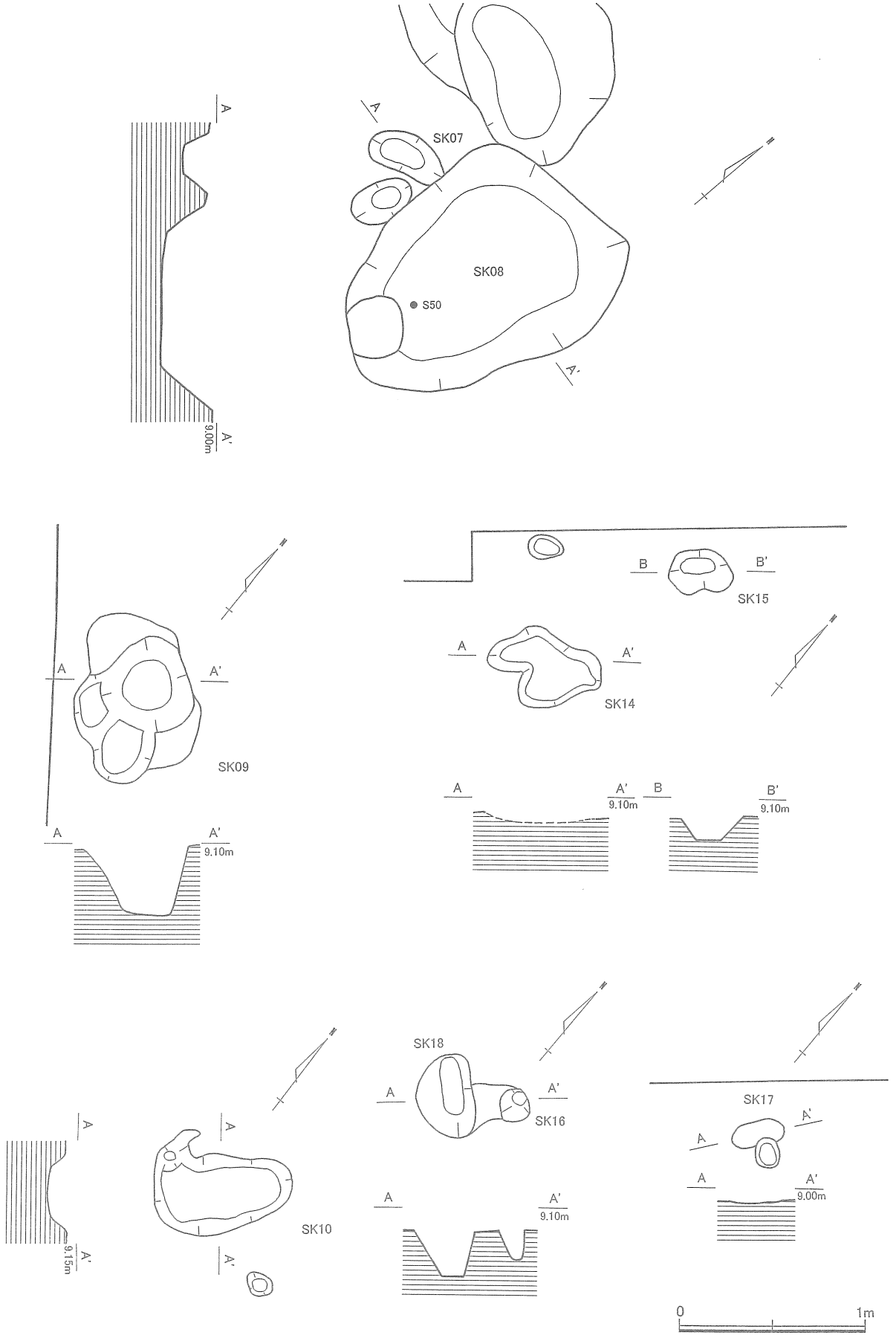




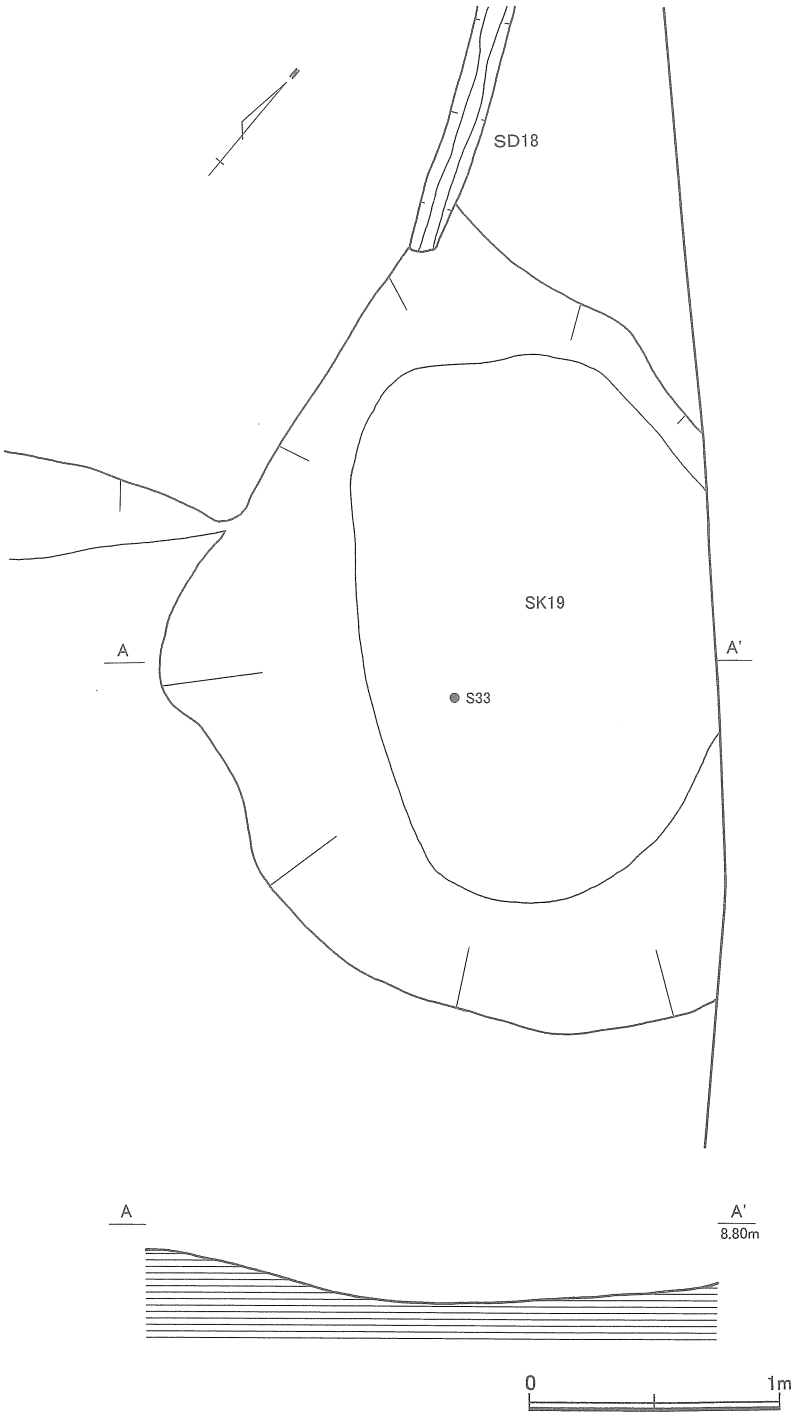




第17図　SK01～06・13平面・断面図



第18図　SK07～10・14～18平面・断面図



第19図　SK19平面・断面図

SK04（第17図）

B2グリッド南西部で検出されており、北西側でSD08に接している。検出長は46㎝、検出幅は14㎝である。

SK05（第17図）

B2グリッド西部で検出されている。平面は円形を呈しており、北側でSK13と接している。検出幅は46㎝、検出幅は34㎝、深さは２㎝である。

SK06（第17図）

B2グリッド西部からC2グリッド南部にかけて検出されている。平面は楕円形を呈しており、西側でSK13と接している。検出長は63㎝、検出幅は48㎝、深さは５㎝である。

SK07（第18図）

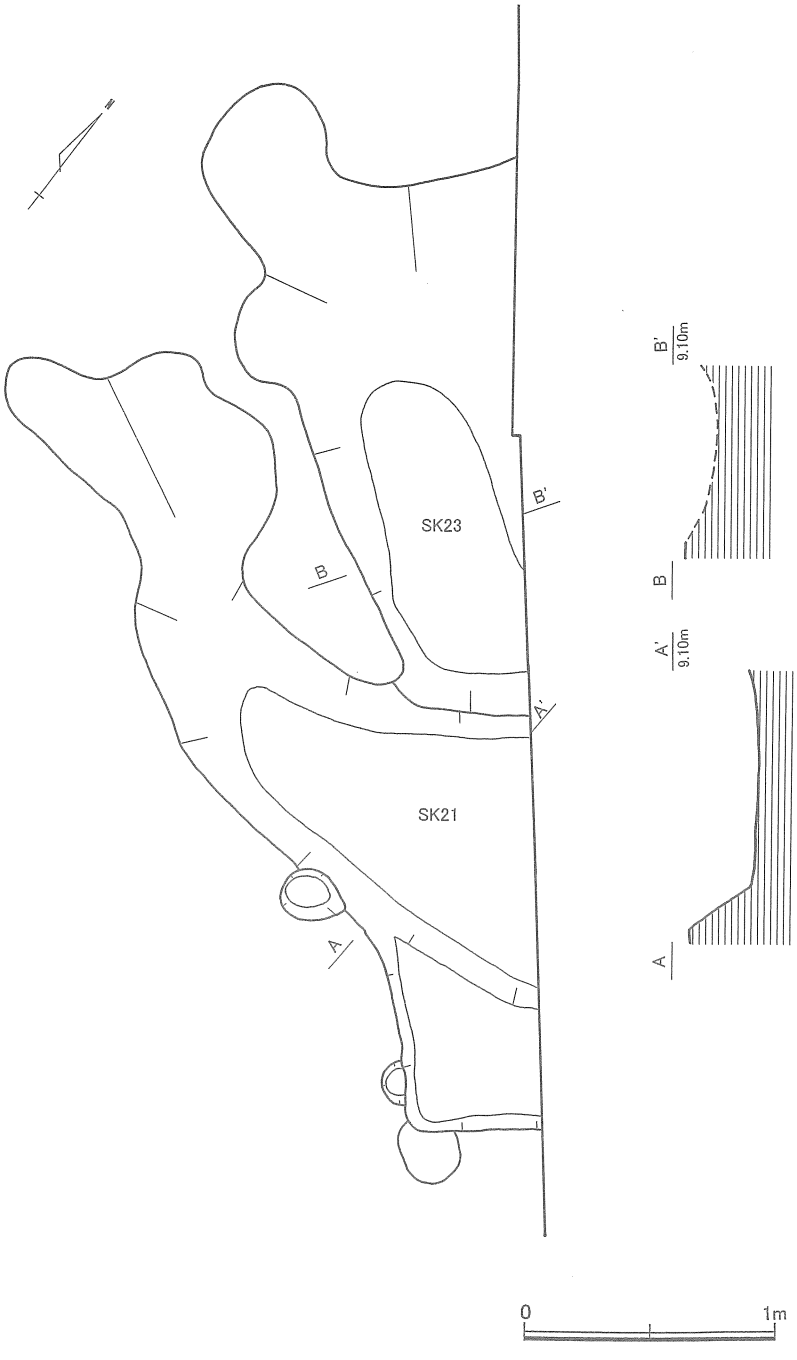
B2グリッド東部で検出されており、平面は楕円形を呈している。南西―北東方向に掘り込まれており、東北東側でSK08と接している。検出長は42㎝、検出幅は21㎝である。底面は平坦に掘り込まれており、深さは14㎝である。

SK08（第18図）

B2グリッド東部で検出されている。平面は楕円形を呈しており、長軸は南北方向を向いている。北西側でSD09に接しており、西側でSK07に接している。検出長は148㎝、検出幅は116㎝である。深さは28㎝であり、底面は平坦に掘り込まれている。覆土内には炭化物が混じっている状態が確認されており、遺構内から弥生土器（91）、太形蛤刃石斧（50）、柱状片刃石斧（59）が出土している。

SK09（第18図）

C2グリッド南部の調査区西壁付近で検出されている。平面はいびつな楕円形であり、長軸は北西―南東方向を向いている。検出長は90㎝、検出幅は48㎝である。断面は鍋底状に掘り込まれており、深さは38㎝である。弥生土器（92）が出土している。



第20図　SK21・23平面・断面図

SK10（第18図）

C2グリッド南東部で検出されている。平面は楕円形を呈しており、南西―北東方向に掘り込まれている。検出長74㎝、検出幅44㎝、深さ10㎝である。底面は皿状に掘り込まれている。

SK11（第15図）

C2グリッド東部で検出されている。平面は楕円形を呈しており、ほぼ南北方向に掘り込まれて北東側でSD18に接している。検出長196㎝、検出幅50㎝、深さ30㎝であり、底面は平坦に掘り込まれている。底部からは木片が検出されている。遺構内の覆土は砂質土層であり、内部には炭化物が含まれている。

SK12（第15図）

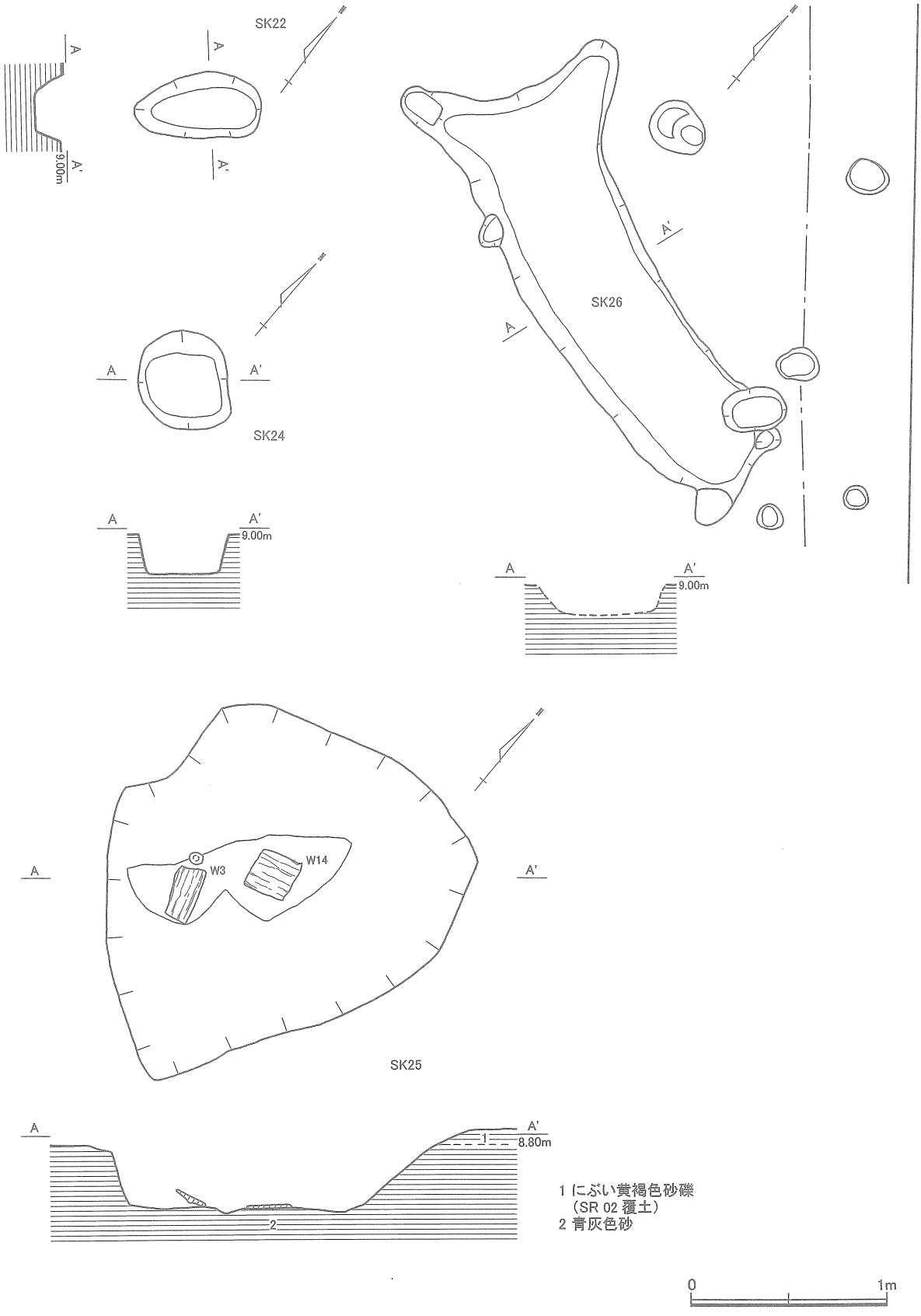
C2グリッド東部で検出されている。平面はいびつな楕円形を呈しており、南西―北東方向に掘り込まれている。検出長は118、検出幅は40㎝、深さは26㎝であり、断面は鍋底状に掘り込まれている。SK11の北側から検出されており、SB01の柱穴として機能していたと考えられる。遺構内の覆土は撹乱を受けており、下の砂質土層を巻き上げている状況が確認されている。遺構内からは弥生土器（93・94）が出土している。

SK13（第17図）

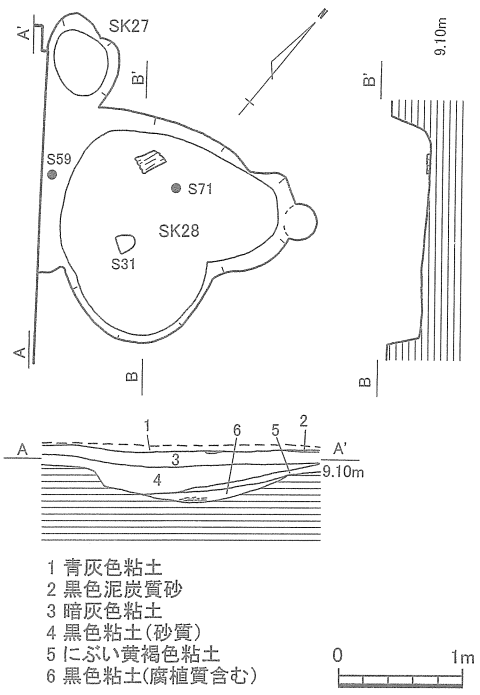
B2グリッド西部からC2グリッド南部にかけて検出されている。平面は不定形であり、南側でSK05、東側でSK06が接している。検出長は48㎝、検出幅は32㎝、深さは33㎝であり、断面はU字形に掘り込まれている。遺構内からは敲石（4）、砥石（36）が出土している。

SK14（第18図）

D2グリッド西部の調査区北壁付近で検出されており、平面は不定形である。検出長は62㎝、検出幅は46㎝である。



第21図　SK22・24～26平面・断面図



第22図　SK27・28平面・断面図

SK15（第18図）

D2グリッド西部の調査区北壁付近から検出されている。平面は円形に近い楕円形である。検出長は38㎝、検出幅は24㎝、深さは12㎝であり、底面は平坦に掘り込まれている。

SK16（第18図）

D1グリッド北部で検出されている。平面は不定形であり、南西側でSK18に接している。検出長は20㎝、検出幅は16㎝、深さは17㎝であり、断面はU字形である。

SK17（第18図）

D1グリッド北部の調査区北壁付近から検出されている。平面は楕円形を呈しており、南西―北東方向に掘り込まれている。検出長28㎝、検出幅10㎝、深さ２㎝であり、南東側には小穴が接している。

SK18（第18図）

D1グリッド北部で検出されている。平面はいびつな楕円形であり、北東側にSK16が接している。検出長は46㎝、検出幅は30㎝、深さは25㎝である。断面は逆台形を呈している。

SK19（第19図）

B2グリッド北部で検出されている。平面はいびつな楕円形であり、南西側にSD08が接している。検出長は334㎝、検出幅は224㎝、深さは23㎝であり、底面は平坦に掘り込まれている。土坑内部では木片が腐って堆積している状況が確認されている。砥石（33、42）、鍬の未製品（5）が出土している。

SK20（第16図）

C2グリッド北部で検出されており、平面は不定形である、南南西から北北東に向かって次第に幅が狭くなり、調査区東壁付近でSD20と連結する。検出長は190㎝、検出幅は110㎝、深さは13㎝である。底面は北西から南東方向に向かって緩く傾斜している。

SK21（第20図）

C2グリッド北東部で検出されている。平面は不定形であり、北西―南東方向に掘り込まれて調査区東壁に接しており、北西側ではSK23に接している。検出長は294㎝、検出幅は106㎝、深さは28㎝であり、底面は平坦に掘り込まれている。遺構内からは弥生土器（97～99）が出土している。

SK22（第21図）

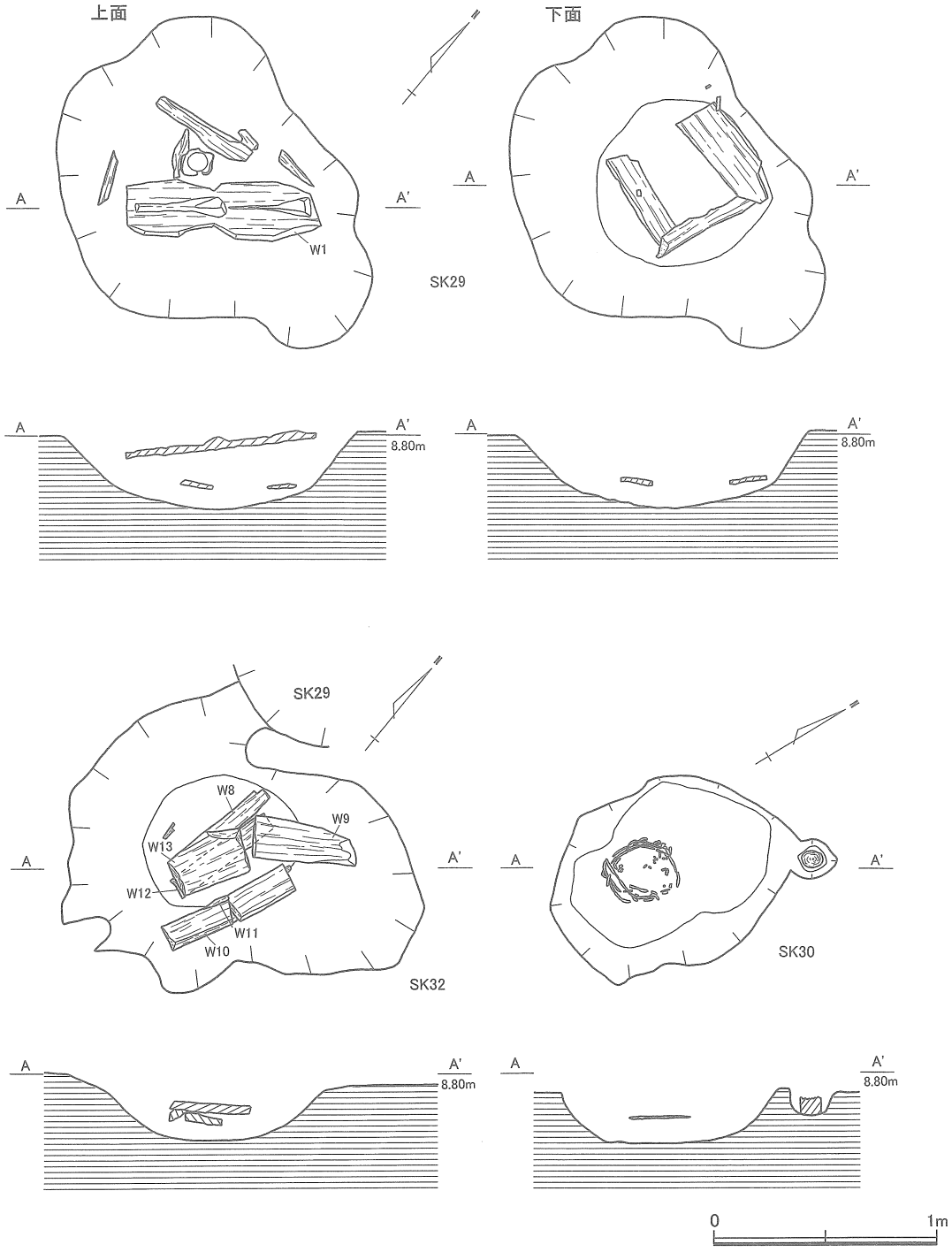
C2グリッド中央部で検出されている。平面は楕円形であり、南西―北東方向に掘り込まれている。検出長は64㎝、検出幅は36㎝、深さは15㎝である。底面は平坦に掘り込まれている。

SK23（第20図）

C2グリッド北東部で検出されている。平面は不定形であり、北西―南東方向に掘り込まれて調査区東壁に接している。南東側ではSK21に接している。検出長は204㎝、検出幅は132㎝である。遺構内からは弥生土器（100～105）が出土している。

SK24（第21図）

D1グリッド西部で検出されており、平面は円形を呈している。検出長は52㎝、検出幅は46㎝、深さは21㎝であり、断面は逆台形を呈している。SB03の柱穴として機能していたと考えられる。



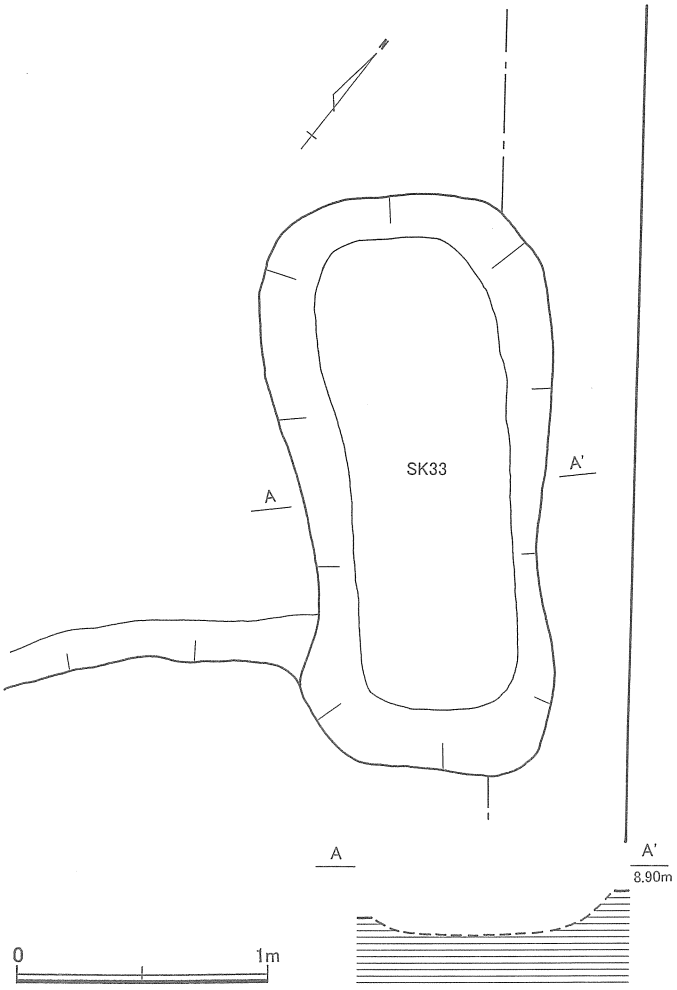
第23図　SK29・30・32平面・断面図

SK25（第21図）

D2グリッド南西部で検出されている。SR02の内部を掘り込んでおり、平面は不定形である。検出長は189㎝、検出幅は173㎝、深さは35㎝である。底面は平坦に掘り込まれており、南西側では垂直に近い形で掘り込まれているのに対し、北東側では緩やかに立ち上がる。弥生土器（106・107）、敲石（1）、鍬の未製品を始めとした木製品（3・14）が出土している。

SK26（第21図）

D2グリッド東部で検出されており、平面の形状は隅丸長方形である。北西―南東方向に掘り込まれて



第24図　SK33平面・断面図

おり、南側及び東側で小穴が確認されている。検出長は230㎝、検出幅は70㎝である。遺構内からは弥生土器（108）が出土している。

SK27（第22図）

C2グリッド中央部で検出されている。調査区西壁に接しており、平面は円形を呈している。南東側ではSK28、北西側ではSD19に接している。検出長は78㎝、検出幅は58㎝である。遺構内からは弥生土器（109～111）が出土している。

SK28（第22図）

C2グリッド中央部で検出されており、調査区西壁に接している。平面は不定形であり、北西側でSK27と連結している。検出長は225㎝、検出幅は180㎝、深さは32㎝であり、断面は皿状に掘り込まれている。遺構内からは弥生土器（112～124）、砥石（31）、扁平片刃石斧（67・71）、打製刃器（95）が出土している。

SK29（第23図）

D1グリッド北東部から検出されており、平面は不定形である。SR01の底部から検出されており、南側でSK32に接している。検出長は166㎝、検出幅は117㎝、深さは35㎝であり、断面は皿状に掘り込まれている。弥生土器（125～127）、砥石（32）、鍬未製品（1）が出土している。

SK30（第23図）

D2グリッド南部で検出されている。平面はいびつな楕円形であり、ほぼ南北方向に掘り込まれている。SR01の底部から検出されており、土坑の北側に小穴を伴っている。検出長は113㎝、検出幅は88㎝、深さは23㎝であり、底面は皿状に掘り込まれている。

SK31（第14図）

D2グリッド西部で検出されており、平面は不定形である。検出長52㎝、検出幅26㎝である。

SK32（第23図）

D1グリッド北東部で検出されており、平面は不定形である。SR01底部から検出されており、SK29の南側に接している。検出長は166㎝、検出幅は129㎝、深さは30㎝であり、断面は皿状に掘り込まれている。遺構内から木製品（８～13）が複数出土している。

SK33（第24図）

D2グリッド北東部で検出されている。平面は楕円形であり、北西―南東方向に掘り込まれている。検出長は230㎝、検出幅は116㎝である。

第６表　土坑一覧

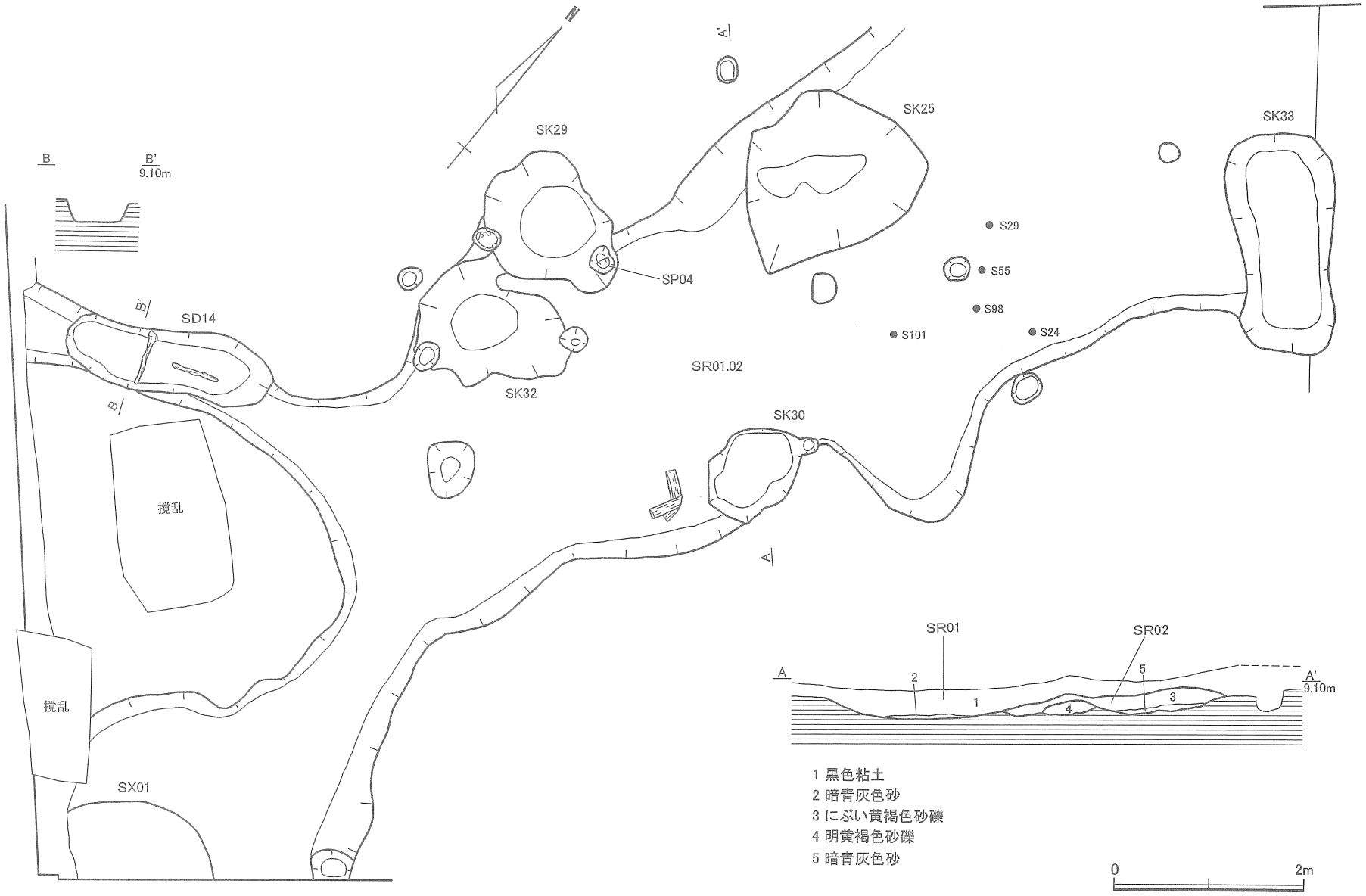
遺構番号	グリッド	長軸(cm)　(　)：現存	短軸(cm)　(　)：現存	深さ(cm)
SK01	A－2・B－2	(147)	(89)	31
SK02	A－2	88	50	11
SK03	B－2	(88)	(42)	
SK04	B－2	(46)	(14)	
SK05	B－2	(46)	34	2
SK06	B－2・C－2	63	(48)	5
SK07	B－2	(42)	21	14
SK08	B－2	148	116	28
SK09	C－2	90	48	38
SK10	C－2	74	44	10
SK11	C－2	196	50	30
SK12	C－2	118	40	26
SK13	B－2	48	32	33
SK14	D－2	62	46	
SK15	D－2	38	24	12
SK16	D－1	20	16	17
SK17	D－1	28	(10)	2
SK18	D－1	46	30	25
SK19	B－2	(334)	(224)	23
SK20	C－2	(190)	(110)	13
SK21	C－2	(294)	(106)	28
SK22	C－2	64	36	15
SK23	C－2	(204)	(132)	
SK24	D－1	52	46	21
SK25	D－2	(189)	(173)	35
SK26	D－2	230	70	
SK27	C－2	(78)	(58)	
SK28	C－2	(225)	180	32
SK29	D－1	166	117	35
SK30	D－2	(113)	88	23
SK31	D－2	52	26	
SK32	D－1	166	(129)	30
SK33	D－2	230	116	

4　流路（SR：第25図）

流路（SR01、02）は調査区北側のD1～D2グリッドで確認されている。流路底面が南西から北東に向かって低くなっており、北東方向への水の流れが存在していたと考えられる。流路の覆土は上層（黒色粘土層）と下層（黄褐色砂礫層）に分層することができ、それぞれSR01（上層）、SR02（下層）としている。

SR01（第25図）

C1・D1・D2グリッドで検出されている。黒色粘土層が20㎝～30㎝にわたって堆積しており、南西側から北東側に向かって深くなっている。流路内からは、弥生土器（134～280）、凹石（23・24・27）、砥石（29・40）、太形蛤刃石斧未製品（55）、柱状片刃石斧未製品（63）、扁平片刃石斧（78）、石錘（98・101）、田下駄（6）等が出土している。



第25図　SD14、SR01・02、SX01平面・断面図

第７表　小穴・流路・性格不明遺構一覧

遺構番号	グリッド	平面形状	長径(cm)　(　)：現存	短径(cm)　(　)：現存
SP01	Ｄ－１	円　　形	27	24
SP02	Ｄ－１	円　　形	14	14
SP03	Ｄ－１	円　　形	18	17
SP04	Ｄ－１	不 定 形	28	23
SP05	Ｄ－２	不 定 形	44	20
SP06	Ｃ－２	円　　形	24	22
SR01	Ｃ－１・Ｄ－１・Ｄ－２		1750	300
SR02	Ｄ－２			
SX01	Ｃ－１			

SR02（第25図）

SR02はSR01の下層で検出されている。調査区西壁付近では明褐色砂層の堆積として確認されており、東方向への水の流れにより浸食され、中央部ではにぶい黄褐色砂礫層・明黄褐色砂礫層として堆積しているとみられる。調査区東壁付近ではさらに浸食が進み、にぶい黄褐色砂層・明黄褐色砂層となっている（第６図第５層・第７層)。遺構内からは弥生土器（281～335)、砥石（18、34、41)、竪杵（7）等が出土している。

5　性格不明遺構（SX：第25図）

SX01（第25図）

C1グリッド西部で検出されている。SR01の南側に接しており、南側は調査区外のため未確認である。遺構内から弥生土器（133）が出土している。

6　小穴（SP：第７図）

小穴は全体で約270基検出されており、このうち６基から遺物が出土している。

SP01（第７図）　D1グリッド中央部で検出されている。平面は円形を呈しており、検出長は27㎝、検出幅は24㎝である。小穴内から弥生土器（128～130）が出土している。

SP02（第７図）　D1グリッド北部で検出されている。平面は円形を呈しており、検出長は14㎝、検出幅は14㎝である。小穴内から弥生土器（131）が出土している。

SP03（第７図）　D1グリッド北部で検出されている。平面は円形を呈しており、検出長は18㎝、検出幅は17㎝である。小穴内から弥生土器（132）が出土している。

SP04（第７図）　D1グリッド北東部で検出されている。平面は不定形であり、検出長は28㎝、検出幅は23㎝である。小穴内から敲石（5）が出土している。

SP05（第７図）　D2グリッド南部で検出されている。平面は不定形であり、検出長は44㎝、検出幅は20㎝である。小穴内から剥片（256）が出土している。

SP06（第７図）　C2グリッド東部で検出されている。平面は円形を呈しており、検出長は24㎝、検出幅は22㎝である。小穴内から剥片（262）が出土している。

第４章　出土遺物

１　土　　器

出土土器のほとんどは弥生時代中期中葉から中期後葉のものである。特に中期後葉前半のものが多くを占めており、その中に中期中葉と中期後葉後半のものが混在している。いわゆる須和田式とされている太描の沈線で文様を描く土器が主体となっており、その中に外来系として嶺田（阿島）式、貝田町式、瓜郷式、栗林式等の各地域の土器が認められ、地域間の交流が非常に活発であったことが窺える。

SD08出土土器（第26図１～12）

１は長頸壺であり、沈線による区画の内部に刺突が施されている。２～７は甕の口縁部である。２は口唇部に刻目を入れ、内外面ともにナデ調整を施している。３は口唇部外面に押圧文を施しており、外面は条痕調整である。４は口唇部外面に刻目が施されており、縦位のハケ調整後にヘラ描による羽状文を施している。５～７は口唇部内外面に押圧文が施される。５・６の外面は条痕調整、７の外面はナデ調整である。８～12は底部であり、９・11・12は底面に木葉痕が見られる。

SD09出土土器（第26図13～14）

13は長頸壺の胴部である。外面に縄文の施文及び円形浮文の貼り付けを行い、二重の沈線により王子と見られる文様を施し、区画の内部に条痕を施す。14は壺の頸部～肩部である。外面にヘラミガキによる調整を行い、横位の櫛描文の上に縦位の櫛描文を施している。

SD13出土土器（第26図15～16）

15は壺の口縁部である。口唇部に櫛描による羽状の刺突を施しており、内外面はナデ調整である。16は甕の口縁部である。口唇部外面に工具による押圧文を施し、外面は条痕調整である。

SD14出土土器（第27図17～第30図90）

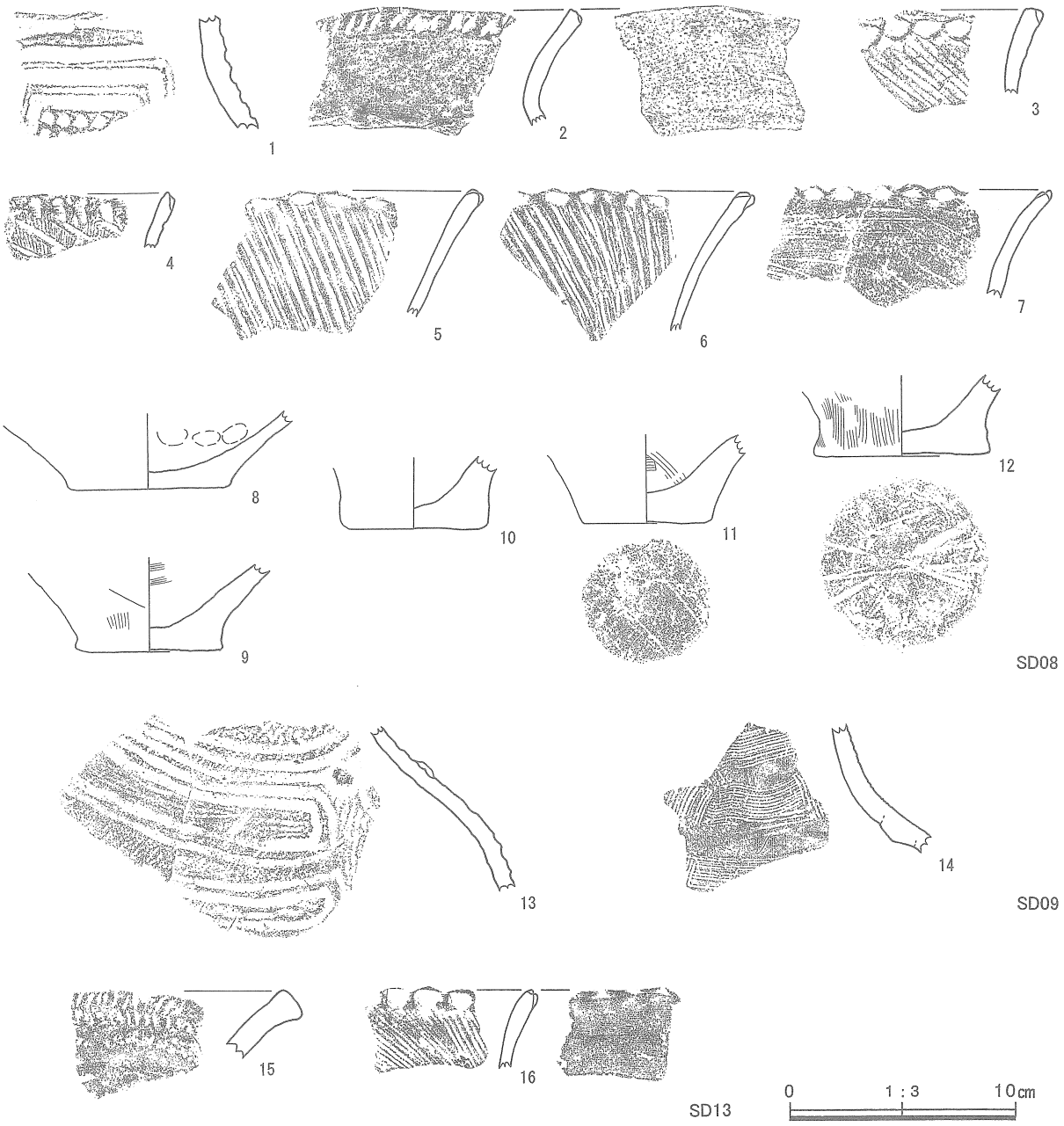
17～50は壺である。17・18は受口太頸壺であり、17は口唇部に工具による刺突が見られる。屈折部には工具による刻目が施されており、外面はハケ調整である。18は口唇部及び口縁部に工具による羽状の刻目が施され、外面は横位羽状の条痕が施される。19は赤彩する。22は瓜郷式の太頸壺と見られ、口縁部を折り返し、口唇部に工具による刻目が施される。頸部にはヘラ描による跳ね上げ文を施し、横位の櫛描文が見られる。25～27は壺の頸部であり、25はヘラ描による羽状の沈線を施し、横位の沈線により区画している。26・27は細頸壺であり、地文に縄文を施した後に沈線による文様を施している。28はミガキによる調整後に帯縄文を沈線により区画して円形浮文を貼り付けている。34は横位の縄文帯の上部を沈線により区画し、無文部分を磨いて赤彩する。37は縦位の条痕調整後に波状文が施される。40は広口壺であり、胴部上位に流水文及び円形浮文が描かれ、流水文の下部に縄文帯を施す。41～43及び44～48はそれぞれ同一個体の可能性がある。44～48は横位の櫛描文の上に縦位の櫛描文が描かれており、瓜郷式の壺と見られる。49・50は刻目の施された横位の突帯を有する破片である。

51～70は甕である。51～66は口唇部に刻目または押圧文を施す口縁部破片である。53・55・56・58・59・61の外面は条痕調整、そのほかはハケ調整である。54・57は外面にヘラ描による羽状文を施している。67～70は甕の胴部であり、外面にハケ調整を施している。

71～87は底部である。73・74・78～81・83・85の底面には木葉痕が見られる。88～90は台付甕の台部である。90は高坏の脚部である可能性も考えられる。

SK08出土土器（第31図91）

91は鉢であり、内外面を赤彩する。口縁部が外反し、胴部が緩く屈曲する。



第26図　SD08・09・13出土土器

SK09出土土器（第31図92）

92は壺の頸部であり、外面全体に縄文を施した後にヘラ描による沈線を円形に施している。

SK12出土土器（第31図93～94）

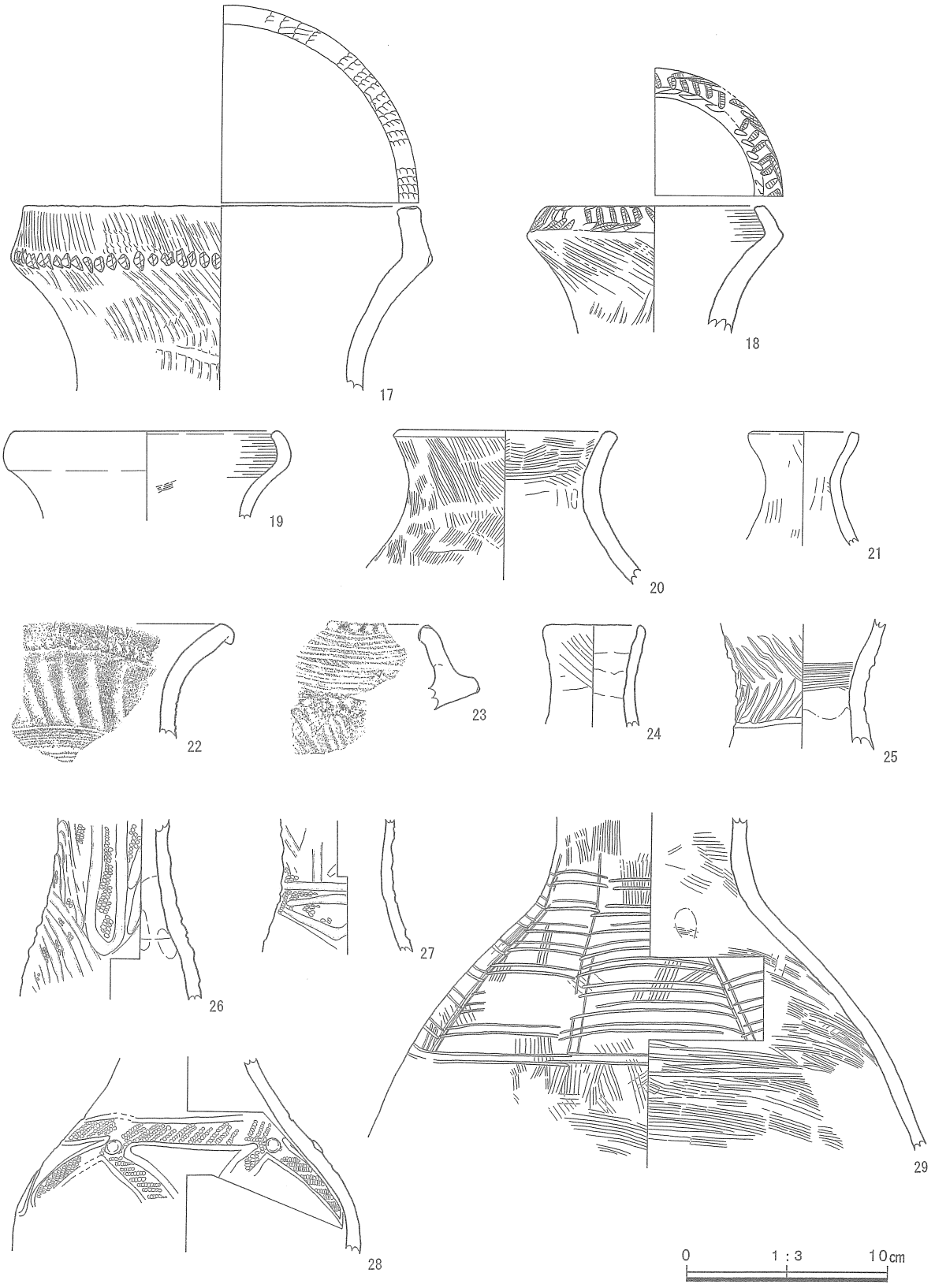
93は甕の口縁部である。口唇部内外面に工具による刻目が施されており、外面は条痕調整である。94は網代痕を持つ底部である。

SK19出土土器（第31図95～96）

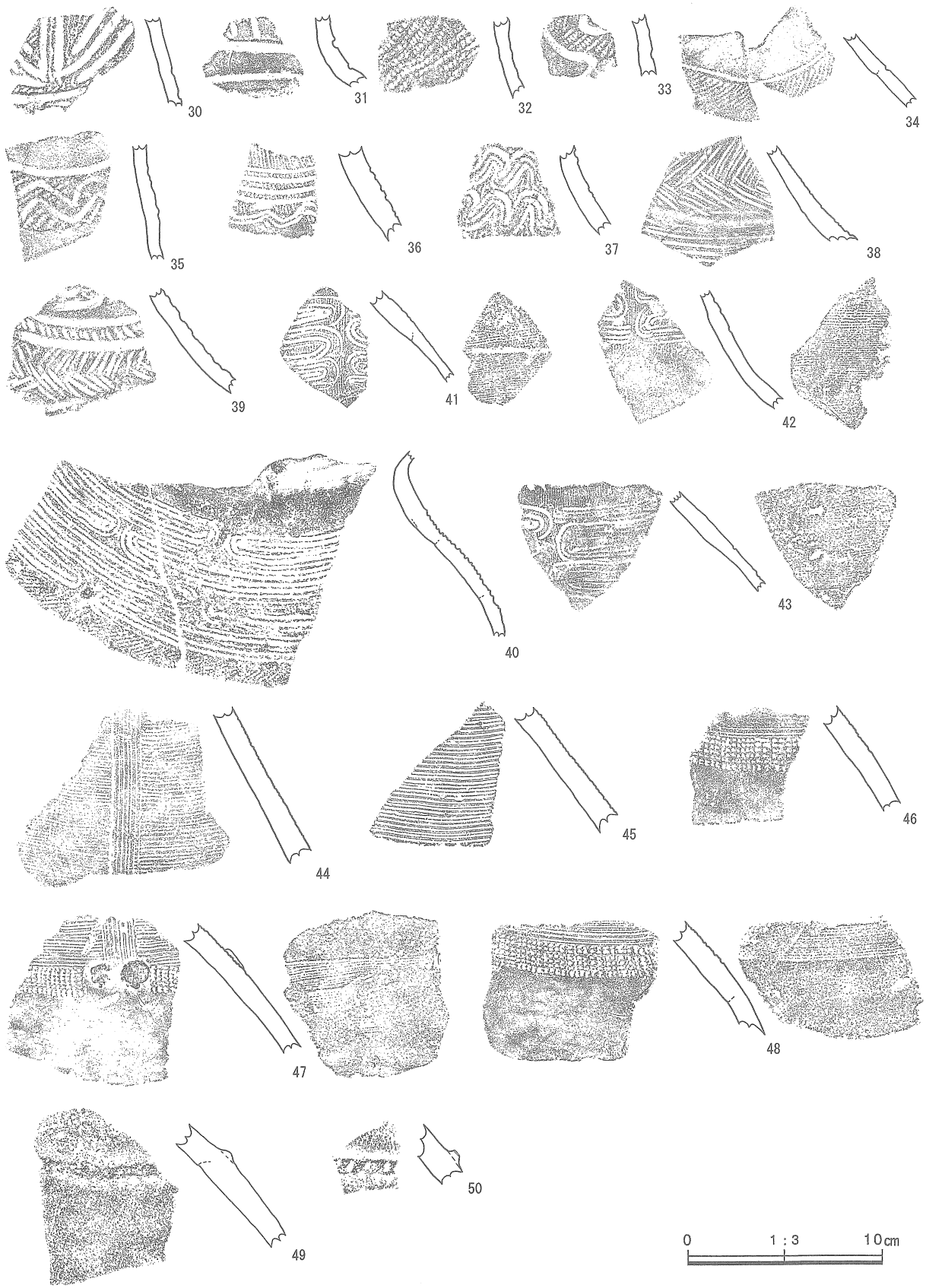
95は壺の口縁部～頸部であり、口縁端部に櫛状工具による刺突文を巡らせている。96は網代痕を持つ底部破片である。

SK21出土土器（第31図97～99）

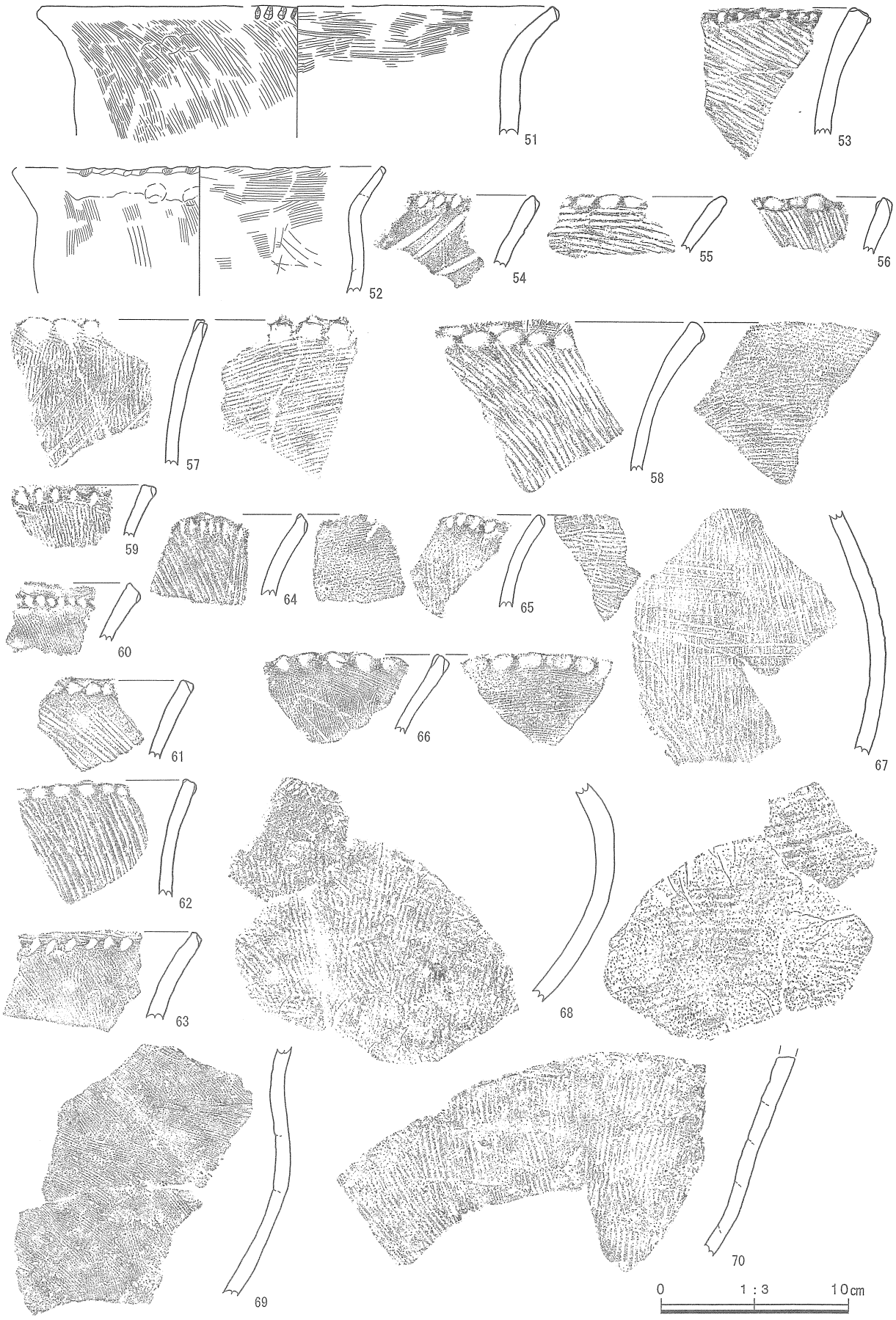
97・98は壺である。97は縄文を施した後にヘラ描による沈線文を施している。98は縄文を沈線により



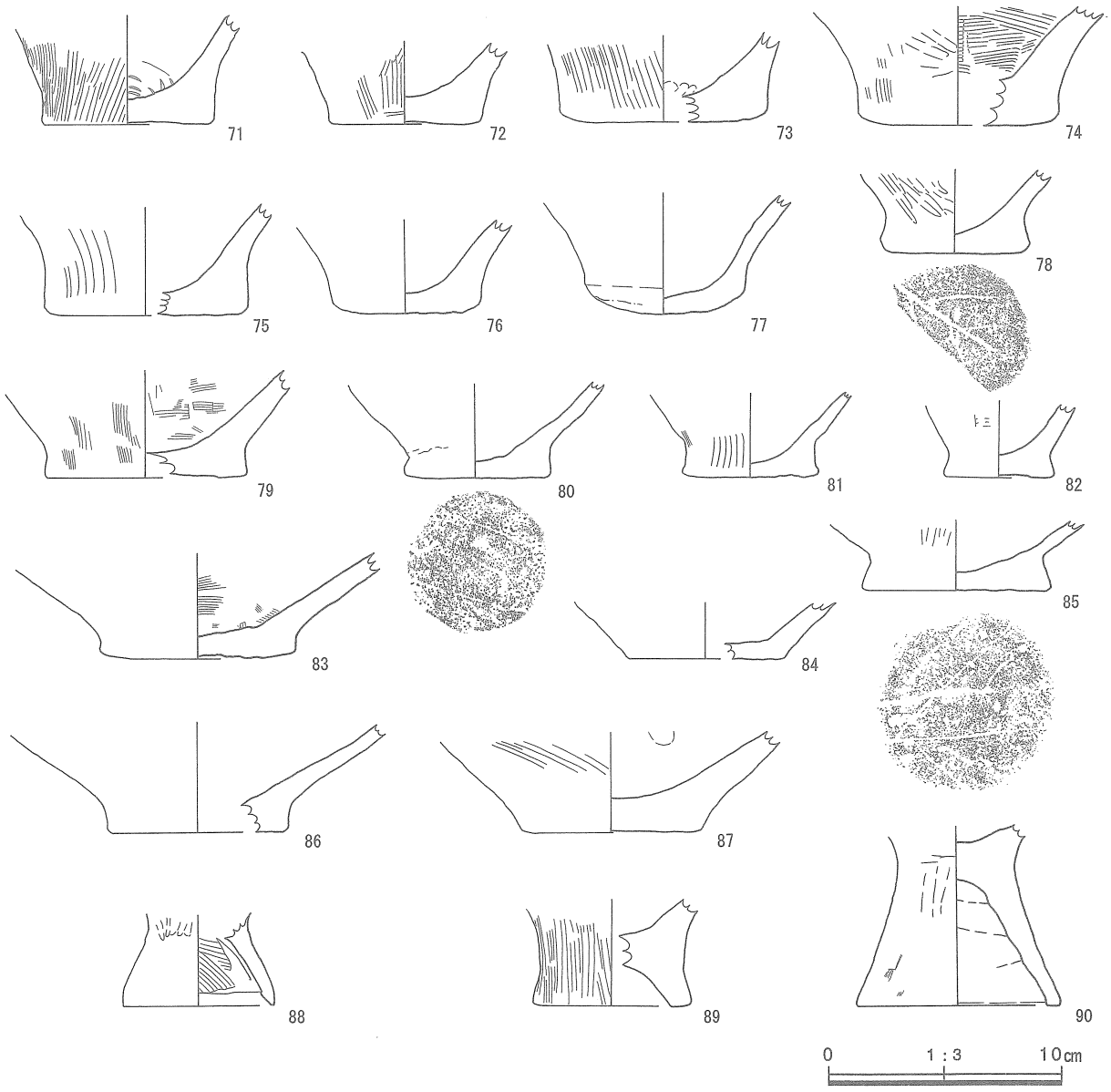
第27図　SD14出土土器１



第28図　SD14出土土器２



第29図　SD14出土土器３



第30図　SD14出土土器４

円形に区画している。99は網代痕を持つ底部破片である。

SK23出土土器（第31図100～105）

100は壺の胴部である。円形浮文の貼り付け及びヘラ描による沈線を施し、区画の内部に条痕を施す。101～103は甕の口縁部であり、口唇部に刻目を施す。101の外面は条痕調整、102・103はハケ調整である。104・105は底部であり、104は底面に木葉痕、105は網代痕が残る。

SK25出土土器（第31図106～107）

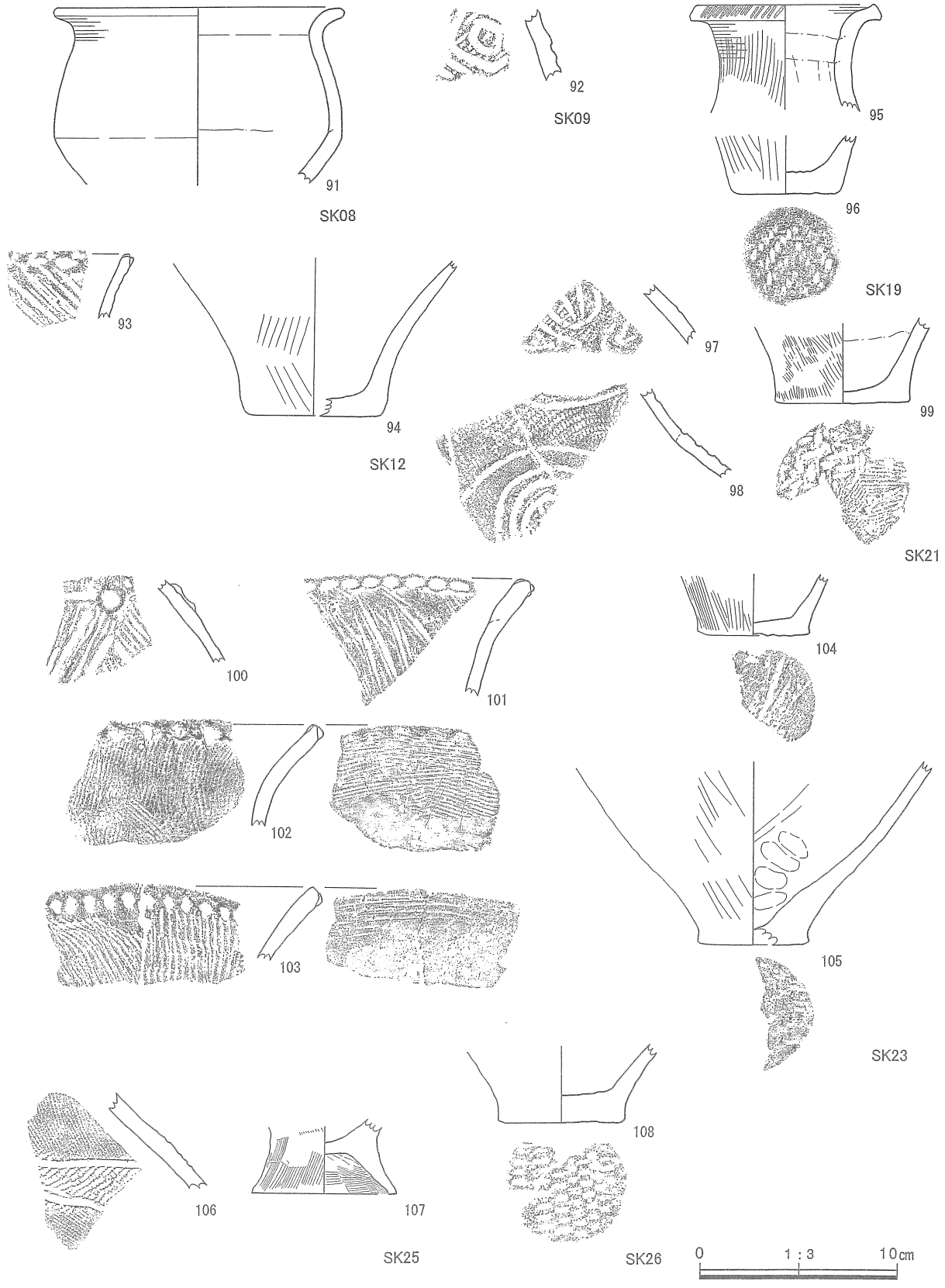
106は壺の胴部である。沈線及び縄文による区画を施している。107は台付甕の台部である。

SK26出土土器（第31図108）

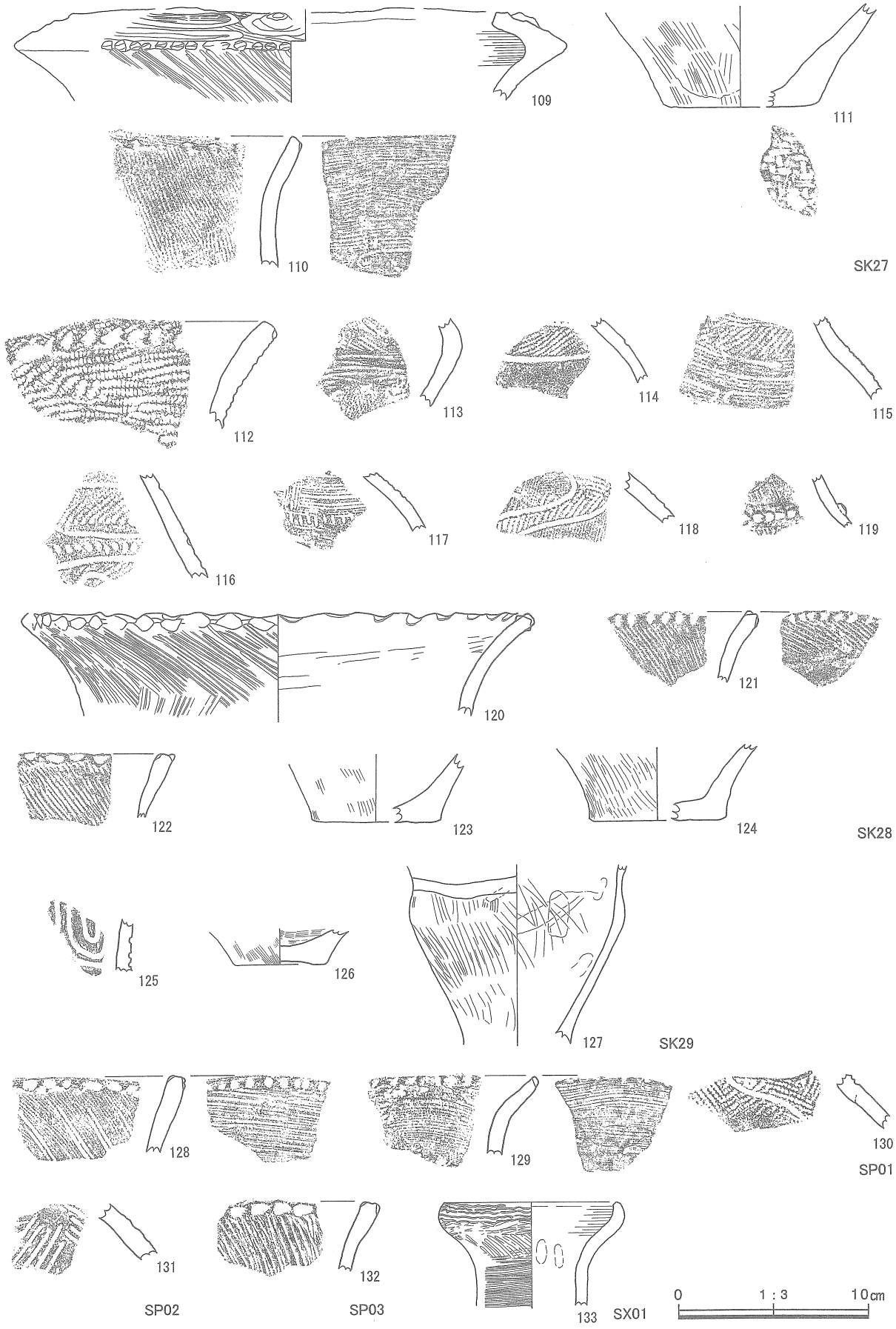
108は網代痕の見られる底部破片である。

SK27出土土器（第32図109～111）

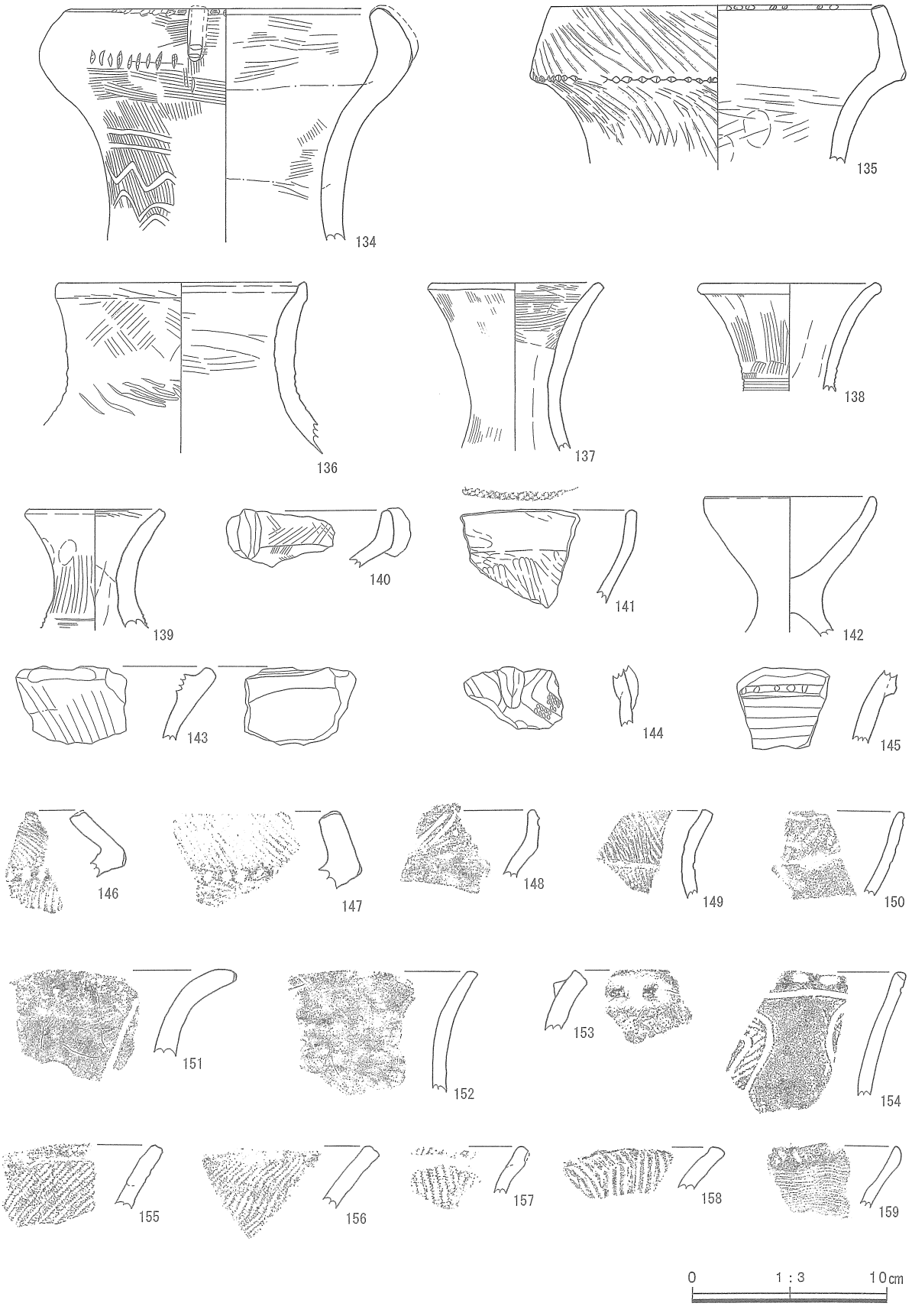
109は複合口縁を持つ壺であり、口縁直下は条痕調整後に中央を凹ませた円形浮文及びヘラ描による沈



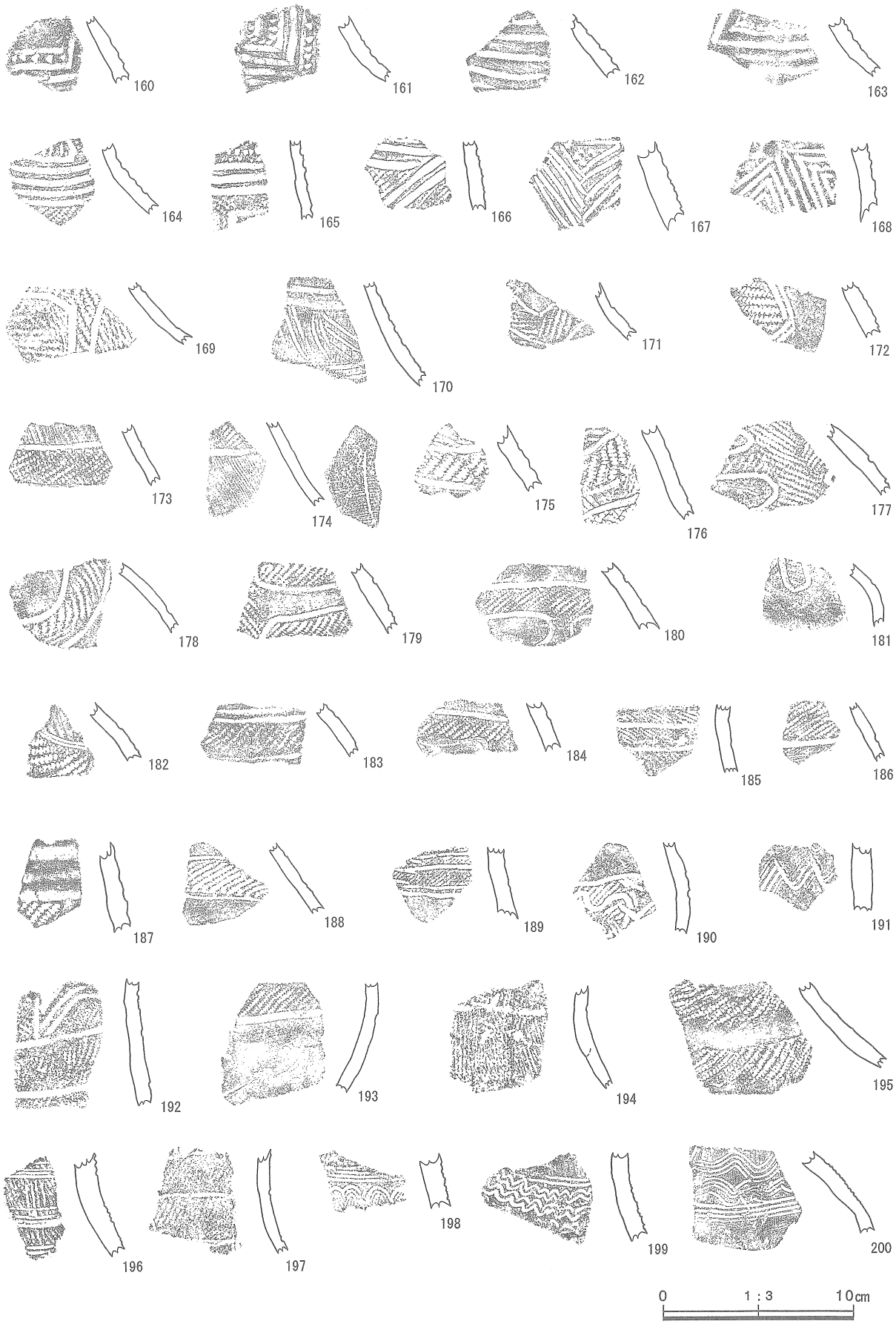
第31図　SK08～26出土土器



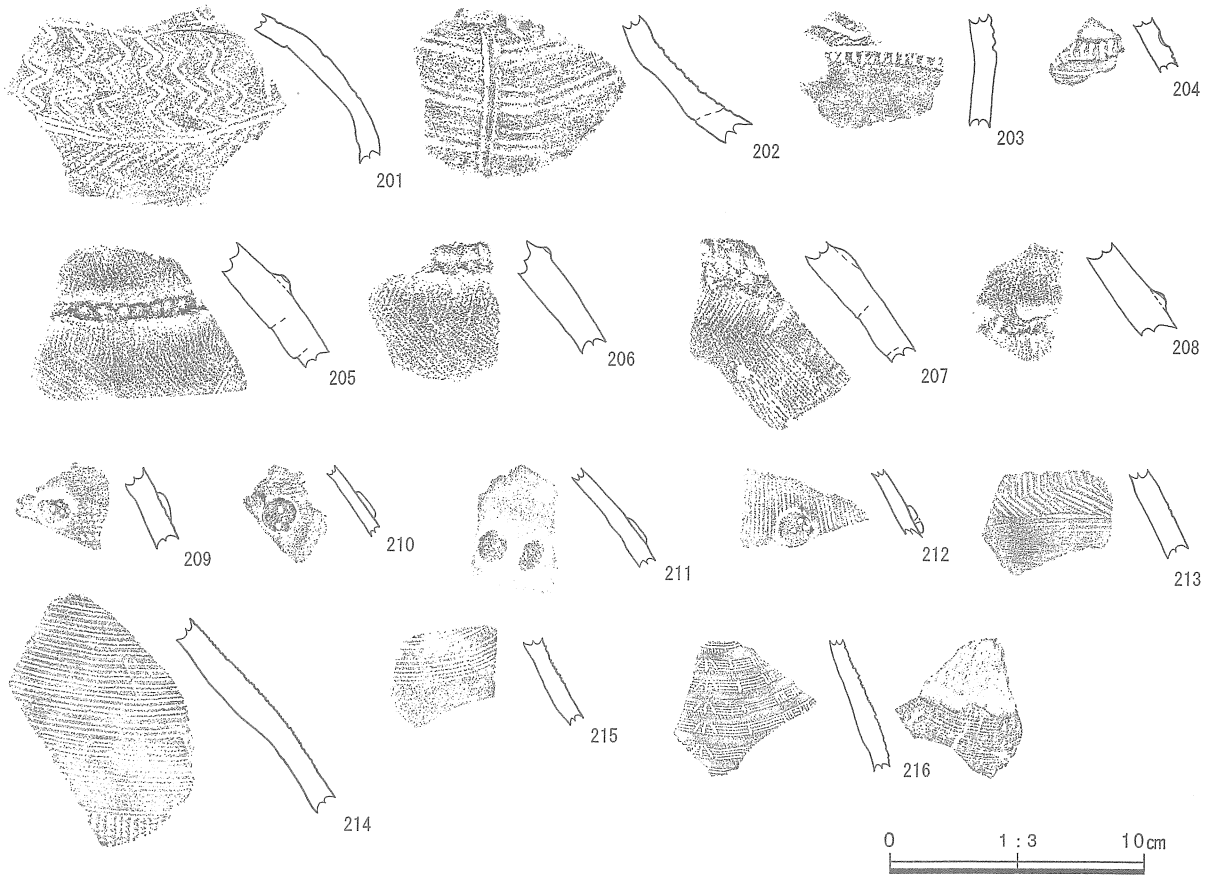
第32図　SK27～29、SP01～03、SX01出土土器



第33図　SR01出土土器１



第34図　SR01出土土器２



第35図　SR01出土土器３

線文を描く。屈折部には工具による刻目が施される。110は甕の口縁部であり、外面はハケ調整である。111は網代痕を持つ底部破片である。

SK28出土土器（第32図112～124）

112～119は壺である。112は太頸壺であり、口唇部外面に工具による刻目を入れ、外面全体に縄文を施している。114・116・118は磨消縄文を施す破片である。115は縄文帯の下に櫛描文が施される。117は瓜郷式の破片と見られる。横位の櫛描文の上に縦位の直線文が描かれており、櫛描文の下に刺突が施される。119は刻目を施す突帯を持つ破片である。

120～122は甕である。いずれも口唇部内外面に工具による刻目を施し、外面は120・122は条痕調整、121はハケ調整である。123・124は網代痕を持つ底部破片である。

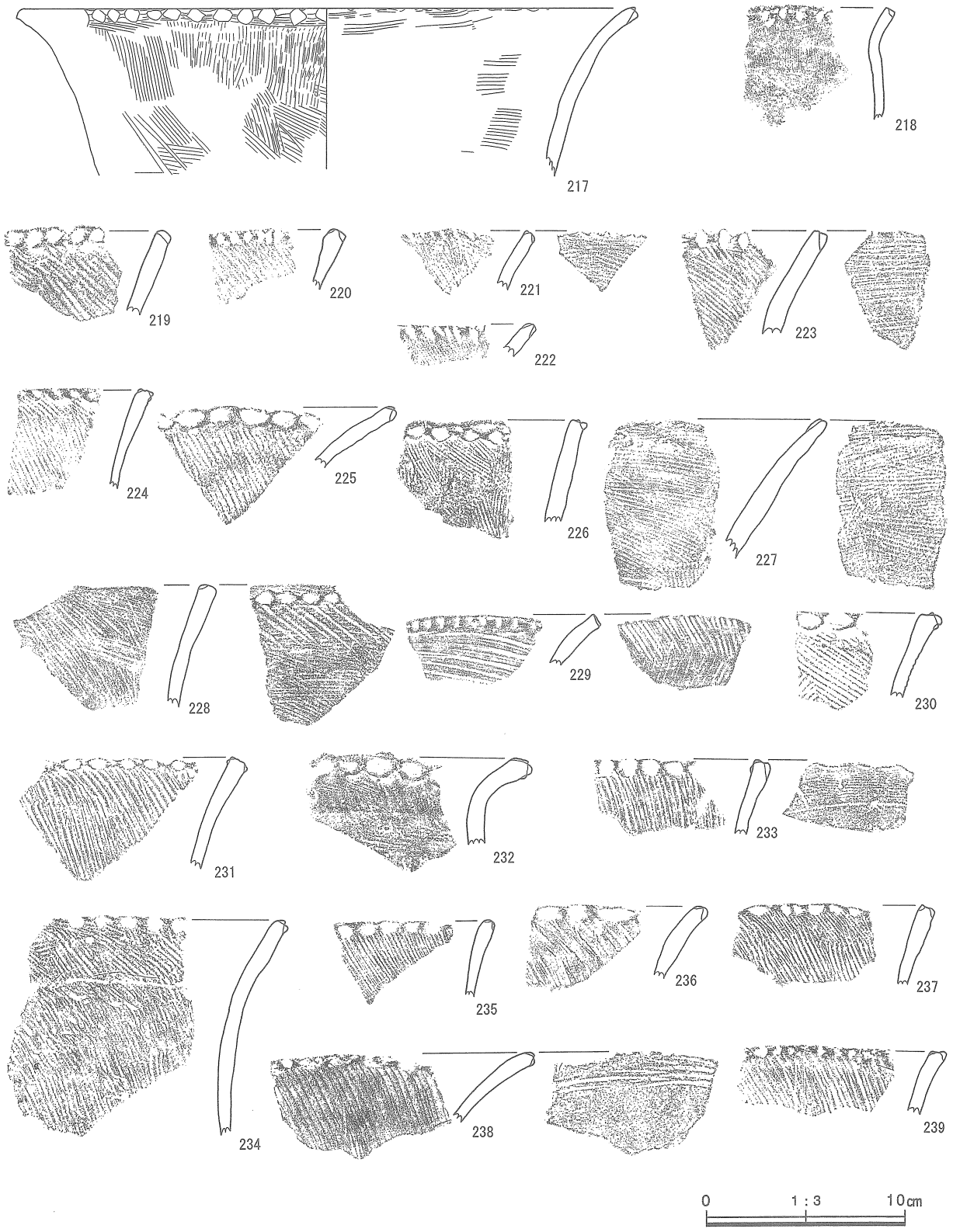
SK29出土土器（第32図125～127）

125は壺の頸部であり、沈線による文様が施される。127は甕の胴部である。外面はハケ調整が見られ、胴部上位には横位の磨消線が施される。

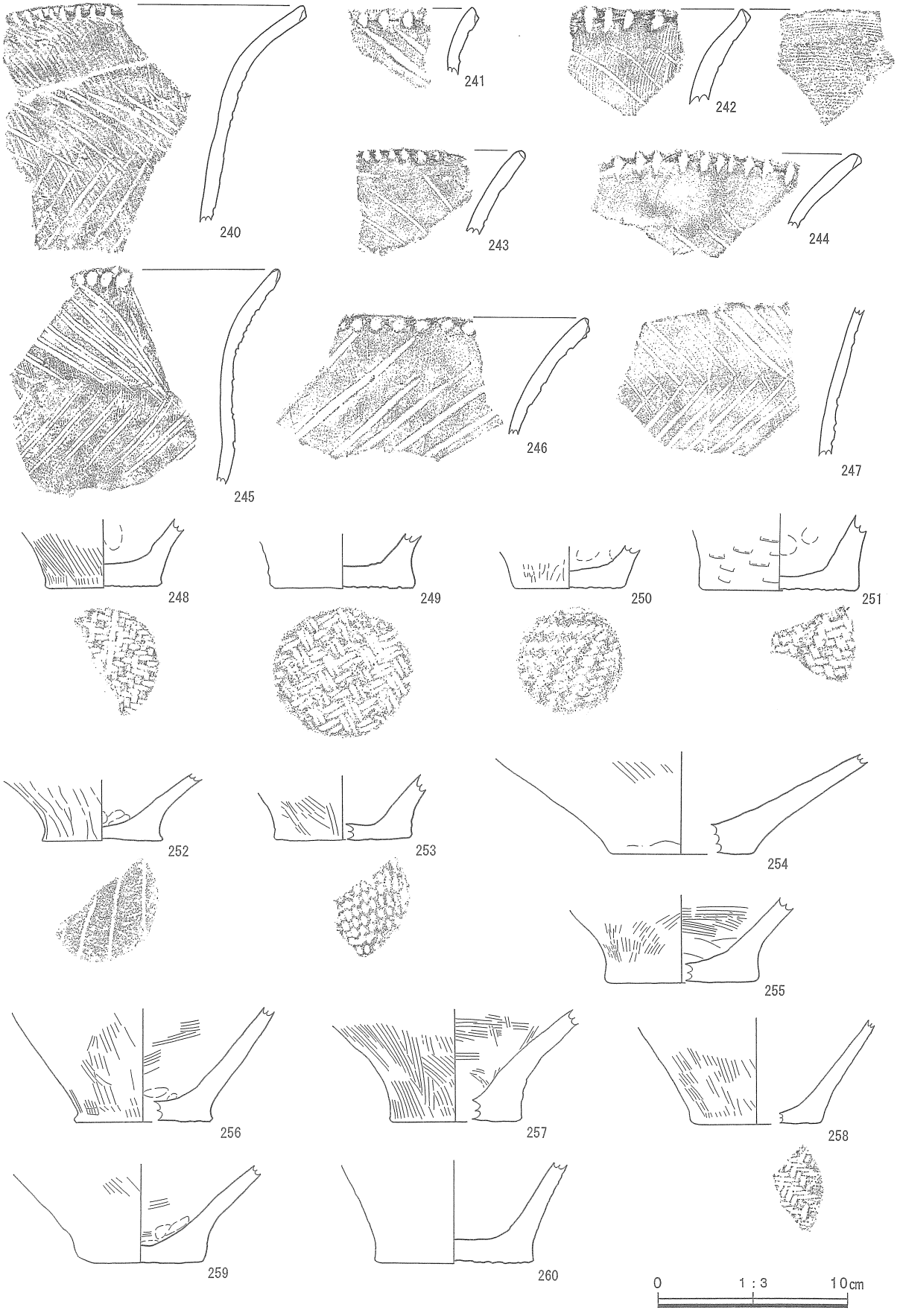
SP01～03出土土器（第32図128～132）

128～130はSP01出土である。128・129は甕の口縁部である。いずれも口唇部には工具による刻目が施され、外面はハケ調整である。128はハケ調整の後にヘラ描による２本単位の羽状文が施される。130は壺の胴部である。外面全体に縄文を羽状に施した後に沈線文が施される。131はSP02出土の壺の胴部であり、ヘラ描による沈線がハの字状に施される。中央部には円形浮文が貼り付けられていたと推定される。

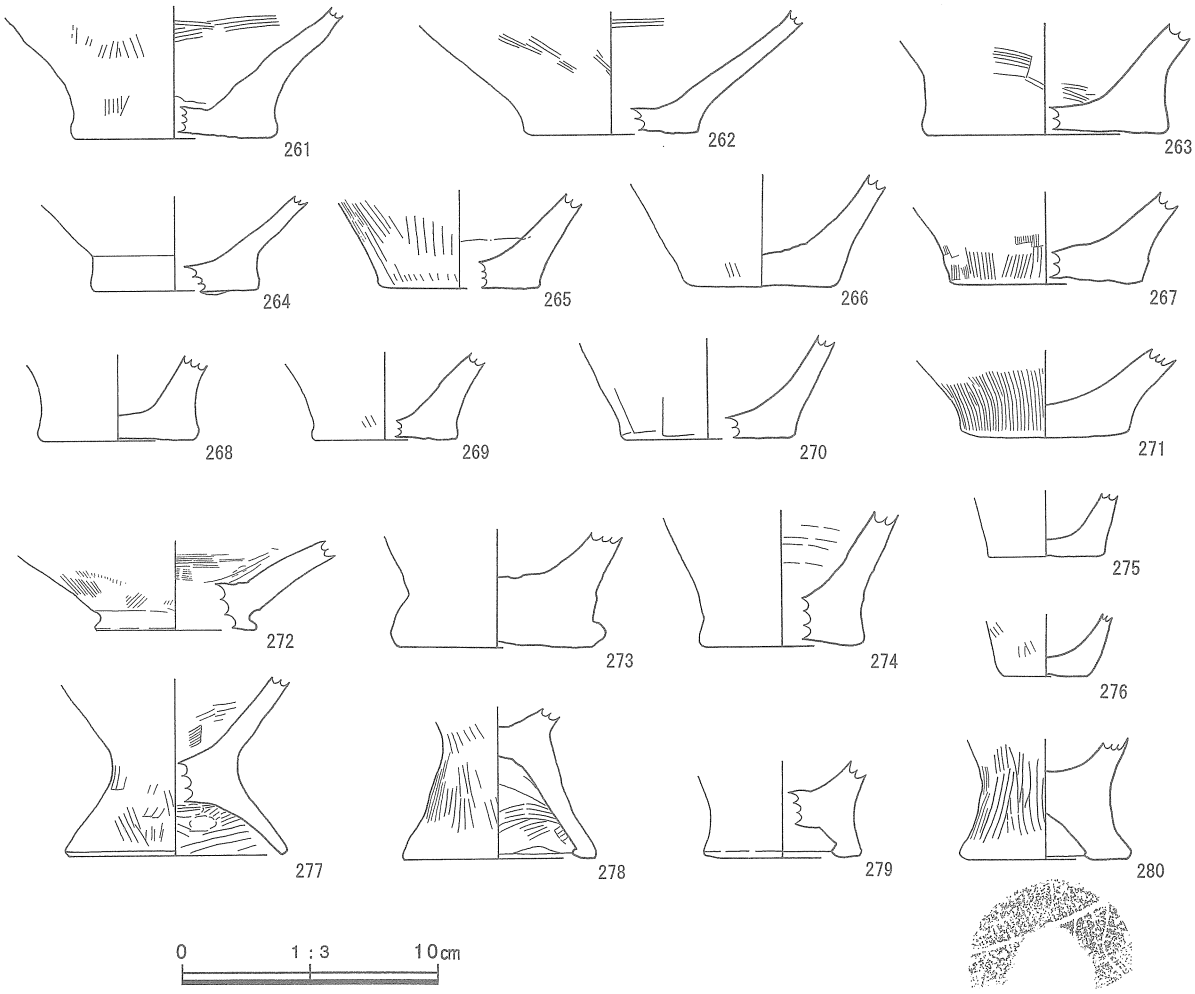
132はSP03出土の甕の口縁部である。口唇部内外面に工具による刻目が施され、外面はハケ調整である。



第36図　SR01出土土器４



第37図　SR01出土土器５



第38図　SR01出土土器６

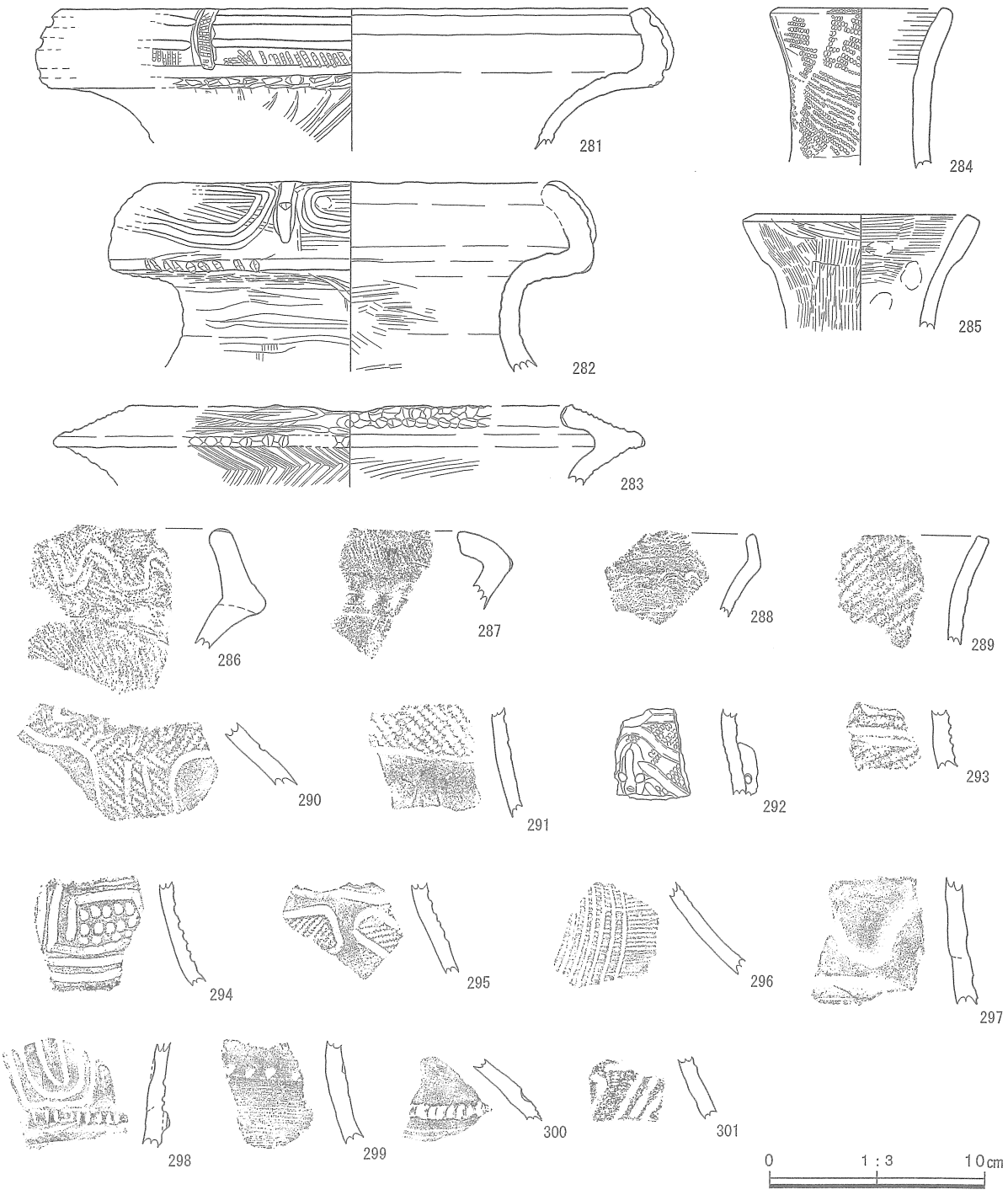
SX01出土土器（第32図133）

133は口縁部直下に櫛描による波状文が施され、頸部には斜位の条痕文及び横位の櫛描文が施される。貝田町式の壺と考えられる。

SR01出土土器（第33図134～第38図280）

134～140・146～216は壺である。134・135は複合口縁を持ち、口唇部及び口縁屈折部に工具による浅い刻目が施される。134は口縁部に縦位の棒状浮文が貼り付けられ、頸部はハケ調整の後にヘラ描による横線文及び波状文が描かれる。138・139は頸部に横線文が施される。198・199は細頸壺の頸部であり、横方向の直線文及び波状文が見られる。204は連続爪形文による横線文が施されており、嶺田式の破片と見られる。205～208は刻目を施す横位の突帯を有する胴部破片である。214は櫛描による横線文が施され、瓜郷式の壺と見られる。216は４本単位の横位の櫛描文の上に縦位の短線が施される。140～142、148、162、203、204は赤彩する。

217～246は甕の口縁部、247は胴部の破片である。217～246はいずれも口唇部に工具による刻目または押圧文が施されており、外面は220・221・223～225・229・230・233・235～237・239は条痕調整、そのほかはハケ調整である。240～247は外面に横位の羽状文を施し、230は縦位の羽状条痕が施される。248～276は底部、277～280は台付甕の台部である。248～251・253・258・262・270は底面に網代痕が観察さ



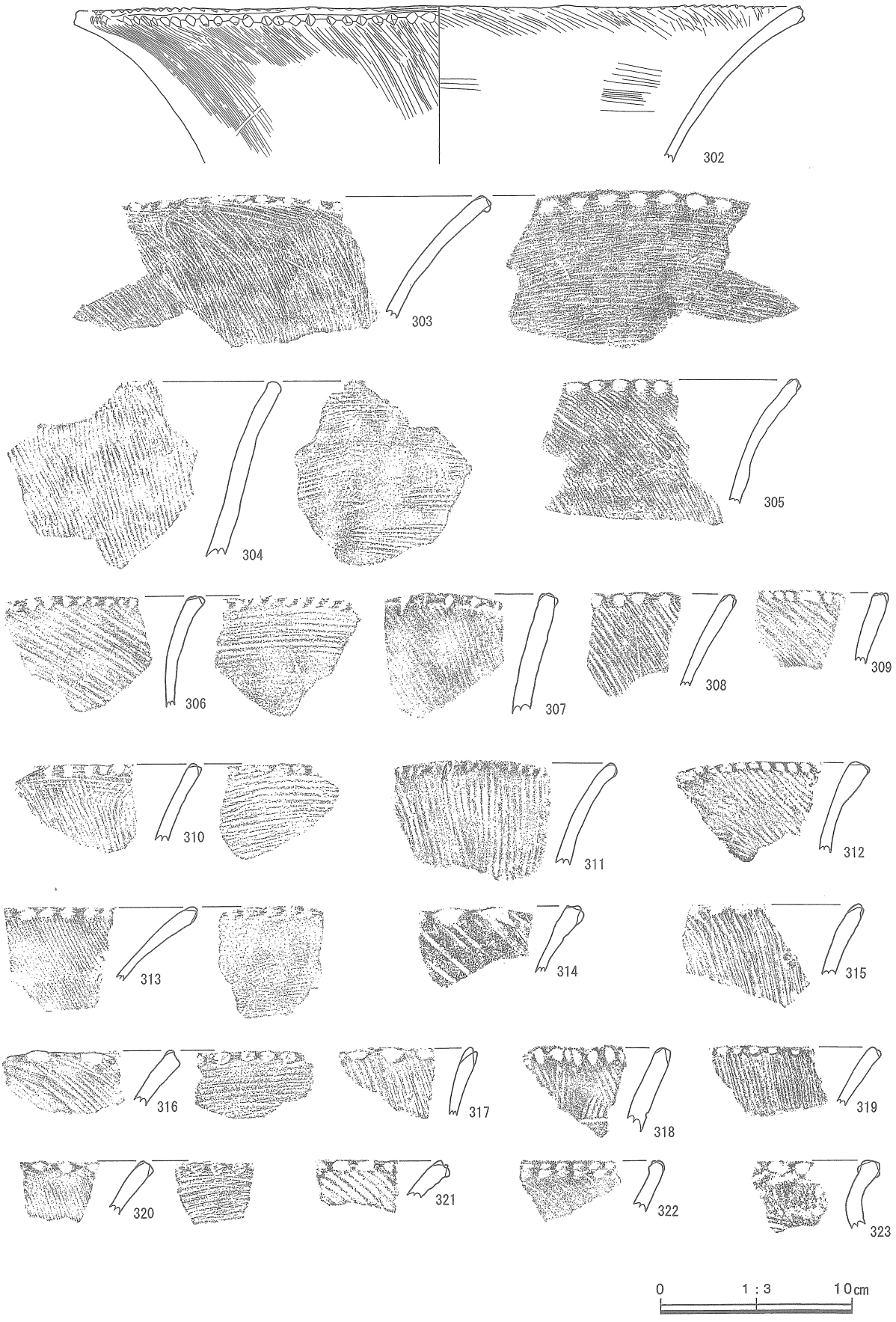
第39図　SR02出土土器1

れる。252・265・269・280は底面に木葉痕が観察される。252は赤彩する。

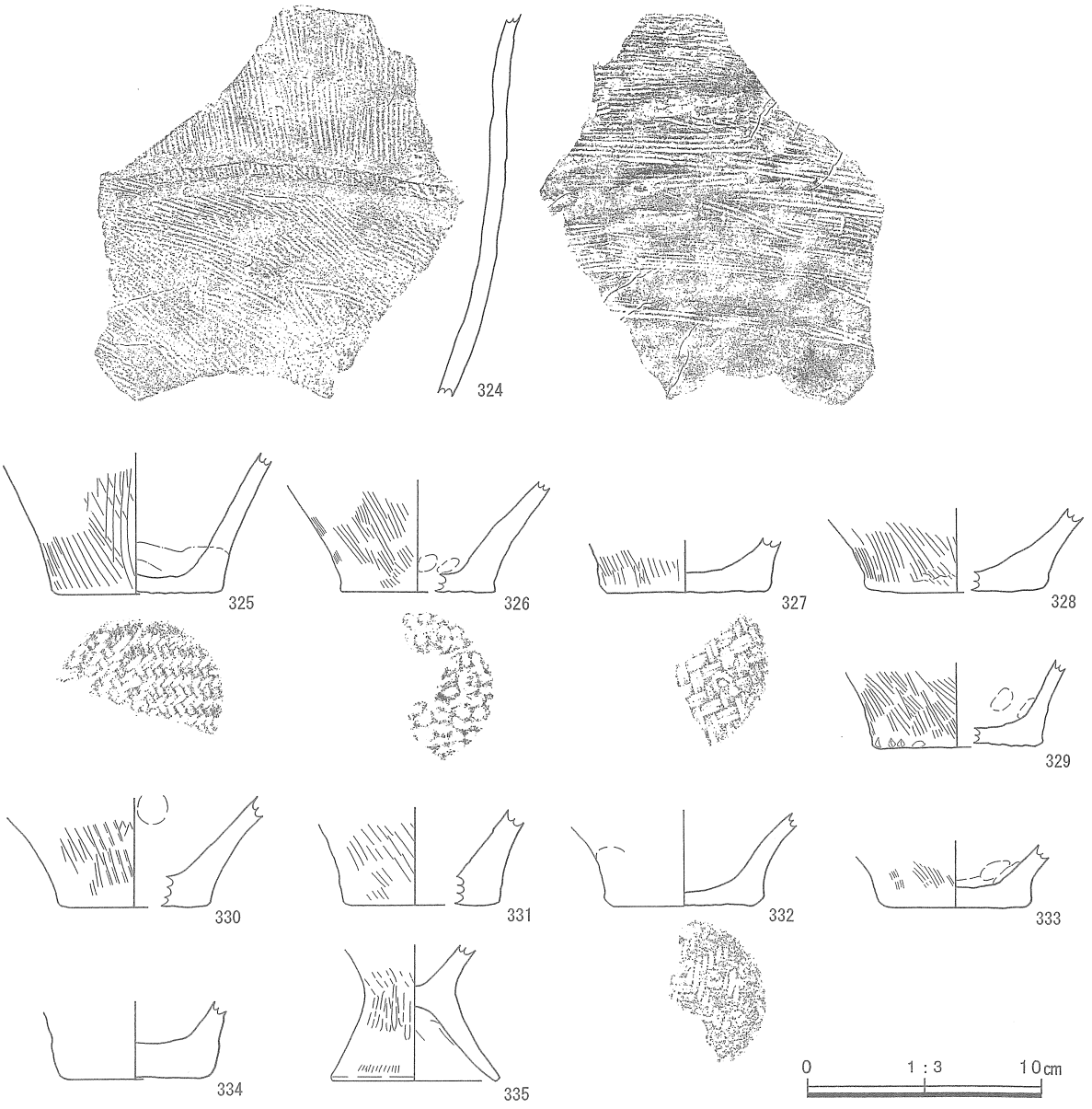
SR02出土土器（第39図281～第41図335）

281～301は壺である。281・296は瓜郷式の壺と見られる。281は受口太頸壺であり、口縁部に棒状浮文を貼り付け、ヘラ描による沈線及び櫛描による刺突文を施す。口縁屈折部には押引文が施される。296は横位の櫛描文の施文後に縦位の沈線を施す。300は嶺田式の壺と見られ、連続爪形文の下に横位の沈線が施される。300・301は赤彩する。

302～324は甕である。302～323は甕の口縁部であり、304を除く全ての口唇部に工具による刻目または



第40図　SR02出土土器２



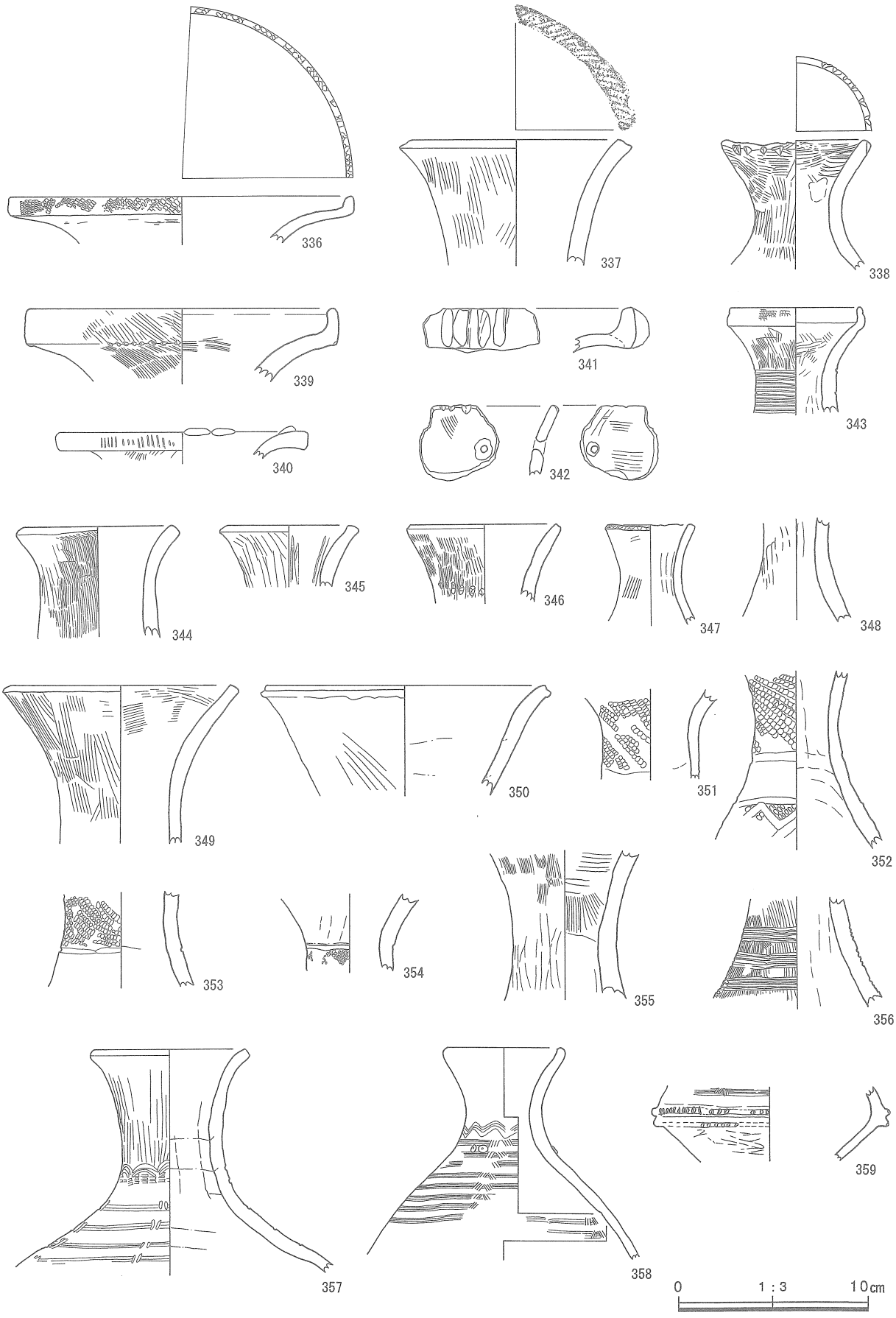
第41図　SR02出土土器３

押圧文が施される。外面は302・303・305・307・308・313・315・322～324はハケ調整であり、314はヘラ描による羽状の沈線が施される。そのほかは条痕調整である。324は胴部に２本の磨消線が施され、磨消線を境として上半に縦位のハケ調整、下半に斜位のハケ調整を施している。

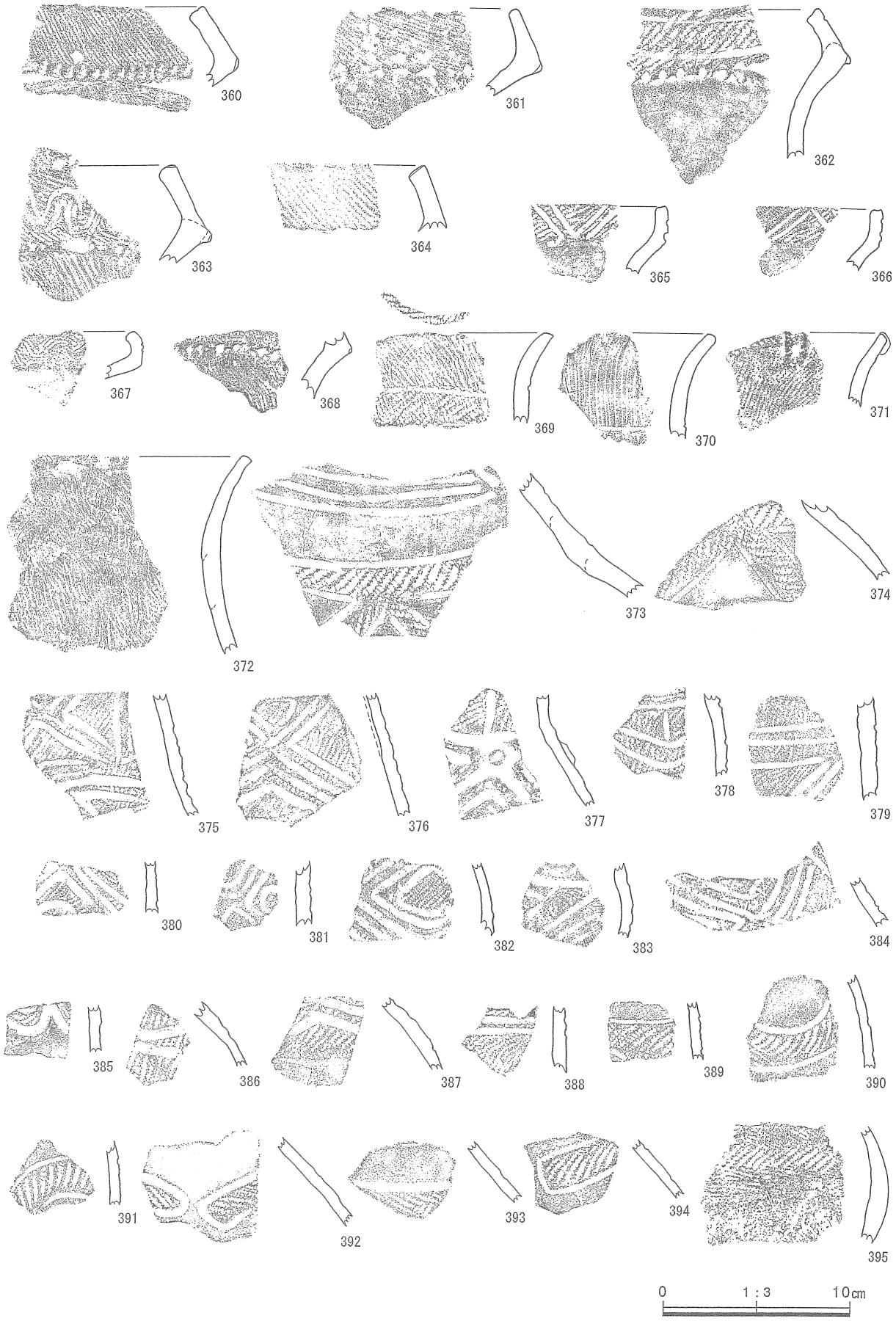
325～334は底部である。325～328・330～332は底面に網代痕が見られる。335は高坏の脚部である。

遺構外出土土器（第42図336～第49図577）

336～480は壺である。336・339～341・343は複合口縁を持つ。343は口縁部に櫛による刺突を施し、頸部には横位の櫛描文が施される。356は細頸壺であり、縦位のハケ調整の後に横方向の４本単位の櫛描文を施している。357は頸部に櫛による押引文の施文後に二重の連弧文を施す。肩部は櫛描による３本単位の横線文が縦位の短線によって切られている。358は頸部に櫛描による波状文が施される。肩部は４本単位の櫛描横線文を巡らせた後にハの字状の短線文で区切り、肩部上位には円形浮文を貼り付ける。359は胴部の破片と見られ、屈折部に２段の突帯及び刻目を施し、屈折部より上位に櫛描文を施す。470・471

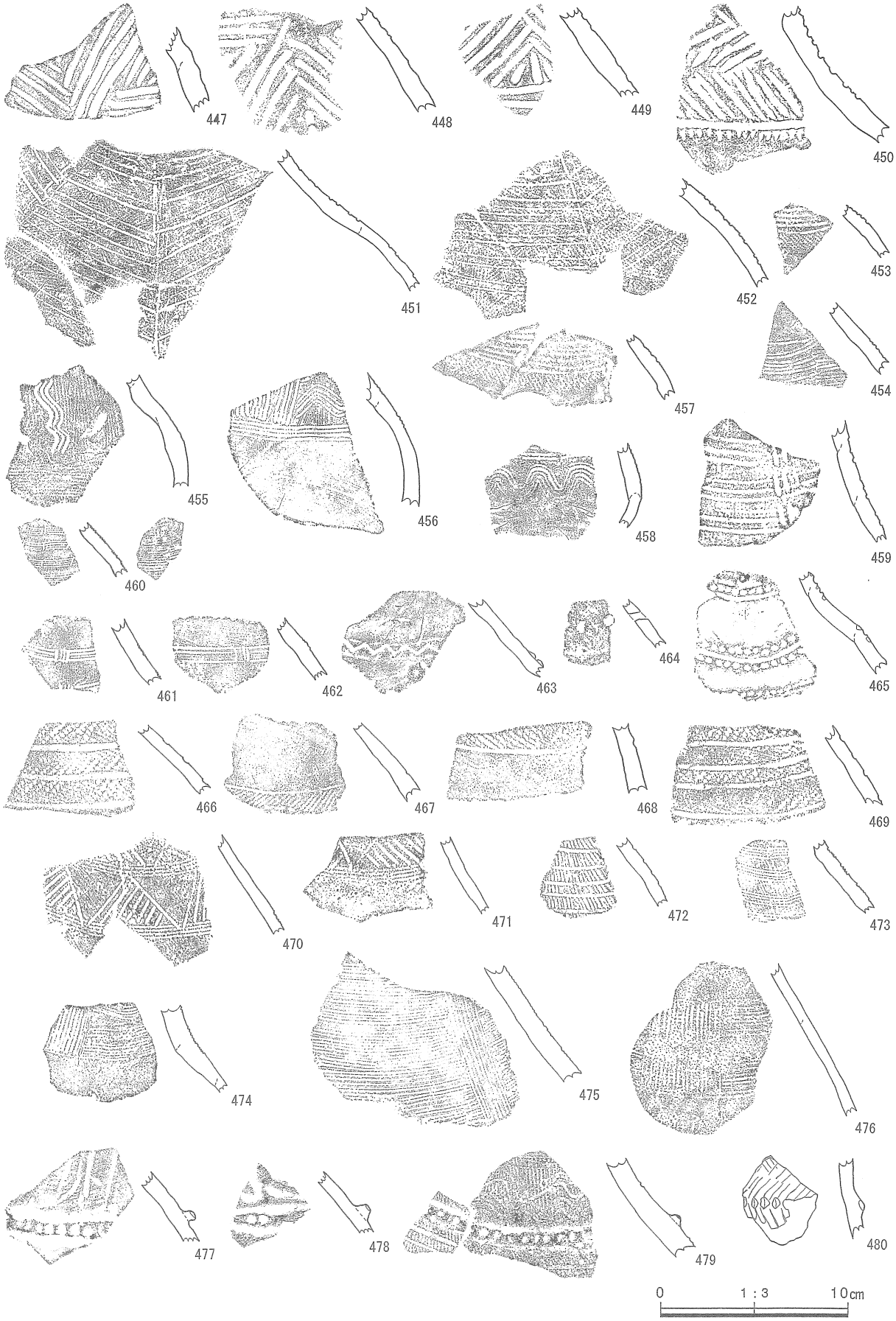


第42図　遺構外出土土器１

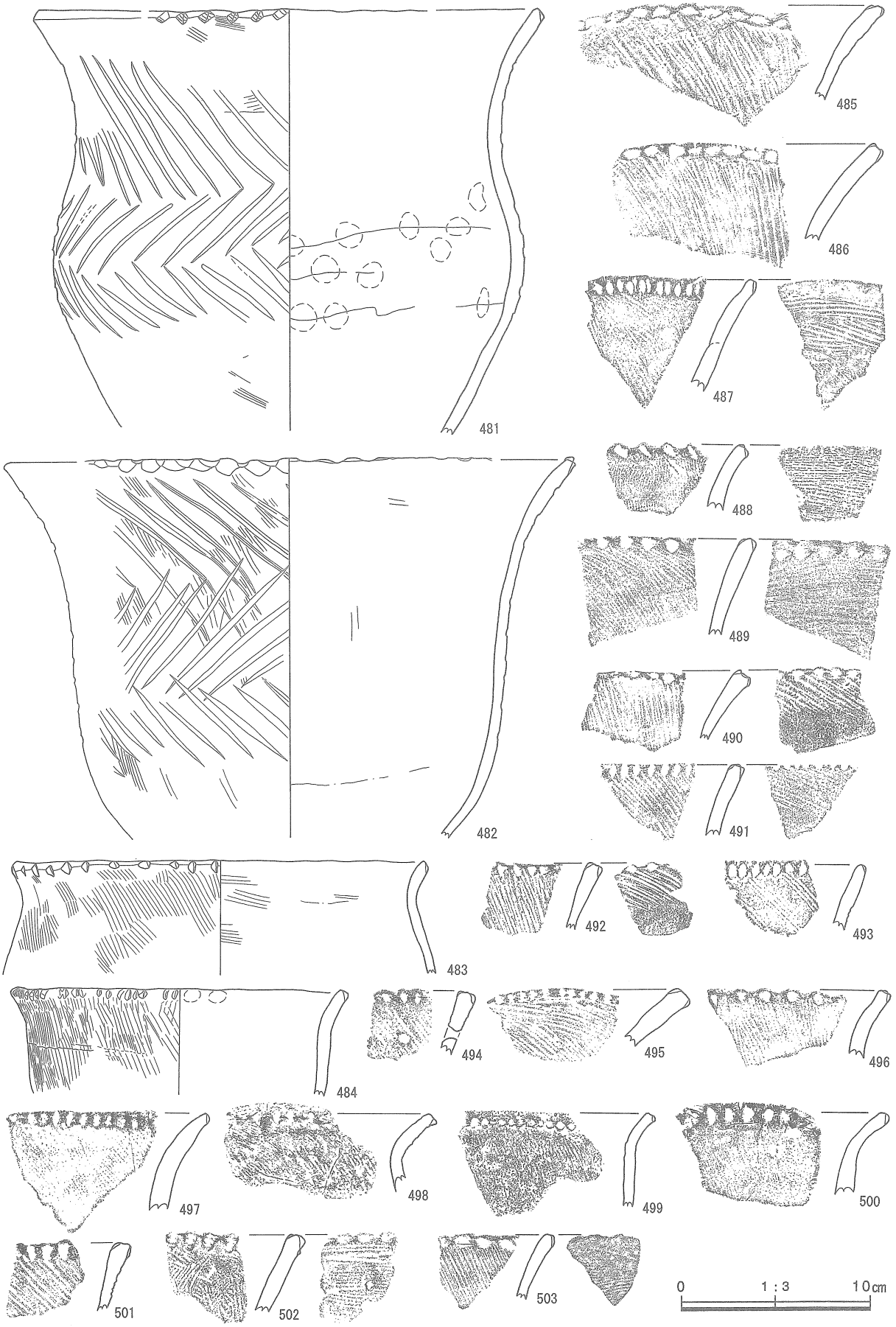


第43図　遺構外出土土器２

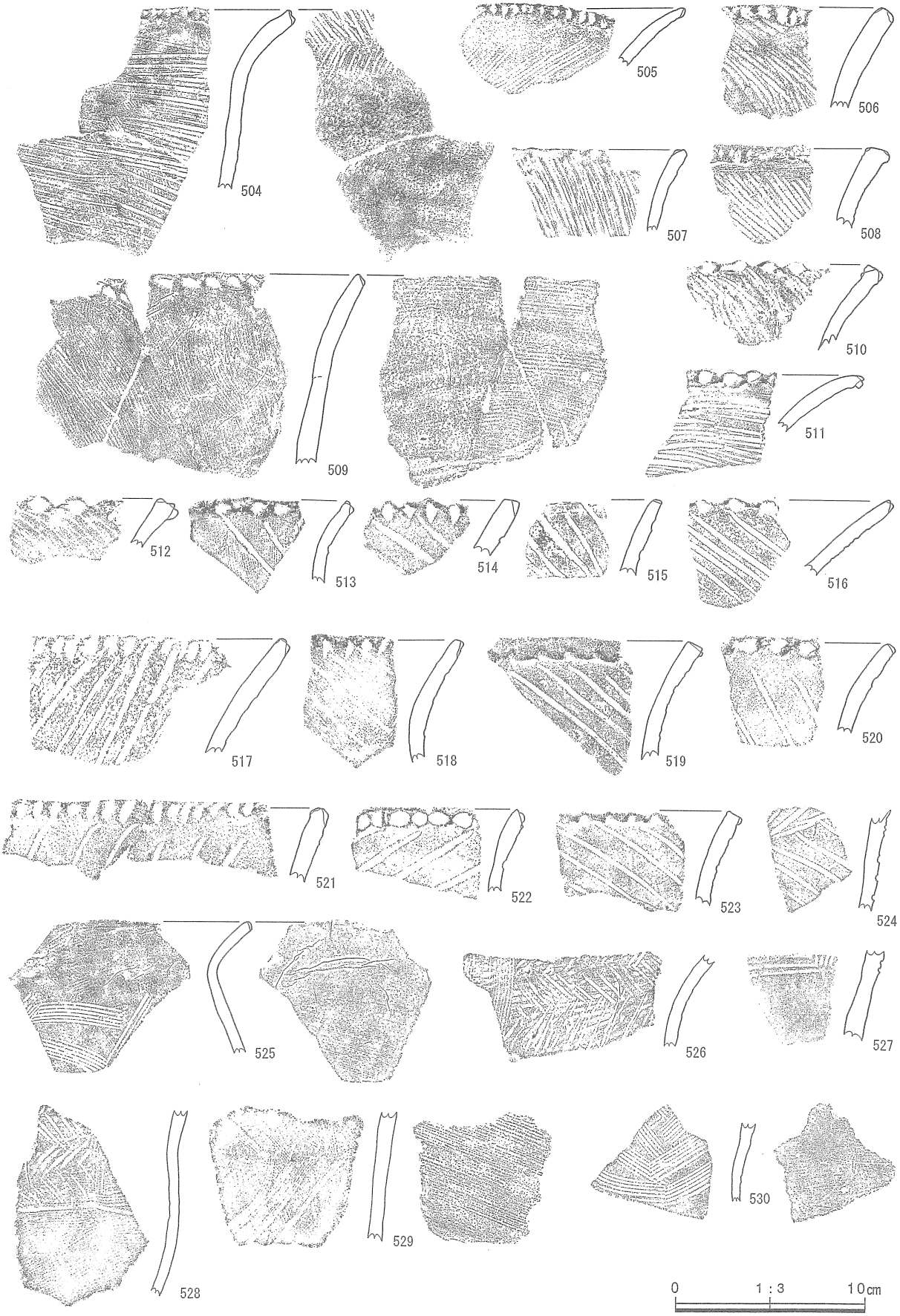
第44図　遺構外出土土器３



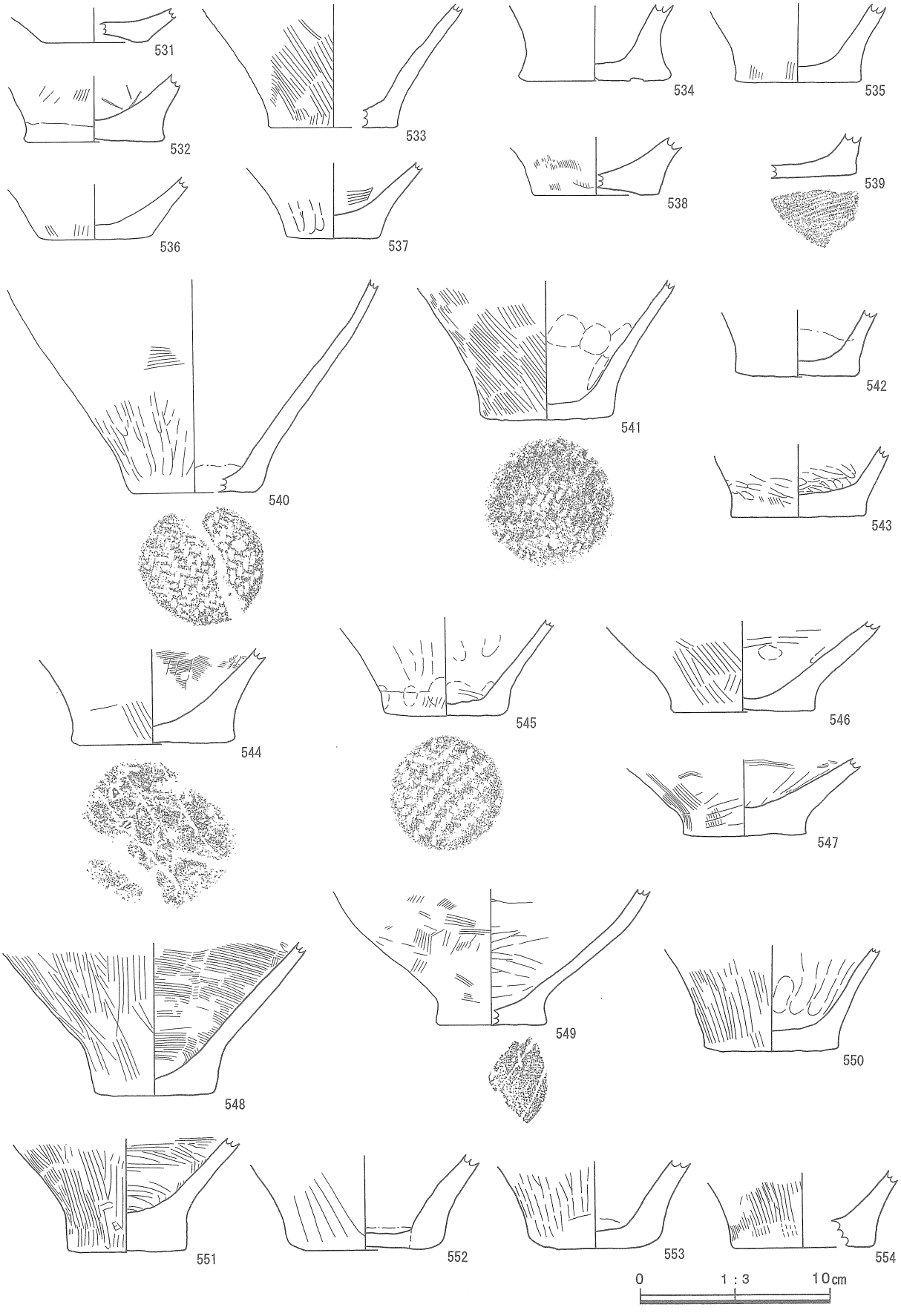
第45図　遺構外出土土器４



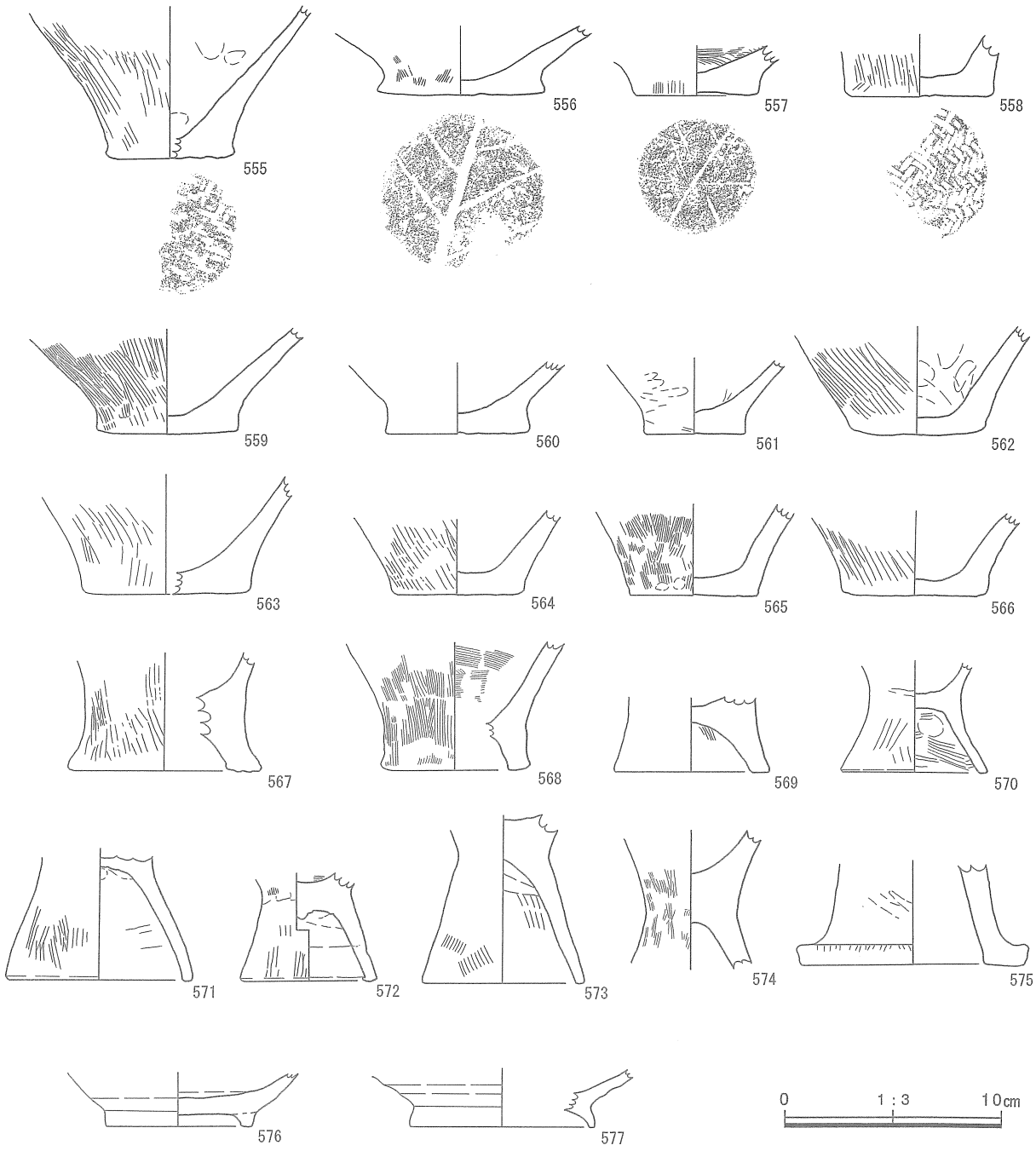
第46図　遺構外出土土器５



第47図　遺構外出土土器６



第48図　遺構外出土土器７



第49図　遺構外出土土器８

は栗林式の影響が見られ、沈線を充填したヘラ描による鋸歯文の上下に櫛描による４本単位の横線文が施される。477～479は刻目を有する横位の突帯を施す。348・354・365・366・414・444・453・454・457・463・467は赤彩する。481～530は甕である。481～523は甕の口縁部であり、口唇部に刻目を持つ。外面は485・491・494・495・501・504～506・508・510・511は条痕調整、そのほかはハケ調整である。493は外面に３本単位の櫛描文を羽状に施す。481・482・513～523は胴部に羽状文を施す。525・530は細かいハケ目による調整後に６本単位の櫛描文を施しており、栗林式の甕と考えられる。

531～566は底部である。567～573は台付甕の台部、574・575は高坏の脚部である。

576は12世紀中頃の湖西・渥美産の山茶碗、577は10世紀前半の灰釉陶器である。

第8表　土器一覧

挿図番号	図版番号	写真図版番号	遺構グリッド	層位	種別	器種	部位	残存率	法量（cm）	胎土	焼成	色調	調整技法・施文	備考
第26図	1	20上	SD08	極暗褐色砂質土層	弥生土器	壷	胴部	3%	器高（5.2）	長石・白色石英・3㎜大の礫多く含む	良	（内外面）2.5YR6/6橙	（内面）不明 （外面）ヘラ描	
第26図	2	20上	SD08		弥生土器	甕？	口縁部	3%	器高（5.2）	1㎜大の長石・白色石英含む	良	（内面）10YR8/3浅黄橙 （外面）N7/0灰白	（内外面）ナデ	
第26図	3	20上	SD08	極暗褐色砂質土層	弥生土器	甕	口縁部	1%	器高（3.85）	1㎜大の長石・黒雲母・微細透明石英含む	良	（内面）7.5YR6/4にぶい橙 （外面）7.5YR5/2灰褐	（内面）ナデ （外面）斜方向条痕	
第26図	4	20上	SD08	極暗褐色砂質土層	弥生土器	甕	口縁部	1%	器高（2.6）	1㎜大の長石・微細透明石英含む	良	（内外面）10YR7/1灰白	（内面）横方向ハケ （外面）縦方向ハケ後ヘラ描	
第26図	5	20上	SD08		弥生土器	甕	口縁部	3%	器高（5.7）	1㎜大の長石・白色石英含む	良	（内外面）10YR5/2灰黄褐	（内面）ナデ （外面）斜方向条痕	
第26図	6	20上	SD08		弥生土器	甕	口縁部	3%	器高（4.9）	1㎜大の長石・微細透明石英・砂粒含む	良	（内面）10YR7/2にぶい黄橙 （外面）10YR4/1褐灰	（内面）ナデ （外面）斜方向条痕	
第26図	7	20上	SD08	極暗褐色砂質土層	弥生土器	甕	口縁部	3%	器高（6.2）	長石・白色石英・4㎜大の礫含む	良	（内外面）10YR4/1褐灰	（内面）ナデ （外面）横方向板ナデ	
第26図	8	20上	SD08		弥生土器		底部	7%	器高（3.45） 底径 7.1	微細透明石英含む	良	（内面）10YR7/2にぶい黄橙 （外面）5Y6/1灰	（内外面）ナデ	
第26図	9	20上	SD08	極暗褐色砂質土層	弥生土器		底部	7%	器高（3.9） 底径 6.55	1㎜大の長石含む	良	（内面）2.5Y7/1灰白 （外面）2.5Y8/2灰白	（内面）横方向ハケ （外面）縦方向ハケ	木葉痕
第26図	10	20上	SD08	極暗褐色砂質土層	弥生土器		底部	5%	器高（3.35） 底径（5.7）	黒色粒子・砂粒多く含む	良	（内面）N4/0灰 （外面）7.5YR7/1明褐灰	（内外面）不明	
第26図	11	20上	SD08	極暗褐色砂質土層	弥生土器		底部	7%	器高（4.0） 底径（5.9）	2㎜大の黒色粒子多く含む	良	（内面）2.5Y8/2灰白 （外面）2.5Y7/2灰黄	（内面）斜方向ハケ （外面）不明	木葉痕
第26図	12	20上	SD08	極暗褐色砂質土層	弥生土器		底部	7%	器高（3.6） 底径 8.0	2㎜大の黒色粒子多く含む	良	（内面）2.5Y8/2灰白 （外面）2.5Y7/1灰白	（内面）ナデ？ （外面）縦方向ハケ	木葉痕
第26図	13	20上	SD09		弥生土器	壷	胴部	10%	器高（7.55）	黒雲母多く含む・長石・白色石英少量含む	良	（内面）10YR6/3にぶい黄橙 （外面）10YR3/1黒褐	（内面）不明 （外面）縄文後ヘラ描	
第26図	14	20上	SD09		弥生土器	壷	頸部～肩部	5%	器高（5.95）	3㎜大の黒色粒子多く含む・礫含む	良	（内面）10YR6/2灰黄 （外面）2.5Y6/2灰黄	（内面）ナデ （外面）ヘラミガキ後櫛描	
第26図	15	20上	SD13		弥生土器	壷	口縁部	1%	器高（3.05）	長石・白色石英・3㎜大の礫含む	良	（内外面）10YR5/2灰黄褐	（内面）ヨコナデ （外面）櫛刺突・ナデ	
第26図	16	20上	SD13		弥生土器	甕	口縁部	1%	器高（3.5）	1㎜大の長石・白色石英含む	良	（内外面）10YR5/1褐灰	（内面）ナデ （外面）斜方向条痕	
第27図	17	17	SD14		弥生土器	壷	口縁～頸部	7%	口径（20.0） 器高（9.4）	長石（1～3㎜）・白色石英（1～2㎜）含む	良	（内外面）7.5YR5/3にぶい褐	（内面）ナデ （外面）縦方向ハケ	
第27図	18	20下	SD14		弥生土器	壷	口縁～頸部	5%	口径（10.8） 器高（6.5）	1～2㎜大の礫多く・長石・白色石英含む	良	（内面）7.5YR7/4にぶい橙 （外面）7.5YR7/6橙	（内面）ナデ （外面）斜方向条痕	
第27図	19	20下	SD14		弥生土器	壷	口縁～頸部	3%	口径（13.2） 器高（4.4）	長石（1～2㎜）・白色石英（1～2.5㎜）・黒雲母・微細透明石英含む	良	（内面）7.5YR6/2灰褐 （外面）10YR3/6暗赤	（内面）ヨコナデ （外面）ヘラミガキ	赤彩
第27図	20	17	SD14 西溝		弥生土器	壷	口縁～頸部	10%	口径（10.3） 器高（7.75）	1㎜大の長石・微細透明石英含む	良	（内面）7.5YR7/3にぶい橙 （外面）7.5YR6/3にぶい褐	（内面）板ナデ？ （外面）斜方向ハケ	
第27図	21	20下	SD14 西溝		弥生土器	壷	口縁～頸部	10%	口径（4.8） 器高（5.75）	砂粒多く含む・1㎜大の長石含む	良	（内面）10YR7/2にぶい黄橙 （外面）10YR8/2灰白	（内面）ナデ （外面）縦方向ハケ後ナデ	
第27図	22	20下	SD14		弥生土器	壷	口縁部	3%	器高（5.8）	長石（1～4㎜）・白色石英（1～3㎜）含む	良	（内外面）10YR6/2灰黄褐	（内面）ナデ （外面）ヘラ描・櫛描	
第27図	23	20下	SD14 西溝		弥生土器	壷	口縁部	1%	器高（4.2）	1㎜大の長石・白色石英含む	良	（内外面）7.5YR6/3にぶい褐	（内面）ナデ （外面）横方向条痕	
第27図	24	20下	SD14 西溝		弥生土器	壷	口縁～頸部	10%	口径（4.6） 器高（5.1）	1㎜大の長石・白色石英含む	良	（内面）10YR7/3にぶい黄橙 （外面）5YR8/4淡橙	（内面）不明 （外面）斜方向ハケ？	
第27図	25	17	SD14 西溝		弥生土器	壷	頸部	15%	器高（6.7）	1～2㎜大の長石・白色石英多く含む	良	（内面）10YR6/2灰黄褐 （外面）7.5YR6/2灰褐	（内面）横方向ハケ （外面）ヘラ描羽状文	
第27図	26	17	SD14	にぶい黄褐色砂層	弥生土器	壷	頸部	10%	器高（9.0）	長石（1～2㎜）・白色石英（1㎜）含む	良	（内面）10YR5/2灰黄褐 （外面）7.5YR5/2灰褐	（内面）ナデ （外面）縄文後ヘラ描	
第27図	27	20下	SD14	にぶい黄褐色砂層	弥生土器	壷	頸部	10%	器高（6.8）	長石（1㎜）・白色石英（1～2㎜）含む	良	（内外面）10YR5/1褐灰	（内面）不明 （外面）縄文後ヘラ描	
第27図	28	17	SD14		弥生土器	壷	肩部～胴部	15%	器高（9.8） 最大径（17.6）	長石（1～2㎜）・白色石英（1㎜）含む	良	（内面）10YR7/2にぶい黄橙 （外面）7.5YR6/2灰褐	（内面）ナデ （外面）縄文後ヘラ描	

挿図番号	図版番号	写真図版番号	遺構グリッド	層位	種別	器種	部位	残存率	法量（cm）	胎土	焼成	色調	調整技法・施文	備考
第27図	29	17	SD14 西溝		弥生土器	壷	頸部～胴部	20%	器高（16.7） 最大径（28.3）	5㎜大の赤色粒子・2㎜大の礫・砂粒多く含む	良	（内面）10YR7/3にぶい黄橙 （外面）7.5YR7/4にぶい橙	（内面）横方向ハケ （外面）縦方向ハケ	
第28図	30	20下	SD14	にぶい黄褐色砂層	弥生土器	壷	頸部	1%	器高（4.6）	長石（1㎜）・白色石英（1～2㎜）含む	良	（内面）7.5YR5/4にぶい褐 （外面）10YR5/3にぶい黄褐	（内面）不明 （外面）縄文後ヘラ描	
第28図	31	20下	SD14	にぶい黄褐色砂層	弥生土器	壷	頸部～肩部	1%	器高（3.75）	1～2㎜大の長石・白色石英含む	良	（内外面）10YR4/1褐灰	（内面）ナデ （外面）ヘラ描	
第28図	32	20下	SD14		弥生土器	壷	頸部	1%	器高（4.2）	長石（1～3㎜）・白色石英（1～2㎜）含む	良	（内外面）10YR4/1褐灰	（内面）ナデ （外面）縄文	
第28図	33	20下	SD14		弥生土器	壷	頸部	1%	器高（3.2）	1㎜大の長石・白色石英含む	良	（内面）10YR5/3にぶい黄褐 （外面）10YR4/1褐灰	（内面）ナデ （外面）縄文後ヘラ描	
第28図	34	20下	SD14 西溝		弥生土器	壷	胴部	3%	器高（3.6）	1～2㎜大の長石・白色石英・黒雲母・微細透明石英含む	良	（内面）10YR6/1褐灰 （外面）10R5/4赤褐	（内面）ナデ （外面）縄文後ヘラ描	赤彩
第28図	35	20下	SD14		弥生土器	壷	頸部	3%	器高（6.0）	1㎜大の長石・白色石英含む	良	（内面）N3/0暗灰 （外面）10YR5/2灰黄褐	（内面）ナデ （外面）縄文後ヘラ描	
第28図	36	20下	SD14		弥生土器	壷	肩部	1%	器高（5.0）	1㎜大の長石・白色石英含む	良	（内面）10YR6/1褐灰 （外面）10YR7/2にぶい黄橙	（内面）ナデ （外面）縦方向ハケ後櫛描？	
第28図	37	20下	SD14 西溝		弥生土器	壷	肩部	1%	器高（4.6）	1㎜大の長石・白色石英含む	良	（内面）10YR6/4にぶい赤橙 （外面）10YR7/2にぶい黄橙	（内面）ナデ （外面）波状文	
第28図	38	20下	SD14		弥生土器	壷	肩部	3%	器高（4.95）	長石（1～2㎜）・黒雲母・微細透明石英含む	良	（内面）10YR7/2にぶい黄橙 （外面）10YR5/2灰黄褐	（内面）ナデ （外面）櫛描羽状文	
第28図	39	20下	SD14		弥生土器	壷	肩部	3%	器高（5.4）	長石（1～2㎜）・微細透明石英含む	良	（内面）10YR7/2にぶい黄橙 （外面）10YR6/2灰黄褐	（内面）ナデ （外面）櫛描羽状文	
第28図	40	20下	SD14 西溝		弥生土器	壷	頸部～胴部	10%	器高（9.75）	白色石英（1～2㎜）・黒雲母多く含む	良	（内外面）7.5YR4/2灰褐	（内面）ナデ （外面）櫛描流水文	
第28図	41	20下	SD14 西溝		弥生土器	壷	胴部	1%	器高（4.7）	長石（1㎜）・黒雲母・微細透明石英含む	良	（内面）7.5YR5/2灰褐 （外面）7.5YR2/1黒	（内面）横方向ハケ （外面）縦方向ハケ後櫛描流水文	
第28図	42	20下	SD14		弥生土器	壷	肩部	3%	器高（6.2）	長石（1～2㎜）・微細透明石英含む	良	（内面）10YR7/2にぶい黄橙 （外面）7.5YR6/3にぶい褐	（内面）横方向ハケ （外面）縦方向ハケ後櫛描流水文	
第28図	43	20下	SD14 西溝		弥生土器	壷	肩部	3%	器高（5.35）	長石（1～2㎜）・黒雲母・微細透明石英含む	良	（内面）7.5YR6/2灰褐 （外面）7.5YR6/3にぶい褐	（内面）横方向ハケ （外面）縦方向ハケ後櫛描流水文	
第28図	44	20下	SD14		弥生土器	壷	胴部	3%	器高（8.2）	砂粒・5㎜大の礫多く含む	良	（内外面）10YR7/2にぶい黄橙	（内面）ナデ （外面）横方向櫛描後縦方向櫛描	
第28図	45	20下	SD14		弥生土器	壷	胴部	1%	器高（6.6）	砂粒・3㎜大の礫多く含む	良	（内面）2.5Y3/1黒褐 （外面）2.5Y7/2灰黄	（内面）板ナデ （外面）横方向櫛描	
第28図	46	20下	SD14 西溝		弥生土器	壷	胴部	1%	器高（5.5）	長石（1㎜）・白色石英（1～3㎜）含む	良	（内外面）10YR7/2にぶい黄橙	（内面）横方向ハケ後板ナデ （外面）ヘラミガキ？	
第28図	47	20下	SD14		弥生土器	壷	胴部	3%	器高（6.95）	砂粒・4㎜大の礫多く含む	良	（内外面）2.5Y7/2灰黄	（内面）横方向ハケ後ナデ （外面）ヘラミガキ	
第28図	48	20下	SD14		弥生土器	壷	胴部	3%	器高（5.9）	長石（1㎜）・白色石英（1～2㎜）含む	良	（内外面）10YR7/2にぶい黄橙	（内面）横方向ハケ （外面）ヘラミガキ	
第28図	49	20下	SD14		弥生土器	壷	肩部	3%	器高（6.6）	1～3㎜大の長石・白色石英・3㎜大の礫含む	良	（内面）7.5YR6/3にぶい褐 （外面）5YR4/2灰褐	（内面）横方向ハケ後ナデ （外面）縦方向ハケ	
第28図	50	20下	SD14		弥生土器	壷	肩部	1%	器高（3.1）	透明石英・1～2㎜大の長石・白色石英含む	良	（内面）7.5YR6/4にぶい橙 （外面））10YR3/2黒褐	（内面）ナデ？ （外面）縦方向ハケ	
第29図	51	21上	SD14		弥生土器	甕	口縁～頸部	10%	口径（27.8） 器高（7.0）	長石・赤色粒子・1～3㎜大の礫多く含む	良	（内面）2.5YR7/8橙 （外面）2.5YR7/8橙	（内面）ナデ （外面）縦方向ハケ	
第29図	52	21上	SD14 西溝		弥生土器	甕	口縁部	7%	口径（19.85） 器高（6.9）	砂粒多く・1㎜大の白色石英少量含む	良	（内面）7.5YR8/4浅黄橙 （外面）7.5YR7/4にぶい橙	（内面）横方向ハケ （外面）縦方向ハケ	
第29図	53	21上	SD14		弥生土器	甕	口縁部	1%	器高（6.9）	1㎜以下の長石・白色石英含む	良	（内外面）7.5YR5/3にぶい褐	（内面）ナデ （外面）斜方向条痕	
第29図	54	21上	SD14		弥生土器	甕	口縁部	1%	器高（3.9）	長石（1㎜以下）・白色石英（1～3㎜）少量含む	良	（内外面）7.5YR6/3にぶい褐	（内面）ナデ （外面）ナデ後ヘラ描	
第29図	55	21上	SD14 西溝		弥生土器	甕	口縁部	1%	器高（3.1）	長石（1㎜）・微細透明石英含む	良	（内面）7.5YR6/2灰褐 （外面）7.5YR4/1褐灰	（内面）ナデ （外面）横方向条痕	
第29図	56	21上	SD14 西溝		弥生土器	甕	口縁部	1%	器高（3.05）	長石（1～2㎜）・白色石英（1㎜）含む	良	（内面）2.5YR5/4にぶい赤褐 （外面）7.5YR6/3にぶい褐	（内面）横方向ハケ （外面）縦方向条痕	
第29図	57	21上	SD14		弥生土器	甕	口縁部	3%	器高（7.85）	1㎜以下の長石・白色石英・赤色粒子含む	良	（内外面）10YR6/2灰黄褐	（内面）横方向ハケ （外面）縦方向ハケ後ヘラ描	

挿図番号	図版番号	写真図版番号	遺構グリッド	層位	種別	器種	部位	残存率	法量（cm）	胎土	焼成	色調	調整技法・施文	備考
第29図	58	21上	SD14	にぶい黄褐色砂層	弥生土器	甕	口縁部	3%	器高 (8.1)	長石（1～3㎜）・微細透明石英含む	良	(内外面) 10YR5/2灰黄褐	(内面) 横方向ハケ (外面) 斜方向条痕	
第29図	59	21上	SD14		弥生土器	甕	口縁部	1%	器高 (2.8)	1㎜大の長石・白色石英含む	良	(内外面) 10YR6/2灰黄褐	(内面) ナデ (外面) 縦方向条痕	
第29図	60	21上	SD14 西溝		弥生土器	甕	口縁部	1%	器高 (3.2)	1㎜大の長石・白色石英含む	良	(内面) 10YR7/2にぶい黄橙 (外面) 7.5YR4/1褐灰	(内面) ナデ (外面) 斜方向ハケ	
第29図	61	21上	SD14		弥生土器	甕	口縁部	1%	器高 (4.3)	1～2㎜大の長石・白色石英多く含む	良	(内面) 10YR5/2灰黄褐 (外面) N3/0暗灰	(内面) ナデ (外面) 斜方向条痕	
第29図	62	21上	SD14 西溝		弥生土器	甕	口縁部	3%	器高 (6.35)	長石（1㎜）・微細透明石英含む	良	(内外面) 7.5YR4/1褐灰	(内面) ナデ (外面) 斜方向ハケ	
第29図	63	21上	SD14		弥生土器	甕	口縁部	1%	器高 (4.7)	1㎜大の長石・白色石英含む	良	(内面) 10YR6/2灰黄褐 (外面) N4/0灰	(内面) 横方向ハケ (外面) 斜方向ハケ	
第29図	64	21上	SD14		弥生土器	甕	口縁部	1%	器高 (4.5)	1㎜大の長石・白色石英含む	良	(内外面) 10YR5/1褐灰	(内面) 横方向ハケ (外面) 斜方向ハケ	
第29図	65	21上	SD14		弥生土器	甕	口縁部	1%	器高 (5.1)	長石（1㎜）・白色石英（1～2㎜）含む	良	(内外面) 10YR6/1褐灰	(内面) 横方向ハケ (外面) 縦方向ハケ	
第29図	66	21上	SD14		弥生土器	甕	口縁部	3%	器高 (4.3)	1～2㎜大の長石・白色石英含む	良	(内外面) 10YR6/2灰黄褐	(内面) 横方向ハケ (外面) 斜方向ハケ	
第29図	67	21上	SD14 西溝		弥生土器	甕	胴部	5%	器高 (13.2)	長石（1～3㎜）・白色石英（1㎜）含む	良	(内外面) 7.5YR7/2明褐灰	(内面) ナデ (外面) 縦方向ハケ	
第29図	68	21上	SD14	にぶい黄褐色砂層	弥生土器	甕	胴部	10%	器高 (12.0)	赤色粒子（1～5㎜）・砂粒・4㎜大の礫多く含む	良	(内面) 10YR7/3にぶい黄橙 (外面) 7.5YR7/4にぶい橙	(内面) 横方向ハケ (外面) 縦方向ハケ	
第29図	69	21上	SD14 西溝		弥生土器	甕	胴部	7%	器高 (13.5)	長石（1㎜以下）少量含む・白色石英（1～2㎜）含む	良	(内面) 7.5YR7/4にぶい橙 (外面) 10YR7/2にぶい黄橙	(内面) 不明 (外面) 斜方向ハケ	
第29図	70	21上	SD14		弥生土器	甕	胴部	7%	器高 (10.8)	3㎜大の礫多く含む・1㎜大の長石・白色石英含む	良	(内面) 2.5YR7/6橙 (外面) 7.5YR8/4浅黄橙	(内面) ナデ (外面) 縦方向ハケ	
第30図	71	21下	SD14		弥生土器		底部	10%	器高 (4.8) 底径 7.3	1㎜大の長石少量含む	良	(内面) N5/0灰 (外面) 7.5YR8/3浅黄橙	(内面) ナデ (外面) 縦方向ハケ	
第30図	72	21下	SD14		弥生土器		底部	10%	器高 (3.6) 底径 6.4	1㎜大の長石少量含む	良	(内面) N4/0灰 (外面) 5Y7/1灰白	(内面) 不明 (外面) 縦方向ハケ	
第30図	73	21下	SD14 西溝		弥生土器		底部	7%	器高 (3.9) 底径 (8.91)	1㎜大の長石含む	良	(内面) 10YR6/1褐灰 (外面) 10YR7/1灰白	(内面) ナデ (外面) 縦方向ハケ	木葉痕
第30図	74	21下	SD14 西溝		弥生土器		底部	5%	器高 (5.25) 底径 (8.2)	1㎜大の長石含む	良	(内面) 10YR7/1灰白 (外面) 10YR7/2にぶい黄橙	(内面) 横方向ハケ (外面) ハケ後ヘラミガキ	木葉痕
第30図	75	21下	SD14		弥生土器		底部	7%	器高 (4.8) 底径 (8.4)	1㎜大の長石・白色石英多く含む	良	(内面) 10YR5/6黄褐 (外面) 10YR7/2にぶい黄橙	(内面) 不明 (外面) 縦方向ハケ？	
第30図	76	21下	SD14 西溝		弥生土器		底部	10%	器高 (4.1) 底径 5.48	1～2㎜大の長石・白色石英多く含む	良	(内面) 2.5Y6/2灰黄 (外面) 10YR6/2灰黄褐	(内外面) 不明	
第30図	77	21下	SD14		弥生土器		底部	10%	器高 (5.2) 底径 7.0	1～3㎜大の長石・白色石英多く含む	良	(内面) 10YR3/1黒褐 (外面) 7.5YR5/3にぶい褐	(内外面) 不明	
第30図	78	21下	SD14		弥生土器		底部	7%	器高 (3.7) 底径 (6.02)	1～2㎜大の長石・白色石英多く含む	良	(内面) 7.5YR6/4にぶい橙 (外面) 7.5YR5/2灰褐	(内面) ナデ？ (外面) ヘラミガキ？	木葉痕
第30図	79	21下	SD14 西溝		弥生土器		底部	7%	器高 (4.6) 底径 (8.8)	1㎜大の長石・白色石英少量含む	良	(内面) 10YR7/2にぶい黄橙 (外面) 10YR7/1灰白	(内面) 横方向ハケ (外面) 縦方向ハケ	木葉痕
第30図	80	21下	SD14		弥生土器		底部	10%	器高 (4.2) 底径 6.15	長石（1㎜）・白色石英（1～2㎜）含む	良	(内面) 10YR7/2にぶい黄橙 (外面) 10YR5/2灰黄褐	(内外面) 不明	木葉痕
第30図	81	21下	SD14 西溝		弥生土器		底部	3%	器高 (3.7) 底径 (6.0)	1㎜大の長石・白色石英少量含む	良	(内面) 10YR7/3にぶい黄橙 (外面) 10YR7/3にぶい黄橙	(内面) 不明 (外面) 縦方向ハケ	木葉痕
第30図	82	21下	SD14 西溝		弥生土器		底部	3%	器高 (3.2) 底径 (4.68)	1㎜大の白色石英・3㎜大の礫含む	良	(内面) 2.5Y6/2灰黄 (外面) 10YR7/2にぶい黄橙	(内面) ナデ (外面) 横方向ハケ後ナデ	
第30図	83	21下	SD14 西溝		弥生土器		底部	12%	器高 (4.6) 底径 (8.6)	1～2㎜大の長石・白色石英多く含む	良	(内面) 10YR7/1灰白 (外面) 10YR7/2にぶい黄橙	(内面) 横方向ハケ (外面) 不明	木葉痕
第30図	84	21下	SD14 西溝		弥生土器		底部	3%	器高 (2.5) 底径 (7.0)	1㎜大の長石・白色石英多く含む	良	(内面) 5YR6/8橙 (外面) 5YR6/6橙	(内面) ナデ (外面) 不明	
第30図	85	21下	SD14		弥生土器		底部	10%	器高 (3.1) 底径 (8.3)	長石（1㎜）・白色石英（1～6㎜）含む	良	(内面) 2.5Y6/2灰黄 (外面) 2.5Y6/3にぶい黄	(内面) ナデ (外面) 縦方向ハケ？	木葉痕
第30図	86	21下	SD14		弥生土器		底部	5%	器高 (4.7) 底径 (7.56)	1㎜大の長石・白色石英多く含む	良	(内面) 7.5YR3/1黒褐 (外面) 2.5YR5/8明赤褐	(内面) ナデ (外面) 不明	

挿図番号	図版番号	写真図版番号	遺構グリッド	層位	種別	器種	部位	残存率	法量（cm）	胎土	焼成	色調	調整技法・施文	備考
第30図	87	21下	SD14 西溝		弥生土器		底部	7%	器高（4.4） 底径（7.8）	1㎜大の長石・黒雲母・微細透明石英含む	良	（内面）7.5YR5/2灰褐 （外面）7.5YR4/2灰褐	（内面）ナデ （外面）縦方向ハケ	網代痕？
第30図	88	21下	SD14		弥生土器	台付甕	台部	1%	器高（4.0） 底径（6.5）	1㎜大の長石・3㎜大の礫含む	良	（内面）10YR7/2にぶい黄橙 （外面）10YR6/1褐灰	（内面）斜方向ハケ （外面）ヘラミガキ	
第30図	89	21下	SD14		弥生土器	台付甕	台部	3%	器高（4.7） 底径（7.0）	砂粒多く含む・1㎜大の白色石英含む	良	（内面）7.5YR8/4浅黄橙 （外面）5YR7/6橙	（内面）ナデ？ （外面）縦方向ハケ	
第30図	90	22下	SD14		弥生土器	台付甕？	台部	10%	器高（7.9） 底径（8.8）	1㎜大の長石・白色石英含む	良	（内面）7.5YR5/2灰褐 （外面）5YR7/4にぶい橙	（内面）ナデ （外面）縦方向ハケ後ヘラミガキ？	
第31図	91	17	SK08		弥生土器	鉢	口縁～胴部	12%	口径（14.6） 器高（9.1）	1～2㎜大の長石・白色石英・黒雲母・微細透明石英含む	良	（内面）7.5R4/1暗赤灰 （外面）7.5R4/4にぶい赤	（内面）ナデ （外面）ヘラミガキ？	赤彩
第31図	92	22上	SK09		弥生土器	壺	頸部	1%	器高（3.7）	1～2㎜大の長石・白色石英含む	良	（内面）10YR6/2灰黄褐 （外面）10YR4/1褐灰	（内面）ナデ （外面）縄文後ヘラ描	
第31図	93	22上	SK12		弥生土器	甕	口縁部	1%	器高（3.3）	1㎜大の長石・白色石英含む	良	（内外面）10YR4/2灰黄褐	（内面）ナデ （外面）斜方向条痕	
第31図	94	22上	SK12		弥生土器		底部	7%	器高（8.1） 底径（6.8）	2㎜大の白色石英多く含む	良	（内面）10YR6/2灰黄褐 （外面）7.5YR4/2灰褐	（内外面）不明	網代痕
第31図	95	22上	SK19		弥生土器	壺	口縁～頸部	3%	口径（9.1） 器高（5.5）	黒色粒子・砂粒多く含む	良	（内外面）10YR8/3浅黄橙	（内面）ナデ （外面）縦方向ハケ後ナデ	
第31図	96	22上	SK19		弥生土器		底部	5%	器高（3.0） 底径（4.9）	黒雲母多く含む	良	（内面）7.5YR7/4にぶい橙 （外面）5YR6/8橙	（内面）不明 （外面）縦方向ハケ	網代痕
第31図	97	22上	SK21		弥生土器	壺	胴部	1%	器高（3.0）	1㎜大の長石・白色石英含む	良	（内面）10YR4/1褐灰 （外面）7.5YR4/3褐	（内面）ナデ （外面）縄文後ヘラ描	
第31図	98	22上	SK21		弥生土器	壺	肩部	3%	器高（4.6）	1㎜大の長石・白色石英含む	良	（内面）10YR6/2灰黄褐 （外面）10YR3/1黒褐	（内面）ナデ？ （外面）縄文後ヘラ描	
第31図	99	22上	SK21		弥生土器		底部	5%	器高（4.4） 底径（6.92）	1㎜大の長石・白色石英含む	良	（内面）7.5YR6/3にぶい褐 （外面）7.5YR7/3にぶい橙	（内面）ナデ？ （外面）斜方向ハケ	網代痕
第31図	100	22上	SK23		弥生土器	壺	胴部	1%	器高（4.2）	1～2㎜大の長石・白色石英含む	良	（内外面）10YR6/2灰黄褐	（内面）ナデ （外面）ヘラ描	
第31図	101	22上	SK23		弥生土器	甕	口縁部	3%	器高（6.0）	1㎜大の長石・白色石英含む	良	（内面）7.4YR6/3にぶい褐 （外面）10YR2/1黒	（内面）ナデ （外面）斜方向条痕	
第31図	102	22上	SK23		弥生土器	甕	口縁部	3%	器高（5.2）	1㎜大の長石・白色石英含む	良	（内面）10YR4/3にぶい黄褐 （外面）10YR3/2黒褐	（内面）横方向ハケ （外面）斜方向ハケ	
第31図	103	22上	SK23		弥生土器	甕	口縁部	3%	器高（3.75）	1㎜大の長石・白色石英含む	良	（内面）10YR4/2灰黄褐 （外面）10YR2/1黒	（内面）横方向ハケ （外面）縦方向ハケ	
第31図	104	22上	SK23		弥生土器		底部	3%	器高（3.2） 底径（5.8）	1～4㎜大の長石多く含む	良	（内面）10YR6/2灰黄褐 （外面）7.5YR5/2灰褐	（内面）ナデ （外面）縦方向ハケ	木葉痕
第31図	105	22上	SK23		弥生土器		底部	7%	器高（9.4） 底径（5.8）	1～2㎜大の長石含む	良	（内面）10YR7/3にぶい黄橙 （外面）5YR5/6明赤褐	（内面）板ナデ （外面）縦方向ハケ	網代痕
第31図	106	22上	SK25		弥生土器	壺	胴部	1%	器高（4.8）	1㎜大の長石・白色石英含む	良	（内面）2.5Y5/1黄灰 （外面）2.5Y6/2灰黄	（内面）ナデ （外面）縄文後ヘラ描	
第31図	107	22上	SK25		弥生土器	台付甕	台部	5%	器高（3.9） 底径（7.4）	1㎜大の長石含む	良	（内面）2.5Y6/2灰黄 （外面）2.5Y7/2灰黄	（内面）横方向ハケ （外面）縦方向ハケ	
第31図	108	22上	SK26		弥生土器		底部	5%	器高（4.0） 底径 6.45	1～3㎜大の長石多く含む	良	（内面）7.5YR3/3暗褐 （外面）7.5YR4/6褐	（内外面）不明	網代痕
第32図	109	22上	SK27		弥生土器	壺	口縁部	5%	口径（22.1） 器高（4.7）	1㎜大の白色石英・長石少量含む	良	（内面）7.5YR5/2灰褐 （外面）5YR3/1黒褐	（内面）ヨコナデ （外面）ヘラ描	
第32図	110	22上	SK27		弥生土器	甕	口縁部	3%	器高（7.05）	1㎜大の長石・白色石英含む	良	（内外面）10YR6/3にぶい黄橙	（内面）横方向ハケ （外面）斜方向ハケ	
第32図	111	22上	SK27		弥生土器		底部	5%	器高（5.5） 底径（8.4）	1～2㎜大の長石多く含む	良	（内面）10YR7/4にぶい黄橙 （外面）7.5YR6/6橙	（内面）不明 （外面）縦方向ハケ	網代痕
第32図	112	22下	SK28		弥生土器	壺	口縁部	3%	器高（5.9）	1～2㎜大の長石・白色石英・3㎜大の礫含む	良	（内面）5YR6/4にぶい橙 （外面）10YR6/2灰黄褐	（内面）ナデ （外面）縄文	
第32図	113	22下	SK28		弥生土器	壺	胴部	1%	器高（4.8）	1㎜大の長石・白色石英含む	良	（内面）10YR7/2にぶい黄橙 （外面）7.5YR6/2灰褐	（内面）ナデ （外面）斜方向ハケ	
第32図	114	22下	SK28		弥生土器	壺	胴部	1%	器高（3.5）	1～2㎜大の長石・白色石英含む	良	（内面）10YR7/1灰白 （外面）10YR5/3にぶい黄褐	（内面）ナデ （外面）縄文後ヘラ描	
第32図	115	22下	SK28		弥生土器	壺	肩部	1%	器高（4.4）	1～2㎜大の長石・白色石英含む	良	（内外面）10YR7/2にぶい黄橙	（内面）ナデ （外面）縄文後櫛描	

挿図番号	図版番号	写真図版番号	遺構グリッド	層位	種別	器種	部位	残存率	法量（cm）	胎土	焼成	色調	調整技法・施文	備考
第32図	116	22下	SK28		弥生土器	壺	胴部	1%	器高（5.5）	1㎜大の長石・白色石英含む	良	（内面）10YR7/2にぶい黄橙 （外面）10YR8/1灰白	（内面）ナデ （外面）縄文後ヘラ描	
第32図	117	22下	SK28		弥生土器	壺	胴部	1%	器高（3.2）	1㎜大の長石・白色石英含む	良	（内面）10YR4/1褐灰 （外面）10YR3/1黒褐	（内面）ナデ （外面）櫛描	
第32図	118	22下	SK28		弥生土器	壺	胴部	1%	器高（2.75）	1㎜大の長石・砂粒・微細透明石英含む	良	（内外面）10YR5/2灰黄褐	（内面）ナデ （外面）縄文後ヘラ描	
第32図	119	22下	SK28		弥生土器	壺	肩部	1%	器高（2.9）	1㎜大の長石・白色石英含む	良	（内面）10YR4/1褐灰 （外面）7.5YR5/3にぶい褐	（内面）不明 （外面）縦方向ハケ	
第32図	120	22下	SK28		弥生土器	甕	口縁部	7%	口径（26.9） 器高（5.6）	1～4㎜大の長石多く・砂粒・黒色粒子含む	良	（内面）5YR5/4にぶい赤褐 （外面）7.5YR5/3にぶい褐	（内面）横方向ハケ後ナデ （外面）斜方向条痕	
第32図	121	22下	SK28		弥生土器	甕	口縁部	1%	器高（3.7）	1㎜大の長石・微細透明石英・砂粒含む	良	（内面）10YR6/3にぶい黄橙 （外面）10YR4/1褐灰	（内外面）斜方向ハケ	
第32図	122	22下	SK28		弥生土器	甕	口縁部	1%	器高（3.5）	1㎜大の長石・砂粒・微細透明石英含む	良	（内面）10YR5/2灰黄褐 （外面）10YR2/1黒	（内面）ナデ （外面）斜方向条痕	
第32図	123	22下	SK28		弥生土器		底部	5%	器高（3.7） 底径（7.0）	1～3㎜大の長石含む	良	（内面）10YR4/1褐灰 （外面）7.5YR7/6橙	（内面）不明 （外面）縦方向ハケ	網代痕
第32図	124	22下	SK28		弥生土器		底部	5%	器高（4.05） 底径（7.4）	1～3㎜大の長石多く含む	良	（内面）10YR7/2にぶい黄灰 （外面）2.5Y6/1黄灰	（内面）不明 （外面）縦方向ハケ	網代痕
第32図	125	22下	SK29		弥生土器	壺	頸部	1%	器高（3.0）	1㎜大の長石・微細透明石英・砂粒少量含む	良	（内面）10YR5/2灰黄褐 （外面）10YR3/1黒褐	（内面）横方向ハケ （外面）ヘラ描	
第32図	126	22下	SK29		弥生土器		底部	3%	器高（1.9） 底径（5.0）	1㎜大の長石少量・砂粒多く含む	良	（内面）2.5Y8/2灰白 （外面）5Y6/1灰	（内面）横方向ハケ （外面）縦方向ハケ	
第32図	127	17	SK29		弥生土器	甕	胴部	40%	器高 最大径（9.6） （11.7）	1㎜大の長石・微細透明石英含む	良	（内面）10YR3/1黒褐 （外面）10YR2/1黒	（内面）ナデ （外面）縦方向ハケ	
第32図	128	22下	SP01		弥生土器	甕	口縁部	1%	器高（4.0）	1㎜大の長石・微細透明石英含む	良	（内面）7.5YR6/3にぶい褐 （外面）7.5YR4/2灰褐	（内面）横方向ハケ （外面）斜方向ハケ	
第32図	129	22下	SP01		弥生土器	甕	口縁部	1%	器高（4.25）	1㎜大の長石・白色石英含む	良	（内面）10YR6/2灰黄褐 （外面）10YR4/1褐灰	（内外面）横方向ハケ	
第32図	130	22下	SP01		弥生土器	壺	胴部？	1%	器高（3.0）	1～2㎜大の長石・白色石英含む	良	（内面）10YR7/3にぶい黄橙 （外面）10YR5/1褐灰	（内面）ナデ （外面）縄文後ヘラ描	
第32図	131	22下	SP02		弥生土器	壺	胴部	1%	器高（3.0）	1㎜大の長石・白色石英含む	良	（内外面）10YR6/3にぶい黄橙	（内面）ナデ （外面）ヘラ描	
第32図	132	22下	SP03		弥生土器	甕	口縁部	1%	器高（3.8）	1㎜大の長石・微細透明石英含む	良	（内面）5YR6/4にぶい橙 （外面）7.5YR4/1褐灰	（内面）ナデ （外面）縦方向ハケ	
第32図	133	18	SX01		弥生土器	壺	口縁～頸部	7%	口径（9.2） 器高（5.55）	1㎜以下の長石・微細透明石英・赤色粒子少量含む	良	（内外面）10YR7/2にぶい黄橙	（内面）ナデ （外面）ハケ後櫛描	
第33図	134	18	SR01	黒色粘土層	弥生土器	壺	口縁～頸部	5%	口径（16.0） 器高（12.2）	1～3㎜大の長石・白色石英含む	良	（内外面）5YR6/3にぶい橙	（内面）横方向ハケ （外面）縦方向ハケ後ヘラ描	
第33図	135	18	SR01		弥生土器	壺	口縁～頸部	10%	口径（17.66） 器高（8.2）	1～3㎜大の長石・白色石英含む	良	（内外面）5YR6/6橙	（内面）斜方向ハケ後ナデ （外面）条痕？	
第33図	136	23上	SR01		弥生土器	壺	口縁～頸部	5%	口径（12.8） 器高（9.0）	2㎜大の砂粒多く含む	良	（内外面）5YR7/4にぶい橙	（内面）横方向ハケ （外面）斜方向ハケ	
第33図	137	23上	SR01	黒色粘土層	弥生土器	壺	口縁～頸部	5%	口径（8.6） 器高（8.7）	長石・砂粒含む	良	（内外面）10YR7/3にぶい黄橙	（内面）横方向ハケ （外面）縦方向ハケ	
第33図	138	23上	SR01		弥生土器	壺	口縁～頸部	3%	口径（9.0） 器高（5.6）	砂粒多く含む	良	（内面）5Y6/1灰 （外面）N4/0灰	（内面）ナデ （外面）縦方向ハケ	
第33図	139	18	SR01	黒色粘土層	弥生土器	壺	口縁～頸部	5%	口径（6.8） 器高（6.2）	長石（1㎜）・白色石英（1～3㎜）少量含む	良	（内外面）10YR7/2にぶい黄橙	（内面）横方向ハケ後ナデ （外面）縦方向ハケ後ナデ	
第33図	140	23上	SR01		弥生土器	壺	口縁部	1%	器高（3.0）	1～3㎜大の長石・微細透明石英含む	良	（内面）10R6/6赤橙 （外面）10YR6/2灰黄褐	（内面）ヨコナデ？ （外面）ハケ後櫛描	赤彩
第33図	141	23上	SR01	黒色粘土層	弥生土器	鉢？	口縁～胴部上半	3%	器高（4.8）	1㎜大の長石・白色石英・黒雲母・微細透明石英含む	良	（内面）10YR6/2灰黄褐 （外面）7.5R3/4暗赤	（内外面）ヘラミガキ	赤彩
第33図	142	18	SR01		弥生土器	高坏？	口縁～脚部	20%	口径（8.8） 器高（7.3）	1～3㎜大の長石・白色石英・黒雲母・微細透明石英含む	良	（内外面）7.5R4/6赤	（内面）ナデ？ （外面）不明	赤彩
第33図	143	23上	SR01		弥生土器	不明	不明	1%	器高（3.7）	1㎜以下の長石・白色石英・3㎜大の礫含む	良	（内外面）5YR6/4にぶい橙	（内面）ナデ （外面）条痕？	
第33図	144	23上	SR01	黒色粘土層	弥生土器	壺	頸部	1%	器高（3.2）	1～2㎜大の長石・白色石英含む	良	（内面）10YR7/2にぶい黄橙 （外面）7.5YR6/3にぶい褐	（内面）ナデ （外面）縄文後ヘラ描	

挿図番号	図版番号	写真図版番号	遺構グリッド	層位	種別	器種	部位	残存率	法量（cm）	胎土	焼成	色調	調整技法・施文	備考
第33図	145	23上	SR01		弥生土器	不明	不明	1%	器高 (3.9)	1㎜大の長石・白色石英含む	良	(内面) 10YR6/2灰黄褐 (外面) 10YR5/2灰黄褐	(内外面) 不明	
第33図	146	23上	SR01	黒色粘土層	弥生土器	壺	口縁部	1%	器高 (3.4)	長石（1～2㎜）・白色石英（1㎜）含む	良	(内外面) 7.5YR6/4にぶい橙	(内面) ナデ (外面) 条痕？	
第33図	147	23上	SR01	黒色粘土層	弥生土器	壺	口縁部	1%	器高 (4.0)	1㎜大の長石・白色石英含む	良	(内面) 7.5YR5/3にぶい褐 (外面) 7.5YR6/4にぶい橙	(内面) ナデ (外面) 斜方向ハケ	
第33図	148	23上	SR01		弥生土器	壺	口縁部	1%	器高 (3.5)	1㎜大の長石・白色石英・黒雲母・微細透明石英含む	良	(内外面) 10R5/4赤褐	(内面) ナデ (外面) 縄文後ヘラ描	赤彩
第33図	149	23上	SR01		弥生土器	壺	口縁部	1%	器高 (4.6)	1㎜大の長石・黒雲母含む	良	(内面) 2.5YR5/4にぶい赤褐 (外面) 7.5YR6/3にぶい褐	(内面) 横方向ハケ後ナデ (外面) 縦方向ハケ	
第33図	150	23上	SR01		弥生土器	壺	口縁部？	1%	器高 (4.4)	1㎜大の長石・白色石英含む	良	(内面) 7.5YR5/2灰褐 (外面) 7.5YR6/3にぶい褐	(内面) ナデ (外面) 縄文後ヘラ描	
第33図	151	23上	SR01		弥生土器	壺	口縁部	3%	器高 (4.5)	長石（1㎜）・白色石英（1～2㎜）含む	良	(内面) 10YR7/1灰白 (外面) 10YR7/3にぶい黄橙	(内面) ナデ (外面) ヘラミガキ	
第33図	152	23上	SR01	黒色粘土層	弥生土器	壺	口縁部	3%	器高 (6.3)	1㎜大の長石・白色石英含む	良	(内外面) 10YR5/1褐灰	(内外面) 横方向ヘラミガキ	
第33図	153	23上	SR01		弥生土器	壺	口縁部	1%	器高 (3.1)	1㎜大の長石・4㎜大の礫含む	良	(内外面) 7.5YR6/4にぶい橙	(内面) ナデ (外面) ハケ後ナデ	
第33図	154	23上	SR01		弥生土器	壺	口縁部	3%	器高 (6.4)	1～2㎜大の長石・白色石英含む	良	(内面) 10YR6/1褐灰 (外面) 7.5YR6/3にぶい褐	(内面) ナデ (外面) 縄文後ヘラ描	
第33図	155	23上	SR01		弥生土器	壺	口縁部	1%	器高 (3.3)	長石（1㎜）・白色石英（1～2㎜）多く含む	良	(内面) 7.5YR5/4にぶい褐 (外面) 10YR6/3にぶい黄橙	(内面) ナデ (外面) 縄文	
第33図	156	23上	SR01	黒色粘土層	弥生土器	壺	口縁部	1%	器高 (3.2)	1㎜大の長石・白色石英含む	良	(内面) 10YR7/2にぶい黄橙 (外面) 10YR8/2灰白	(内面) ナデ (外面) 縄文	
第33図	157	23上	SR01	黒色粘土層	弥生土器	壺	口縁部	1%	器高 (2.5)	1～2㎜大の長石・白色石英含む	良	(内面) 10YR5/2灰黄褐 (外面) 10YR6/2灰黄褐	(内面) ナデ (外面) 縄文	
第33図	158	23上	SR01	黒色粘土層	弥生土器	壺	口縁部	1%	器高 (2.2)	1㎜大の長石・砂粒・赤色粒子含む	良	(内外面) 2.5YR6/6橙	(内面) ナデ (外面) 条痕？	
第33図	159	23上	SR01		弥生土器	壺	口縁部	1%	器高 (3.2)	1㎜大の長石・微細透明石英含む	良	(内外面) 5YR6/4にぶい橙	(内面) ナデ (外面) 櫛描	
第34図	160	23上	SR01		弥生土器	壺	頸部	1%	器高 (3.6)	1～2㎜大の長石・白色石英含む	良	(内外面) 7.5YR4/1褐灰	(内面) 不明 (外面) ナデ後ヘラ描	
第34図	161	23上	SR01		弥生土器	壺	頸部～肩部	1%	器高 (3.4)	1㎜大の長石・白色石英含む	良	(内面) 10YR3/1黒褐 (外面) 10YR5/2灰黄褐	(内面) ナデ (外面) ヘラ描	
第34図	162	23上	SR01		弥生土器	壺	肩部	1%	器高 (2.9)	1㎜大の長石・砂粒・赤色粒子含む	良	(内外面) 7.5R5/3にぶい赤褐	(内面) ナデ (外面) 斜方向ハケ後ヘラ描	赤彩
第34図	163	23上	SR01		弥生土器	壺	頸部～肩部	1%	器高 (3.3)	1㎜大の長石・白色石英含む	良	(内面) 10YR2/1黒 (外面) 10YR5/2灰黄褐	(内面) ナデ (外面) ヘラ描	
第34図	164	23上	SR01		弥生土器	壺	頸部～肩部	1%	器高 (3.9)	1～2㎜大の長石・白色石英含む	良	(内面) 2.5Y6/2灰黄 (外面) 7.5YR5/2灰褐	(内面) ナデ (外面) ヘラ描、縄文	
第34図	165	23上	SR01	黒色粘土層	弥生土器	壺	頸部	1%	器高 (4.3)	1～2㎜大の長石・白色石英含む	良	(内面) 7.5YR5/2灰褐 (外面) N2/0黒	(内面) ナデ (外面) 縄文後ヘラ描	
第34図	166	23上	SR01	黒色粘土層	弥生土器	壺	頸部	1%	器高 (3.7)	1～2㎜大の長石・白色石英含む	良	(内面) 7.5YR4/1褐灰 (外面) 5YR4/1褐灰	(内面) ナデ (外面) 縄文後ヘラ描	
第34図	167	23上	SR01	黒色粘土層	弥生土器	壺	頸部～肩部	3%	器高 (4.9)	1～2㎜大の長石・白色石英含む	良	(内外面) 10YR4/1褐灰	(内面) ナデ (外面) ヘラ描	
第34図	168	23上	SR01	黒色粘土層	弥生土器	壺	胴部	1%	器高 (4.3)	1～2㎜大の長石・白色石英含む	良	(内面) 10YR6/2灰黄褐 (外面) 7.5YR6/2灰褐	(内面) 不明 (外面) ヘラ描	
第34図	169	23上	SR01	黒色粘土層	弥生土器	壺	肩部	1%	器高 (3.4)	長石（1～2㎜）・白色石英（1㎜）含む	良	(内外面) 10YR5/2灰黄褐	(内面) 横方向ハケ後ナデ (外面) 縄文後ヘラ描	
第34図	170	23上	SR01	黒色粘土層	弥生土器	壺	肩部	1%	器高 (5.6)	1㎜大の長石・白色石英含む	良	(内面) N4/0灰 (外面) 10YR6/2灰黄褐	(内面) ナデ (外面) 斜方向ハケ後ヘラ描	
第34図	171	23上	SR01	黒色粘土層	弥生土器	壺	肩部	1%	器高 (3.1)	1㎜大の長石・白色石英含む	良	(内面) 10YR4/1褐灰 (外面) 10YR6/2灰黄褐	(内面) ナデ (外面) 縄文後ヘラ描	
第34図	172	23上	SR01	黒色粘土層	弥生土器	壺	胴部	1%	器高 (3.0)	1～2㎜大の長石・白色石英含む	良	(内面) 10YR2/1黒 (外面) 10YR6/2灰黄褐	(内面) ナデ (外面) 縄文後ヘラ描	
第34図	173	23上	SR01		弥生土器	壺	頸部～肩部	1%	器高 (3.4)	1㎜大の長石・砂粒・赤色粒子多く含む	良	(内面) 2.5YR6/6橙 (外面) 10YR6/3にぶい黄橙	(内面) 横方向ハケ後ナデ (外面) 縄文後ヘラ描	

挿図番号	図版番号	写真図版番号	遺構グリッド	層位	種別	器種	部位	残存率	法量（cm）	胎土	焼成	色調	調整技法・施文	備考
第34図	174	23上	SR01		弥生土器	壺	胴部	1%	器高 (4.6)	長石（1㎜）・微細透明石英含む	良	(内面) 7.5YR3/1黒褐 (外面) 7.5YR5/2灰褐	(内面) 横方向ハケ (外面) 縄文後ヘラ描	
第34図	175	23上	SR01	黒色粘土層	弥生土器	壺	胴部	1%	器高 (3.6)	1㎜大の長石・白色石英含む	良	(内外面) 10YR6/2灰黄褐	(内面) ナデ (外面) 縄文後ヘラ描	
第34図	176	23上	SR01	黒色粘土層	弥生土器	壺	頸部～肩部	1%	器高 (5.1)	1㎜大の長石・白色石英含む	良	(内外面) 10YR6/3にぶい黄橙	(内面) ナデ (外面) 縄文後ヘラ描	
第34図	177	23上	SR01	黒色粘土層	弥生土器	壺	肩部	3%	器高 (3.8)	1～2㎜大の長石・白色石英含む	良	(内面) 10YR7/2にぶい黄橙 (外面) 10YR5/2灰黄褐	(内面) ナデ (外面) 縄文後ヘラ描	
第34図	178	23上	SR01		弥生土器	壺	胴部	1%	器高 (3.8)	長石（1㎜）・白色石英（1～2㎜）含む	良	(内面) 10YR5/2灰黄褐 (外面) 10YR4/1褐灰	(内面) ナデ (外面) 縄文後ヘラ描	
第34図	179	23上	SR01	黒色粘土層	弥生土器	壺	肩部	3%	器高 (3.8)	1㎜大の長石・白色石英含む	良	(内外面) 10YR6/1褐灰	(内面) ナデ (外面) 縄文後ヘラ描	
第34図	180	23上	SR01	黒色粘土層	弥生土器	壺	胴部	3%	器高 (3.6)	1㎜大の長石・白色石英含む	良	(内外面) 10YR6/3にぶい黄橙	(内面) ナデ (外面) 縄文後ヘラ描	
第34図	181	23下	SR01		弥生土器	壺	胴部	1%	器高 (3.4)	1㎜大の長石・白色石英含む	良	(内面) 10YR4/1褐灰 (外面) N3/0暗灰	(内面) ナデ (外面) 縄文後ヘラ描	
第34図	182	23下	SR01		弥生土器	壺	胴部	1%	器高 (3.2)	長石（1㎜）・微細透明石英含む	良	(内外面) 10YR6/2灰黄褐	(内面) ナデ？ (外面) 縄文後ヘラ描	
第34図	183	23下	SR01	黒色粘土層	弥生土器	壺	胴部	1%	器高 (3.0)	1㎜大の長石・白色石英含む	良	(内外面) 10YR5/2灰黄褐	(内面) ナデ (外面) 縄文後ヘラ描	
第34図	184	23下	SR01	黒色粘土層	弥生土器	壺	胴部	1%	器高 (2.7)	1㎜大の長石・白色石英含む	良	(内面) 10YR4/1褐灰 (外面) 10YR5/2灰黄褐	(内面) ナデ (外面) 縄文後ヘラ描	
第34図	185	23下	SR01	黒色粘土層	弥生土器	壺	頸部	1%	器高 (3.6)	1㎜大の長石・白色石英含む	良	(内外面) 10YR7/1灰白	(内面) ナデ (外面) 縄文後ヘラ描	
第34図	186	23下	SR01	黒色粘土層	弥生土器	壺	胴部	1%	器高 (3.1)	1～2㎜大の長石・白色石英含む	良	(内面) 10YR3/1黒褐 (外面) 10YR4/2灰黄褐	(内面) ナデ (外面) 縄文後ヘラ描	
第34図	187	23下	SR01	黒色粘土層	弥生土器	壺	頸部	1%	器高 (4.8)	1㎜大の長石・微細透明石英含む	良	(内面) 10YR5/1褐灰 (外面) 10YR7/2にぶい黄橙	(内面) ナデ (外面) 縄文後ヘラ描	
第34図	188	23下	SR01	黒色粘土層	弥生土器	壺	肩部	1%	器高 (3.8)	1～2㎜大の長石・白色石英含む	良	(内外面) 10YR6/3にぶい黄橙	(内面) ナデ (外面) 縄文後ヘラ描	
第34図	189	23下	SR01		弥生土器	壺	頸部	1%	器高 (3.7)	1㎜大の長石・砂粒・赤色粒子多く含む	良	(内面) 7.5YR6/2灰褐 (外面) 5YR6/4にぶい橙	(内面) ナデ (外面) 縄文後ヘラ描	
第34図	190	23下	SR01		弥生土器	壺	胴部	1%	器高 (4.8)	1㎜大の長石・白色石英含む	良	(内面) 10YR5/3にぶい黄褐 (外面) 10YR6/2灰黄褐	(内面) ナデ (外面) 縄文後ヘラ描	
第34図	191	23下	SR01	黒色粘土層	弥生土器	壺	頸部	1%	器高 (2.4)	1㎜大の長石・微細透明石英・砂粒少量含む	良	(内面) 10YR4/2灰黄褐 (外面) 10R4/6赤	(内面) ナデ (外面) 縄文後ヘラ描	赤彩
第34図	192	23下	SR01	黒色粘土層	弥生土器	壺	頸部	3%	器高 (6.9)	1～2㎜大の長石・白色石英含む	良	(内面) 10YR6/2灰黄褐 (外面) 10YR5/1褐灰	(内面) ナデ (外面) 縄文後ヘラ描	
第34図	193	23下	SR01		弥生土器	壺	胴部	3%	器高 (5.9)	1～2㎜大の長石・白色石英含む	良	(内面) N4/0灰 (外面) N3/0暗灰	(内面) ナデ (外面) 縄文後ヘラ描	
第34図	194	23下	SR01	黒色粘土層	弥生土器	壺	頸部	3%	器高 (5.6)	1㎜大の長石・白色石英含む	良	(内面) 10YR6/1褐灰 (外面) 5YR7/4にぶい橙	(内面) ナデ (外面) 縦方向ハケ	
第34図	195	23下	SR01	黒色粘土層	弥生土器	壺	肩部	3%	器高 (4.5)	長石（1㎜）・白色石英（1～3㎜）含む	良	(内外面) 5YR7/6橙	(内面) ナデ (外面) 縄文後ヘラミガキ	
第34図	196	23下	SR01	黒色粘土層	弥生土器	壺	頸部～肩部？	1%	器高 (5.6)	1～2㎜大の長石・白色石英含む	良	(内面) 10YR5/1褐灰 (外面) 10YR7/2にぶい黄橙	(内面) ナデ (外面) 縦方向ハケ後櫛描	
第34図	197	23下	SR01	黒色粘土層	弥生土器	壺	頸部	3%	器高 (5.6)	1㎜大の長石・白色石英含む	良	(内面) 10YR6/1褐灰 (外面) 5YR7/4にぶい橙	(内面) ナデ (外面) 縄文後ヘラ描	
第34図	198	23下	SR01	黒色粘土層	弥生土器	壺	頸部	1%	器高 (3.0)	1㎜大の長石・白色石英・2㎜大の礫含む	良	(内面) 5YR6/3にぶい橙 (外面) 10YR7/1灰白	(内面) ナデ (外面) ナデ後櫛描	
第34図	199	23下	SR01	黒色粘土層	弥生土器	壺	頸部	1%	器高 (4.8)	1㎜大の長石・白色石英含む	良	(内面) 10YR7/2にぶい黄橙 (外面) 7.5YR7/3にぶい橙	(内面) 横方向ハケ後ナデ (外面) ナデ後櫛描	
第34図	200	23下	SR01		弥生土器	壺	胴部	3%	器高 (4.4)	1㎜大の長石・白色石英含む	良	(内面) N4/0灰 (外面) 10YR6/2灰黄褐	(内面) ナデ (外面) ハケ後櫛描	
第35図	201	23下	SR01	黒色粘土層	弥生土器	壺	肩部	5%	器高 (6.0)	1～2㎜大の長石・白色石英含む	良	(内外面) 10YR6/1褐灰	(内面) ナデ (外面) ナデ後櫛描・縄文	
第35図	202	23下	SR01	黒色粘土層	弥生土器	壺	肩部	3%	器高 (5.1)	1～2㎜大の長石・白色石英含む	良	(内面) 5YR6/4にぶい橙 (外面) 10YR6/3にぶい黄橙	(内面) ナデ (外面) ナデ後ヘラ描	

挿図番号	図版番号	写真図版番号	遺構グリッド	層位	種別	器種	部位	残存率	法量（cm）	胎土	焼成	色調	調整技法・施文	備考
第35図	203	23下	SR01	黒色粘土層	弥生土器	壺	胴部	3%	器高 (4.5)	1～2㎜大の長石・白色石英・黒雲母・微細透明石英含む	良	(内面) 10YR5/3にぶい黄褐 (外面) 2.5YR4/4にぶい赤褐	(内面) ヘラミガキ？ (外面) 縄文後ヘラ描	赤彩
第35図	204	23下	SR01		弥生土器	壺	肩部？	1%	器高 (2.0)	1㎜大の長石・白色石英・微細透明石英含む	良	(内面) N5/0灰 (外面) 7.5R4/6赤	(内面) ナデ (外面) ナデ後櫛描	赤彩
第35図	205	23下	SR01	黒色粘土層	弥生土器	壺	肩部	3%	器高 (5.0)	1～2㎜大の長石・白色石英・赤色粒子含む	良	(内面) 10YR6/2灰黄褐 (外面) 5YR6/4にぶい橙	(内面) ナデ (外面) 縦方向ハケ	
第35図	206	23下	SR01		弥生土器	壺	肩部	1%	器高 (4.6)	1～2㎜大の長石・白色石英・黒色ガラス質粒子含む	良	(内面) 7.5YR6/3にぶい褐 (外面) 7.5YR4/1褐灰	(内面) ナデ (外面) 斜方向ハケ	
第35図	207	23下	SR01		弥生土器	壺	肩部	1%	器高 (4.8)	1～2㎜大の長石・白色石英・赤色粒子含む	良	(内面) 7.5YR5/3にぶい褐 (外面) 5YR4/2灰褐	(内面) ナデ (外面) 斜方向ハケ	
第35図	208	23下	SR01		弥生土器	壺	肩部	1%	器高 (3.7)	長石（1～2㎜）・白色石英（1～3㎜）・黒色ガラス質微量含む	良	(内面) 10YR6/3にぶい黄橙 (外面) 7.5YR4/2灰褐	(内面) ナデ (外面) 縦方向ハケ	
第35図	209	23下	SR01		弥生土器	壺	胴部	1%	器高 (3.3)	1㎜大の長石・白色石英含む	良	(内面) 2.5Y7/2灰黄 (外面) 10YR7/2にぶい黄橙	(内面) ナデ (外面) 櫛刺突	
第35図	210	23下	SR01		弥生土器	壺	胴部	1%	器高 (2.8)	長石（1㎜）・白色石英（1～2㎜）含む	良	(内面) 10YR4/1褐灰 (外面) 10YR6/2灰黄褐	(内面) ナデ (外面) 櫛描	
第35図	211	23下	SR01	黒色粘土層	弥生土器	壺	胴部	1%	器高 (3.9)	1㎜大の長石・白色石英含む	良	(内面) 10YR5/2灰黄褐 (外面) 10YR7/2にぶい黄橙	(内面) ナデ (外面) ヘラミガキ	
第35図	212	23下	SR01	黒色粘土層	弥生土器	壺	胴部	1%	器高 (2.7)	1㎜大の長石・白色石英含む	良	(内外面) 5YR6/4にぶい橙	(内面) ナデ (外面) 縦方向ハケ	
第35図	213	23下	SR01	黒色粘土層	弥生土器	壺	胴部	1%	器高 (3.5)	1㎜大の長石・白色石英・5㎜大の礫含む	良	(内面) 10YR6/3にぶい黄橙 (外面) 10YR6/2灰黄褐	(内面) ナデ (外面) 櫛描羽状文	
第35図	214	23下	SR01		弥生土器	壺	胴部	3%	器高 (7.8)	1～2㎜大の長石・白色石英含む	良	(内外面) 2.5Y7/1灰白	(内面) ナデ (外面) 櫛描	
第35図	215	23下	SR01		弥生土器	壺	頸部～肩部	1%	器高 (3.5)	長石（1㎜）・白色石英（1～2㎜）含む	良	(内面) 10YR5/1褐灰 (外面) 2.5YR5/4にぶい赤褐	(内面) ナデ (外面) ヘラミガキ後櫛描	
第35図	216	23下	SR01	黒色粘土層	弥生土器	壺	頸部～肩部	3%	器高 (5.2)	1㎜大の長石・砂粒・3㎜大の礫含む	良	(内面) N5/0灰 (外面) 7.5YR2/1黒	(内面) 横方向ハケ後ナデ (外面) ヘラミガキ後櫛描	
第36図	217	24上	SR01	黒色粘土層	弥生土器	甕	口縁部	5%	口径 (31.2) 器高 (8.6)	1㎜大の白色石英・長石含む	良	(内外面) 7.5YR7/3にぶい橙	(内面) 横方向ハケ後ナデ (外面) 縦方向ハケ後ナデ	
第36図	218	24上	SR01		弥生土器	甕	口縁部	1%	器高 (5.8)	1㎜大の長石・白色石英含む	良	(内面) 10YR8/3浅黄橙 (外面) 10YR2/1黒	(内面) ナデ (外面) 縦方向ハケ	
第36図	219	24上	SR01	黒色粘土層	弥生土器	甕	口縁部	1%	器高 (4.3)	1㎜大の長石・白色石英・3㎜大の礫含む	良	(内面) 7.5YR7/4にぶい橙 (外面) 10YR2/1黒	(内外面) 斜方向ハケ	
第36図	220	24上	SR01		弥生土器	甕	口縁部	1%	器高 (3.1)	1㎜大の長石・白色石英含む	良	(内面) 10YR4/1褐灰 (外面) 10YR6/3にぶい黄橙	(内面) ナデ (外面) 斜方向条痕	
第36図	221	24上	SR01		弥生土器	甕	口縁部	1%	器高 (3.0)	長石（1㎜）・微細透明石英含む	良	(内外面) 10YR2/1黒	(内面) 横方向ハケ (外面) 斜方向条痕	
第36図	222	24上	SR01	黒色粘土層	弥生土器	甕	口縁部	1%	器高 (1.6)	1㎜大の長石・微細透明石英・砂粒含む	良	(内面) 7.5YR6/3にぶい褐 (外面) 10Y6/6赤橙	(内面) ナデ (外面) 斜方向ハケ	
第36図	223	24上	SR01	黒色粘土層	弥生土器	甕	口縁部	1%	器高 (5.3)	1㎜大の長石・白色石英・3㎜大の礫含む	良	(内外面) 10YR8/2灰白	(内面) 横方向ハケ (外面) 斜方向条痕	
第36図	224	24上	SR01	黒色粘土層	弥生土器	甕	口縁部	1%	器高 (5.1)	1㎜大の長石・白色石英含む	良	(内面) 7.5YR6/3にぶい褐 (外面) 10YR3/1黒褐	(内面) ナデ (外面) 斜方向条痕	
第36図	225	24上	SR01	黒色粘土層	弥生土器	甕	口縁部	1%	器高 (3.1)	1～2㎜大の長石・白色石英含む	良	(内面) 10YR4/1褐灰 (外面) 10YR3/1黒褐	(内面) 横方向ハケ (外面) 斜方向条痕	
第36図	226	24上	SR01		弥生土器	甕	口縁部	3%	器高 (5.2)	1㎜大の長石・白色石英含む	良	(内面) 2.5YR5/2灰赤 (外面) 2.5YR6/4にぶい橙	(内面) 横方向ハケ (外面) 斜方向ハケ	
第36図	227	24上	SR01	黒色粘土層	弥生土器	甕	口縁部	3%	器高 (7.2)	1㎜大の長石・微細透明石英・砂粒・6㎜大の礫含む	良	(内面) 5YR5/4にぶい赤褐 (外面) 7.5YR5/2灰褐	(内面) ナデ (外面) 斜方向ハケ	
第36図	228	24上	SR01		弥生土器	甕	口縁部	3%	器高 (6.2)	1㎜大の長石・白色石英含む	良	(内面) 5YR6/4にぶい橙 (外面) 7.5YR4/2灰褐	(内面) 横方向ハケ (外面) 斜方向ハケ	
第36図	229	24上	SR01		弥生土器	甕	口縁部	1%	器高 (2.6)	長石（1～2㎜）・白色石英（1㎜以下）含む	良	(内面) 10YR6/2灰黄褐 (外面) 7.5YR4/1褐灰	(内面) 櫛描羽状文 (外面) 横方向条痕	
第36図	230	24上	SR01	黒色粘土層	弥生土器	甕	口縁部	1%	器高 (4.3)	1㎜大の長石・白色石英含む	良	(内面) 10YR4/1褐灰 (外面) 10YR2/1黒	(内面) ナデ (外面) 縦方向羽状条痕	
第36図	231	24上	SR01		弥生土器	甕	口縁部	3%	器高 (5.7)	1㎜大の長石・白色石英含む	良	(内外面) 10YR7/3にぶい黄橙	(内面) ナデ (外面) 斜方向ハケ	

挿図番号	図版番号	写真図版番号	遺構グリッド	層位	種別	器種	部位	残存率	法量（cm）	胎土	焼成	色調	調整技法・施文	備考
第36図	232	24上	SR01	黒色粘土層	弥生土器	甕	口縁部	1%	器高 （4.5）	1㎜大の白色石英・長石含む	良	（内面）10YR4/1褐灰 （外面）5YR6/4にぶい橙	（内面）ナデ （外面）斜方向ハケ？	
第36図	233	24上	SR01	黒色粘土層	弥生土器	甕	口縁部	1%	器高 （3.8）	1㎜大の長石・微細透明石英・5㎜大の礫含む	良	（内面）10YR7/2にぶい黄橙 （外面）7.5YR7/4にぶい橙	（内面）横方向ハケ後ナデ （外面）縦方向条痕	
第36図	234	24上	SR01	黒色粘土層	弥生土器	甕	口縁～胴部上半	5%	器高 （11.1）	1～2㎜大の長石・白色石英・3㎜大の礫含む	良	（内外面）10YR7/2にぶい黄橙	（内面）ナデ （外面）斜方向ハケ	
第36図	235	24上	SR01		弥生土器	甕	口縁部	1%	器高 （3.9）	1㎜大の長石・白色石英含む	良	（内面）5YR4/2灰褐 （外面）5YR6/4にぶい橙	（内面）横方向条痕 （外面）斜方向条痕	
第36図	236	24上	SR01		弥生土器	甕	口縁部	1%	器高 （3.7）	1㎜大の長石・白色石英含む	良	（内外面）5YR6/4にぶい橙	（内面）ナデ （外面）斜方向条痕	
第36図	237	24上	SR01		弥生土器	甕	口縁部	3%	器高 （4.1）	長石（1㎜）・微細透明石英含む	良	（内面）10YR6/3にぶい黄橙 （外面）10YR4/1褐灰	（内面）横方向ハケ後ナデ （外面）斜方向条痕	
第36図	238	24上	SR01	黒色粘土層	弥生土器	甕	口縁部	1%	器高 （3.6）	1㎜大の長石・白色石英含む	良	（内面）7.5YR5/2灰褐 （外面）10YR3/1黒褐	（内面）横方向ハケ後ナデ （外面）斜方向ハケ	
第36図	239	24上	SR01	黒色粘土層	弥生土器	甕	口縁部	1%	器高 （3.3）	1㎜大の長石・白色石英含む	良	（内外面）10YR6/1褐灰	（内面）板ナデ？ （外面）斜方向条痕	
第37図	240	24上	SR01		弥生土器	甕	口縁～胴部	7%	器高 （11.7）	長石（1㎜）・白色石英（1～2㎜）含む	良	（内外面）10YR7/3にぶい黄橙	（内面）横方向ハケ （外面）ハケ後ヘラ描羽状文	
第37図	241	24上	SR01		弥生土器	甕	口縁部	1%	器高 （3.6）	1㎜大の長石・砂粒・赤色粒子含む	良	（内面）10YR7/2にぶい黄橙 （外面）5YR7/6橙	（内面）横方向ハケ （外面）ハケ後ヘラ描	
第37図	242	24上	SR01	黒色粘土層	弥生土器	甕	口縁部	1%	器高 （5.2）	1㎜大の長石・白色石英含む	良	（内外面）10YR7/2にぶい黄橙	（内面）横方向ハケ （外面）ハケ後ヘラ描	
第37図	243	24上	SR01		弥生土器	甕	口縁部	3%	器高 （4.5）	1～2㎜大の長石・白色石英含む	良	（内面）5YR5/3にぶい赤褐 （外面）10YR6/2灰黄褐	（内面）ナデ （外面）ナデ後ヘラ描	
第37図	244	24上	SR01	黒色粘土層	弥生土器	甕	口縁部	3%	器高 （4.0）	1～2㎜大の長石・白色石英含む	良	（内面）7.5YR6/4にぶい橙 （外面）7.5YR5/2灰褐	（内面）ナデ （外面）ナデ後ヘラ描	
第37図	245	24上	SR01	黒色粘土層	弥生土器	甕	口縁部	5%	器高 （11.5）	1～2㎜大の長石・白色石英含む	良	（内面）7.5YR5/2灰褐 （外面）7.5YR4/1褐灰	（内面）ナデ （外面）ハケ後ヘラ描羽状文	
第37図	246	24上	SR01	黒色粘土層	弥生土器	甕	口縁部	5%	器高 （6.3）	1～2㎜大の長石・白色石英含む	良	（内外面）10YR6/2灰黄褐	（内面）ナデ （外面）ハケ後ヘラ描	
第37図	247	24上	SR01	黒色粘土層	弥生土器	甕	胴部	3%	器高 （8.0）	1㎜大の長石・白色石英含む	良	（内面）10YR6/1褐灰 （外面）10YR4/1褐灰	（内面）ナデ （外面）ハケ後ヘラ描羽状文	
第37図	248	24下	SR01	黒色粘土層	弥生土器		底部	5%	器高 （3.6） 底径 （5.8）	黒雲母・長石・砂粒・微細透明石英含む	良	（内外面）10YR6/3にぶい黄橙	（内面）ナデ （外面）縦方向ハケ	網代痕
第37図	249	24下	SR01		弥生土器		底部	10%	器高 （3.5） 底径 7.5	黒雲母多く含む	良	（内外面）N2/0黒	（内面）ナデ （外面）不明	網代痕
第37図	250	24下	SR01	黒色粘土層	弥生土器		底部	10%	器高 （2.3） 底径 5.6	1～3㎜大の長石・白色石英多く含む	良	（内外面）10YR6/3にぶい黄橙	（内面）ナデ （外面）縦方向ヘラミガキ？	網代痕
第37図	251	24下	SR01		弥生土器		底部	3%	器高 （4.1） 底径 （8.35）	黒雲母多く含む	良	（内面）7.5YR6/3にぶい褐 （外面）10YR6/4にぶい黄橙	（内面）ナデ （外面）ヘラナデ	網代痕
第37図	252	24下	SR01	黒色粘土層	弥生土器		底部	5%	器高 （3.2） 底径 （6.32）	長石（1～2㎜）・白色石英（1～3㎜）・黒雲母・微細透明石英含む	良	（内面）10YR6/2灰黄褐 （外面）7.5R4/4にぶい赤	（内面）ナデ （外面）縦方向ヘラミガキ	赤彩 木葉痕
第37図	253	24下	SR01	黒色粘土層	弥生土器		底部	3%	器高 （3.45） 底径 （7.2）	長石・黒雲母・砂粒・微細透明石英含む	良	（内外面）7.5YR5/4にぶい褐	（内面）ナデ （外面）縦方向ハケ	網代痕
第37図	254	24下	SR01	黒色粘土層	弥生土器		底部	3%	器高 （5.4） 底径 （7.75）	微細～2㎜大の長石多く含む	良	（内面）10YR5/3にぶい黄褐 （外面）7.5YR4/4褐	（内面）ナデ （外面）縦方向ハケ後ナデ	
第37図	255	24下	SR01	黒色粘土層	弥生土器		底部	5%	器高 （4.5） 底径 （7.9）	砂粒・黒色粒子・赤色粒子多く含む	良	（内面）2.5Y6/1黄灰 （外面）7.5YR7/4にぶい橙	（内面）横方向ハケ （外面）斜方向ハケ	
第37図	256	24下	SR01	黒色粘土層	弥生土器		底部	3%	器高 （6.05） 底径 （7.1）	微細透明石英・白色石英・長石・砂粒含む	良	（内面）10YR4/2灰黄褐 （外面）7.5YR4/2灰褐	（内面）横方向ハケ後ナデ （外面）縦方向ハケ	
第37図	257	24下	SR01		弥生土器		底部	10%	器高 （6.0） 底径 （7.06）	砂粒多く含む・長石・石英少量含む	良	（内面）5Y7/1灰白 （外面）10YR5/2灰黄褐	（内面）ハケ後ナデ （外面）斜方向ハケ	
第37図	258	24下	SR01	黒色粘土層	弥生土器		底部	3%	器高 （5.5） 底径 （6.7）	長石・砂粒・微細透明石英含む	良	（内面）5YR5/6明赤褐 （外面）N3/0暗灰	（内面）ナデ （外面）縦方向ハケ	網代痕
第37図	259	24下	SR01	黒色粘土層	弥生土器		底部	15%	器高 （5.3） 底径 6.7	3㎜大の礫・砂粒多く含む	良	（内面）10YR7/2にぶい黄橙 （外面）5YR7/8橙	（内面）横方向ハケ （外面）ハケ後ミガキ？	
第37図	260	24下	SR01	黒色粘土層	弥生土器		底部	10%	器高 （5.4） 底径 （8.45）	黒雲母・白色石英・透明石英多く含む	良	（内面）10YR5/2灰黄褐 （外面）7.5YR7/4にぶい橙	（内面）ナデ？ （外面）不明	

挿図番号	図版番号	写真図版番号	遺構グリッド	層位	種別	器種	部位	残存率	法量（cm）	胎土	焼成	色調	調整技法・施文	備考
第38図	261	24下	SR01	黒色粘土層	弥生土器		底部	5%	器高 (5.2) 底径 (7.82)	4㎜大の礫・砂粒多く含む	良	(内外面) 10YR6/3にぶい黄橙	(内面) 横方向ハケ後ナデ (外面) 縦方向ハケ	
第38図	262	24下	SR01		弥生土器		底部	5%	器高 (4.85) 底径 (7.0)	黒色粒子多く含む・5㎜大の長石・砂粒含む	良	(内面) 10YR7/3にぶい黄橙 (外面) 10YR6/3にぶい黄橙	(内面) ナデ (外面) 斜方向ハケ	網代痕
第38図	263	24下	SR01		弥生土器		底部	3%	器高 (4.3) 底径 (9.2)	9㎜大の礫・砂粒多く含む	良	(内面) N3/0暗灰 (外面) 10YR8/4浅黄橙	(内外面) ハケ後ナデ？	
第38図	264	24下	SR01		弥生土器		底部	7%	器高 (3.75) 底径 (6.6)	黒色粒子・砂粒多く含む	良	(内外面) 2.5Y7/4浅黄	(内外面) 不明	
第38図	265	24下	SR01		弥生土器		底部	3%	器高 (3.8) 底径 (6.4)	黒色粒子・長石・白色石英・微細透明石英含む	良	(内面) N3/0暗灰 (外面) 7.5YR7/4にぶい橙	(内面) ナデ (外面) 縦方向ハケ	木葉痕
第38図	266	24下	SR01	黒色粘土層	弥生土器		底部	10%	器高 (4.5) 底径 5.6	2～3㎜大の礫多く含む	良	(内外面) 10YR7/2にぶい黄橙	(内面) 不明 (外面) ハケ後ヘラミガキ？	
第38図	267	24下	SR01		弥生土器		底部	5%	器高 (3.65) 底径 (7.7)	黒色粒子・砂粒多く含む	良	(内面) N3/0暗灰 (外面) 10YR7/3にぶい黄橙	(内面) 不明 (外面) 縦方向ハケ後ナデ	
第38図	268	24下	SR01	黒色粘土層	弥生土器		底部	7%	器高 (3.4) 底径 (5.9)	黒雲母・長石・白色石英含む	良	(内外面) N3/0暗灰	(内外面) 不明	
第38図	269	24下	SR01		弥生土器		底部	5%	器高 (3.4) 底径 (5.75)	7㎜大の礫・砂粒多く含む	良	(内外面) 10YR7/4にぶい黄橙	(内面) ナデ (外面) 縦方向ハケ	木葉痕
第38図	270	24下	SR01		弥生土器		底部	5%	器高 (4.05) 底径 (6.5)	黒色粒子多く・黒雲母・微細透明石英含む	良	(内面) 5YR5/8明赤褐 (外面) 10YR7/4にぶい黄橙	(内面) ナデ (外面) ヘラケズリ後ナデ	網代痕
第38図	271	24下	SR01	黒色粘土層	弥生土器		底部	7%	器高 (3.5) 底径 (6.7)	砂粒多く含む	良	(内面) 10YR7/4にぶい黄橙 (外面) 2.5YR6/8橙	(内面) 不明 (外面) 縦方向ハケ	
第38図	272	24下	SR01	黒色粘土層	弥生土器		底部	3%	器高 (3.6) 底径 (6.2)	砂粒多く含む	良	(内面) 2.5Y7/2灰黄 (外面) 2.5YR6/8橙	(内面) 横方向ハケ後ナデ (外面) ハケ後ナデ？	
第38図	273	24下	SR01		弥生土器		底部	10%	器高 (4.6) 底径 7.6	2～4㎜大の礫・砂粒多く含む	良	(内外面) 2.5YR7/8橙	(内外面) ナデ	
第38図	274	24下	SR01		弥生土器		底部	3%	器高 (5.3) 底径 (6.55)	黒色粒子・砂粒含む	良	(内外面) 2.5Y6/2灰黄	(内面) ヘラナデ (外面) ナデ	
第38図	275	24下	SR01		弥生土器		底部	5%	器高 (2.55) 底径 (4.7)	長石・白色石英・微砂粒少量含む	良	(内面) 2.5Y4/2灰黄 (外面) 2.5Y3/1黒褐	(内面) ナデ (外面) 不明	
第38図	276	24下	SR01	黒色粘土層	弥生土器		底部	15%	器高 (2.5) 底径 3.4	黒色粒子・砂粒含む	良	(内面) 5YR7/6橙 (外面) 7.5YR7/4にぶい橙	(内面) ナデ (外面) ハケ後ヘラミガキ？	
第38図	277	24下	SR01		弥生土器	台付甕	台部	5%	器高 (7.1) 底径 (8.5)	4㎜大の黒色小礫・砂粒多く含む	良	(内外面) 5YR7/6橙	(内面) 横方向ハケ (外面) ハケ？	
第38図	278	24下	SR01	黒色粘土層	弥生土器	台付甕	台部	10%	器高 (6.0) 底径 7.7	3㎜大の砂粒多く含む	良	(内外面) 7.5YR7/6橙	(内面) 横方向ハケ後ナデ (外面) 縦方向ハケ	
第38図	279	24下	SR01	黒色粘土層	弥生土器	台付甕	台部	5%	器高 (3.9) 底径 (6.2)	長石・砂粒少量含む	良	(内外面) 5YR7/6橙	(内外面) 不明	
第38図	280	24下	SR01	黒色粘土層	弥生土器	台付甕	台部	7%	器高 (4.8) 底径 6.7	2㎜大の砂粒多く・5㎜大の礫含む	良	(内外面) 7.5YR7/4にぶい橙	(内面) ナデ (外面) 縦方向ハケ	木葉痕
第39図	281	25上	SR02	明黄褐色砂層	弥生土器	壺	口縁部	3%	口径 (27.6) 器高 (5.6)	微細～2㎜大の白色石英多く含む	良	(内外面) 10YR6/3にぶい黄橙	(内面) ナデ (外面) ナデ後ヘラ描	
第39図	282	18	SR02		弥生土器	壺	口縁部	5%	口径 (18.82) 器高 (9.0)	長石・砂粒・黒色粒子含む	良	(内面) 5YR6/6橙 (外面) 7.5YR4/2灰褐	(内面) 横方向ハケ (外面) 縦方向ハケ後ヘラ描	
第39図	283	25上	SR02		弥生土器	壺	口縁部	1%	口径 (21.0) 器高 (3.75)	黒雲母微量・長石・砂粒少量含む	良	(内面) 10YR6/6明黄褐 (外面) 10YR4/3にぶい黄褐	(内面) ナデ (外面) ハケ後ヘラ描	
第39図	284	18	SR02		弥生土器	壺	口縁～頸部	7%	口径 (7.6) 器高 (7.55)	長石（1㎜）・白色石英（1～2㎜）・3㎜大の礫含む	良	(内外面) 10YR6/2灰黄褐	(内面) ナデ (外面) 縄文	
第39図	285	25上	SR02		弥生土器	壺	口縁部	3%	口径 (10.0) 器高 (5.4)	黒色粒子・赤色粒子・長石含む	良	(内外面) 7.5YR7/6橙	(内面) ナデ (外面) 縦方向ハケ	
第39図	286	25上	SR02		弥生土器	壺	口縁部	1%	器高 (5.6)	1㎜大の白色石英・長石含む	良	(内外面) 7.5YR5/4にぶい褐	(内面) ナデ (外面) 縄文後ヘラ描波状文	
第39図	287	25上	SR02		弥生土器	壺	口縁部	1%	器高 (3.6)	1～2㎜大の長石・白色石英含む	良	(内外面) 7.5YR6/4にぶい橙	(内面) 横方向ハケ (外面) 斜方向ハケ	
第39図	288	25上	SR02	明黄褐色砂層	弥生土器	壺	口縁部	1%	器高 (3.9)	1㎜大の白色石英・長石含む	良	(内面) 10YR4/1褐灰 (外面) 5YR6/6橙	(内面) ナデ (外面) 櫛描波状文	
第39図	289	25上	SR02		弥生土器	壺	口縁部	1%	器高 (5.2)	1㎜大の白色石英・長石含む	良	(内面) 10YR6/3にぶい黄橙 (外面) 7.5YR6/6橙	(内面) ナデ (外面) 縄文	

挿図番号	図版番号	写真図版番号	遺構グリッド	層位	種別	器種	部位	残存率	法量（cm）	胎土	焼成	色調	調整技法・施文	備考
第39図	290	25上	SR02		弥生土器	壺	胴部	1%	器高（2.9）	長石（1～4㎜）・白色石英（1㎜）含む	良	（内面）7.5YR7/4にぶい橙 （外面）5YR7/4にぶい橙	（内面）ナデ （外面）縄文後ヘラ描	
第39図	291	25上	SR02		弥生土器	壺	頸部	1%	器高（5.2）	1㎜大の白色石英・長石含む	良	（内外面）10YR6/2灰黄褐	（内面）ナデ （外面）縄文後ヘラ描	
第39図	292	25上	SR02	明黄褐色砂層	弥生土器	壺	頸部	1%	器高（4.1）	1～2㎜大の長石・白色石英含む	良	（内外面）10YR4/1褐灰	（内面）ナデ （外面）縄文後ヘラ描	
第39図	293	25上	SR02	明黄褐色砂層	弥生土器	壺	頸部	1%	器高（2.8）	1～2㎜大の長石・白色石英含む	良	（内外面）10YR5/2灰黄褐	（内面）ナデ （外面）縄文後ヘラ描	
第39図	294	25上	SR02		弥生土器	壺	胴部	1%	器高（4.8）	1㎜大の長石・微細透明石英・砂粒含む	良	（内面）10YR6/3にぶい黄橙 （外面）10YR4/1褐灰	（内面）ナデ （外面）ヘラ描	
第39図	295	25上	SR02		弥生土器	壺	胴部	1%	器高（4.2）	1㎜大の白色石英・長石含む	良	（内外面）10YR4/1褐灰	（内面）板ナデ （外面）縄文後ヘラ描	
第39図	296	25上	SR02	明黄褐色砂層	弥生土器	壺	肩部	1%	器高（4.4）	長石（1㎜）・白色石英（1～5.5㎜）含む	良	（内面）10YR4/1褐灰 （外面）10YR7/1灰白	（内面）ナデ （外面）ヘラ描？	
第39図	297	25上	SR02	明黄褐色砂層	弥生土器	壺	頸部	3%	器高（6.2）	1～2㎜大の長石・白色石英・4㎜大の礫含む	良	（内面）N3/0暗灰 （外面）7.5YR8/6浅黄橙	（内面）ナデ （外面）ヘラミガキ後ヘラ描	
第39図	298	25上	SR02	明黄褐色砂層	弥生土器	壺	頸部	3%	器高（5.0）	長石（1㎜）・白色石英（1～3㎜）含む	良	（内面）2.5Y6/1黄灰 （外面）10YR4/1褐灰	（内面）ナデ （外面）ヘラ描	
第39図	299	25上	SR02	明黄褐色砂層	弥生土器	壺	頸部	1%	器高（5.0）	1～2㎜大の長石・白色石英含む	良	（内外面）2.5YR7/8橙	（内面）ナデ （外面）ヘラミガキ？	
第39図	300	25上	SR02		弥生土器	壺	胴部	1%	器高（2.9）	1㎜大の長石・白色石英・黒雲母・微細透明石英含む	良	（内面）10YR4/1褐灰 （外面）10R5/6赤	（内面）ナデ （外面）ヘラミガキ	赤彩
第39図	301	25上	SR02	明黄褐色砂層	弥生土器	壺	頸部	1%	器高（2.6）	1～2㎜大の長石・白色石英・微細透明石英含む	良	（内面）10YR5/1褐灰 （外面）10R5/4赤褐	（内面）ナデ （外面）縄文後ヘラ描	赤彩
第40図	302	18	SR02		弥生土器	甕	口縁部	10%	口径（38.56） 器高（8.4）	1㎜大の長石・微細透明石英・砂粒含む	良	（内外面）7.5YR6/2灰褐	（内面）斜～横方向ハケ （外面）斜方向ハケ	
第40図	303	25上	SR02		弥生土器	甕	口縁部	3%	器高（6.6）	1㎜大の白色石英・長石含む	良	（内面）10YR5/2灰黄褐 （外面）10YR3/1黒褐	（内面）横方向ハケ （外面）斜方向ハケ	
第40図	304	25上	SR02		弥生土器	甕	口縁部	5%	器高（9.4）	1㎜大の白色石英・長石含む	良	（内面）10YR4/1褐灰 （外面）N2/0黒	（内面）横方向ハケ （外面）斜方向条痕	
第40図	305	25上	SR02		弥生土器	甕	口縁部	3%	器高（6.6）	1㎜大の白色石英・長石含む	良	（内面）7.5YR5/3にぶい褐 （外面）N2/0黒	（内面）板ナデ （外面）斜方向ハケ	
第40図	306	25上	SR02		弥生土器	甕	口縁部	3%	器高（6.0）	1㎜大の白色石英・長石含む	良	（内面）7.5YR6/3にぶい褐 （外面）7.5YR4/1褐灰	（内面）横方向ハケ後ナデ （外面）斜方向条痕	
第40図	307	25上	SR02		弥生土器	甕	口縁部	3%	器高（6.4）	1㎜大の白色石英・長石含む	良	（内面）7.5YR6/4にぶい褐 （外面）10YR3/1黒褐	（内面）横方向ハケ （外面）斜方向ハケ	
第40図	308	25上	SR02		弥生土器	甕	口縁部	1%	器高（4.9）	1㎜大の白色石英・長石含む	良	（内面）7.5YR5/3にぶい褐 （外面）10YR3/1黒褐	（内面）板ナデ （外面）斜方向ハケ	
第40図	309	25上	SR02		弥生土器	甕	口縁部	1%	器高（3.8）	1㎜大の白色石英・長石含む	良	（内面）7.5YR7/3にぶい橙 （外面）5YR6/4にぶい橙	（内面）ナデ （外面）斜方向条痕	
第40図	310	25上	SR02		弥生土器	甕	口縁部	1%	器高（4.1）	1㎜大の白色石英・長石含む	良	（内外面）7.5YR4/1褐灰	（内面）横方向ハケ （外面）縦方向条痕	
第40図	311	25上	SR02	にぶい黄褐色砂層	弥生土器	甕	口縁部	3%	器高（5.5）	1㎜大の長石・白色石英含む	良	（内外面）7.5YR6/3にぶい褐	（内面）横方向ハケ後ナデ （外面）縦方向条痕	
第40図	312	25上	SR02	明黄褐色砂層	弥生土器	甕	口縁部	1%	器高（4.8）	長石（1～4㎜）・白色石英（1㎜）含む	良	（内面）10YR3/1黒褐 （外面）N2/0黒	（内面）ナデ （外面）横方向条痕	
第40図	313	25上	SR02		弥生土器	甕	口縁部	1%	器高（3.9）	1㎜大の白色石英・長石含む	良	（内外面）7.5YR6/3にぶい褐	（内面）横方向ハケ （外面）斜方向ハケ	
第40図	314	25上	SR02		弥生土器	甕	口縁部	1%	器高（3.6）	1㎜大の白色石英・長石含む	良	（内面）10YR6/3にぶい黄橙 （外面）7.5YR6/4にぶい橙	（内面）横方向ハケ後ナデ （外面）ヘラ描	
第40図	315	25上	SR02		弥生土器	甕	口縁部	1%	器高（3.7）	1㎜大の長石・微細透明石英・砂粒含む	良	（内外面）10YR2/1黒	（内面）板ナデ （外面）縦方向ハケ	
第40図	316	25上	SR02		弥生土器	甕	口縁部	1%	器高（2.8）	長石（1～2㎜）・白色石英（1㎜）含む	良	（内外面）10YR3/1黒褐	（内面）横方向ハケ （外面）斜方向条痕	
第40図	317	25上	SR02		弥生土器	甕	口縁部	1%	器高（3.6）	1㎜大の白色石英・長石含む	良	（内面）5YR5/3にぶい赤褐 （外面）5YR6/6橙	（内面）ナデ （外面）斜方向条痕	
第40図	318	25上	SR02		弥生土器	甕	口縁部	1%	器高（4.5）	1㎜大の白色石英・長石含む	良	（内外面）10YR6/1褐灰	（内面）ナデ （外面）斜方向条痕	

挿図番号	図版番号	写真図版番号	遺構グリッド	層位	種別	器種	部位	残存率	法量（cm）	胎土	焼成	色調	調整技法・施文	備考
第40図	319	25上	SR02		弥生土器	甕	口縁部	1%	器高（3.2）	長石（1～2㎜）・白色石英（1㎜）含む	良	（内外面）7.5YR4/1褐灰	（内面）ナデ （外面）縦方向条痕	
第40図	320	25上	SR02		弥生土器	甕	口縁部	1%	器高（2.8）	1㎜大の白色石英・長石含む	良	（内面）7.5YR4/1褐灰 （外面）7.5YR3/1黒褐	（内面）横方向ハケ （外面）斜方向条痕	
第40図	321	25上	SR02		弥生土器	甕	口縁部	1%	器高（1.9）	1㎜大の白色石英・長石含む	良	（内面）7.5YR6/3にぶい褐 （外面）7.5YR2/1黒	（内面）ナデ （外面）斜方向条痕	
第40図	322	25上	SR02	明黄褐色砂層	弥生土器	甕	口縁部	1%	器高（2.8）	1㎜大の長石・白色石英含む	良	（内外面）10YR3/1黒褐	（内面）横方向ハケ （外面）斜方向ハケ	
第40図	323	25上	SR02	明黄褐色砂層	弥生土器	甕	口縁部	1%	器高（3.7）	1㎜大の長石・白色石英含む	良	（内面）10YR5/1褐灰 （外面）5YR6/6橙	（内面）ナデ （外面）ハケ後ナデ？	
第41図	324	25下	SR02		弥生土器	甕	胴部	10%	器高（16.6）	長石（1～3㎜）・白色石英（1㎜）含む	良	（内面）10YR6/2灰黄褐 （外面）7.5YR7/4にぶい橙	（内面）横方向ハケ後ナデ （外面）縦方向～斜方向ハケ	
第41図	325	25下	SR02		弥生土器		底部	7%	器高（6.1） 底径（7.4）	長石・砂粒・黒いガラス質含む	良	（内面）5YR5/6明赤褐 （外面）10YR4/2灰黄褐	（内面）ナデ （外面）縦方向ハケ	網代痕
第41図	326	25下	SR02	明黄褐色砂層	弥生土器		底部	7%	器高（4.9） 底径（6.6）	長石・砂粒・黒色粒子含む	良	（内外面）10YR5/3にぶい黄褐	（内面）ナデ （外面）縦方向ハケ	網代痕
第41図	327	25下	SR02	明黄褐色砂層	弥生土器		底部	3%	器高（2.4） 底径（6.8）	長石多く含む・黒色粒子含む	良	（内面）7.5YR4/3褐 （外面）10YR4/2灰黄褐	（内面）ナデ （外面）縦方向ハケ	網代痕
第41図	328	25下	SR02		弥生土器		底部	5%	器高（3.6） 底径（7.6）	長石・砂粒含む	良	（内外面）10YR5/2灰黄褐	（内面）ナデ （外面）縦方向ハケ	網代痕
第41図	329	25下	SR02		弥生土器		底部	5%	器高（3.7） 底径（7.5）	赤橙色粒子・長石・砂粒含む	良	（内面）5YR6/8橙 （外面）7.5YR4/3褐	（内面）ナデ （外面）縦方向ハケ	
第41図	330	25下	SR02		弥生土器		底部	3%	器高（4.8） 底径（6.3）	長石多く含む・微細透明石英・砂粒含む	良	（内外面）10YR6/3にぶい黄橙	（内面）ナデ （外面）縦方向ハケ	網代痕
第41図	331	25下	SR02		弥生土器		底部	3%	器高（4.15） 底径（6.7）	長石・砂粒・黒色粒子含む	良	（内外面）10YR6/4にぶい黄橙	（内面）不明 （外面）縦方向ハケ	網代痕
第41図	332	25下	SR02		弥生土器		底部	7%	器高（4.0） 底径（5.9）	やや砂質・赤橙色粒子・長石・砂粒含む	良	（内外面）10YR6/3にぶい黄橙	（内外面）ナデ	網代痕
第41図	333	25下	SR02		弥生土器		底部	10%	器高（2.8） 底径 5.95	褐色粒子（軟）多く含む	良	（内外面）2.5Y6/3にぶい黄	（内面）ナデ （外面）縦方向ハケ	
第41図	334	25下	SR02		弥生土器		底部	5%	器高（3.35） 底径（6.5）	長石・4㎜大の礫含む	良	（内面）10YR6/4にぶい黄橙 （外面）2.5Y6/2灰黄	（内外面）ﾅﾃﾞ	
第41図	335	25下	SR02		弥生土器	高坏	脚部	10%	器高（5.7） 底径（7.0）	2㎜大の砂粒多く含む	良	（内外面）10YR6/2灰黄褐	（内面）不明 （外面）ハケ後ヘラミガキ？	
第42図	336	26上	不明		弥生土器	壷	口縁部	3%	口径（18.56） 器高（2.5）	砂粒多く含む・1㎜大の長石・白色石英含む	良	（内面）10YR5/1褐灰 （外面）7.5YR7/1明褐灰	（内面）ナデ （外面）縄文、横方向ハケ後ナデ	
第42図	337	26上	D－1	黒色粘土層	弥生土器	壷	口縁～頸部	3%	口径（11.1） 器高（6.8）	1㎜大の白色石英・長石含む	良	（内面）5YR7/4にぶい橙 （外面）7.5YR7/3にぶい橙	（内面）不明 （外面）縄文、縦方向ハケ？	
第42図	338	19	不明		弥生土器	壷	口縁～頸部	15%	口径 7.45 器高（7.1）	1㎜大の長石・白色石英含む	良	（内面）5YR7/4にぶい橙 （外面）7.5YR7/4にぶい橙	（内面）横方向ハケ後ナデ （外面）斜～縦方向ハケ	
第42図	339	26上	D－2	黒色粘土層	弥生土器	壷	口縁部	1%	口径（16.4） 器高（3.95）	長石・砂粒・黒色粒子・赤色粒子含む	良	（内外面）7.5YR6/4にぶい橙	（内面）横方向ハケ （外面）縦方向ハケ	
第42図	340	26上	D－1	明黄褐色砂礫層	弥生土器	壷	口縁部	1%	口径（13.4） 器高（1.7）	長石（1㎜）・白色石英（3㎜）・黒雲母含む	良	（内面）10YR6/3にぶい黄橙 （外面）10YR4/1褐灰	（内面）ナデ （外面）斜方向ハケ	
第42図	341	26上	C－2	黒色粘土層	弥生土器	壷	口縁部	1%	器高（2.45）	1㎜大の長石・白色石英含む	良	（内外面）10YR5/2灰黄褐	（内面）ナデ （外面）ヘラミガキ？	
第42図	342	26上	C－2	黒色粘土層	弥生土器	壷	口縁部	1%	器高（3.8）	長石（1㎜）・白色石英（1～2㎜）含む	良	（内面）10YR7/3にぶい黄橙 （外面）7.5YR7/6橙	（内面）横方向ハケ （外面）縦方向ハケ	
第42図	343	26上	D－1	黒色粘土層	弥生土器	壷	口縁～頸部	10%	口径（7.0） 器高（5.7）	1㎜大の長石・白色石英含む	良	（内面）N3/0灰 （外面）2.5Y6/1黄灰	（内面）斜方向ハケ後ナデ （外面）縦方向ハケ後撫描	
第42図	344	26上	D－2	明黄褐色砂礫層	弥生土器	壷	口縁～頸部	1%	口径（7.9） 器高（6.1）	長石（1～2㎜）・白色石英（1㎜）・黒雲母含む	良	（内面）7.5YR6/6橙 （外面）10YR6/4にぶい黄橙	（内面）ナデ （外面）斜～縦方向ハケ	
第42図	345	26上	D－1	黒色粘土層	弥生土器	壷	口縁部	1%	口径（6.7） 器高（3.3）	1㎜大の長石・白色石英・3㎜大の礫含む	良	（内外面）10YR8/3浅黄橙	（内面）ナデ （外面）縦方向ハケ？	
第42図	346	26上	D－2	黒色粘土層	弥生土器	壷	口縁部	3%	口径（7.9） 器高（4.25）	長石・微細透明石英・砂粒微量含む	良	（内外面）10YR6/3にぶい黄橙	（内面）ナデ （外面）縦方向ハケ	

挿図番号	図版番号	写真図版番号	遺構グリッド	層位	種別	器種	部位	残存率	法量（cm）	胎土	焼成	色調	調整技法・施文	備考
第42図	347	19	C－1	黒色粘土層	弥生土器	壺	口縁～頸部	15%	口径 4.3 器高 (5.5)	1㎜大の長石含む・砂粒多く含む	良	(内面) 10YR8/2灰白 (外面) 10YR8/4浅黄橙	(内面) ナデ (外面) ハケ後ナデ	
第42図	348	26上	D－2	黒色粘土層	弥生土器	高坏	脚部？	5%	器高 (5.1)	1～2㎜大の長石・白色石英・黒雲母・微細透明石英含む	良	(内面) N4/0灰 (外面) 10R5/4赤褐	(内面) ナデ (外面) ヘラヘラミガキ	赤彩
第42図	349	26上	C－1	黒色粘土層	弥生土器	壺	口縁～頸部	5%	口径 (11.92) 器高 (8.6)	1～3㎜大の礫・砂粒多く含む	良	(内面) 7.5YR8/3浅黄橙 (外面) 5YR7/4にぶい橙	(内面) ナデ (外面) 縦方向ハケ	
第42図	350	26上	C－1	黒色粘土層	弥生土器	壺	口縁部	3%	口径 (15.05) 器高 (6.0)	1㎜大の長石・白色石英含む	良	(内面) 10YR4/1褐灰 (外面) 10YR5/2灰黄褐	(内面) ナデ (外面) 不明	
第42図	351	19	D－1	黒色粘土層	弥生土器	壺	頸部	10%	器高 (4.9)	1～2㎜大の長石・白色石英多く含む	良	(内面) 10YR4/1褐灰 (外面) 10YR5/3にぶい黄褐	(内面) ナデ？ (外面) 縄文	
第42図	352	19	D－1	黒色粘土層	弥生土器	壺	頸部	15%	器高 (9.6)	1～2㎜大の長石・白色石英多く含む	良	(内面) 10YR5/2灰黄褐 (外面) 10YR6/2灰黄褐	(内面) 不明 (外面) 縄文、ヘラ描	
第42図	353	26上	C－1	黒色粘土層	弥生土器	壺	頸部	7%	器高 (5.2)	長石（1㎜）・白色石英（1～2㎜）含む	良	(内面) 10YR5/2灰黄褐 (外面) 10YR5/4にぶい黄褐	(内面) ナデ (外面) 縄文、ヘラ描	
第42図	354	26上	C－2	黒色粘土層	弥生土器	壺	頸部	7%	器高 (3.9)	1㎜大の長石・微細透明石英・砂粒含む	良	(内外面) 10R5/4赤褐	(内面) ナデ？ (外面) 縄文後ヘラ描	赤彩
第42図	355	19	D－1	黒色粘土層	弥生土器	壺	頸部	15%	器高 (8.1)	3～7.5㎜大の礫・砂粒多く含む	良	(内面) 7.5YR6/4にぶい橙 (外面) 7.5YR7/4にぶい橙	(内面) 縦方向ハケ (外面) 縦方向ヘラミガキ	
第42図	356	26上	D－2	黒色粘土層	弥生土器	壺	頸部	3%	器高 (5.9)	1㎜大の長石含む・砂粒多く含む	良	(内面) 5YR6/8橙 (外面) 10YR7/2にぶい黄橙	(内面) 不明 (外面) 縦方向ハケ後櫛描	
第42図	357	19	D－1	黒色粘土層	弥生土器	壺	口縁部～肩部	15%	口径 (8.1) 器高 (12.2)	長石（1～3㎜）・各種礫（2～4㎜）多く含む	良	(内外面) 2.5Y6/1黄灰	(内面) ナデ (外面) 縦方向ハケ後櫛描	
第42図	358	19	D－1	黒色粘土層	弥生土器	壺	口縁～胴部	20%	口径 (6.1) 器高 (11.5)	1㎜以下の長石・白色石英微量含む	良	(内外面) 2.5Y6/3にぶい黄	(内面) ナデ (外面) 櫛描	
第42図	359	26上	D－1	黒色粘土層	弥生土器	壺	胴部	3%	器高 (4.0)	1㎜大の長石・白色石英含む	良	(内面) 2.5Y6/3にぶい黄 (外面) 2.5Y5/2暗灰黄	(内面) ナデ (外面) ヘラミガキ	
第43図	360	26上	B－2	極暗褐色砂質土層	弥生土器	壺	口縁部	1%	器高 (4.3)	1㎜大の長石・白色石英含む	良	(内面) 10YR2/1黒 (外面) 7.5YR6/6橙	(内面) ナデ (外面) 条痕？	
第43図	361	26上	C－2	黒色粘土層	弥生土器	壺	口縁部	1%	器高 (4.7)	1㎜以下の長石・石英多く含む	良	(内外面) 10YR6/4にぶい黄橙	(内面) ナデ (外面) 斜方向ハケ？	
第43図	362	26上	C－1	黒色粘土層	弥生土器	壺	口縁～頸部	3%	器高 (8.1)	赤色粒子含む・1㎜以下の長石多く含む	良	(内外面) 7.5YR6/4にぶい橙	(内面) ナデ (外面) 縄文後ヘラ描、ヘラミガキ	
第43図	363	26上	D－2	黒色粘土層	弥生土器	壺	口縁部	3%	器高 (5.3)	1㎜以下の長石・石英・黒雲母多く含む	良	(内面) 10YR4/1黒褐 (外面) 10YR6/3にぶい黄橙	(内面) ナデ (外面) ハケ後櫛描、条痕	
第43図	364	26上	D－1	黒色粘土層	弥生土器	壺	口縁部	1%	器高 (3.6)	1㎜以上の長石・石英・黒雲母多く含む	良	(内面) 7.5YR4/4褐 (外面) 7.5YR6/4にぶい橙	(内面) ナデ (外面) 条痕	
第43図	365	26上	D－2	黒色粘土層	弥生土器	壺	口縁部	1%	器高 (3.7)	1㎜大の長石・白色石英・黒雲母・微細透明石英含む	良	(内外面) 10R5/6赤	(内面) ナデ (外面) 縄文後ヘラ描	赤彩
第43図	366	26上	D－2	黒色粘土層	弥生土器	壺	口縁部	1%	器高 (3.4)	1～2㎜大の長石・白色石英・黒雲母・微細透明石英含む	良	(内外面) 7.5R4/6赤	(内面) ナデ後ヘラミガキ？ (外面) 縄文後ヘラ描	赤彩
第43図	367	26上	D－2	黒色粘土層	弥生土器	壺	口縁部	1%	器高 (2.6)	2㎜以下の石粒・1㎜以下の長石多く含む	良	(内外面) 7.5YR5/4にぶい褐	(内面) ナデ (外面) ハケ後櫛描	
第43図	368	26上	A－1	極暗褐色砂質土層	弥生土器	壺	口縁～頸部	1%	器高 (3.6)	1㎜大の長石・白色石英含む	良	(内面) 10R4/2灰赤 (外面) 10R5/6赤	(内面) ナデ (外面) 斜方向ハケ	
第43図	369	26上	D－2	にぶい黄褐色砂層	弥生土器	壺	口縁～頸部	3%	器高 (4.9)	1㎜大の長石・白色石英含む	良	(内面) 10YR6/3にぶい黄橙 (外面) 10R5/6赤	(内面) 横方向ハケ後ナデ (外面) 斜方向ハケ後縄文	
第43図	370	26上	D－2	黒色粘土層	弥生土器	壺	口縁部	1%	器高 (5.7)	1㎜以下の長石・石英少量含む	良	(内面) 2.5Y3/1黒灰 (外面) 2.5Y6/2灰黄	(内面) ナデ (外面) ハケ後ヘラ描	
第43図	371	26上	D－2		弥生土器	壺	口縁部	1%	器高 (3.9)	3㎜以下の石粒多く・1㎜以下の石英少量含む	良	(内外面) 10YR7/3にぶい黄橙	(内面) ナデ (外面) 縄文	
第43図	372	26上	D－1	黒色粘土層	弥生土器	壺	口縁～頸部	7%	器高 (10.9)	3㎜以下の長石・石粒多く含む	良	(内面) 7.5YR7/3にぶい橙 (外面) 10YR6/2灰黄褐	(内面) ナデ (外面) 斜方向ハケ	
第43図	373	26下	D－1	黒色粘土層	弥生土器	壺	頸部	10%	器高 (6.5)	1～5㎜大の長石含む・赤色粒子多く含む	良	(内面) 10YR7/4にぶい黄橙 (外面) 5YR6/6橙	(内面) 横方向ハケ後ナデ (外面) 縄文後ヘラ描、ヘラミガキ	
第43図	374	26下	D－2	黒色粘土層	弥生土器	壺	肩部	5%	器高 (4.3)	長石（微細～3㎜）少量含む	良	(内面) 7.5YR6/6橙 (外面) 7.5YR6/3にぶい褐	(内面) ナデ (外面) 縄文後ヘラ描、ナデ？	
第43図	375	26下	D－1	黒色粘土層	弥生土器	壺	頸部	3%	器高 (6.6)	1㎜以下の長石・石英・黒雲母多く含む	良	(内面) 2.5Y6/2灰黄 (外面) 10YR4/1褐灰	(内面) 不明 (外面) 縄文後ヘラ描	

挿図番号	図版番号	写真図版番号	遺構グリッド	層位	種別	器種	部位	残存率	法量（cm）	胎土	焼成	色調	調整技法・施文	備考
第43図	376	26下	D－1	黒色粘土層	弥生土器	壺	頸部	3%	器高 (6.7)	1㎜以下の長石・黒雲母・礫多く含む	良	(内面) 2.5Y6/2灰黄 (外面) 10YR4/1褐灰	(内面) 不明 (外面) 縄文後ヘラ描	
第43図	377	26下	D－1	黒色粘土層	弥生土器	壺	頸部	1%	器高 (6.1)	1㎜以下の長石・石英・黒雲母多く含む	良	(内面) 2.5Y6/2灰黄 (外面) 10YR4/1褐灰	(内面) 不明 (外面) 縄文後ヘラ描	
第43図	378	26下	D－2	明黄褐色砂礫層	弥生土器	壺	頸部	1%	器高 (5.5)	長石（1～2㎜）・白色石英（1～3㎜）・黒雲母多く含む	良	(内面) 10YR6/2灰黄褐 (外面) 10YR5/2灰黄褐	(内面) ナデ (外面) 縄文後ヘラ描	
第43図	379	26下	D－2	明黄褐色砂礫層	弥生土器	壺	頸部	3%	器高 (5.6)	1～2㎜大の長石・白色石英多く・微細透明石英含む	良	(内面) 10YR4/1褐灰 (外面) 10YR3/1黒褐	(内面) ナデ (外面) 縄文後ヘラ描	
第43図	380	26下	D－2	明黄褐色砂礫層	弥生土器	壺	頸部	1%	器高 (2.8)	1㎜大の長石・白色石英・黒雲母・微細透明石英含む	良	(内面) 10YR5/2灰黄褐 (外面) 10YR4/1褐灰	(内面) ナデ (外面) 縄文後ヘラ描	
第43図	381	26下	D－2	明黄褐色砂礫層	弥生土器	壺	頸部？	1%	器高 (3.5)	1㎜大の長石・白色石英・微細透明石英含む	良	(内面) 10YR4/1褐灰 (外面) 10YR3/1黒褐	(内面) ナデ (外面) 縄文後ヘラ描	
第43図	382	26下	D－2	明黄褐色砂礫層	弥生土器	壺	頸部	1%	器高 (4.0)	1㎜大の長石・白色石英・黒雲母・微細透明石英含む	良	(内面) 10YR6/2灰黄褐 (外面) 10YR5/2灰黄褐	(内面) ナデ (外面) 縄文後ヘラ描	
第43図	383	26下	D－1	黒色粘土層	弥生土器	壺	頸部	1%	器高 (4.1)	1㎜以下の長石・石英・黒雲母多く含む	良	(内外面) 10YR5/3にぶい黄褐	(内面) ナデ (外面) 縄文後ヘラ描	
第43図	384	26下	D－1	明黄褐色砂礫層	弥生土器	壺	肩部	3%	器高 (2.7)	1㎜大の長石・白色石英・微細透明石英含む	良	(内面) 10YR6/2灰黄褐 (外面) 10YR5/1褐灰	(内面) ナデ (外面) 縄文後ヘラ描	
第43図	385	26下	D－1	明黄褐色砂礫層	弥生土器	壺	頸部？	1%	器高 (2.6)	1㎜大の長石・白色石英多く・黒雲母・微細透明石英含む	良	(内面) 7.5YR5/4にぶい褐 (外面) 10YR5/3にぶい黄褐	(内面) ナデ (外面) 縄文後ヘラ描、ナデ	
第43図	386	26下	D－1	明黄褐色砂礫層	弥生土器	壺	胴部	1%	器高 (3.4)	1㎜大の長石・白色石英多く・黒雲母・微細透明石英含む	良	(内面) 10YR7/3にぶい黄橙 (外面) 10YR4/1褐灰	(内面) ナデ (外面) 縄文後ヘラ描	
第43図	387	26下	D－1	明黄褐色砂礫層	弥生土器	壺	胴部	1%	器高 (3.9)	1㎜大の長石・白色石英・黒雲母・微細透明石英含む	良	(内面) 10YR6/3にぶい黄橙 (外面) 10YR5/2灰黄褐	(内面) ナデ (外面) 縄文後ヘラ描、ヘラケズリ	
第43図	388	26下	D－1	黒色粘土層	弥生土器	壺	頸部	1%	器高 (3.75)	1㎜以下の長石・石英・黒雲母少量含む	良	(内外面) 2.5Y5/3黄褐	(内面) 不明 (外面) 縄文後ヘラ描	
第43図	389	26下	D－1	明黄褐色砂礫層	弥生土器	壺	頸部	1%	器高 (3.2)	1㎜大の長石・白色石英・黒雲母・微細透明石英含む	良	(内面) 10YR5/1褐灰 (外面) 10YR2/1黒	(内面) ナデ (外面) 縄文後ヘラ描、ナデ	
第43図	390	26下	D－1	黒色粘土層	弥生土器	壺	頸部	1%	器高 (5.2)	長石（1㎜以下）・石英（3㎜以下）多く含む	良	(内外面) 10YR3/2黒褐	(内面) ナデ (外面) 縄文後ヘラ描、ヘラミガキ	
第43図	391	26下	D－1	黒色粘土層	弥生土器	壺	頸部	1%	器高 (3.55)	1㎜以下の石英・長石・石粒・黒雲母多く含む	良	(内面) 10YR4/1褐灰 (外面) 10YR3/1黒褐	(内面) 不明 (外面) 縄文後ヘラ描、ナデ？	
第43図	392	26下	D－1	黒色粘土層	弥生土器	壺	頸部	3%	器高 (4.9)	1㎜以下の長石・石英・石粒多く含む	良	(内外面) 2.5Y3/1黒褐	(内面) 不明 (外面) 縄文後ヘラ描、ナデ	
第43図	393	26下	D－1	黒色粘土層	弥生土器	壺	頸部	1%	器高 (3.3)	1㎜以下の長石・石英・黒雲母・石粒多く含む	良	(内外面) 10YR4/2灰黄褐	(内面) ナデ (外面) 縄文後ヘラ描、ナデ	
第43図	394	26下	D－1	黒色粘土層	弥生土器	壺	頸部	1%	器高 (3.1)	1㎜以下の長石・石英・礫多く含む	良	(内面) 2.5Y4/1黄灰 (外面) 2.5Y3/1黒褐	(内面) ナデ (外面) 縄文後ヘラ描、ナデ	
第43図	395	26下	不明		弥生土器	壺	胴部	3%	器高 (6.2)	3.5㎜大の砂礫・砂粒多く含む	良	(内面) N4/0灰 (外面) 7.5YR6/3にぶい褐	(内面) 不明 (外面) 縄文、横方向ハケ？	
第44図	396	26下	C－1	黒色粘土層	弥生土器	壺	頸部	1%	器高 (3.1)	1㎜以下の長石・石英多く含む	良	(内外面) 10YR6/3にぶい黄橙	(内面) ナデ (外面) ヘラ描	
第44図	397	26下	D－1	黒色粘土層	弥生土器	壺	頸部	1%	器高 (2.7)	1㎜以下の長石・石英・黒雲母多く含む	良	(内外面) 10YR6/3にぶい黄橙	(内面) ナデ (外面) 縄文後ヘラ描	
第44図	398	26下	D－1	明黄褐色砂礫層	弥生土器	壺	胴部	1%	器高 (4.7)	長石（1㎜）・白色石英（1～2㎜）・微細透明石英含む	良	(内面) N3/0暗灰 (外面) 2.5YR4/3にぶい赤褐	(内面) ナデ (外面) 縄文後ヘラ描	
第44図	399	26下	C－2	黒色粘土層	弥生土器	壺	頸部	1%	器高 (3.2)	長石（3㎜以下）・石英・黒雲母（1㎜以下）多く含む	良	(内面) 2.5Y6/2灰黄 (外面) 10YR3/1黒褐	(内面) ナデ (外面) 縄文後ヘラ描	
第44図	400	26下	D－1	黒色粘土層	弥生土器	壺	頸部	1%	器高 (3.2)	1㎜以下の長石・石英・黒雲母・礫多く含む	良	(内面) 10YR5/4にぶい黄橙 (外面) 10YR4/1褐灰	(内面) ナデ (外面) ヘラ描	
第44図	401	26下	D－1	明黄褐色砂礫層	弥生土器	壺	頸部？	1%	器高 (3.7)	1㎜大の長石・白色石英多く・微細透明石英含む	良	(内面) 10YR6/3にぶい黄橙 (外面) 10YR3/1黒褐	(内面) ナデ (外面) ヘラ描	
第44図	402	26下	D－1	明黄褐色砂礫層	弥生土器	壺	胴部	1%	器高 (3.2)	1㎜大の長石・白色石英・微細透明石英含む	良	(内面) 5YR5/3にぶい赤褐 (外面) 10YR6/3にぶい黄橙	(内面) ナデ (外面) ヘラ描	
第44図	403	26下	D－1	黒色粘土層	弥生土器	壺	頸部	1%	器高 (3.6)	1㎜以下の長石・石英・黒雲母多く含む	良	(内外面) 10YR5/3にぶい黄褐	(内面) ナデ (外面) 縄文後ヘラ描	
第44図	404	26下	C－1	黒色粘土層	弥生土器	壺	頸部	1%	器高 (2.7)	1㎜以下の砂粒多く・1㎜以下の長石少量含む	良	(内外面) 2.5Y7/2灰黄	(内面) 不明 (外面) ヘラ描	

挿図番号	図版番号	写真図版番号	遺構グリッド	層位	種別	器種	部位	残存率	法量（cm）	胎土	焼成	色調	調整技法・施文	備考
第44図	405	26下	C－1	黒色粘土層	弥生土器	壺	肩部	1%	器高（3.9）	1㎜以下の長石多く含む	良	（内面）7.5YR6/4にぶい橙 （外面）5YR6/6橙	（内面）ナデ （外面）縄文後ヘラ描	
第44図	406	26下	C－1	黒色粘土層	弥生土器	壺	肩部	1%	器高（4.3）	1㎜以下の長石・石英多く含む	良	（内外面）10YR6/4にぶい黄橙	（内面）ナデ？ （外面）縄文後ヘラ描、ヘラミガキ	
第44図	407	26下	D－1	黒色粘土層	弥生土器	壺	胴部	1%	器高（4.6）	1㎜以下の長石・石英・黒雲母少量含む	良	（内外面）2.5Y5/3黄褐	（内面）不明 （外面）縄文後ヘラ描	
第44図	408	26下	C－1	黒色粘土層	弥生土器	壺	肩部	1%	器高（3.8）	1㎜以下の長石多く含む	良	（内外面）7.5YR6/4にぶい橙	（内面）ナデ （外面）ヘラ描、ヘラミガキ	
第44図	409	26下	D－2	明黄褐色砂礫層	弥生土器	壺	肩部	1%	器高（2.9）	1㎜大の長石・白色石英・3㎜大の礫含む	良	（内面）10YR4/1褐灰 （外面）10YR5/2灰黄褐	（内面）ナデ （外面）ヘラ描	
第44図	410	26下	D－2	明黄褐色砂礫層	弥生土器	壺	胴部	1%	器高（2.8）	長石（1～2㎜）・白色石英（1～3㎜）多く・微細透明石英含む	良	（内面）10YR7/2にぶい黄橙 （外面）10YR4/2灰黄褐	（内面）ナデ （外面）縄文後ヘラ描	
第44図	411	26下	D－2	明黄褐色砂礫層	弥生土器	壺	胴部	1%	器高（3.5）	長石（1㎜）・白色石英（1～2㎜）・微細透明石英含む	良	（内面）10YR5/2灰黄褐 （外面）10YR4/1褐灰	（内面）ナデ （外面）ナデ後ヘラ描	
第44図	412	26下	D－2	明黄褐色砂礫層	弥生土器	壺	胴部	1%	器高（3.1）	1㎜大の長石・白色石英・微細透明石英含む	良	（内面）10YR6/3にぶい黄橙 （外面）10YR5/2灰黄褐	（内面）ナデ （外面）ヘラ描	
第44図	413	26下	D－2	明黄褐色砂礫層	弥生土器	壺	胴部	3%	器高（5.5）	長石（1㎜）・白色石英（1～4㎜）・黒雲母・微細透明石英含む	良	（内面）10YR5/3にぶい黄橙 （外面）10YR5/2灰黄褐	（内面）ナデ （外面）ナデ後ヘラ描	
第44図	414	26下	D－2	黒色粘土層	弥生土器	壺	頸部	1%	器高（3.1）	1㎜大の長石・白色石英・黒雲母・微細透明石英含む	良	（内外面）10R5/6赤	（内面）ナデ （外面）縄文後ヘラ描	赤彩
第44図	415	26下	D－2	にぶい黄褐色砂層	弥生土器	壺	胴部	1%	器高（3.2）	1㎜大の長石・白色石英・黒雲母・微細透明石英含む	良	（内面）10YR6/2灰黄褐 （外面）10YR4/1褐灰	（内面）ナデ？ （外面）縄文後ヘラ描	
第44図	416	26下	D－2	明黄褐色砂礫層	弥生土器	壺	肩部	1%	器高（3.4）	1㎜大の長石・白色石英・微細透明石英含む	良	（内面）10YR8/3浅黄橙 （外面）7.5YR6/4にぶい橙	（内面）ナデ （外面）縄文後ヘラ描、ナデ	
第44図	417	26下	D－2	明黄褐色砂礫層	弥生土器	壺	頸部	1%	器高（5.2）	1～2㎜大の長石・白色石英多く・黒雲母・微細透明石英含む	良	（内面）10YR6/2灰黄褐 （外面）5YR6/3にぶい橙	（内面）ナデ （外面）縄文後ヘラ描、ナデ	
第44図	418	27上	D－2	黒色粘土層	弥生土器	壺	頸部～肩部	1%	器高（5.2）	砂粒多く・1～3㎜大の長石含む	良	（内外面）5YR6/8橙	（内面）ナデ （外面）縄文後ヘラ描、ヘラミガキ	
第44図	419	27上	D－2	明黄褐色砂礫層	弥生土器	壺	頸部	3%	器高（6.9）	1㎜大の長石・白色石英・黒雲母・微細透明石英含む	良	（内面）10YR5/1褐灰 （外面）10YR5/2灰黄褐	（内面）ナデ （外面）縄文後ヘラ描	
第44図	420	27上	D－2	黒色粘土層	弥生土器	壺	肩部	3%	器高（4.6）	2㎜以下の長石・黒雲母多く含む	良	（内面）10YR6/3にぶい黄橙 （外面）7.5YR6/3にぶい褐	（内面）ハケ後ナデ （外面）ハケ後縄文、ヘラ描	
第44図	421	27上	D－2	黒色粘土層	弥生土器	壺	肩部	3%	器高（5.1）	2㎜以下の長石・石粒多く・1㎜以下の石英少量含む	良	（内外面）10YR6/2灰黄褐	（内面）ナデ （外面）ハケ後縄文、ヘラ描	
第44図	422	27上	D－1	黒色粘土層	弥生土器	壺	胴部	3%	器高（6.2）	1㎜以下の長石多く含む	良	（内面）10YR4/2灰黄褐 （外面）10YR3/1黒褐	（内面）ナデ （外面）縄文後ヘラ描、ヘラミガキ	
第44図	423	27上	C－2	黒色粘土層	弥生土器	壺	頸部	1%	器高（5.2）	1㎜以下の長石・石英多く含む	良	（内面）10YR3/1黒褐 （外面）10YR4/2灰黄褐	（内面）ナデ （外面）縄文後ヘラ描	
第44図	424	27上	C－2東トレンチ内の溝		弥生土器	壺	頸部	5%	器高（4.8）	長石（2㎜以下）・石英（1㎜以下）多く含む	良	（内面）2.5Y4/1黄灰 （外面）10YR4/2灰黄褐	（内面）ナデ （外面）縄文後ヘラ描	
第44図	425	27上	D－1	黒色粘土層	弥生土器	壺	胴部	1%	器高（7.1）	1㎜以下の金雲母・長石多く含む	良	（内面）2.5Y3/1黒褐 （外面）2.5Y4/2暗灰黄	（内面）ナデ （外面）縄文後ヘラ描、ヘラミガキ	
第44図	426	27上	D－1	黒色粘土層	弥生土器	壺	胴部	1%	器高（3.4）	1㎜以下の長石・石英多く含む	良	（内面）2.5Y4/2暗灰黄 （外面）10YR2/1黒	（内面）ナデ （外面）縄文後ヘラ描、ナデ？	
第44図	427	27上	D－1	黒色粘土層	弥生土器	壺	胴部	1%	器高（4.55）	1㎜以下の長石・石英・礫多く含む	良	（内外面）2.5Y3/1黒褐	（内面）不明 （外面）縄文後ヘラ描、ナデ？	
第44図	428	27上	D－1	黒色粘土層	弥生土器	壺	頸部	1%	器高（3.8）	黒雲母多く含む・1㎜以下の長石・石英含む	良	（内外面）10YR4/2灰黄褐	（内面）ナデ （外面）縄文後ヘラ描	
第44図	429	27上	D－1	黒色粘土層	弥生土器	壺	頸部	1%	器高（4.2）	1㎜以下の長石・石英・黒雲母多く含む	良	（内外面）10YR6/3にぶい黄橙	（内面）ナデ （外面）縄文後ヘラ描	
第44図	430	27上	D－1	黒色粘土層	弥生土器	壺	頸部	1%	器高（2.8）	1㎜以下の長石・石英・黒雲母多く含む	良	（内面）10YR5/3にぶい黄褐 （外面）10YR3/2黒褐	（内面）ナデ （外面）縄文後ヘラ描	
第44図	431	27上	D－1	黒色粘土層	弥生土器	壺	頸部	1%	器高（2.4）	1㎜以下の長石・石英・黒雲母多く含む	良	（内面）10YR6/3にぶい黄橙 （外面）10YR3/1黒褐	（内面）ナデ （外面）ヘラ描	
第44図	432	27上	D－1	明黄褐色砂礫層	弥生土器	壺	胴部？	1%	器高（4.6）	1㎜大の長石・白色石英含む	良	（内面）7.5YR7/4にぶい橙 （外面）7.5YR6/6橙	（内面）ナデ （外面）縄文後ヘラ描	
第44図	433	27上	D－2	にぶい黄褐色砂層	弥生土器	壺	胴部	1%	器高（3.5）	1㎜大の長石・白色石英含む	良	（内面）7.5YR7/3にぶい橙 （外面）7.5YR5/3にぶい褐	（内面）ナデ （外面）ヘラ描？	

挿図番号	図版番号	写真図版番号	遺構グリッド	層位	種別	器種	部位	残存率	法量（cm）	胎土	焼成	色調	調整技法・施文	備考
第44図	434	27上	D－2	黒色粘土層	弥生土器	壷	肩部	1%	器高 (3.3)	1～3㎜大の石英多く・1㎜以下の雲母少量含む	良	(内面) 10YR4/2灰黄褐 (外面) 7.5YR4/2灰褐	(内面) 不明 (外面) ヘラミガキ後ヘラ描	
第44図	435	27上	D－2	明黄褐色砂礫層	弥生土器	壷	頸部	1%	器高 (1.6)	長石（1～3㎜）・白色石英（1㎜）・黒雲母・微細透明石英含む	良	(内面) 10YR6/4にぶい黄橙 (外面) 10YR6/3にぶい黄橙	(内面) ナデ (外面) 縄文後ヘラ描	
第44図	436	27上	D－2	黒色粘土層	弥生土器	壷	頸部	1%	器高 (4.8)	1㎜以下の長石・石英多く含む	良	(内面) 10YR3/1黒褐 (外面) 10YR5/3にぶい黄褐	(内面) ナデ (外面) 縄文後ヘラ描	
第44図	437	27上	D－2	黒色粘土層	弥生土器	壷	頸部	1%	器高 (3.4)	2㎜以下の石粒多く・1㎜以下の石英・赤色粒子少量含む	良	(内面) 7.5YR7/3明褐灰 (外面) 2.5Y7/2灰黄	(内面) ナデ (外面) 縄文後ヘラ描？	
第44図	438	27上	D－2	黒色粘土層	弥生土器	壷	頸部	1%	器高 (4.5)	1㎜以下の長石・石英多く含む	良	(内面) 2.5Y7/2灰黄 (外面) 10YR6/4にぶい黄橙	(内面) 不明 (外面) 縦方向ハケ後櫛描？	
第44図	439	27上	D－2	黒色粘土層	弥生土器	壷	胴部	1%	器高 (3.9)	長石（微細～2㎜）・微細透明石英微量含む	良	(内外面) 5YR5/4にぶい赤褐	(内面) ナデ (外面) 条痕？	
第44図	440	27上	D－1	黒色粘土層	弥生土器	壷	胴部	3%	器高 (4.6)	2㎜以下の石英・石粒多く・1㎜以下の黒雲母少量含む	良	(内外面) 10YR6/2灰黄褐	(内面) ナデ (外面) ヘラミガキ後ヘラ描	
第44図	441	27上	D－2	黒色粘土層	弥生土器	壷	頸部	1%	器高 (4.2)	砂粒多く・1㎜大の長石微量含む	良	(内外面) 2.5YR6/8橙	(内面) ナデ (外面) ヘラ描	
第44図	442	27上	D－1	黒色粘土層	弥生土器	壷	胴部	3%	器高 (6.2)	1㎜大の長石・赤色粒子・砂粒含む	良	(内外面) 5YR6/6橙	(内面) ナデ (外面) ヘラ描	
第44図	443	27上	D－1	黒色粘土層	弥生土器	壷	胴部	1%	器高 (3.95)	1㎜大の長石・黒雲母・砂粒含む	良	(内外面) 7.5YR6/3にぶい褐	(内面) 不明 (外面) ヘラ描	
第44図	444	27上	D－2	黒色粘土層	弥生土器	壷	肩部	1%	器高 (3.2)	1㎜大の長石・白色石英・微細透明石英・黒色ガラス質粒子含む	良	(内面) 7.5YR6/3にぶい褐 (外面) 10R5/6赤	(内面) 不明 (外面) ナデ後ヘラ描？	赤彩
第44図	445	27上	D－1	黒色粘土層	弥生土器	壷	肩部	1%	器高 (3.9)	1㎜以下の長石・石英・黒雲母少量含む	良	(内面) 10YR6/2灰黄褐 (外面) 10YR6/3にぶい黄橙	(内面) 横方向ハケ (外面) 櫛描流水文	
第44図	446	27上	C－1	黒色粘土層	弥生土器	壷	胴部	1%	器高 (3.7)	1㎜以下の長石・石英・黒雲母・礫多く含む	良	(内面) 2.5Y5/3にぶい黄褐 (外面) 2.5Y3/1黒褐	(内面) ナデ (外面) 櫛描流水文？	
第45図	447	27上	C－1	黒色粘土層	弥生土器	壷	胴部	1%	器高 (4.6)	1㎜以下の長石・石英多く含む	良	(内外面) 7.5YR6/6橙	(内面) ナデ (外面) ヘラ描	
第45図	448	27上	D－1	暗灰色粘土層	弥生土器	壷	肩部？	3%	器高 (5.65)	1㎜大の長石・白色石英含む	良	(内面) 10YR7/2にぶい黄橙 (外面) 10YR6/3にぶい黄橙	(内面) ナデ (外面) ヘラ描	
第45図	449	27上	D－1	暗灰色粘土層	弥生土器	壷	肩部？	1%	器高 (4.7)	1㎜大の長石・白色石英含む	良	(内面) 7.5YR7/4にぶい橙 (外面) 7.5YR6/3にぶい褐	(内面) ナデ (外面) ヘラ描	
第45図	450	27上	D－1s	黒色粘土層	弥生土器	壷	肩部？	5%	器高 (7.4)	2㎜以下の長石・黒雲母・1㎜以下の石英多く含む	良	(内外面) 7.5YR6/6橙	(内面) ナデ (外面) ナデ後ヘラ描	
第45図	451	27下	D－1	黒色粘土層	弥生土器	壷	胴部	7%	器高 (7.75)	1㎜大の長石・白色石英含む	良	(内面) 10YR7/2にぶい黄橙 (外面) 7.5YR8/3淡黄橙	(内面) 横方向ハケ後ナデ (外面) 斜方向ハケ後櫛描？	
第45図	452	27下	D－1	黒色粘土層	弥生土器	壷	胴部	5%	器高 (5.8)	2㎜大の赤色粒子・砂粒・礫多く含む	良	(内外面) 10YR7/2にぶい黄橙	(内面) 横方向ハケ (外面) 斜～縦方向ハケ後櫛描？	
第45図	453	27下	C－1	黒色粘土層	弥生土器	壷	胴部	1%	器高 (2.6)	1㎜大の長石・微細透明石英・赤色粒子含む	良	(内面) 10YR6/4にぶい黄橙 (外面) 10R4/4赤褐	(内面) ナデ後ヘラミガキ？ (外面) 縄文後櫛描？	赤彩
第45図	454	27下	C－2	黒色粘土層	弥生土器	壷	肩部	1%	器高 (3.2)	1㎜大の長石・白色石英・黒雲母・微細透明石英含む	良	(内面) 10YR6/2灰黄褐 (外面) 10R5/6赤	(内面) 不明 (外面) ナデ後櫛描	赤彩
第45図	455	27下	C－1	黒色粘土層	弥生土器	壷	胴部	3%	器高 (6.1)	3㎜以下の石粒多く・1㎜以下の長石少量含む	良	(内面) 2.5Y7/2灰黄 (外面) 10YR7/3にぶい黄橙	(内面) ナデ？ (外面) 縦方向ハケ後櫛描	
第45図	456	27下	D－2	黒色粘土層	弥生土器	壷	胴部	3%	器高 (7.2)	微細白色石英・長石微量含む	良	(内面) N5/0灰 (外面) 10YR7/2にぶい黄橙	(内面) ナデ (外面) 縦～斜方向ハケ後櫛描	
第45図	457	27下	D－2	黒色粘土層	弥生土器	壷	胴部	3%	器高 (3.3)	1㎜大の長石・白色石英・微細透明石英含む	良	(内面) 10YR7/2にぶい黄橙 (外面) 10R5/4赤褐	(内面) 不明 (外面) 縄文後ヘラ描	赤彩
第45図	458	27下	C－1	黒色粘土層	弥生土器	壷	胴部	3%	器高 (4.6)	1㎜以下の長石・石英・黒雲母多く含む	良	(内面) 2.5Y4/1黄灰 (外面) 7.5YR6/4にぶい橙	(内面) ナデ (外面) 櫛描	
第45図	459	27下	C－2	黒色粘土層	弥生土器	壷	頸部	3%	器高 (6.7)	2㎜以下の石粒多く・1㎜以下の長石少量含む	良	(内面) 7.5Y6/1灰 (外面) 7.5YR7/4にぶい橙	(内面) ナデ (外面) ヘラ描	
第45図	460	27下	D－1	明黄褐色砂礫層	弥生土器	壷	胴部	1%	器高 (3.0)	1㎜大の長石・砂粒含む	良	(内面) 10YR4/1褐灰 (外面) 10YR5/3にぶい黄褐	(内面) 横方向ハケ (外面) 櫛描	
第45図	461	27下	D－1	明黄褐色砂礫層	弥生土器	壷	胴部	1%	器高 (3.7)	1㎜大の長石・白色石英・微細透明石英含む	良	(内面) 7.5YR6/6橙 (外面) 10YR6/2灰黄褐	(内面) ナデ (外面) ヘラミガキ後櫛描	
第45図	462	27下	D－1	黒色粘土層	弥生土器	壷	胴部	1%	器高 (3.4)	2㎜以下の石粒多く・1㎜以下の長石・石英・赤色粒子少量含む	良	(内面) 5Y7/1灰白 (外面) 2.5Y6/2灰黄	(内面) 横方向ハケ (外面) ヘラミガキ後櫛描	

挿図番号	図版番号	写真図版番号	遺構グリッド	層位	種別	器種	部位	残存率	法量（cm）	胎土	焼成	色調	調整技法・施文	備考
第45図	463	27下	D－2	黒色粘土層	弥生土器	壺	肩部	3%	器高 (3.6)	長石（1～2㎜）・白色石英（1㎜）・4㎜大の礫含む	良	(内面) 10YR6/3にぶい黄橙 (外面) 7.5R4/4にぶい赤	(内面) 不明 (外面) ナデ後ヘラ描	赤彩
第45図	464	27下	C－1	黒色粘土層	弥生土器	壺	肩部	1%	器高 (2.65)	1㎜大の白色石英・長石含む	良	(内外面) 10YR5/3にぶい黄褐	(内外面) 不明	
第45図	465	27下	D－2 北東集水マス東面	黒褐色砂層	弥生土器	壺	肩～胴部	3%	器高 (5.5)	長石・白色石英（微細～3㎜）含む	良	(内外面) 10YR5/3にぶい黄褐	(内外面) ナデ	
第45図	466	27下	D－1	黒色粘土層	弥生土器	壺	肩部	3%	器高 (3.7)	2㎜以下の長石・石粒多く・1㎜以下の黒雲母少量含む	良	(内外面) 10YR6/3にぶい黄橙	(内面) ナデ (外面) 縄文後ヘラ描	
第45図	467	27下	D－1	黒色粘土層	弥生土器	壺	胴部	3%	器高 (3.6)	1㎜大の長石・白色石英・微細透明石英含む	良	(内面) 10YR8/2灰白 (外面) 10R5/6赤	(内面) ナデ？ (外面) 縄文後ヘラ描	赤彩
第45図	468	27下	D－2	黒色粘土層	弥生土器	壺	胴部	1%	器高 (3.7)	1㎜以下の長石・白色石英微量含む	良	(内面) 7.5Y5/1灰 (外面) 7.5YR7/4にぶい橙	(内面) ナデ (外面) 縄文後ヘラ描	
第45図	469	27下	C－1	黒色粘土層	弥生土器	壺	肩部	3%	器高 (4.3)	1㎜以下の長石・石英・黒雲母多く含む	良	(内面) 10YR6/3にぶい黄橙 (外面) 10YR3/1黒褐	(内面) 横方向ハケ (外面) 縄文後ヘラ描	
第45図	470	27下	D－1	黒色粘土層	弥生土器	壺	胴部	3%	器高 (5.35)	1㎜大の長石・白色石英含む	良	(内外面) 10YR6/2灰黄褐	(内面) ナデ (外面) ナデ後ヘラ描	
第45図	471	27下	D－1	黒色粘土層	弥生土器	壺	胴部	1%	器高 (4.15)	3㎜以下の石粒多く・1㎜以下の長石・石英少量含む	良	(内面) 10YR7/3にぶい黄橙 (外面) 7.5YR6/4にぶい橙	(内面) 不明 (外面) ナデ後ヘラ描	
第45図	472	27下	D－1	黒色粘土層	弥生土器	壺	胴部	1%	器高 (3.7)	1㎜以下の長石・石英・黒雲母少量含む	良	(内面) 2.5Y6/3にぶい黄 (外面) 7.5YR7/4にぶい橙	(内面) ナデ (外面) 縦方向ハケ後ヘラ描	
第45図	473	27下	D－2	明黄褐色砂礫層	弥生土器	壺	胴部	1%	器高 (3.9)	1㎜大の長石・微細透明石英・砂粒含む	良	(内面) 10YR5/1褐灰 (外面) 10YR4/1褐灰	(内面) 不明 (外面) 縦方向ハケ後櫛描	
第45図	474	27下	D－1s	黒色粘土層	弥生土器	壺	肩部	1%	器高 (4.8)	3㎜以下の長石・石粒多く・1㎜以下の石英・橙色粒子少量含む	良	(内外面) 10YR7/3にぶい黄橙	(内面) ナデ？ (外面) ヘラミガキ後櫛描	
第45図	475	27下	D－1	黒色粘土層	弥生土器	壺	肩部	7%	器高 (6.25)	3㎜以下の石粒多く・1㎜以下の長石・石英少量含む	良	(内外面) 2.5Y7/2灰黄	(内面) ナデ (外面) 櫛描	
第45図	476	27下	D－1	黒色粘土層	弥生土器	壺	肩部	5%	器高 (8.3)	3㎜以下の長石・石粒多く・1㎜以下の石英少量含む	良	(内外面) 5YR6/3にぶい橙	(内面) 横方向ハケ後ナデ (外面) 櫛描	
第45図	477	27下	C－2 東トレンチ内の溝		弥生土器	壺	胴部	1%	器高 (3.8)	1㎜以下の長石・石英・黒雲母多く含む	良	(内外面) 7.5YR6/6橙	(内面) ナデ (外面) ヘラ描	
第45図	478	27下	C－2	黒色粘土層	弥生土器	壺	胴部	1%	器高 (3.2)	1㎜以下の長石・石英多く含む	良	(内外面) 2.5YR4/2暗灰黄	(内面) ナデ (外面) ヘラ描	
第45図	479	27下	D－2	黒色粘土層	弥生土器	壺	肩部	1%	器高 (5.4)	長石（1～3㎜）・白色石英（1～2㎜）・3㎜大の黒色ガラス質含む	良	(内面) 10YR5/3にぶい黄褐 (外面) 10YR4/2灰黄褐	(内面) ナデ (外面) 縦方向ハケ後ヘラ描	
第45図	480	27下	D－2	明黄褐色砂礫層	弥生土器	壺	頸部？	1%	器高 (4.4)	1㎜大の長石・白色石英多く・黒雲母・微細透明石英含む	良	(内面) 10YR3/1黒褐 (外面) 10YR5/1褐灰	(内面) ナデ (外面) 櫛描？	
第46図	481	19	B－2	極暗褐色砂質土層	弥生土器	甕	口縁～胴部	60%	口径 (27.1) 器高 (23.1)	1㎜大の長石・白色石英含む	良	(内面) 7.5YR7/3にぶい橙 (外面) 7.5YR6/3にぶい褐	(内面) ナデ (外面) ナデ後ヘラ描羽状文	
第46図	482	19	D－2	黒色粘土層	弥生土器	甕	口縁～胴部	15%	口径 (30.2) 器高 (20.6)	1～3㎜大の長石・白色石英・4㎜大の礫含む	良	(内面) 10YR6/3にぶい黄橙 (外面) 10YR5/1褐灰	(内面) ナデ (外面) 斜方向ハケ後ヘラ描羽状文	
第46図	483	19	B－2	極暗褐色砂質土層	弥生土器	甕	口縁部	10%	口径 (22.16) 器高 (6.2)	砂粒・5㎜大の礫多く含む	良	(内面) 10R6/4にぶい赤橙 (外面) 2.5YR6/3にぶい橙	(内面) 横方向ハケ？ (外面) 斜方向ハケ	
第46図	484	28上	D－1	黒色粘土層	弥生土器	甕	口縁部	5%	口径 (17.6) 器高 (5.7)	1～2㎜大の長石・白色石英少量・礫多く含む	良	(内外面) 5YR7/6橙	(内面) 不明 (外面) 縦方向ハケ	
第46図	485	28上	C－2 東トレンチ内の溝		弥生土器	甕	口縁部	3%	器高 (5.1)	1㎜大の白色石英・長石含む	良	(内面) 7.5YR6/3にぶい褐 (外面) 10YR2/1黒	(内面) 横方向ハケ後ナデ (外面) 斜方向条痕	
第46図	486	28上	D－1	黒色粘土層	弥生土器	甕	口縁部	7%	器高 (5.2)	1㎜大の長石・白色石英・3㎜大の礫含む	良	(内面) 10YR7/4にぶい黄橙 (外面) 10YR3/1黒褐	(内面) ナデ (外面) 縦方向ハケ	
第46図	487	28上	D－1	黒色粘土層	弥生土器	甕	口縁部	3%	器高 (6.1)	1㎜大の長石・白色石英含む	良	(内外面) 10YR4/1褐灰	(内面) 横方向ハケ後ナデ (外面) 縦方向ハケ	
第46図	488	28下	D－2	黒色粘土層	弥生土器	甕	口縁部	1%	器高 (3.5)	1㎜大の長石・白色石英含む	良	(内面) 10YR7/2にぶい黄褐 (外面) 10YR5/2灰黄褐	(内面) 横方向ハケ (外面) 縦方向ハケ	
第46図	489	28上	D－1	黒色粘土層	弥生土器	甕	口縁部	3%	器高 (5.25)	長石（1～2㎜）・透明石英（微細～1㎜）含む	良	(内面) 7.5YR5/4にぶい褐 (外面) 10YR3/1黒褐	(内面) 横方向ハケ (外面) 斜方向ハケ	
第46図	490	28上	D－1	黒色粘土層	弥生土器	甕	口縁部	1%	器高 (3.8)	1㎜大の長石・白色石英含む	良	(内外面) 5YR5/4にぶい赤褐	(内面) 斜方向ハケ後ナデ (外面) 縦方向ハケ	

挿図番号	図版番号	写真図版番号	遺構グリッド	層位	種別	器種	部位	残存率	法量（cm）	胎土	焼成	色調	調整技法・施文	備考
第46図	491	28上	D－1	黒色粘土層	弥生土器	甕	口縁部	1%	器高 (3.8)	1㎜大の長石・微細透明石英含む	良	(内面) 7.5YR5/2灰褐 (外面) 7.5YR6/2灰褐	(内外面) 斜方向条痕	
第46図	492	28上	D－2	明黄褐色砂礫層	弥生土器	甕	口縁部	1%	器高 (3.6)	微細透明石英・1㎜大の長石・白色石英含む	良	(内面) 5YR6/4にぶい橙 (外面) 5YR6/6橙	(内面) 斜方向ハケ後ナデ (外面) 斜方向ハケ	
第46図	493	28上	D－1	黒色粘土層	弥生土器	甕	口縁部	1%	器高 (3.55)	1㎜大の長石・白色石英含む	良	(内面) 7.5YR5/2灰褐 (外面) 10YR3/1黒褐	(内面) ナデ (外面) ナデ後櫛描	
第46図	494	28上	D－2	黒色粘土層	弥生土器	甕	口縁部	1%	器高 (3.4)	1㎜大の長石・白色石英含む	良	(内外面) 5YR5/3にぶい赤褐	(内面) ナデ？ (外面) 斜方向条痕	
第46図	495	28上	D－1	黒色粘土層	弥生土器	甕	口縁部	1%	器高 (3.15)	1㎜大の長石・白色石英含む	良	(内面) 5YR5/4にぶい赤褐 (外面) 10YR4/1褐灰	(内面) ナデ (外面) 横～斜方向条痕	
第46図	496	28上	D－2		弥生土器	甕	口縁部	1%	器高 (3.7)	1㎜大の長石・白色石英含む	良	(内面) 5YR7/6橙 (外面) 7.5YR6/2灰褐	(内面) 横方向ハケ (外面) 縦方向ハケ	
第46図	497	28上	D－1	黒色粘土層	弥生土器	甕	口縁部	5%	器高 (5.3)	長石（1㎜）・白色石英（1～2㎜）含む	良	(内面) 7.5YR7/4にぶい橙 (外面) 7.5YR5/2灰褐	(内面) 横方向ハケ後ナデ (外面) 斜方向ハケ	
第46図	498	28上	D－2	黒色粘土層	弥生土器	甕	口縁部	1%	器高 (4.3)	1㎜大の長石・白色石英含む・4㎜大の礫多く含む	良	(内面) 2.5Y7/1灰白 (外面) 2.5YR6/6橙	(内面) 横方向ハケ (外面) 斜方向ハケ	
第46図	499	28上	C－1	黒色粘土層	弥生土器	甕	口縁部	1%	器高 (5.2)	長石（1㎜）・白色石英（1～2㎜）含む	良	(内面) 10YR4/1褐灰 (外面) 5YR7/3にぶい橙	(内面) 横方向ハケ後ナデ (外面) 縦方向ハケ	
第46図	500	28上	C－1	黒色粘土層	弥生土器	甕	口縁部	1%	器高 (4.4)	1㎜大の長石・白色石英・7㎜大の礫含む	良	(内外面) 10YR7/2にぶい黄橙	(内面) 横方向ハケ (外面) 斜方向ハケ	
第46図	501	28上	D－2	明黄褐色砂礫層	弥生土器	甕	口縁部	1%	器高 (3.7)	黒雲母・1㎜大の長石・白色石英含む	良	(内面) 10YR6/2灰黄褐 (外面) 10YR2/1黒	(内面) ナデ (外面) 斜方向条痕	
第46図	502	28上	D－2	黒色粘土層	弥生土器	甕	口縁部	1%	器高 (4.2)	1㎜大の長石・白色石英含む	良	(内外面) 10YR7/2にぶい黄橙	(内面) 横方向ハケ (外面) ハケ後櫛描？	
第46図	503	28上	D－2	明黄褐色砂礫層	弥生土器	甕	口縁部	1%	器高 (3.6)	微細透明石英・1㎜大の長石・白色石英含む	良	(内面) 7.5YR5/3にぶい褐 (外面) 7.5YR6/4にぶい橙	(内面) 横方向ハケ後ナデ (外面) 縦方向ハケ	
第47図	504	28上	D－1	明黄褐色砂礫層	弥生土器	甕	口縁～胴部	5%	器高 (9.7)	長石（1～2㎜）・白色石英（1～3㎜）含む・礫多く含む	良	(内面) 7.5YR6/6橙 (外面) N2/0黒	(内面) 櫛描羽状文、ナデ (外面) 斜方向ハケ後条痕	
第47図	505	28上	D－2	黒色粘土層	弥生土器	甕	口縁部	1%	器高 (3.1)	1～2㎜大の長石・白色石英含む	良	(内外面) 7.5YR4/1褐灰	(内面) ナデ (外面) 斜方向条痕	
第47図	506	28下	D－1	黒色粘土層	弥生土器	甕	口縁部	3%	器高 (5.3)	1㎜大の長石・白色石英含む	良	(内外面) 7.5Y3/1黒褐	(内面) ナデ (外面) 斜方向条痕	
第47図	507	28下	D－2	黒色粘土層	弥生土器	甕	口縁部	1%	器高 (4.3)	1㎜大の長石・白色石英含む	良	(内外面) 7.5YR5/3にぶい褐	(内面) ナデ (外面) 斜方向条痕	
第47図	508	28下	D－2	にぶい黄褐色砂層	弥生土器	甕	口縁部	1%	器高 (4.3)	1～2㎜大の長石多く含む	良	(内面) 7.5YR6/2灰褐 (外面) 7.5YR6/4にぶい橙	(内面) ナデ (外面) 斜方向条痕	
第47図	509	28上	D－2	黒色粘土層	弥生土器	甕	口縁部	3%	器高 (10.2)	2㎜以下の石粒多く・1㎜以下の長石少量含む	良	(内外面) 2.5Y6/2灰黄	(内面) 横方向ハケ (外面) 縦方向ハケ	
第47図	510	28下	D－2s	黒色粘土層	弥生土器	甕	口縁部	1%	器高 (4.6)	長石（1㎜）・白色石英（1～3㎜）・3㎜大の礫含む	良	(内外面) 10YR7/4にぶい黄橙	(内面) 横方向ハケ (外面) 斜方向条痕	
第47図	511	28下	D－1	明黄褐色砂礫層	弥生土器	甕	口縁部	1%	器高 (3.0)	微細透明石英・1㎜大の長石・白色石英含む	良	(内面) 10YR6/3にぶい黄橙 (外面) 5Y4/1灰	(内面) ナデ (外面) 横方向条痕	
第47図	512	28下	D－2s	黒色粘土層	弥生土器	甕	口縁部	1%	器高 (2.6)	1㎜大の長石・白色石英含む	良	(内外面) 10YR7/3にぶい黄橙	(内面) ナデ (外面) 斜方向ハケ	
第47図	513	28下	D－1	黒色粘土層	弥生土器	甕	口縁部	1%	器高 (4.5)	1㎜大の長石・白色石英含む	良	(内面) 7.5YR6/3にぶい褐 (外面) 7.5YR4/1褐灰	(内面) 横方向ハケ (外面) 縦方向ハケ後ヘラ描	
第47図	514	28下	D－1	黒色粘土層	弥生土器	甕	口縁部	1%	器高 (2.9)	1㎜大の長石・白色石英含む	良	(内外面) 7.5YR6/3にぶい褐	(内面) ナデ (外面) ナデ後ヘラ描	
第47図	515	28下	D－1	黒色粘土層	弥生土器	甕	口縁部	1%	器高 (4.0)	長石（1～3㎜）・白色石英（1㎜）含む	良	(内面) 7.5YR3/1黒褐 (外面) 7.5YR5/2灰褐	(内面) ナデ (外面) ナデ後ヘラ描	
第47図	516	28下	不明		弥生土器	甕	口縁部	1%	器高 (3.9)	1㎜大の長石・白色石英含む	良	(内面) 7.5YR5/2灰褐 (外面) 10YR5/2灰黄褐	(内面) ナデ (外面) ヘラ描	
第47図	517	28下	C－1	黒色粘土層	弥生土器	甕	口縁部	3%	器高 (6.2)	1㎜大の白色石英・長石含む	良	(内面) 10YR4/1褐灰 (外面) 7.5YR5/4にぶい褐	(内面) 板ナデ (外面) ヘラ描	
第47図	518	28下	D－1	黒色粘土層	弥生土器	甕	口縁部	3%	器高 (6.6)	1㎜大の長石・白色石英含む	良	(内面) 10YR7/2にぶい黄橙 (外面) 7.5YR6/3にぶい褐	(内面) 横方向ハケ (外面) 斜方向ハケ後ヘラ描	
第47図	519	28下	D－1	黒色粘土層	弥生土器	甕	口縁部	5%	器高 (6.4)	1㎜大の長石・白色石英含む	良	(内面) 5YR6/6橙 (外面) 7.5YR4/2灰褐	(内面) ナデ (外面) ナデ後ヘラ描	

挿図番号	図版番号	写真図版番号	遺構グリッド	層位	種別	器種	部位	残存率	法量（cm）	胎土	焼成	色調	調整技法・施文	備考
第47図	520	28下	D－2	黒色粘土層	弥生土器	甕	口縁部	1%	器高 (4.8)	1㎜大の長石・白色石英含む	良	(内外面) 10YR5/2灰黄褐	(内面) ナデ (外面) ナデ後ヘラ描	
第47図	521	28下	C－1	黒色粘土層	弥生土器	甕	口縁部	3%	器高 (4.0)	1㎜大の白色石英・長石含む	良	(内面) 10YR7/2にぶい黄橙 (外面) 10YR5/2灰黄褐	(内面) ナデ (外面) ナデ後ヘラ描	
第47図	522	28下	D－1	黒色粘土層	弥生土器	甕	口縁部	3%	器高 (4.45)	長石（1～2㎜）・白色石英（1～3㎜）含む	良	(内面) 10YR4/1褐灰 (外面) 10YR5/2灰黄褐	(内面) ナデ (外面) ナデ後ヘラ描	
第47図	523	28下	D－2		弥生土器	甕	口縁部	1%	器高 (5.1)	1㎜大の長石・透明石英少量含む	良	(内面) 7.5YR6/4にぶい橙 (外面) 7.5YR4/1褐灰	(内面) ナデ (外面) ナデ後ヘラ描	
第47図	524	28下	D－1	黒色粘土層	弥生土器	甕	胴部	1%	器高 (5.4)	1㎜大の長石・白色石英含む黒雲母多く含む	良	(内面) 10YR7/2にぶい黄橙 (外面) 10YR5/2灰黄褐	(内面) ナデ (外面) ナデ後ヘラ描	
第47図	525	28下	D－1	黒色粘土層	弥生土器	甕	口縁部	5%	器高 (7.05)	1㎜以下の長石・黒雲母・礫多く含む	良	(内外面) 10YR6/3にぶい黄橙	(内面) 横方向ハケ (外面) ハケ後櫛描	
第47図	526	28下	C－1	黒色粘土層	弥生土器	甕	頸部	3%	器高 (4.9)	長石（1～2㎜）・白色石英（1㎜）含む	良	(内面) 7.5YR6/4にぶい橙 (外面) 7.5YR4/1褐灰	(内面) ナデ (外面) 櫛描羽状文？	
第47図	527	28下	D－2	にぶい黄褐色砂層	弥生土器	甕	口縁部？	1%	器高 (4.9)	1～2㎜大の長石・微細透明石英・砂粒含む	良	(内面) 10YR6/3にぶい黄橙 (外面) 10YR4/1褐灰	(内面) ナデ (外面) ナデ後櫛描？	
第47図	528	28下	C－1	黒色粘土層	弥生土器	甕	頸部～胴部	3%	器高 (10.0)	長石（1～2㎜）・白色石英（1㎜）含む	良	(内面) 7.5YR6/4にぶい橙 (外面) 7.5Y3/1黒褐	(内面) ナデ (外面) ハケ後櫛描羽状文？	
第47図	529	28下	D－2	黒色粘土層	弥生土器	甕	胴部	3%	器高 (7.0)	1～3㎜大の長石・白色石英含む	良	(内面) 10YR4/1褐灰 (外面) 10YR5/2灰黄褐	(内面) 横方向ハケ後ナデ (外面) ナデ後ヘラ描羽状文？	
第47図	530	28下	D－1	黒色粘土層	弥生土器	甕	胴部	3%	器高 (4.1)	1㎜以下の長石・石英多く含む	良	(内外面) 10YR5/3にぶい黄褐	(内面) 横方向ハケ (外面) ハケ後櫛描	
第48図	531	29上	B－2	極暗褐色砂質土層	弥生土器		底部	5%	器高 (1.85) 底径 (5.6)	長石・微細透明石英・砂粒含む	良	(内面) 10YR7/1灰白 (外面) 10YR4/1褐灰	(内外面) ナデ	
第48図	532	29上	B－2	極暗褐色砂質土層	弥生土器		底部	10%	器高 (3.6) 底径 7.4	砂粒・3㎜大の礫多く含む	良	(内外面) 7.5YR8/3浅黄橙	(内外面) 不明	木葉痕
第48図	533	29下	C－1	黒色粘土層	弥生土器		底部	3%	器高 (6.65) 底径 (6.98)	1㎜大の長石・黒雲母含む	良	(内面) 10YR7/4にぶい黄橙 (外面) 2.5Y6/2灰黄	(内面) 不明 (外面) 縦方向ハケ	
第48図	534	29上	C－1	黒色粘土層	弥生土器		底部	10%	器高 (4.2) 底径 (8.2)	1㎜大の長石・白色石英・2～5㎜大の礫含む	良	(内面) 7.5YR7/3にぶい橙 (外面) 7.5YR7/2明褐灰	(内外面) 不明	木葉痕
第48図	535	29上	C－1	黒色粘土層	弥生土器		底部	10%	器高 (4.2) 底径 6.5	1㎜大の長石・白色石英含む	良	(内面) 7.5YR4/1褐灰 (外面) 10YR7/1灰白	(内面) 不明 (外面) 縦方向ハケ？	
第48図	536	29下	C－1	黒色粘土層	弥生土器		底部	10%	器高 (3.25) 底径 6.1	粘土粒含む・1㎜大の長石・白色石英少量含む	良	(内面) 2.5Y6/2灰黄 (外面) 10YR7/4にぶい黄橙	(内外面) 不明	
第48図	537	29下	C－1	黒色粘土層	弥生土器		底部	10%	器高 (4.1) 底径 5.0	3㎜大の礫多く含む・1㎜大の長石・白色石英少量含む	良	(内面) 5YR7/6橙 (外面) 5YR7/8橙	(内面) 横方向ハケ？ (外面) ヘラミガキ	
第48図	538	29上	C－1	黒色粘土層	弥生土器		底部	5%	器高 (3.1) 底径 (6.7)	3㎜大の礫・砂粒多く含む	良	(内面) 2.5YR6/6橙 (外面) 10YR7/2にぶい黄橙	(内面) 不明 (外面) 縦方向ハケ	
第48図	539	29下	C－1	黒色粘土層	弥生土器		底部	3%	器高 (2.2) 底径	1㎜以下の長石・石英多く含む	良	(内面) 10YR6/3にぶい黄橙 (外面) 5YR5/6明赤褐	(内面) ナデ (外面) ハケ	
第48図	540	29上	D－1	黒色粘土層	弥生土器		底部	15%	器高 (11.4) 底径 (6.55)	1～2㎜大の長石・白色石英多く含む	良	(内面) 7.5YR4/1褐灰 (外面) 7.5YR5/2灰褐	(内面) 不明 (外面) 縦方向ヘラミガキ	網代痕
第48図	541	29上	D－1	黒色粘土層	弥生土器		底部	15%	器高 (7.4) 底径 7.1	1～2㎜大の長石・白色石英含む	良	(内面) 10YR6/4にぶい黄橙 (外面) 10YR6/3にぶい黄橙	(内面) ナデ (外面) 縦方向ハケ	網代痕
第48図	542	29上	D－1s	黒色粘土層	弥生土器		底部	10%	器高 (3.6) 底径 6.5	1㎜大の長石・白色石英含む	良	(内面) 10YR6/3にぶい黄橙 (外面) 10YR6/1褐灰	(内面) 不明 (外面) 縦方向ハケ	網代痕
第48図	543	29上	D－1	黒色粘土層	弥生土器		底部	10%	器高 (3.7) 底径 7.15	長石（1㎜）・白色石英（1～2㎜）含む	良	(内面) 10YR7/3にぶい黄橙 (外面) 10YR7/2にぶい黄橙	(内面) ヘラミガキ (外面) ハケ後ヘラミガキ	木葉痕
第48図	544	29上	D－1	黒色粘土層	弥生土器		底部	15%	器高 (5.1) 底径 (8.22)	砂粒・3～8㎜大の礫多く含む	良	(内面) 5YR6/4にぶい橙 (外面) 10YR7/1灰白	(内面) 横方向ハケ (外面) 縦方向ハケ？	木葉痕
第48図	545	29上	D－1	明黄褐色砂礫層	弥生土器		底部	7%	器高 (5.1) 底径 6.05	1㎜大の長石・白色石英・黒雲母・微細透明石英含む	良	(内面) 10YR6/1褐灰 (外面) 2.5YR5/6明赤褐	(内面) ナデ (外面) ヘラミガキ？	網代痕
第48図	546	29下	D－1	黒色粘土層	弥生土器		底部	10%	器高 (4.8) 底径 (7.35)	砂粒・1～3㎜の礫多く含む	良	(内面) 10YR7/2にぶい黄橙 (外面) 5YR8/4淡橙	(内面) 不明 (外面) 縦方向ハケ	
第48図	547	29下	D－1	黒色粘土層	弥生土器		底部	10%	器高 (4.1) 底径 (6.6)	長石（1㎜）・白色石英（1～2㎜）含む	良	(内面) 7.5YR7/4にぶい橙 (外面) 7.5YR7/3にぶい橙	(内面) ナデ？ (外面) 縦方向ハケ	
第48図	548	29下	D－1	黒色粘土層	弥生土器		底部	15%	器高 (8.2) 底径 (6.4)	1㎜大の長石・白色石英含む	良	(内面) 7.5YR6/3にぶい褐 (外面) 5YR6/4にぶい橙	(内面) 横方向ハケ (外面) 縦方向ハケ	網代痕？

挿図番号	図版番号	写真図版番号	遺構グリッド	層位	種別	器種	部位	残存率	法量（cm）	胎土	焼成	色調	調整技法・施文	備考
第48図	549	29上	D－1	黒色粘土層	弥生土器		底部	10%	器高 (7.3) 底径 (6.0)	1㎜大の長石・白色石英少量・砂粒多く含む	良	(内面) 10YR7/3にぶい黄橙 (外面) 10YR7/2にぶい黄橙	(内面) 板ナデ (外面) 横～斜方向ハケ	木葉痕
第48図	550	29上	D－1	黒色粘土層	弥生土器		底部	15%	器高 (5.7) 底径 7.1	1㎜大の長石・白色石英含む	良	(内面) 5YR6/4にぶい橙 (外面) 7.5YR6/4にぶい橙	(内面) ナデ (外面) 縦方向ハケ	網代痕
第48図	551	29上	D－1	黒色粘土層	弥生土器		底部	5%	器高 (6.15) 底径 (6.3)	長石含む・砂粒・2～7㎜大の礫多く含む	良	(内面) 10YR6/1褐灰 (外面) 10YR7/2にぶい黄橙	(内面) 横方向ハケ (外面) 縦方向ハケ	木葉痕
第48図	552	29上	D－1	黒色粘土層	弥生土器		底部	7%	器高 (5.2) 底径 (8.2)	長石・白色石英・3～8㎜大の礫多く含む	良	(内面) 2.5YR4/2灰赤 (外面) 2.5YR5/6明赤褐	(内面) ナデ (外面) 不明	網代痕？
第48図	553	29上	D－1	黒色粘土層	弥生土器		底部	10%	器高 (4.7) 底径 (7.0)	長石（1～2㎜）・白色石英（1～3㎜）多く含む	良	(内面) 7.5YR7/1明褐灰 (外面) 7.5YR7/2明褐灰	(内面) ナデ (外面) 縦方向ヘラミガキ	
第48図	554	29下	D－1	黒色粘土層	弥生土器		底部	3%	器高 (4.2) 底径 (7.36)	長石・砂粒・1～3㎜大の礫含む	良	(内面) 10YR7/2にぶい黄橙 (外面) 10YR7/3にぶい黄橙	(内面) ナデ (外面) 縦方向ハケ後ナデ？	
第49図	555	29上	D－2	黒色粘土層	弥生土器		底部	5%	器高 (7.0) 底径 (5.8)	長石・微細透明石英・黒色粒子含む	良	(内外面) 5YR5/6明赤褐	(内面) ナデ (外面) 縦方向ハケ	網代痕
第49図	556	29上	D－2	黒色粘土層	弥生土器		底部	5%	器高 (3.3) 底径 7.75	長石・黒色粒子・砂粒少量含む	良	(内外面) 10YR7/3にぶい黄橙	(内面) ナデ (外面) ハケ後ナデ	木葉痕
第49図	557	29上	D－2	黒色粘土層	弥生土器		底部	5%	器高 (1.8) 底径 5.7	長石・黒色粒子・砂粒少量含む	良	(内外面) 2.5Y7/1灰白	(内面) 横方向ハケ (外面) 縦方向ハケ後ナデ	木葉痕
第49図	558	29上	D－2	明黄褐色砂礫層	弥生土器		底部	3%	器高 (2.9) 底径 (6.4)	長石（1㎜）・赤色粘土粒（6㎜）含む	良	(内面) 10YR3/1黒褐 (外面) 10YR5/2灰黄褐	(内面) ナデ (外面) 縦方向ハケ	網代痕
第49図	559	29上	D－2	黒色粘土層	弥生土器		底部	10%	器高 (4.95) 底径 6.5	長石・砂粒含む	良	(内外面) 10YR6/4にぶい黄橙	(内面) ナデ (外面) 縦方向ハケ	
第49図	560	29上	D－2	黒色粘土層	弥生土器		底部	5%	器高 (3.3) 底径 6.6	砂粒・5㎜大の礫多く含む	良	(内面) 2.5Y7/1灰白 (外面) 5YR7/6橙	(内外面) ナデ	木葉痕
第49図	561	29下	D－2	暗灰色粘土層	弥生土器		底部	10%	器高 (3.3) 底径 4.64	砂粒・3～4㎜大の礫多く含む	良	(内外面) 2.5Y6/1黄灰	(内面) 不明 (外面) 横方向ヘラミガキ後ナデ	
第49図	562	29下	D－2	黒色粘土層	弥生土器		底部	7%	器高 (5.1) 底径 5.75	長石・石英・砂粒・黒色粒子含む	良	(内面) 10YR6/3にぶい黄橙 (外面) 5YR6/6橙	(内面) ナデ (外面) 斜方向ハケ	
第49図	563	29上	D－2	黒色粘土層	弥生土器		底部	5%	器高 (5.4) 底径 (7.3)	微細長石・砂粒含む	良	(内面) 7.5YR6/4にぶい橙 (外面) 5YR5/4にぶい赤褐	(内面) ナデ (外面) 縦方向ハケ	
第49図	564	29上	D－2	明黄褐色砂礫層	弥生土器		底部	3%	器高 (3.9) 底径 (6.2)	黒雲母・1～2㎜大の長石・白色石英含む	良	(内面) 7.5YR7/6橙 (外面) 10YR5/2灰黄褐	(内面) ナデ (外面) 縦方向ハケ	木葉痕
第49図	565	29下	D－2	黒色粘土層	弥生土器		底部	3%	器高 (4.3) 底径 (5.9)	長石・砂粒含む	良	(内外面) 2.5YR5/3黄褐	(内面) ナデ (外面) 縦方向ハケ	
第49図	566	29下	D－2	黒色粘土層	弥生土器		底部	5%	器高 (3.95) 底径 (6.8)	長石・透明石英・赤色粒子・砂粒含む	良	(内外面) 7.5YR6/4にぶい橙	(内面) ナデ (外面) 斜方向ハケ	
第49図	567	29下	不明		弥生土器	台付甕	台部	3%	器高 (5.5) 底径 (8.92)	砂粒・3㎜大の礫多く含む	良	(内面) 7.5YR8/3浅黄橙 (外面) 7.5YR7/4にぶい橙	(内面) ナデ (外面) 縦方向ハケ	木葉痕
第49図	568	29下	C－1	黒色粘土層	弥生土器	台付甕	台部	3%	器高 (5.9) 底径 (6.88)	1㎜大の長石・白色石英含む	良	(内面) 2.5Y7/2灰黄 (外面) 10YR7/2にぶい黄橙	(内面) 横方向ハケ (外面) 縦方向ハケ	
第49図	569	29下	D－1	黒色粘土層	弥生土器	台付甕	台部	10%	器高 (3.5) 底径 7.2	砂質・砂粒・礫（1～6㎜）多く含む	良	(内外面) 2.5YR6/4にぶい橙	(内面) 斜方向ハケ (外面) 不明	
第49図	570	29下	D－1	黒色粘土層	弥生土器	台付甕	台部	5%	器高 (5.15) 底径 (6.6)	1～3㎜大の白色石英・砂粒多く含む	良	(内面) 10YR6/2灰黄褐 (外面) 7.5YR7/3にぶい橙	(内面) 横方向ハケ (外面) 縦方向ハケ？	
第49図	571	29下	D－2	黒色粘土層	弥生土器	台付甕	台部	12%	器高 (5.8) 底径 (8.4)	砂粒・黒色粒子・4㎜大の礫多く含む	良	(内外面) 10YR6/3にぶい黄橙	(内面) 横方向ハケ後ナデ？ (外面) 縦方向ハケ？	
第49図	572	29下	D－2	黒色粘土層	弥生土器	台付甕	台部	10%	器高 (5.0) 底径 (6.45)	砂粒・黒色粒子多く含む	良	(内外面) 10YR7/3にぶい黄橙	(内面) ナデ (外面) 縦方向ハケ？	
第49図	573	29下	C－1	黒色粘土層	弥生土器	台付甕	台部	5%	器高 (7.9) 底径 (7.6)	2～6㎜大の礫・砂粒多く含む	良	(内面) 7.5YR6/4にぶい橙 (外面) 7.5YR7/3にぶい橙	(内面) 不明 (外面) 縦方向ハケ	
第49図	574	29下	D－1	黒色粘土層	弥生土器	高坏または器台？	底部～脚部上半	10%	器高 (5.8)	1㎜大の長石・白色石英・4㎜大の礫含む	良	(内面) 5YR6/3にぶい橙 (外面) 2.5YR5/8明赤褐	(内面) ナデ (外面) 縦方向ハケ	赤彩
第49図	575	29下	C－1	黒色粘土層	弥生土器	高坏	脚部？	3%	器高 (4.8) 底径 (10.5)	1㎜大の長石・微細透明石英・砂粒含む	良	(内面) 7.5YR5/4にぶい褐 (外面) 2.5YR6/6橙	(内面) ナデ (外面) ヘラミガキ？	赤彩
第49図	576	—	D－2	黒色泥炭質粘土層	山茶碗		底部	30%	器高 (2.5) 底径 6.7	0.5㎜大の長石含む	良	(内外面) 7.5Y7/1灰白	(内外面) ヨコナデ	
第49図	577	—	B－2	極暗褐色砂質土層	灰釉陶器		底部	5%	器高 (2.6) 底径 (8.4)	1㎜大の長石含む	良	(内外面) N7/0灰白	(内外面) ヨコナデ	

2　石　　器

出土した石器の内訳は敲石18点、凹石10点、砥石21点、太型蛤刃石斧６点（うち未製品４点）、柱状片刃石斧９点（うち未製品５点）、扁平片刃石斧（完成品）19点、乳棒状磨製石斧１点、石鏃７点（うち未製品５点）、石剣１点、打製刃器４点、石錘７点（有溝石錘３点、有頭石錘４点）、石斧未製品34点である。このうち、未製品を含む石製品について全て図化を行い、その他の石材と剥片については写真図版にのみ掲載を行っている。

敲石（第50図１～第53図18）

１～18は敲石である。１・２は卵型の礫の周辺を敲いている。３は扁平な円礫の周辺全体を敲いており、一部が破損している。４は円錐形の礫の上下端を敲いている。５～７は扁平な楕円礫の下端部及び側辺を敲いており、中央部に凹みが見られる。いずれも上端部は破損している。８は扁平な台形状の自然礫の下端部を敲いている。９・10は楕円形の礫の周辺全体を敲いている。10は上下端部が剥離している。11・12は扁平な楕円礫の上下端を敲いている。13は扁平な楕円礫の側辺を敲いており、中央部に凹みが見られる。12・13は上端部を破損している。14は細長い礫の上下端部を敲いている。15～17は扁平な円礫の周囲を敲いている。18は卵形の礫の周囲を敲いており、中央部及び側面に凹みが見られる。

凹石（第54図19～第56図28）

19～28は凹石である。19～22は扁平な楕円礫の周囲を敲いており、表裏面の中央部が凹んでいる。20は左右の側面にも凹みが見られる。23・24は扁平な円礫の周囲を敲いており、中央部に凹みが見られる。25～28は扁平な円礫の中央部が凹んでおり、中央部で大きく破損している。

砥石（第56図29～第60図49）

29～42は据え置きの砥石と見られる。32を除くいずれも側面に破損が見られる。29は最大長24㎝の大型の礫の表裏面を使用しており、裏面にはススの付着が見られる。30～32は最大長15㎝程度の大型の扁平な礫の表裏面を使用している。33・35・37～39は扁平な礫の表面を使用している。34は扁平な礫の表面と側面を使用している。37は側面に敲打痕が見られる。39は表面に浅い溝が観察される。

43～49は手持ちの砥石と見られる。43は上半部側面を加工している。44は表面及び側面を使用している。45～49は薄手であり、表面もしくは表裏面を使用している。44・46は全面が研磨されている。44・47・48は下端が欠損している。46・49は側面が破損している。49は表面にススの付着が見られる。

太型蛤刃石斧（第61図50～第62図55）

50・51は太型蛤刃石斧の完形品である。表裏面・側面及び刃部に敲打痕が残り、敲石に転用されている可能性が考えられる。52～55は太型蛤刃石斧の未製品である。いずれも敲打による整形が行われており、上半部を折損している。下端部には両面からの剥離が加わっている。

柱状片刃石斧（第63図56～第64図64）

56～59は柱状片刃石斧の完形品である。各面に研磨を施し、刃部を研ぎ出している。56・57・59は使用による刃こぼれが見られる。58は上半部を折損している。60～64は未製品であり、60～63は胴部で折損している。60は刃部及び側辺に研磨が施されている。

扁平片刃石斧（第65図65～第66図83）

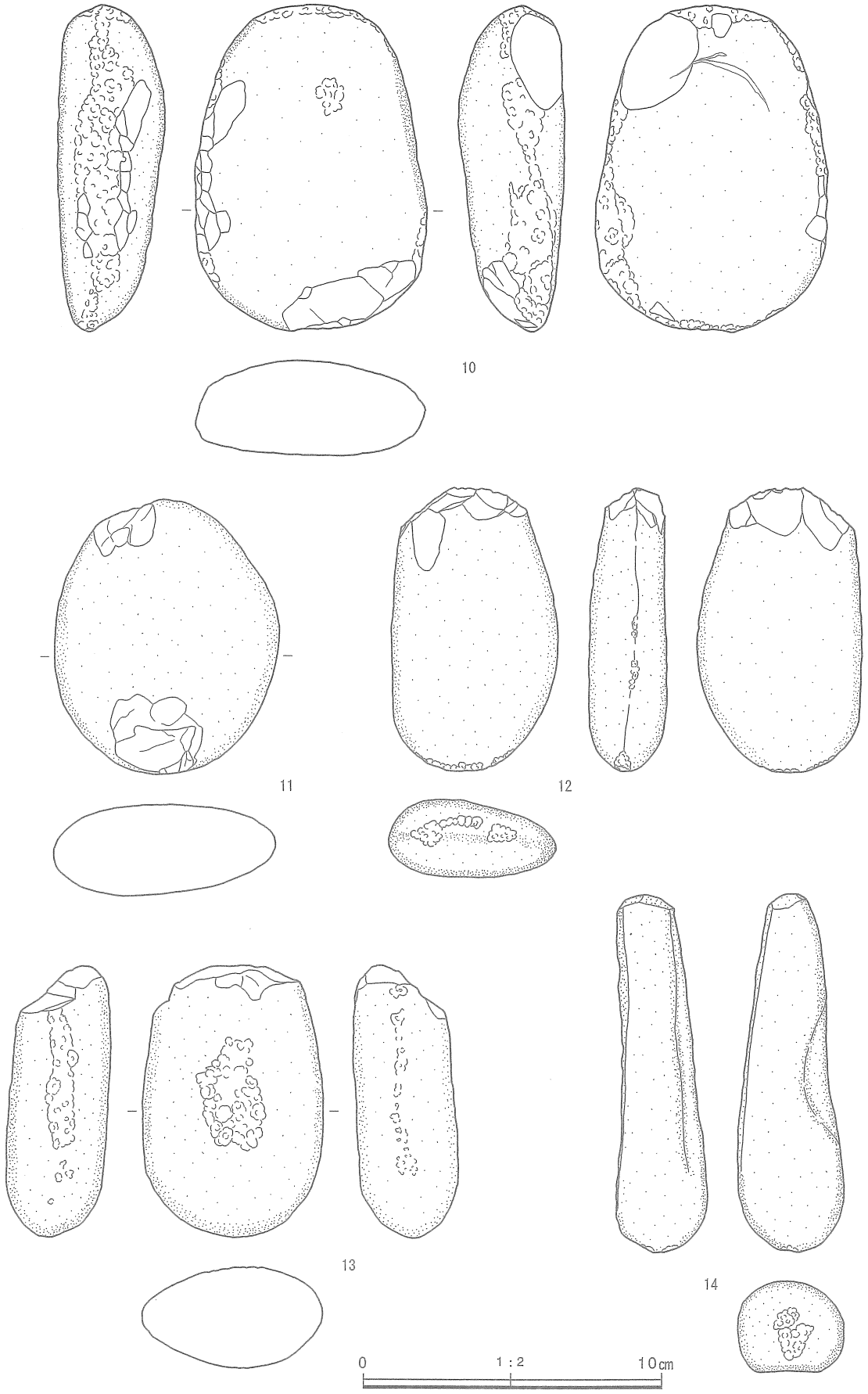
65～83は扁平片刃石斧の完形品である。全体に研磨を施し、一部に剥離面が残る。69～71・73～80は基部を折損している。65・68・72は刃部が破損している。69～71は刃こぼれが見られる。

片刃石斧未製品（第69図104～第74図137、写真図版36－138～37－180）

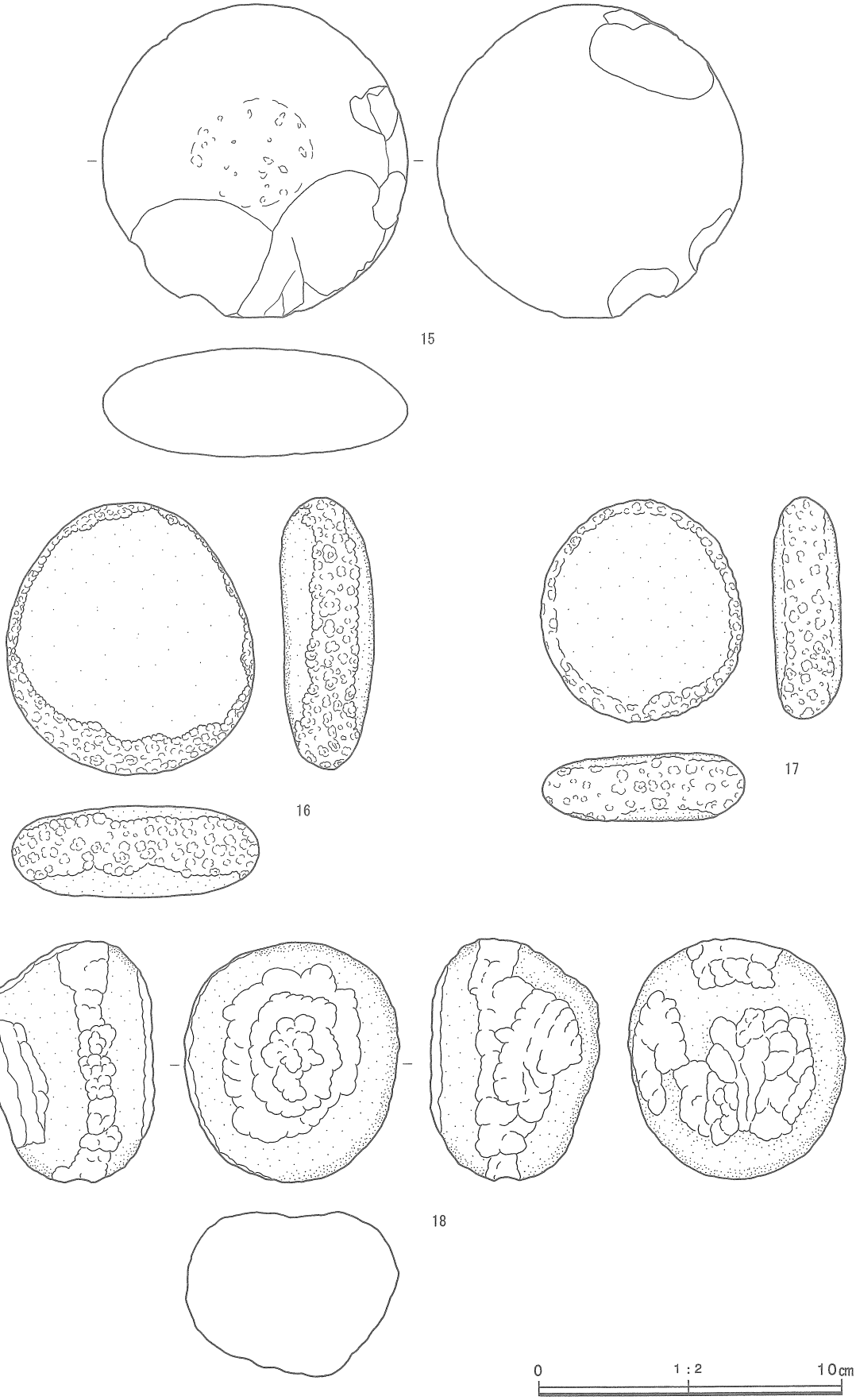
104～137は片刃石斧の未製品と見られる。116～137は石材を荒割りした段階の資料であり、一部に自然面を残す資料が多く見られる。119・125・129・131・132・134は表面及び側端の一部に研磨が施され

第50図　敲石１

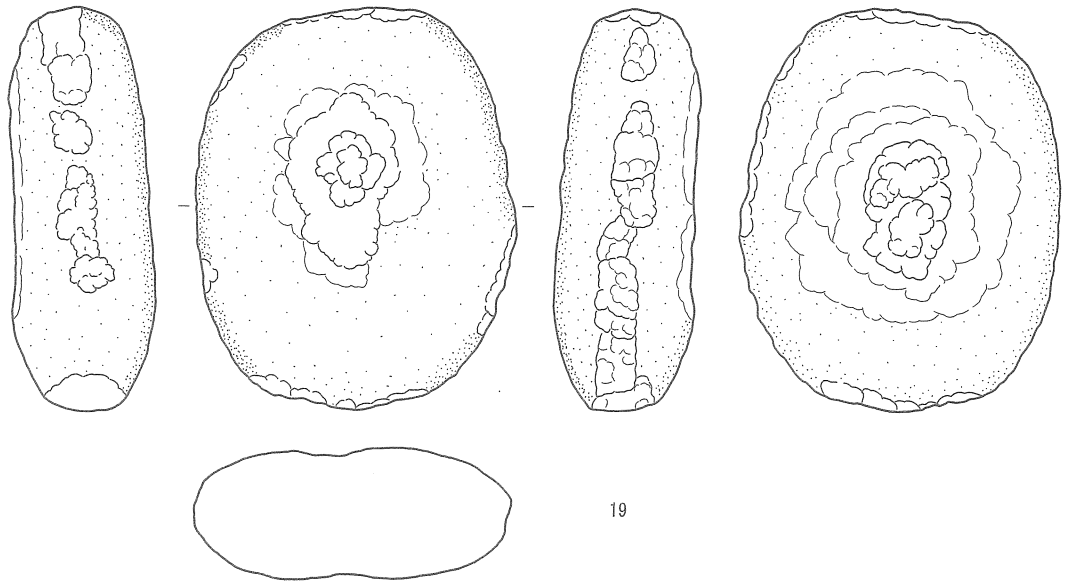
第51図　敲石２

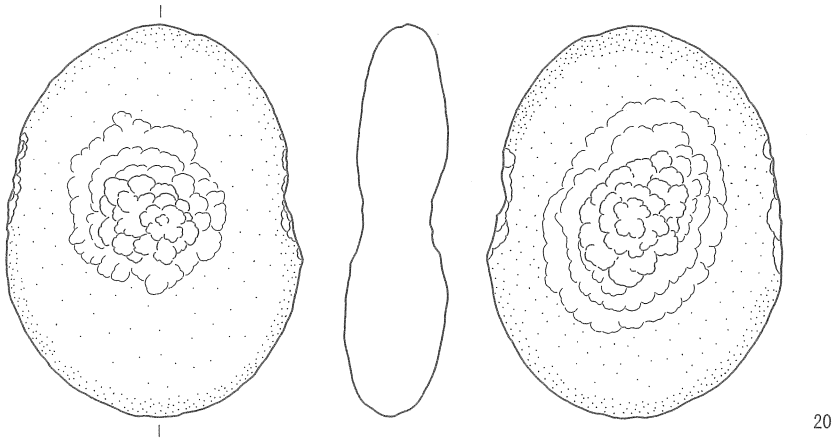


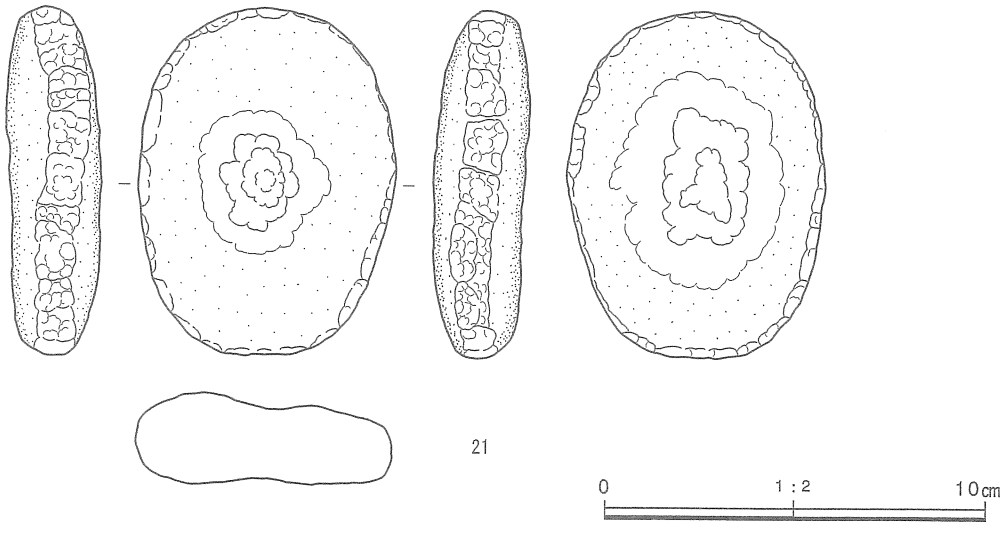
第52図　敲石３



第53図　敲石４

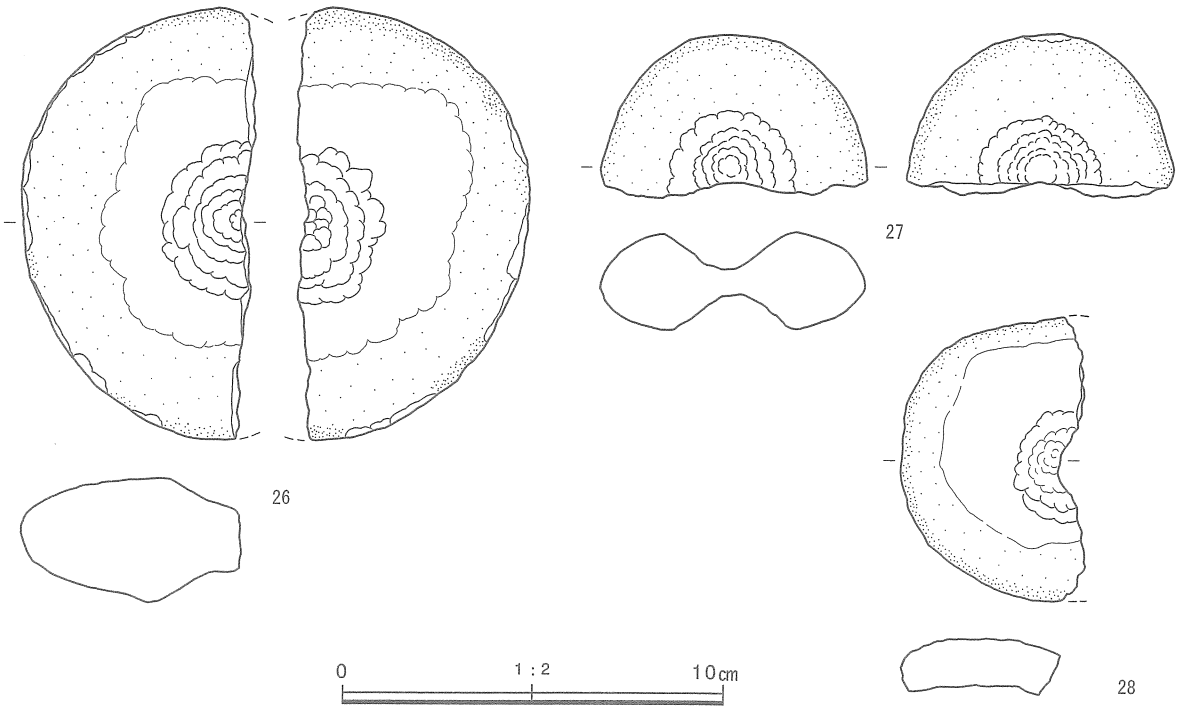


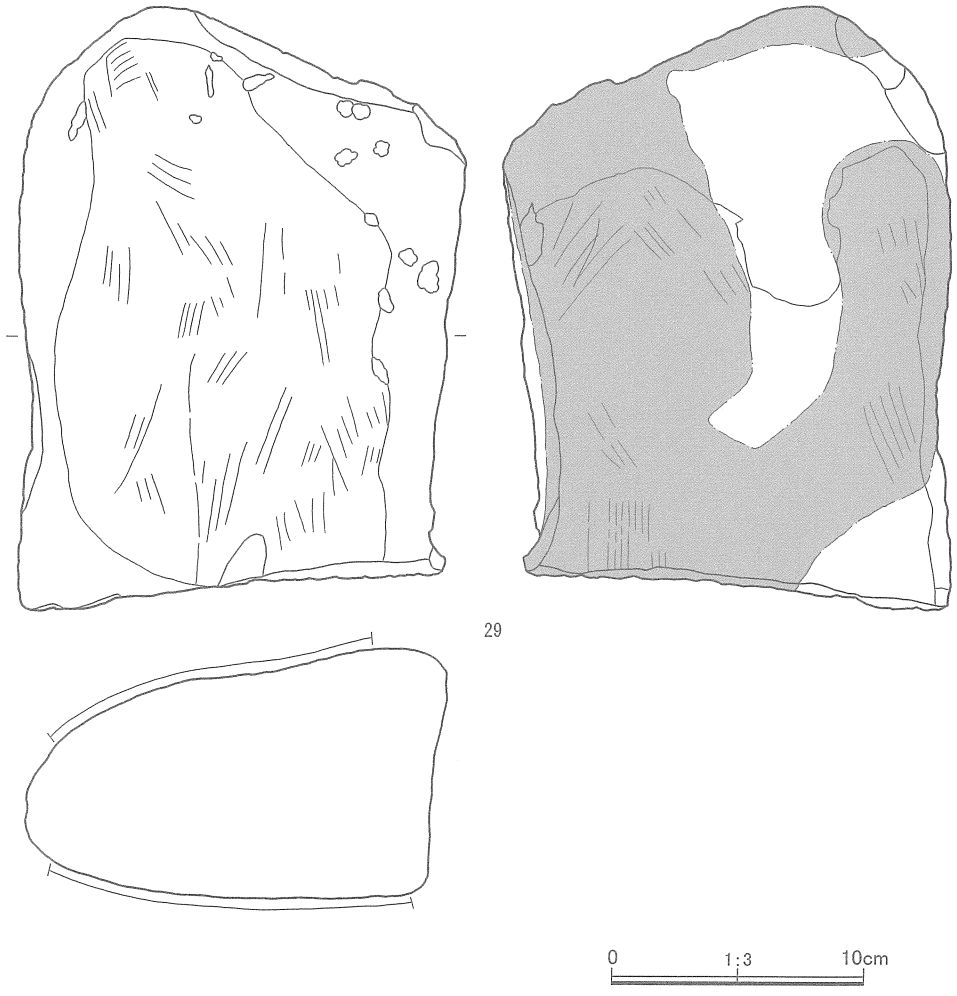




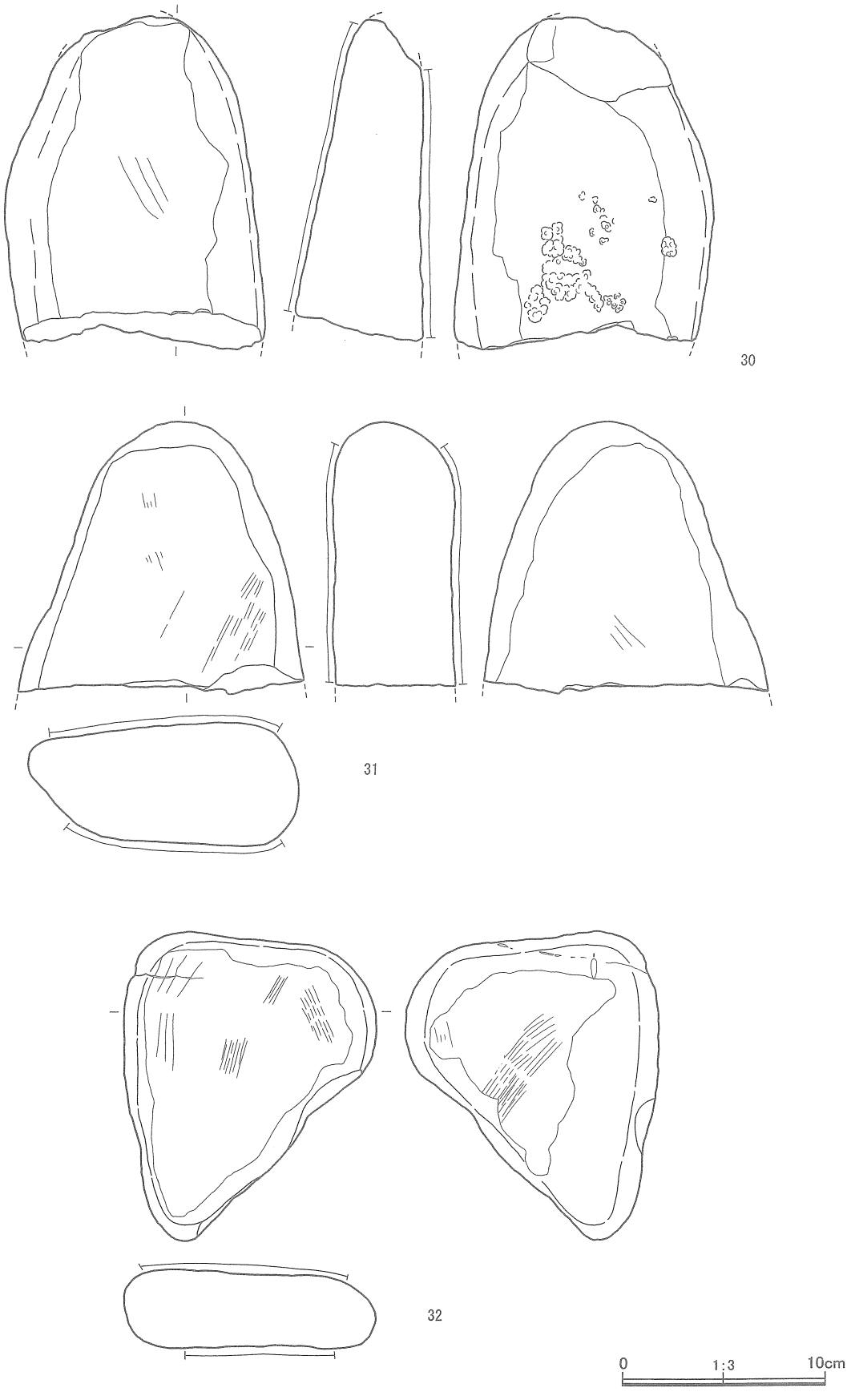
第54図　凹石１

第55図　凹石２

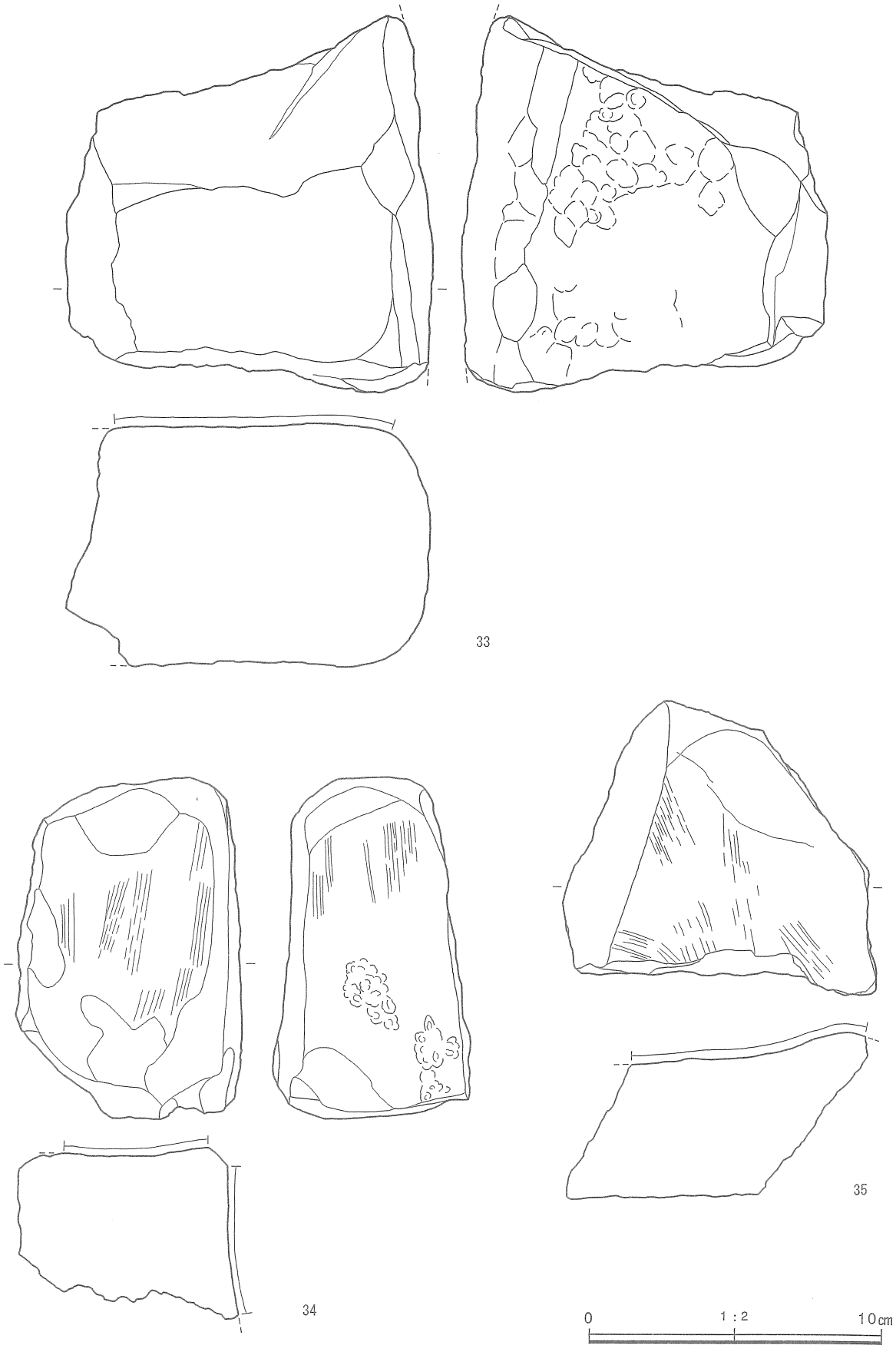




第56図　凹石３・砥石１



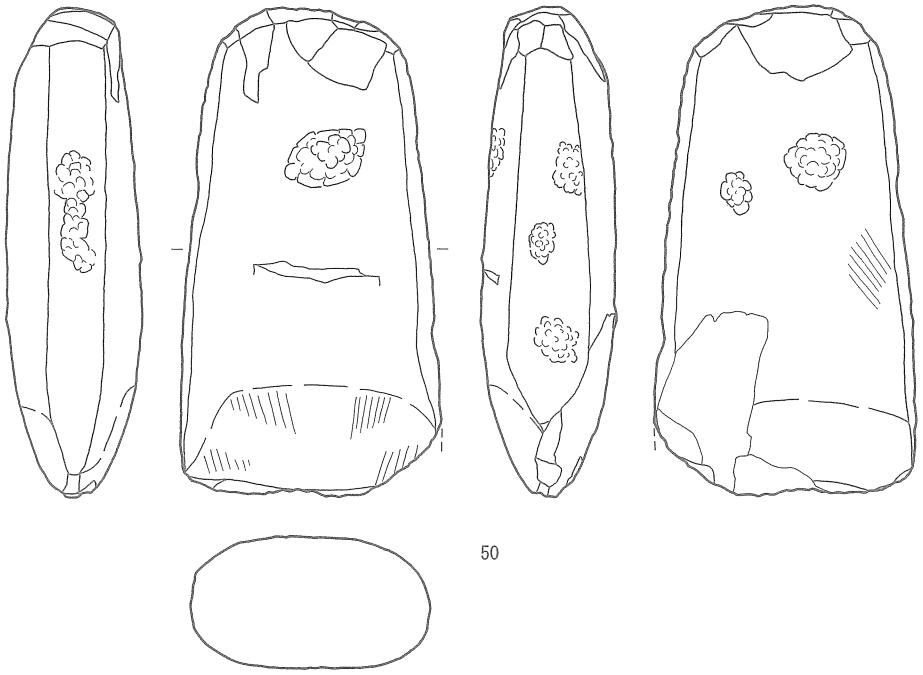
第57図　砥石２

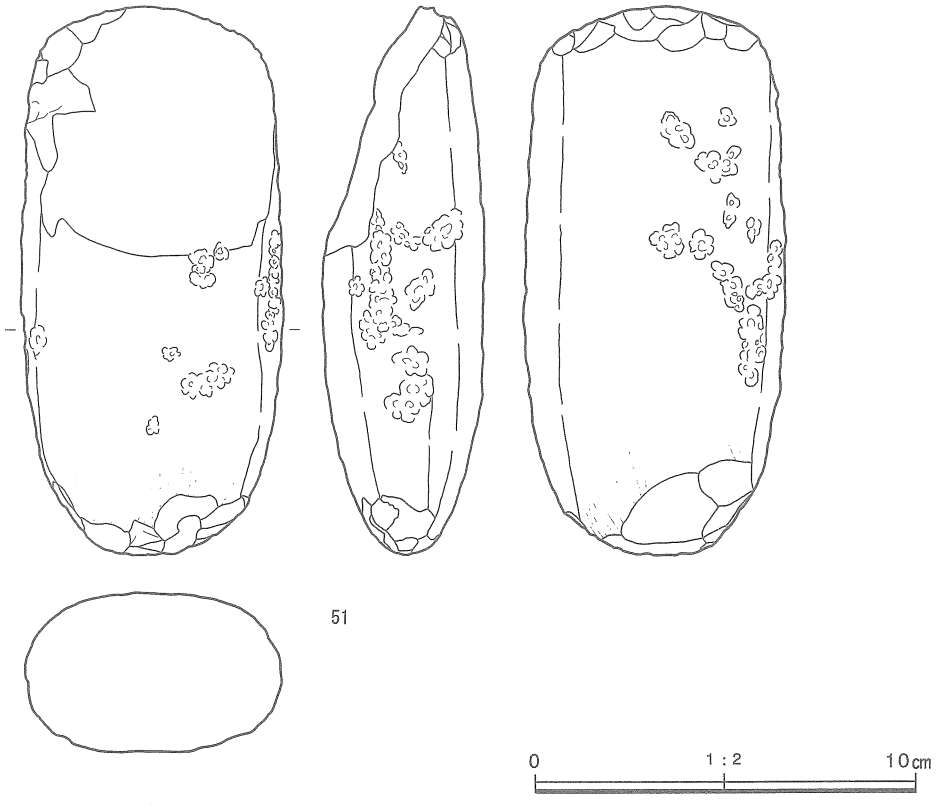


第58図　砥石３

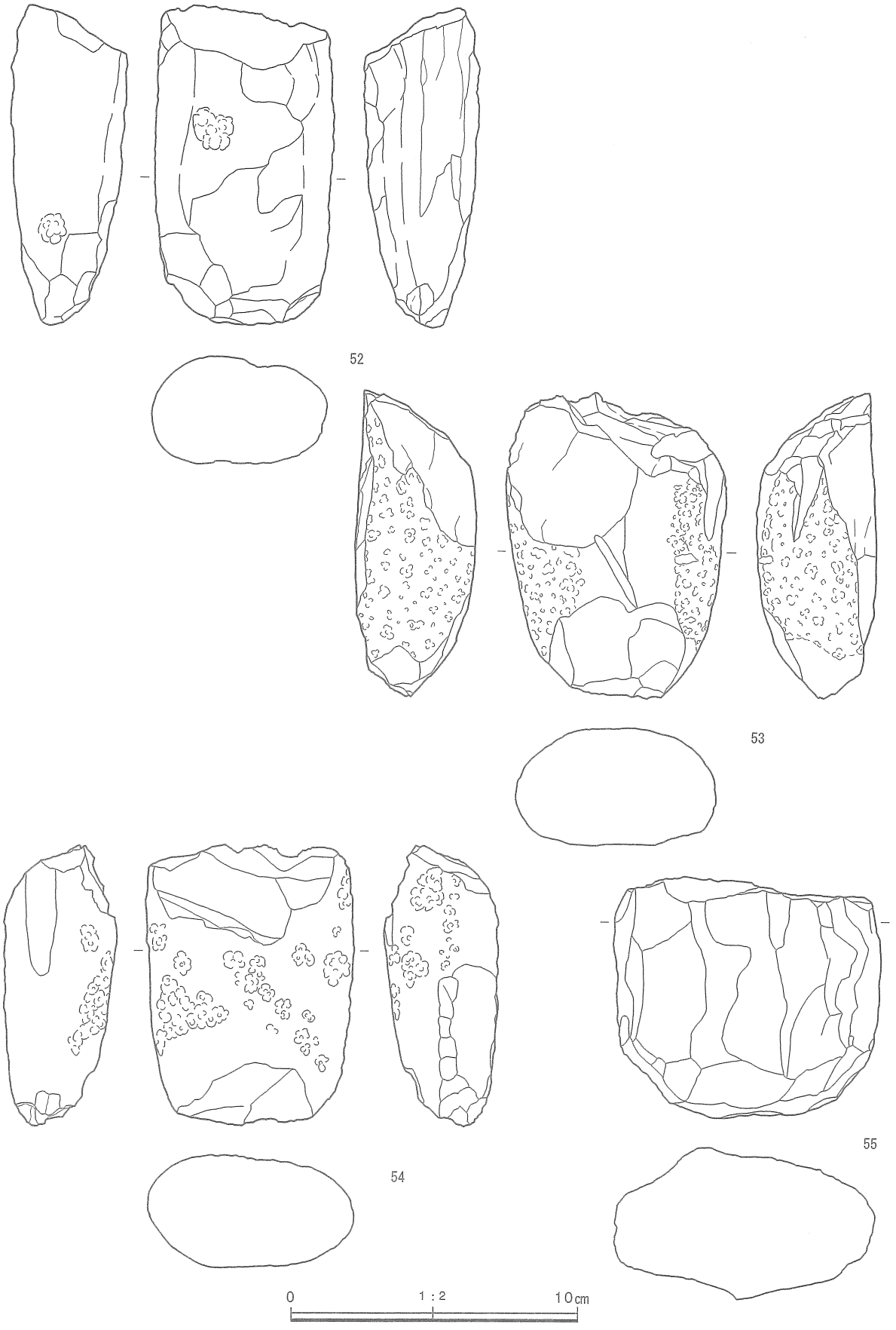
第59図　砥石４

第60図　砥石５

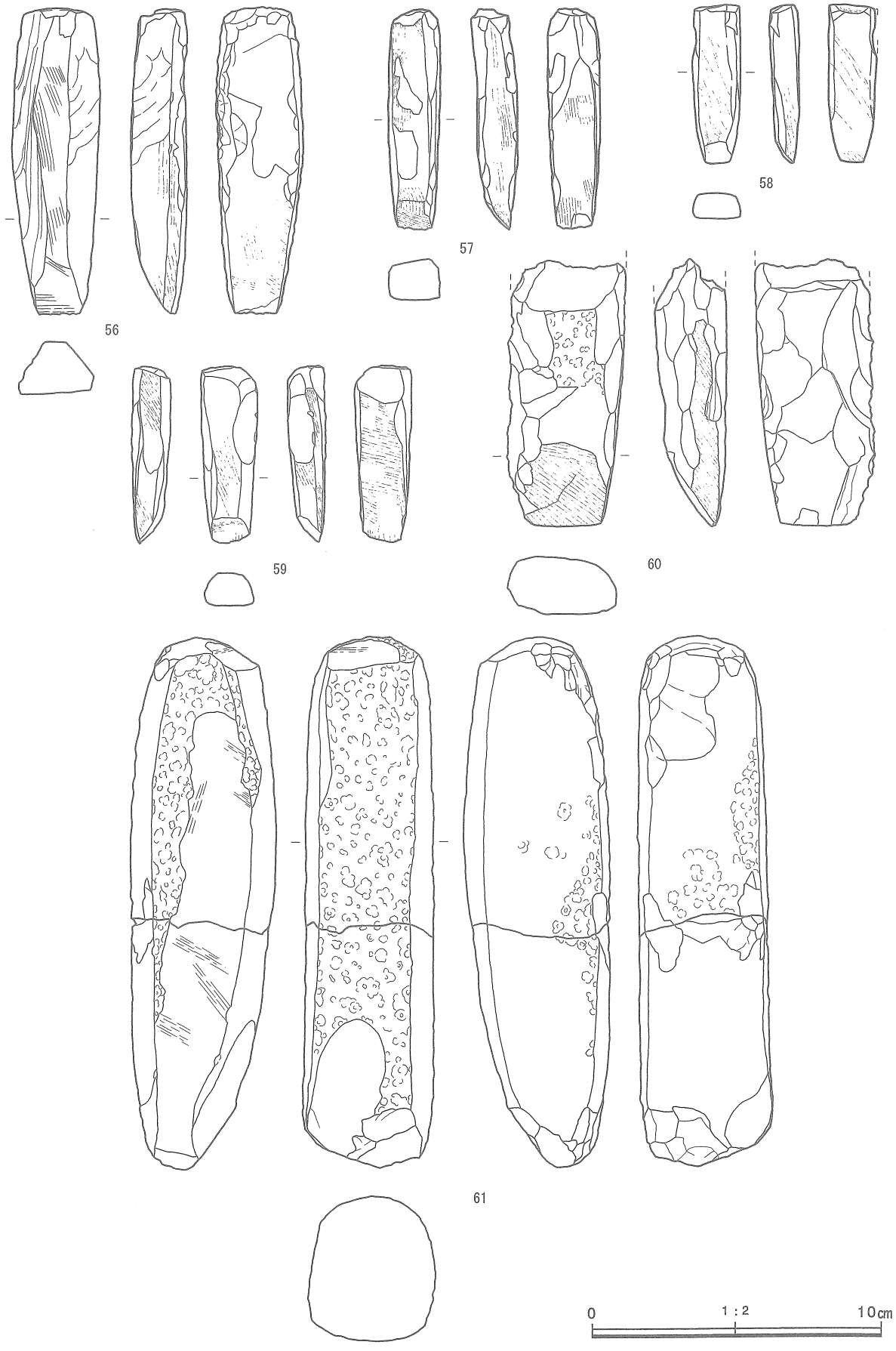




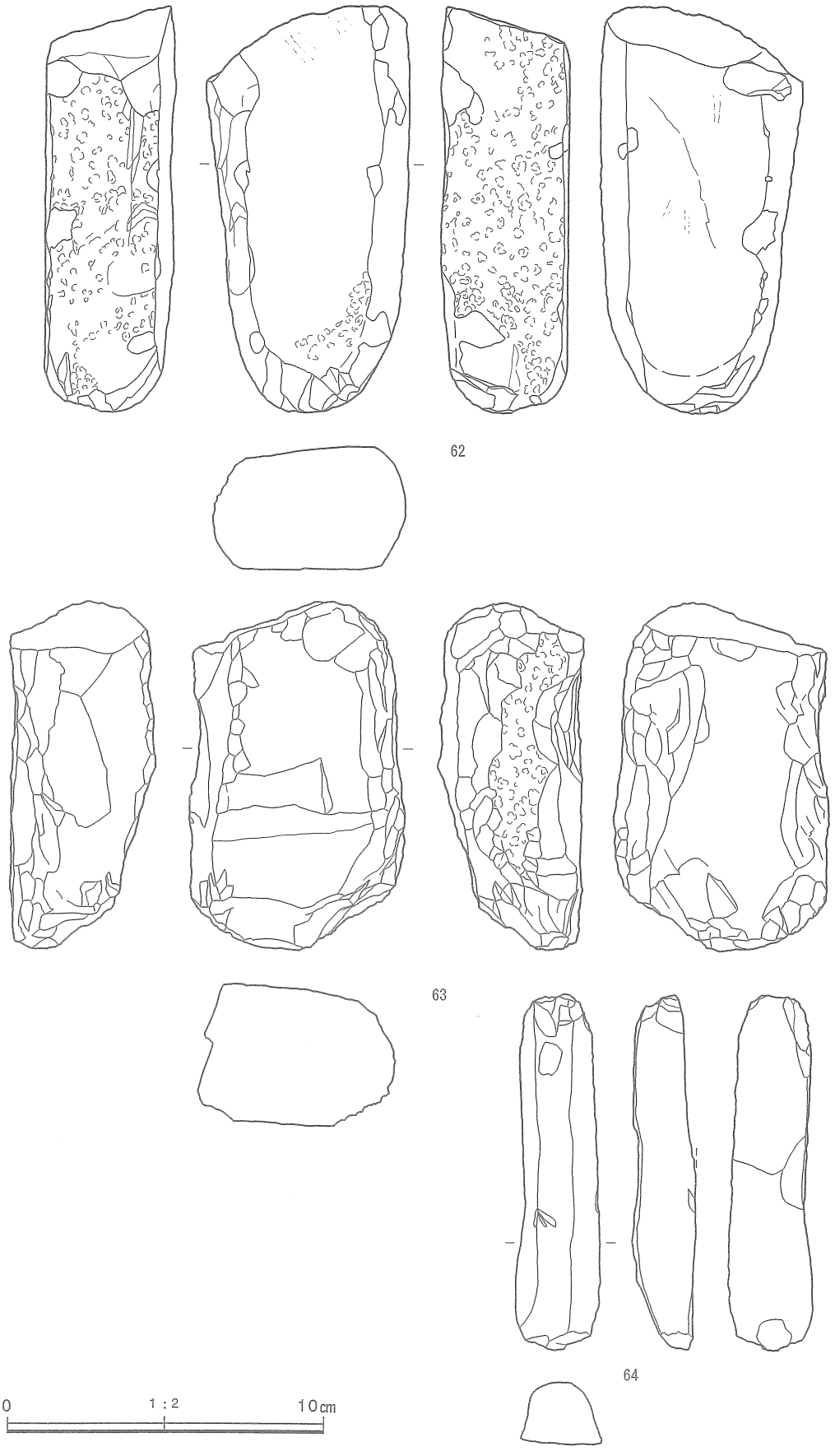
第61図　太型蛤刃石斧１



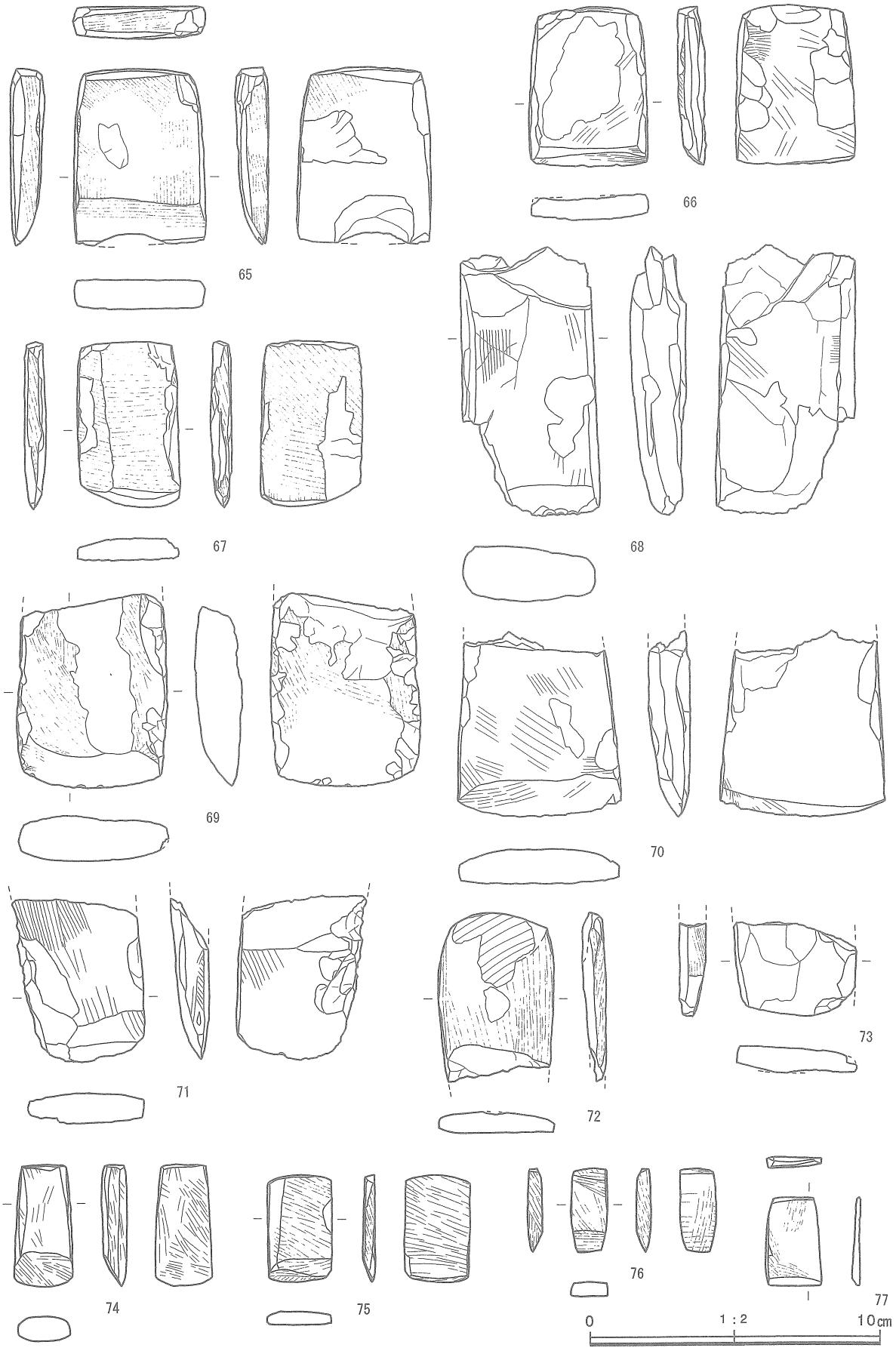
第62図　太型蛤刃石斧２



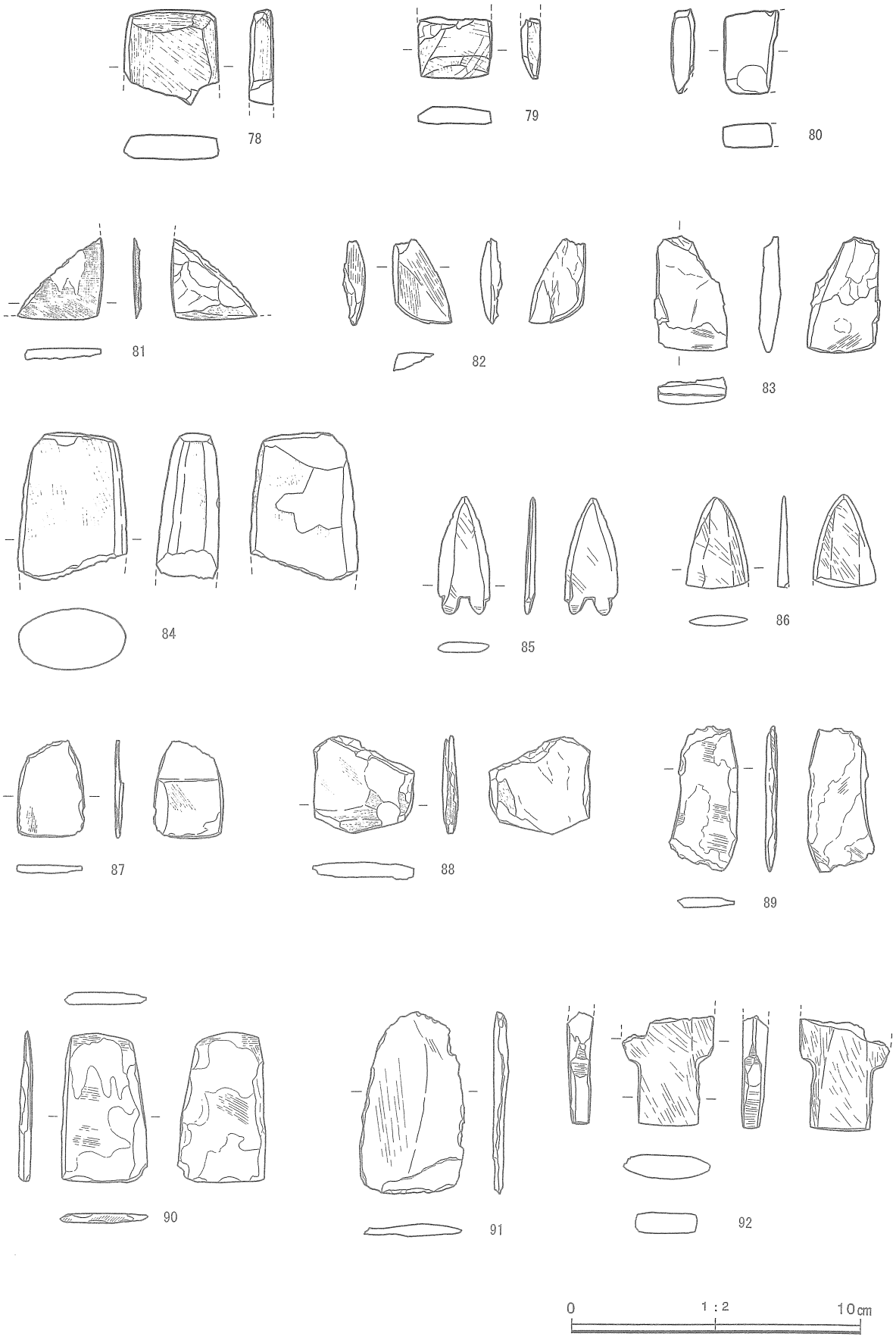
第63図　柱状片刃石斧１



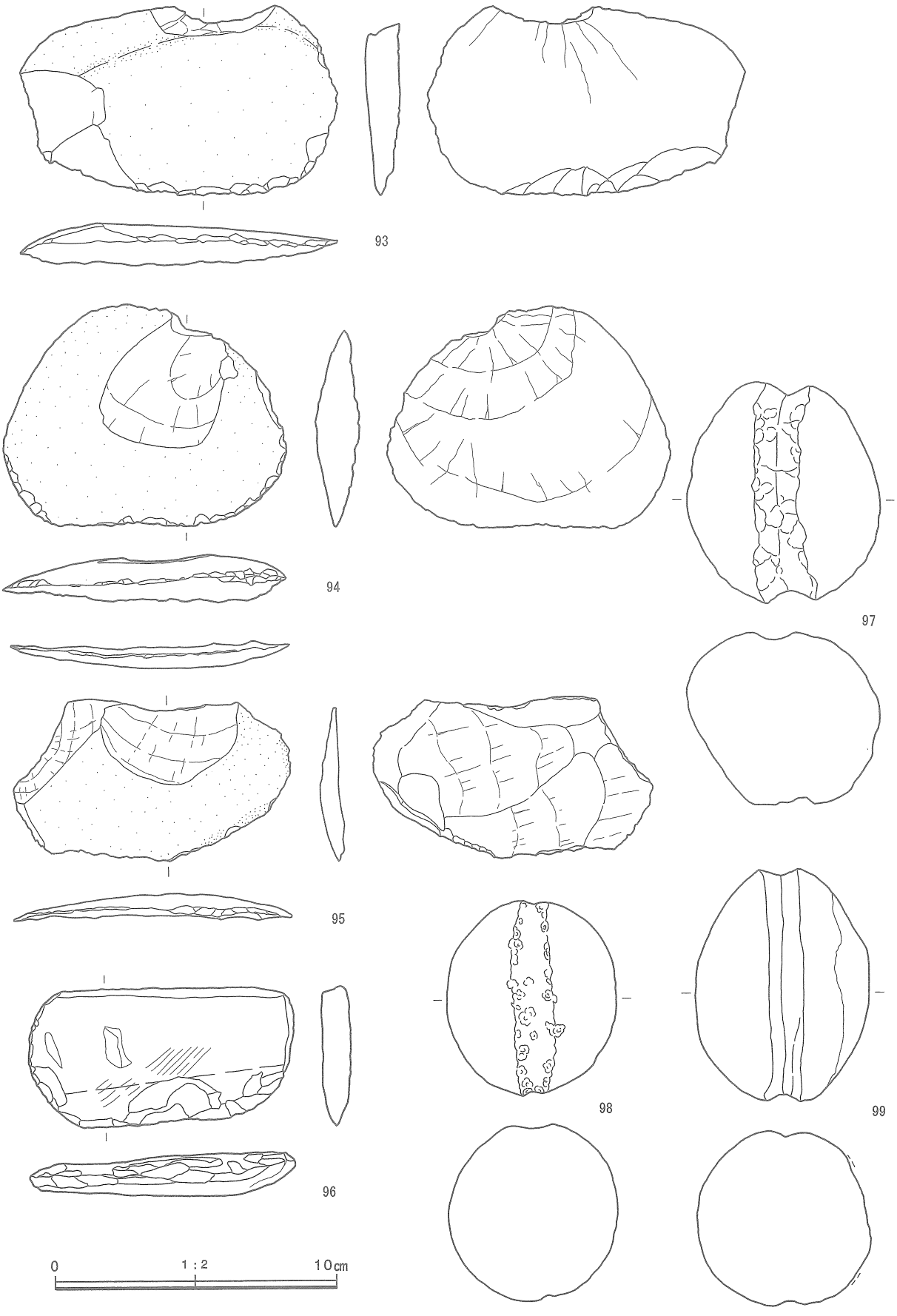
第64図　柱状片刃石斧２



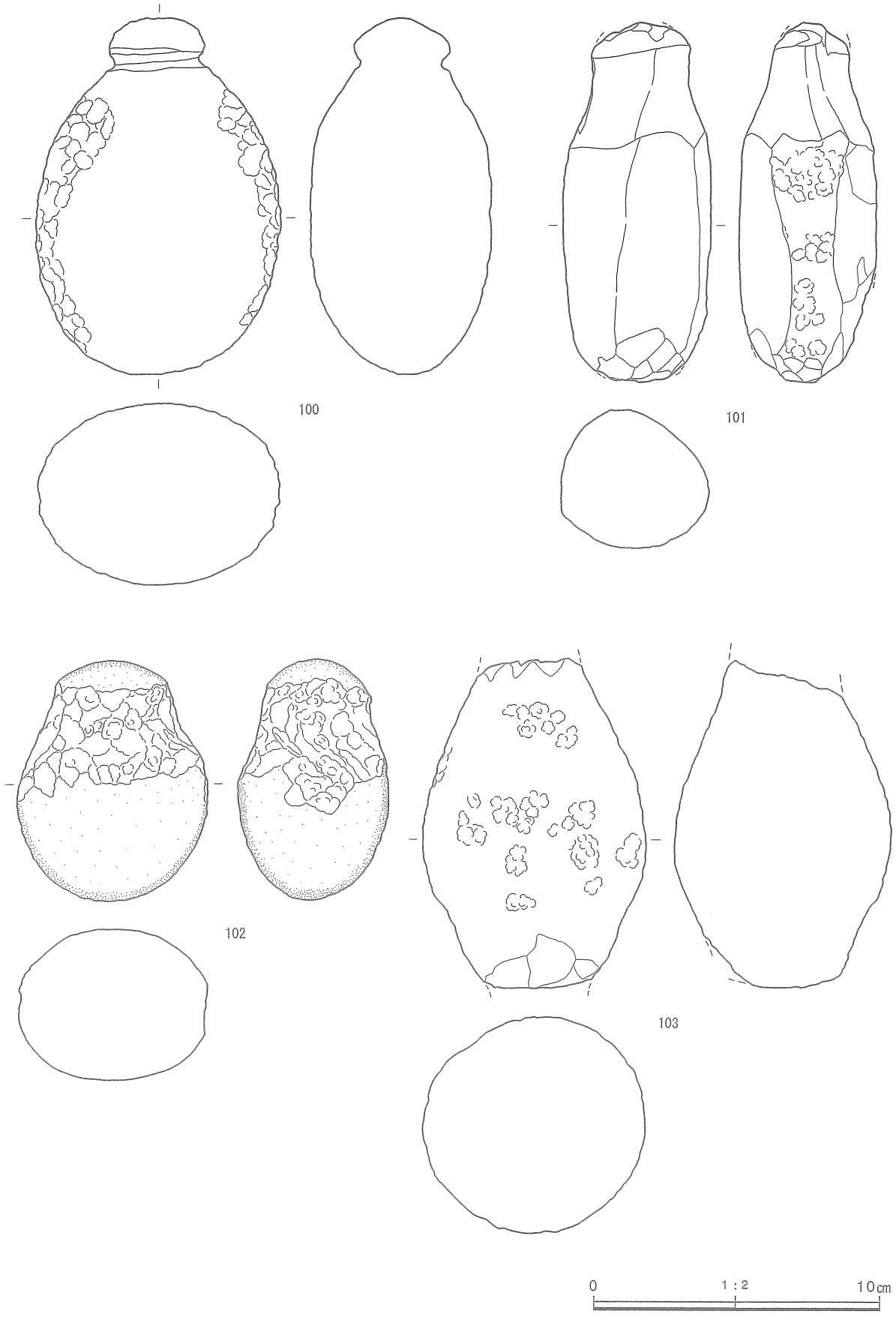
第65図　扁平片刃石斧１



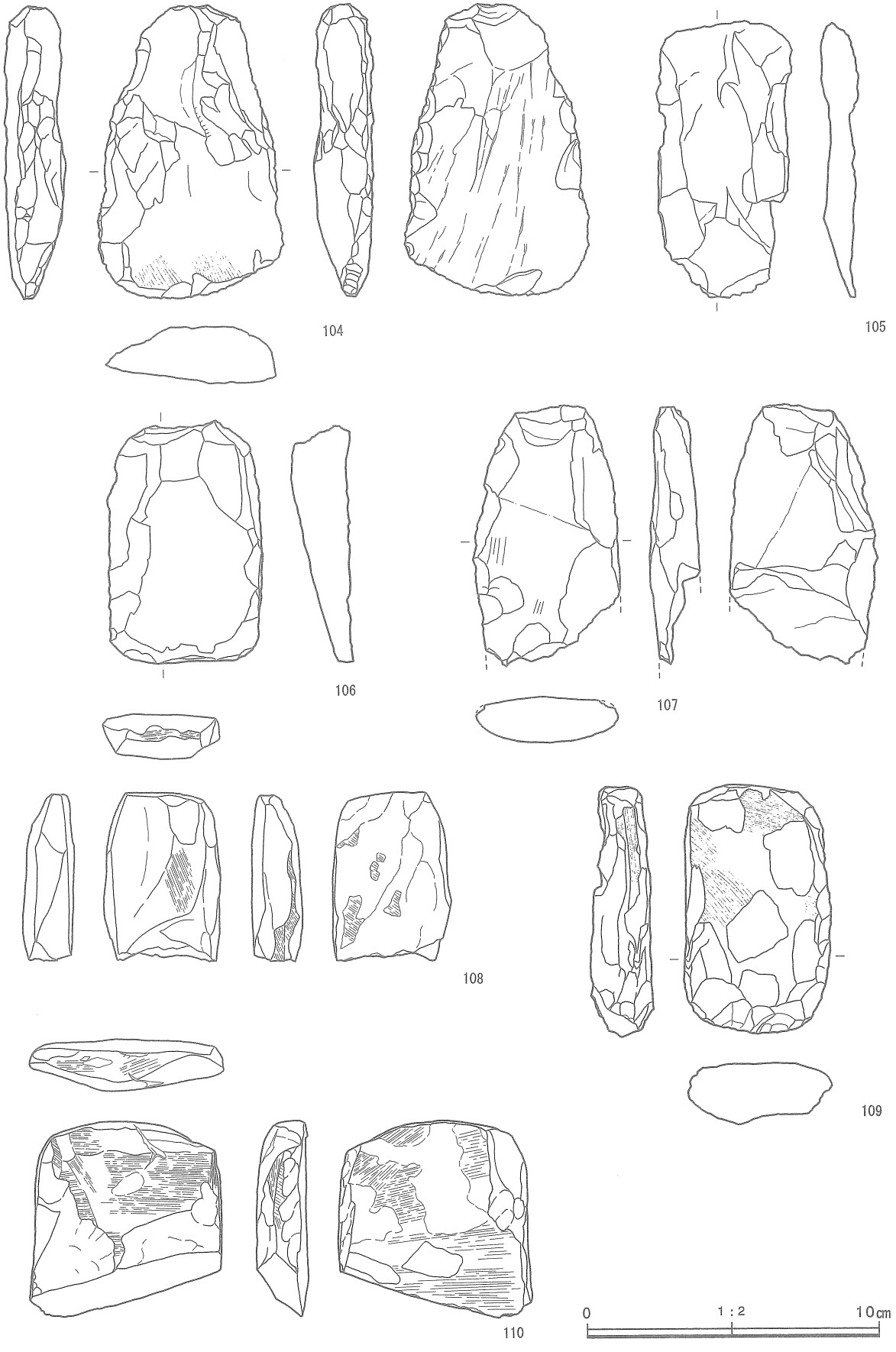
第66図　扁平片刃石斧２・乳棒状磨製石斧・磨製石鏃・石剣



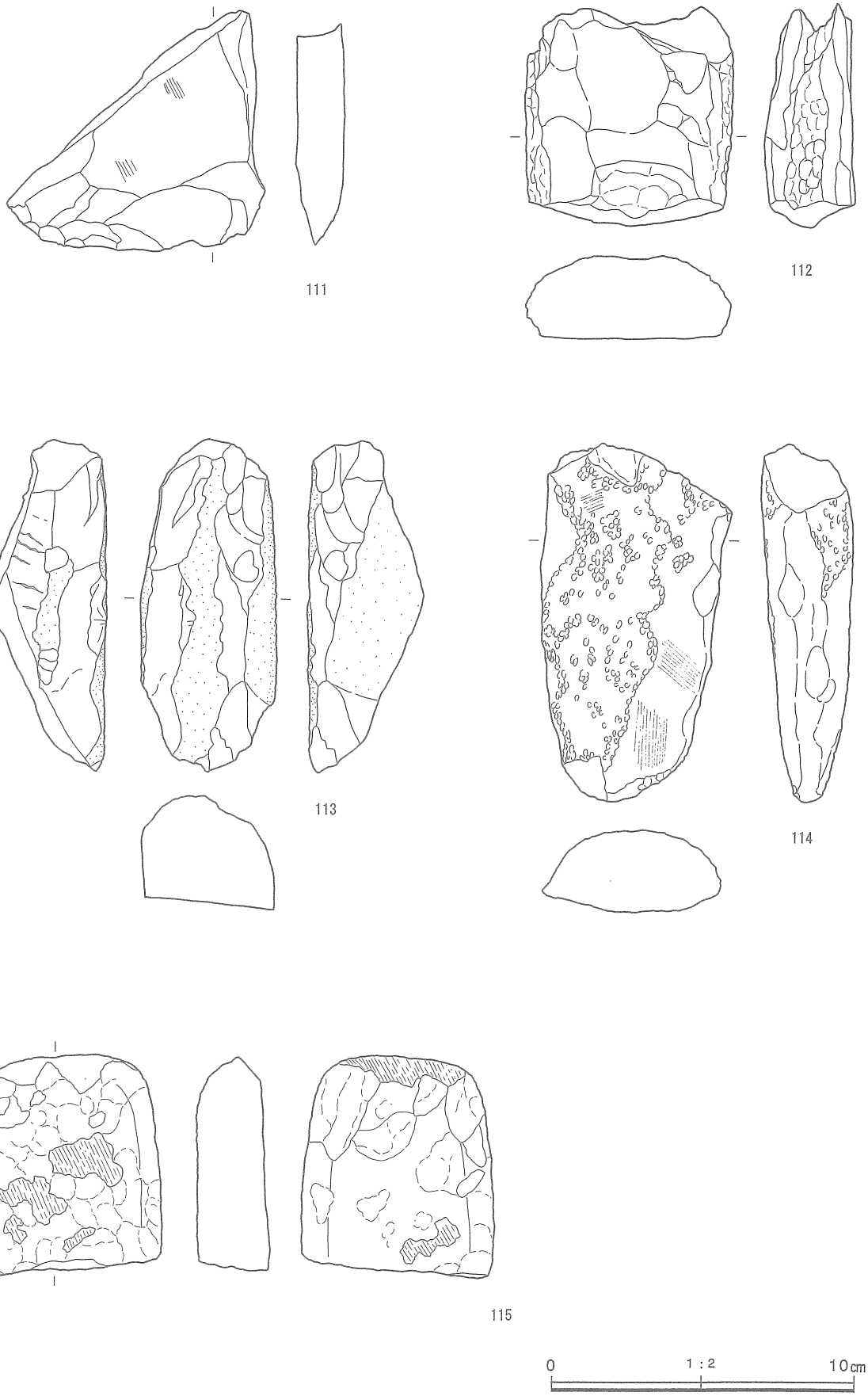
第67図　打製刃器・有溝石錘



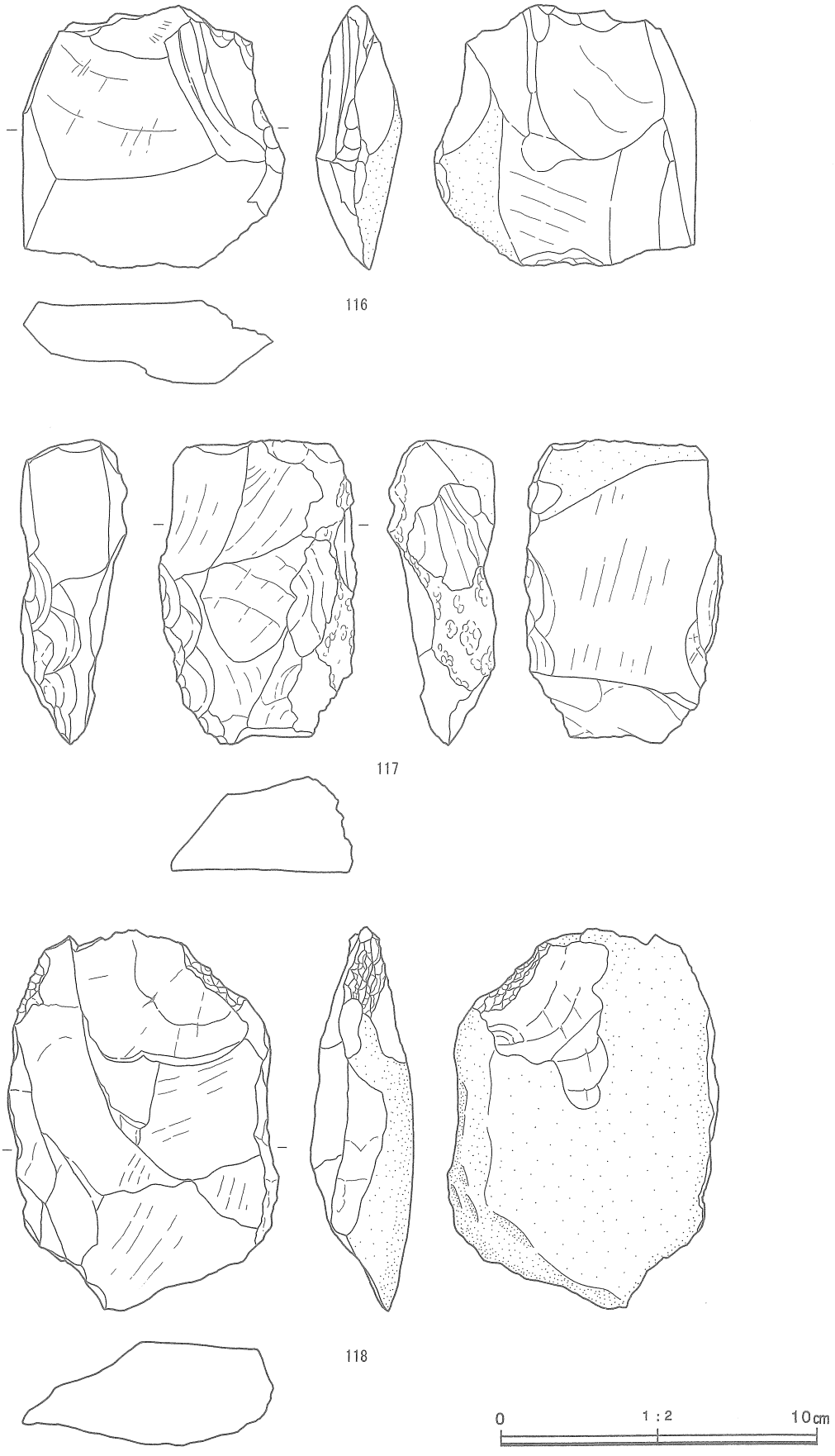
第68図　有頭石錘



第69図　石斧未製品1

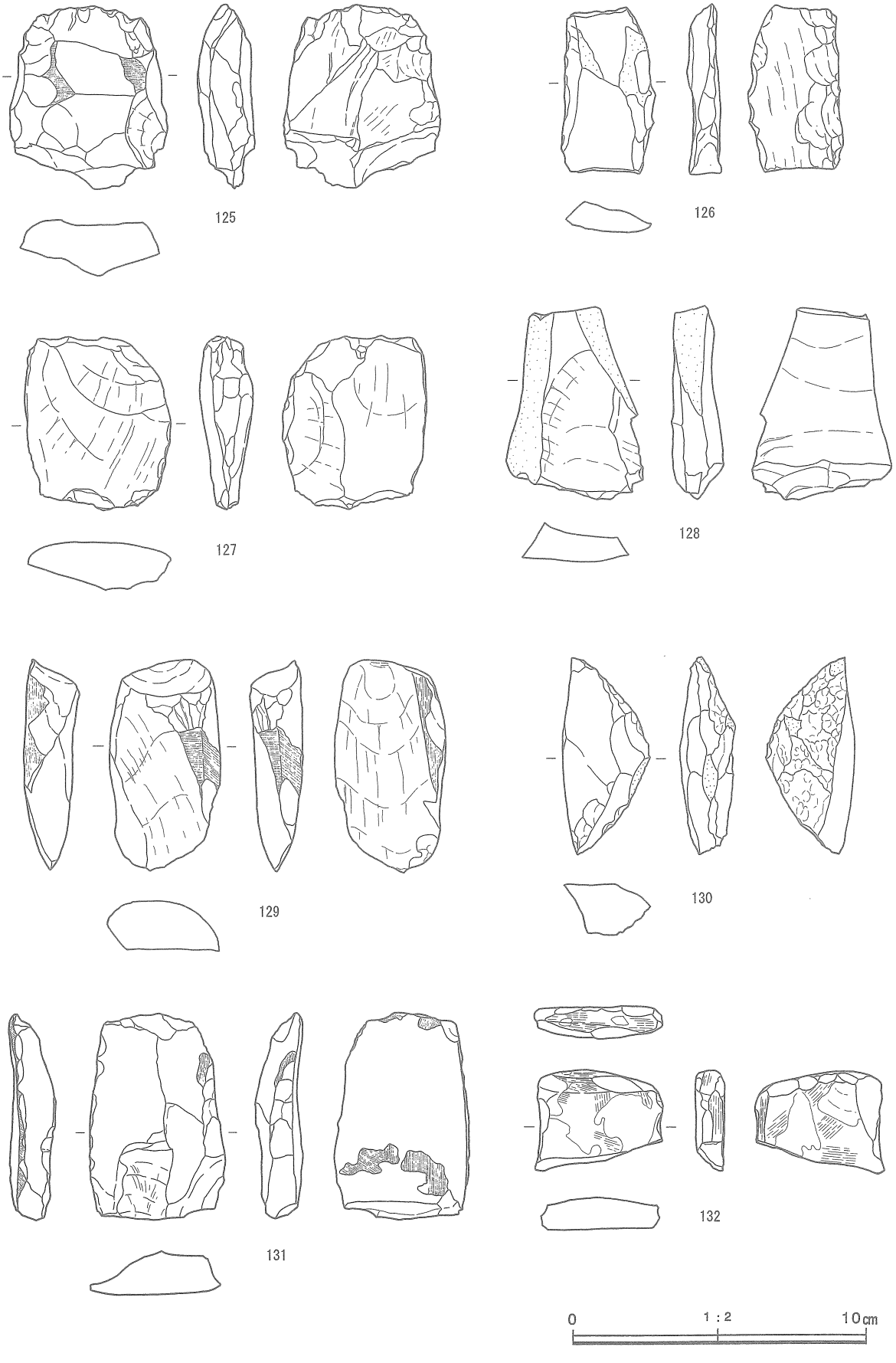


第70図　石斧未製品２

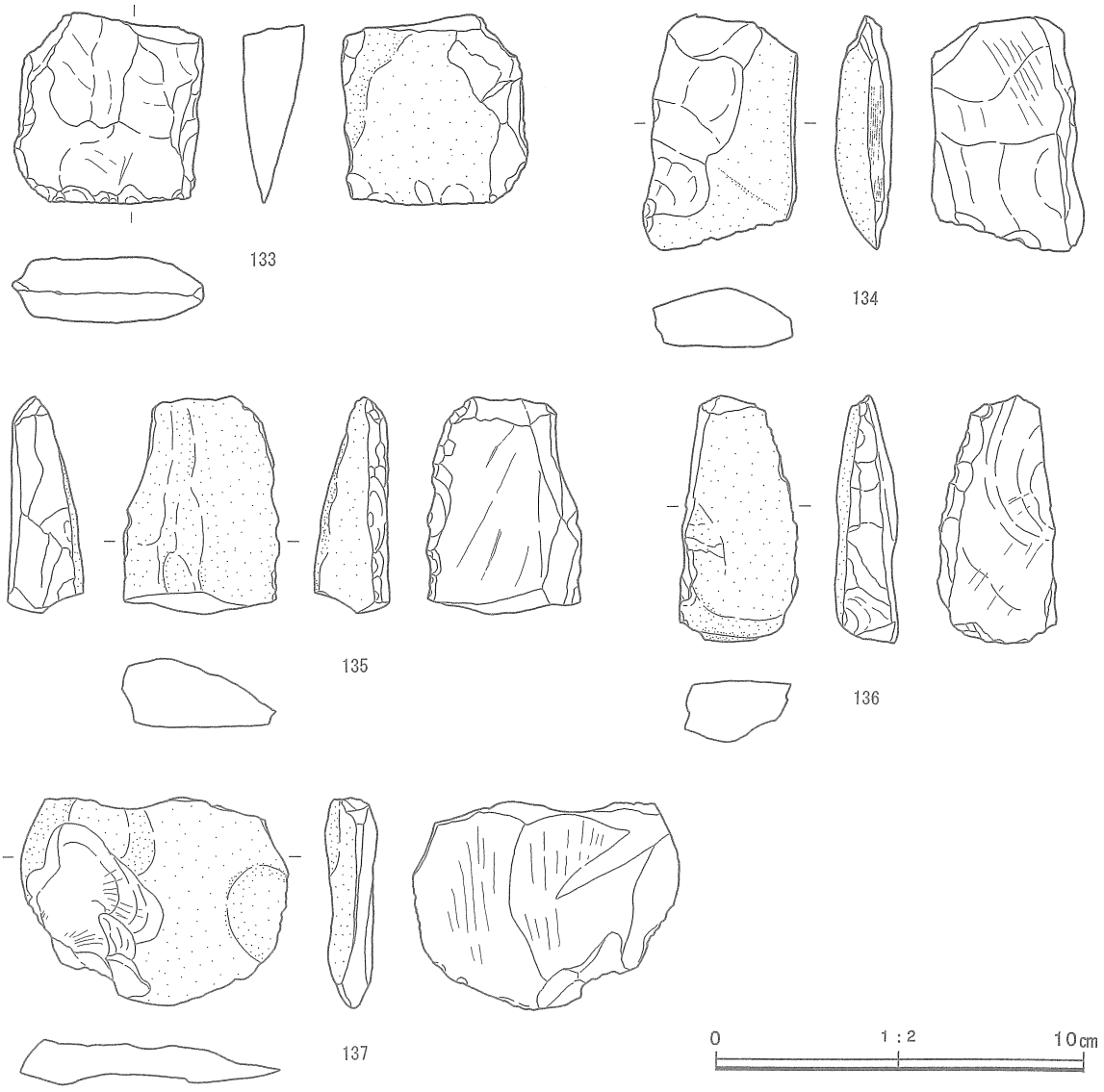


第71図　石斧未製品３

第72図　石斧未製品４



第73図　石斧未製品５



第74図　石斧未製品６

ている。104～107・111～115は刃部及び側端に敲打による調整が施されている。108～110・115は表裏面及び側面を研磨している。107は刃部付近を破損しており、108・110・111～115は胴部で折損している。138～174は石斧製作によって生じたと見られる剥片である。175～180は自然礫であり、石斧製作のために採集され、遺跡内に持ち込まれた資料であると考えられる。

乳棒状磨製石斧（第66図84）

84は乳棒状磨製石斧である。全面を敲打し、基部がすぼまる形に作り出されている。下半部は折損している。

磨製石鏃（第66図85～91）

85・86は磨製石鏃の完形品である。85は基部の両縁に突出部を作り出しており、基端部分は丸みを帯びている。86は破損品を再加工している可能性がある。87～91は石鏃の未製品である。87～90は両面を研磨する。91は側縁に敲打による調整が施されている。87は先端が欠損している。88は上半部を折損している。

第９表　石器一覧

挿図番号	図版番号	写真図版番号	器種	材質	グリッド	遺構・層位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)
第50図	1	30上	敲石	灰色チャート	D－2	SK25 黒色粘土層	7.12	7.06	4.59	346
第50図	2	30上	敲石	赤紫色凝灰質チャート	D－2	黒色粘土層	6.45	6.3	5.49	312
第50図	3	30上	敲石	灰色珪質頁岩	D－2	黒色粘土層	5.9	5.98	2.7	134
第50図	4	30上	敲石	灰色過斑晶玄武岩		SK13	(5.95)	5.1	4.6	(226)
第50図	5	30上	敲石	褐～淡灰色中粒砂岩	D－1	SP04	(13.6)	8.0	3.4	(554)
第51図	6	30上	敲石	灰色過斑晶玄武岩	D－2	黒色粘土層	(11.25)	7.68	2.85	(330)
第51図	7	30上	敲石	褐～淡灰色中粒砂岩	D－1	SD14西溝	(11.25)	6.25	3.35	(332)
第51図	8	30上	敲石	灰色細粒砂岩	D－1－S	黒色粘土層	11.95	6.50	4.15	450
第51図	9	30上	敲石	灰色過斑晶玄武岩		SD08	11.7	9.5	2.3	432
第52図	10	30上	敲石	黒色中粒砂岩	D－2	黒色粘土層	11.0	7.88	3.6	454
第52図	11	30上	敲石	灰色過斑晶玄武岩	D－2	黒色粘土層	9.28	7.56	3.08	304
第52図	12	30上	敲石	褐～淡灰色中粒砂岩		SD08 極暗褐色砂質土層	(9.6)	5.68	2.63	(204)
第52図	13	30上	敲石	褐～淡灰色中粒砂岩	D－2	明黄褐色砂礫層	(9.15)	6.08	3.53	(268)
第52図	14	30上	敲石	褐～灰緑色凝灰質砂岩	D－1	黒色粘土層	12.08	3.6	3.08	188
第53図	15	30上	敲石	褐～暗灰色細粒砂岩	D－2	明黄褐色砂礫層	10.45	10.15	3.73	544
第53図	16	30上	敲石	淡褐～淡灰色中粒砂岩		SD08 極暗褐色砂質土層	9.05	8.2	3.05	314
第53図	17	30上	敲石	褐～淡灰色中粒砂岩	C－2	黒色粘土層	7.4	6.72	2.25	166
第53図	18	30上	敲石	灰色斑れい岩		SR02	7.98	7.2	5.62	430
第54図	19	30下	凹石	灰色過斑晶玄武岩	D－2	暗灰色粘土層	10.65	8.45	3.5	508
第54図	20	30下	凹石	褐～灰色中粒砂岩		SD08 極暗褐色砂質土層	10.35	7.8	2.72	322
第54図	21	30下	凹石	灰色過斑晶玄武岩	D－1	黒色粘土層	9.15	6.75	2.4	222
第55図	22	30下	凹石	褐色又は淡灰色中粒砂岩		SD08	8.8	5.88	3.05	218
第55図	23	30下	凹石	淡褐色中粒砂岩	D－2	SR01	6.82	6.56	3.6	216
第55図	24	30下	凹石	黒色粘板岩	D－2	SR01 黒色粘土層	8.2	7.45	1.6	144
第55図	25	30下	凹石	褐色又は灰色細粒砂岩	D－1	黒色粘土層	(7.3)	(9.9)	(2.71)	(250)
第56図	26	30下	凹石	灰色斑れい岩	D－1	黒色粘土層	(11.42)	(6.18)	(3.28)	(336)
第56図	27	30下	凹石	灰色過斑晶玄武岩	D－2	SR01 黒色粘土層	(4.25)	(7.05)	(2.5)	(101.29)
第56図	28	30下	凹石	黒色粘板岩	D－1	黒色粘土層	(7.5)	(4.85)	(1.5)	(71.65)
第56図	29	31上	砥石	淡黄褐色中粒砂岩	D－2	SR01 黒色粘土層	24.1	17.85	10.02	6045
第57図	30	31上	砥石	淡灰色中粒砂岩	D－1	黒色粘土層	(16.59)	(13.05)	(6.35)	(1734)
第57図	31	31上	砥石	灰色粗面岩		SK28	(13.6)	(14.22)	(6.3)	(1716)
第57図	32	31上	砥石	灰色中粒砂岩	D－2	SK29 黒色粘土層	15.4	12.65	4.0	1130
第58図	33	31下	砥石	淡灰色中粒砂岩	B－2	SK19 極暗褐色砂質土層	(13.0)	(12.6)	8.8	(1838)
第58図	34	31下	砥石	淡黄褐色中粒砂岩		SR02	(11.73)	(7.8)	(6.8)	(736)
第58図	35	31下	砥石	淡褐色又は淡灰色中粒砂岩	D－1	黒色粘土層	(10.08)	(10.75)	(5.75)	(580)
第59図	36	31上	砥石	褐～淡褐色中粒砂岩		SK13	(8.7)	(10.6)	13.1	(1214)
第59図	37	31下	砥石	淡褐色又は淡灰色中粒砂岩	D－2	黒色粘土層	(10.76)	(11.41)	(4.2)	(724)
第59図	38	31下	砥石	淡黄褐色中粒砂岩		SD08 極暗褐色砂質土層	(11.9)	(8.1)	(7.49)	(618)
第59図	39	31下	砥石	淡灰色中粒砂岩	D－2	黒色粘土層	(9.1)	(9.9)	(4.6)	(586)
第60図	40	31下	砥石	淡灰色中粒砂岩	D－2	SR01	(10.65)	(10.0)	(3.5)	(450)
第60図	41	31下	砥石	再堆積黄褐色中粒砂岩		SR02	(11.38)	(6.12)	(4.43)	(276)

挿図番号	図版番号	写真図版番号	器種	材質	グリッド	遺構・層位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)
第60図	42	31下	砥石	淡褐色中粒砂岩		SK19	(8.4)	(5.9)	2.18	(111.09)
第60図	43	32上	砥石	淡褐～淡灰色細粒砂岩	D－2	黒色粘土層	12.92	(7.22)	(6.2)	(214)
第60図	44	32上	砥石	淡褐色凝灰質細粒砂岩	D－1	黒色粘土層	(6.08)	3.15	2.2	(64.64)
第60図	45	32上	砥石	暗褐～黒灰色砂質粘板岩	D－2	黒色粘土層	(3.49)	(5.56)	0.69	(19.01)
第60図	46	32上	砥石	灰色細粒砂岩	D－2	黒色粘土層	3.5	5.09	1.06	29.5
第60図	47	32上	砥石	灰色中粒砂岩		SD14	(5.6)	(3.5)	1.5	(31.9)
第60図	48	32上	砥石	灰色細粒砂岩	B－2		(2.3)	(3.7)	0.4	(4.7)
第60図	49	32上	砥石	灰色細粒砂岩		SD08	(3.8)	(5.3)	0.5	(14.7)
第61図	50	32下	太型蛤刃石斧	暗褐～灰緑色輝緑岩	B－2	SK08 極暗褐色砂質土層	(12.91)	6.87	3.6	(528)
第61図	51	32下	太型蛤刃石斧	暗灰色硬質粗粒砂岩	D－2S	黒色粘土層	(14.48)	6.93	4.3	(632)
第62図	52	32下	太型蛤刃石斧(未製品)	黄褐色凝灰質頁岩？	B－2	極暗褐色砂質土層	(11.2)	6.29	4.05	(432)
第62図	53	32下	太形蛤刃石斧(未製品)	褐～暗灰色細粒砂岩	D－2	黒色粘土層	(10.7)	7.7	4.26	(462)
第62図	54	32下	太型蛤刃石斧(未製品)	褐～暗灰色細粒砂岩	D－1	明黄褐色砂礫層	(9.8)	7.3	4.0	(404)
第62図	55	32下	太型蛤刃石斧(未製品)	暗灰色粗粒砂岩	D－2	SR01 黒色粘土層	(8.42)	9.39	5.3	(536)
第63図	56	33上	柱状片刃石斧	灰褐～褐色凝灰質頁岩	D－2	黒色粘土層	10.7	3.08	1.95	94.48
第63図	57	33上	柱状片刃石斧	赤褐色珪質凝灰質粘板岩	B－2		(7.74)	1.85	1.6	(37.22)
第63図	58	33上	柱状片刃石斧	黒色凝灰質チャート		SB04－P2	5.55	1.63	1.05	15.48
第63図	59	33上	柱状片刃石斧	赤褐色凝灰質珪質頁岩	B－2	SK08 極暗褐色砂質土層	6.2	2.02	1.35	27.27
第63図	60	33上	柱状片刃石斧(未製品)	赤紫色珪質凝灰質頁岩	C－1	黒色粘土層	9.3	4.2	2.51	146
第63図	61	33上	柱状片刃石斧(未製品)	暗灰～褐色頁岩	C－1	黒色粘土層	18.56	4.67	5.1	712
第64図	62	33上	柱状片刃石斧(未製品)	赤褐～赤紫色凝灰質チャート	D－1	黒色粘土層	(13.06)	6.55	4.1	(604)
第64図	63	33上	柱状片刃石斧(未製品)	黄褐～暗赤褐色凝灰岩	D－2	SR01	11.16	6.91	4.68	564
第64図	64	33上	柱状片刃石斧(未製品)	褐～灰色凝灰質頁岩	D－2N	黒色粘土層	11.34	2.71	2.04	94.66
第65図	65	33下	扁平片刃石斧	赤褐色凝灰質珪質粘板岩	D－2	黒色粘土層	(6.18)	4.62	1.18	(65.66)
第65図	66	33下	扁平片刃石斧	赤褐色凝灰質珪質粘板岩	D－1	黒色粘土層	5.56	4.19	0.96	43.24
第65図	67	33下	扁平片刃石斧	褐～暗黒色珪質粘板岩	C－2	SK28 黒色粘土層	5.8	3.6	0.75	28.61
第65図	68	33下	扁平片刃石斧	灰褐～褐色凝灰質頁岩	D－2	黒色粘土層	(9.4)	4.9	1.95	(122)
第65図	69	33下	扁平片刃石斧	赤褐色凝灰質珪質粘板岩	D－1	黒色粘土層	6.78	5.28	1.65	97.59
第65図	70	33下	扁平片刃石斧	暗褐～灰緑色凝灰質粘板岩	D－1	黒色粘土層	(6.5)	5.77	(1.45)	(86.37)
第65図	71	33下	扁平片刃石斧	暗褐～灰緑色珪質凝灰質粘板岩	C－2	SK28 黒色粘土層	(5.7)	(4.58)	1.34	(45.78)
第65図	72	33下	扁平片刃石斧	赤褐色珪質凝灰岩	D－2	明黄褐色砂礫層	(5.9)	4.1	0.8	(32.37)
第65図	73	33下	扁平片刃石斧	暗赤紫色凝灰質頁岩	D－2	黒色粘土層	(3.26)	(4.27)	(0.95)	(20.07)
第65図	74	33下	扁平片刃石斧	灰褐色凝灰質粘板岩	D－2	にぶい黄褐色砂層	4.27	2.0	0.9	13.45
第65図	75	33下	扁平片刃石斧	黒色凝灰質珪質粘板岩	C－2	暗褐色粘土層	3.76	2.3	0.43	6.97
第65図	76	33下	扁平片刃石斧	暗緑灰色凝灰質チャート	C－2		2.95	1.3	0.5	4.15
第65図	77	33下	扁平片刃石斧	暗赤紫色凝灰質珪質粘板岩	D－2	黒色粘土層	1.95	3.1	0.4	4.12
第66図	78	33下	扁平片刃石斧	赤褐色珪質凝灰岩		SR01	(3.35)	(3.31)	(0.85)	(16.49)
第66図	79	33下	扁平片刃石斧	淡灰緑色凝灰質チャート	D－1	暗灰色粘土層	(2.18)	(2.58)	(0.69)	(5.66)
第66図	80	33下	扁平片刃石斧	灰色角閃岩	A－2	極暗褐色砂質土層	2.95	(1.9)	(0.82)	(8.67)
第66図	81	33下	扁平片刃石斧	赤紫色凝灰質頁岩	D－2	黒色粘土層	(2.8)	(3.0)	(0.4)	(3.4)
第66図	82	33下	扁平片刃石斧	暗灰～灰緑色凝灰質珪質頁岩	D－1	黒色粘土層	(2.9)	(2.0)	(0.65)	(3.5)
第66図	83	33下	扁平片刃石斧	赤紫色凝灰質頁岩	B－2	極暗褐色砂質土層	(4.0)	(2.55)	(0.7)	(10.3)

挿図番号	図版番号	写真図版番号	器種	材質	グリッド	遺構・層位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)
第66図	84	33上	乳棒状磨製石斧	褐～灰緑色凝灰岩	B－2		(5.12)	3.8	2.16	(67.46)
第66図	85	34上	磨製石鏃	暗灰緑色凝灰質粘板岩	D－2S	黒色粘土層	4.1	1.81	0.35	3.05
第66図	86	34上	磨製石鏃	灰黒色凝灰質粘板岩	D－2	明黄褐色砂礫層	3.2	2.2	0.35	2.92
第66図	87	34上	石鏃未製品	褐～灰緑色凝灰質粘板岩	D－2	黒色粘土層	(3.35)	2.35	0.3	(3.08)
第66図	88	34上	石鏃未製品	褐～灰緑色凝灰質粘板岩	C－2		(3.4)	3.5	0.55	(10.0)
第66図	89	34上	石鏃未製品	褐～灰緑色凝灰質粘板岩	C－2	黒色粘土層	(5.0)	(2.4)	(0.4)	6.5
第66図	90	34上	石鏃未製品	褐～灰緑色凝灰質粘板岩	C－2		5.2	2.95	0.4	15.9
第66図	91	34上	石鏃未製品	灰緑色凝灰質粘板岩	D－1		6.35	3.55	0.5	15.9
第66図	92	34上	石剣	暗緑灰色凝灰質珪質粘板岩	D－1	明黄褐色砂礫層	(3.82)	(3.13)	(0.9)	(15.15)
第67図	93	34下	打製刃器	暗灰色細礫岩	D－1	黒色粘土層	6.8	11.31	1.49	128
第67図	94	34下	打製刃器	暗灰色粗粒砂岩	D－1	黒色粘土層	7.92	10.1	1.7	144
第67図	95	34下	打製刃器	褐～灰色粘板岩	C－2	SK28	5.8	9.9	0.9	50.7
第67図	96	34下	打製刃器	灰色細粒砂岩	D－2	黒色粘土層	4.97	9.47	1.55	99.78
第67図	97	35上	有溝石錘	灰褐色細粒斑れい岩	D－2	明黄褐色砂礫層	7.9	6.86	6.15	412
第67図	98	35上	有溝石錘	灰色斑れい岩	D－2	SR01	6.98	6.05	6.37	360
第67図	99	35上	有溝石錘	灰色過斑晶質玄武岩	C－2	黒色粘土層	8.3	(6.13)	6.3	(420)
第68図	100	35上	有頭石錘	灰色斑れい岩	D－1	黒色粘土層	12.55	8.6	6.4	898
第68図	101	35上	有頭石錘	灰色過斑晶質玄武岩	D－2	SR01	(12.65)	5.2	4.87	(444)
第68図	102	35上	有頭石錘	灰色斑れい岩	D－2	黒色粘土層	8.45	6.7	5.3	394
第68図	103	35上	有頭石錘	灰色過斑晶質玄武岩	D－1	SD14 黒色粘土層	(11.58)	7.88	7.58	(842)
第69図	104	35下	石斧未製品	黒色頁岩	D－2	SR01	10.12	6.42	2.08	164
第69図	105	35下	石斧未製品	灰緑色頁岩		SR01	(9.58)	(4.7)	(1.6)	(73.21)
第69図	106	35下	石斧未製品	褐～暗灰色細粒砂岩	C－1	黒色粘土層	8.38	5.39	2.2	130
第69図	107	35下	石斧未製品	褐～黒色粘板岩	D－2	黒色粘土層	8.99	5.08	1.72	79.21
第69図	108	35下	石斧未製品	赤紫色凝灰質頁岩	C－2	東トレンチ内の溝	5.8	4.1	1.75	60.3
第69図	109	35下	石斧未製品	赤褐色凝灰質頁岩	D－2	黒色粘土層	8.64	5.12	2.15	144
第69図	110	35下	石斧未製品	赤褐色凝灰質頁岩	D－1	SR01 黒色粘土層	(6.8)	(6.65)	1.75	112.7
第70図	111	35下	石斧未製品	赤褐～赤紫色凝灰質頁岩	D－2	黒色粘土層	8.05	8.6	2.8	207.0
第70図	112	35下	石斧未製品	褐～黒色細粒砂岩	B－2	極暗褐色砂質土層	7.4	6.9	3.0	1
第70図	113	35下	石斧未製品	赤紫色珪質凝灰質頁岩	D－1	黒色粘土層	11.5	4.5	4.4	207.0
第70図	114	35下	石斧未製品	暗灰緑色凝灰質砂岩		SR01	(11.8)	(6.85)	2.7	288.5
第70図	115	35下	石斧未製品	暗灰色凝灰質粗粒砂岩	D－2	SR01 黒色粘土層	(7.3)	6.5	2.45	206.1
第71図	116	36上	石斧未製品	赤褐色凝灰質頁岩	D－1	黒色粘土層	8.4	5.3	2.75	201.6
第71図	117	36上	石斧未製品	黒色珪質頁岩			9.7	6.3	3.4	218.5
第71図	118	36上	石斧未製品	赤紫色凝灰質頁岩	D－1	黒色粘土層	12.2	8.6	3.3	379.2
第72図	119	36上	石斧未製品	赤紫色凝灰質頁岩	D－1	黒色粘土層	9.5	4.8	2.25	158.3
第72図	120	36上	石斧未製品	赤紫色凝灰質頁岩	D－1	黒色粘土層	8.6	6.9	2.85	174.3
第72図	121	36上	石斧未製品	赤紫色凝灰質頁岩	D－2	黒色粘土層	8.0	6.6	5.4	338.4
第72図	122	36上	石斧未製品	赤紫色凝灰質頁岩	D－1	黒色粘土層	7.1	3.1	1.15	30.4
第72図	123	36上	石斧未製品	暗赤褐色凝灰質頁岩	B－2	極暗褐色砂質土層	5.9	3.2	1.5	29.9
第72図	124	36上	石斧未製品	赤紫色凝灰質頁岩	C－2		5.6	1.9	1.3	13.9
第73図	125	36上	石斧未製品	赤紫色凝灰質頁岩	C－2	黒色粘土層	7.3	5.4	1.8	73.2

挿図番号	図版番号	写真図版番号	器種	材質	グリッド	遺構・層位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)
第73図	126	36上	石斧未製品	赤紫色凝灰質頁岩	D－1	黒色粘土層	5.8	3.25	1.2	24.7
第73図	127	36上	石斧未製品	赤紫色凝灰質頁岩	D－2	黒色粘土層	5.95	4.95	1.85	58.2
第73図	128	36上	石斧未製品	赤紫色凝灰質頁岩	D－2	黒色粘土層	6.6	4.7	1.75	55.7
第73図	129	36上	石斧未製品	赤褐色凝灰質頁岩		SR01	7.3	3.85	1.9	66.3
第73図	130	36上	石斧未製品	赤紫色凝灰質頁岩	D－1		6.7	3.0	1.9	37.9
第73図	131	36上	石斧未製品	赤紫色凝灰質頁岩	D－2	黒色粘土層	7.1	4.65	1.55	65.8
第73図	132	36上	石斧未製品	赤紫色凝灰質頁岩			(3.55)	4.4	1.5	25.1
第74図	133	36上	石斧未製品	赤紫色凝灰質頁岩	D－1	黒色粘土層	5.3	5.2	1.7	59.7
第74図	134	36上	石斧未製品	赤紫色凝灰質頁岩		SR01	6.5	4.2	1.6	48.7
第74図	135	36上	石斧未製品	赤褐色凝灰質頁岩			5.95	4.25	2.05	61.1
第74図	136	36上	石斧未製品	赤紫色凝灰質頁岩	D－1	黒色粘土層	6.75	3.4	1.65	55.1
第74図	137	36上	石斧未製品	赤紫色凝灰質頁岩	D－2	SR01 黒色粘土層	5.7	7.3	1.4	59.0
	138	36下	石斧未製品	赤紫色凝灰質頁岩	C－1	黒色粘土層	6.55	4.55	1.05	33.2
	139	36下	石斧未製品	赤紫色凝灰質頁岩	D－1	黒色粘土層	4.0	4.1	1.8	38.9
	140	36下	石斧未製品	赤紫色凝灰質頁岩	D－1	SD14西溝	4.0	3.65	0.5	9.1
	141	36下	石斧未製品	赤紫色凝灰質頁岩	D－1	黒色粘土層	3.25	2.8	0.95	12.3
	142	36下	石斧未製品	赤紫色凝灰質頁岩	D－1		5.15	4.9	0.75	20.3
	143	36下	石斧未製品	赤紫色凝灰質頁岩	D－2	黒色粘土層	3.7	4.5	0.65	14.6
	144	36下	石斧未製品	赤紫色凝灰質頁岩	D－2	黒色粘土層	2.7	4.2	0.8	10.3
	145	36下	石斧未製品	赤紫色凝灰質頁岩		SD08 極暗褐色砂質土層	4.25	4.5	0.9	23.7
	146	36下	石斧未製品	赤紫色凝灰質頁岩	D－2	暗灰色粘土層	3.6	2.2	0.65	4.6
	147	36下	石斧未製品	赤紫色凝灰質頁岩	D－2	SR01	5.5	4.0	0.75	15.6
	148	36下	石斧未製品	赤紫色凝灰質頁岩	D－1	暗灰色粘土層	4.8	3.3	1.1	13.8
	149	36下	石斧未製品	赤紫色凝灰質頁岩	D－2	SR01	4.95	1.8	0.9	9.5
	150	36下	石斧未製品	赤紫色凝灰質頁岩	D－1	黒色粘土層	6.6	4.3	0.5	17.0
	151	36下	石斧未製品	赤紫色凝灰質頁岩		SD14	3.0	1.9	0.4	2.4
	152	36下	石斧未製品	赤紫色凝灰質頁岩	C－1	黒色粘土層	2.9	2.9	1.1	9.8
	153	36下	石斧未製品	赤紫色凝灰質頁岩		SK28	5.0	3.2	0.7	15.2
	154	36下	石斧未製品	赤紫色凝灰質頁岩	D－2	黒色粘土層	5.7	2.0	1.2	16.9
	155	36下	石斧未製品	赤紫色凝灰質頁岩	D－1	黒色粘土層	2.8	3.2	2.05	25.2
	156	36下	石斧未製品	赤紫色凝灰質頁岩	D－2	黒色粘土層	3.4	3.3	2.4	25.4
	157	36下	石斧未製品	淡灰緑色凝灰質チャート	D－1	黒色粘土層	1.7	2.9	0.4	2.2
	158	36下	石斧未製品	褐～暗赤紫色凝灰質チャート	B－2	極暗褐色砂質土層	3.6	2.25	1.3	8.7
	159	36下	石斧未製品	褐～暗赤紫色凝灰質チャート	D－2	黒色粘土層	2.8	1.4	0.6	3.0
	160	36下	石斧未製品	赤紫色凝灰質頁岩	B－2	極暗褐色砂質土層	2.15	2.7	0.6	3.4
	161	36下	石斧未製品	赤紫色凝灰質頁岩	B－2		2.4	1.6	0.3	1.0
	162	36下	石斧未製品	赤紫色凝灰質頁岩	C－1	黒色粘土層	2.1	3.0	0.45	3.7
	163	36下	石斧未製品	褐色砂質粘板岩	D－2	黒色粘土層	6.1	3.0	0.9	19.6
	164	36下	石斧未製品	赤紫色凝灰質頁岩	D－2	黒色粘土層	3.9	3.5	0.5	7.6
	165	36下	石斧未製品	褐～灰色粘板岩	D－2	明黄褐色砂礫層	1.9	4.3	0.6	6.8
	166	36下	石斧未製品	褐～灰色粘板岩	D－1	黒色粘土層	4.0	4.3	0.6	10.2
	167	36下	石斧未製品	赤紫色凝灰質頁岩		SD08 極暗褐色砂質土層	2.8	3.6	0.75	8.6

挿図番号	図版番号	写真図版番号	器種	材質	グリッド	遺構・層位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)
	168	36下	石斧未製品	赤紫色凝灰質頁岩	D－1	黒色粘土層	3.8	2.4	1.2	10.6
	169	36下	石斧未製品	暗灰～褐色砂質粘板岩	D－1	黒色粘土層	3.1	3.6	0.5	5.9
	170	36下	石斧未製品	赤紫色凝灰質頁岩	D－1	北側トレンチ 黒色粘土層	4.2	2.6	0.65	9.7
	171	36下	石斧未製品	淡灰緑色凝灰質チャート	C－1	黒色粘土層	3.6	2.7	0.8	10.7
	172	36下	石斧未製品	淡灰緑色凝灰質チャート	B－2	極暗褐色砂質土層	3.3	4.8	0.6	11.9
	173	36下	石斧未製品	褐～暗灰色粘板岩	D－2	黒色粘土層	3.85	2.1	1.1	9.5
	174	36下	石斧未製品	褐～灰色粘板岩	D－2	SR01	10.8	2.2	1.45	44.3
	175	37左上	石斧未製品（自然礫）	淡灰緑色凝灰質チャート	D－1	黒色粘土層	4.3	1.5	0.5	5.9
	176	37左上	石斧未製品（自然礫）	褐～暗赤紫色凝灰質チャート	D－2	SR01 黒色粘土層	4.5	1.8	0.8	10.9
	177	37左上	石斧未製品（自然礫）	褐～黒色粘板岩	D－1	黒色粘土層	6.65	1.6	0.5	9.6
	178	37左上	石斧未製品（自然礫）	褐～暗赤紫色凝灰質チャート		SD14	9.3	4.8	1.7	116.7
	179	37左上	石斧未製品（自然礫）	灰緑色凝灰質珪質粘板岩	D－2	黒色粘土層	6.8	2.05	1.05	25.5
	180	37左上	石斧未製品（自然礫）	赤紫色珪質凝灰質頁岩	D－1	黒色粘土層	8.1	3.4	2.3	87.6
	181	37右上	軽石	軽石			2.0	1.5	0.5	0.7
	182	37右上	軽石	軽石			1.5	1.0	0.5	0.3
	183	37右上	軽石	軽石	D－1	暗灰色粘土層	2.05	1.5	0.85	2.8
	184	37右上	軽石	軽石			2.5	1.4	1.3	0.6
	185	37右上	軽石	軽石		SD08	2.9	2.0	1.4	1.9
	186	37右上	軽石	軽石	D－2	黒色粘土層	3.5	2.4	1.2	1.8
	187	37右上	軽石	軽石		SD14	3.5	3.0	1.3	2.6
	188	37右上	軽石	軽石			3.2	2.4	1.5	3.7
	189	37右上	軽石	軽石			3.6	3.1	1.9	5.2
	190	37右上	軽石	軽石			3.6	3.0	1.4	7.5
	191	37右上	軽石	軽石	B－2	極暗褐色砂質土層	6.8	3.6	2.5	17.2
	192	37右上	軽石	軽石	D－2	北トレンチ	7.0	5.2	3.3	29.9
	193	37右上	軽石	軽石	B－2	極暗褐色砂質土層	6.4	5.0	3.5	32.8
	194	37右上	軽石	軽石	C－1	暗灰色粘土層	6.0	4.3	2.4	18.6
	195	37下	砥石材	灰～褐色中粒砂岩	D－2	黒色粘土層	3.3	2.2	1.3	12.6
	196	37下	砥石材	灰色中粒砂岩	D－2	SR01 黒色粘土層	2.3	4.4	0.95	9.7
	197	37下	砥石材	褐灰色中粒砂岩	D－2	SR01 黒色粘土層	2.0	2.8	0.9	6.2
							3.7	2.5	1.0	13.2
	198	37下	砥石材	灰色中粒砂岩	B－2	SD08 極暗褐色砂質土層	1.8	2.2	0.7	2.4
	199	37下	砥石材	褐灰色中粒砂岩			4.35	4.95	1.1	28.1
	200	37下	砥石材	灰色中粒砂岩			3.6	2.2	1.1	15.2
	201	37下	砥石材	灰～褐色中粒砂岩	D－1	SR01	5.5	3.0	1.2	23.7
	202	37下	砥石材	褐灰色中粒砂岩	C－2		5.0	3.6	1.1	18.2
	203	37下	砥石材	灰色中粒砂岩	D－2	SR01	4.5	3.7	1.35	29.8
	204	37下	砥石材	淡灰色粗粒砂岩	D－1	SR01 黒色粘土層	6.2	4.0	3.1	81.3
	205	37下	砥石材	淡褐色粗粒砂岩	D－1	黒色粘土層	5.7	7.2	1.2	62.0
	206	37下	砥石材	灰色中粒砂岩	D－2	SR01 黒色粘土層	4.4	5.4	1.1	38.7
	207	37下	砥石材	灰～褐色中粒砂岩	B－2	SD08 極暗褐色砂質土層	5.7	3.6	0.8	20.3
	208	37下	砥石材	褐～灰色含礫粗粒砂岩	B－2	極暗褐色砂質土層	8.2	10.9	5.5	478.5

挿図番号	図版番号	写真図版番号	器種	材質	グリッド	遺構・層位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)
	209	37下	砥石材	淡褐色粗粒砂岩	D－2	SR01	9.7	15.0	1.8	229.7
	210	38上	剥片1	灰色中粒砂岩	B－2	極暗褐色砂質土層	4.3	5.2	0.85	21.4
	211	38上	剥片1	褐灰色中粒砂岩	D－1	黒色粘土層	3.4	4.7	0.8	11.3
	212	38上	剥片1	褐灰色中粒砂岩	D－2	明黄褐色砂礫層	3.3	6.8	1.05	30.8
	213	38上	剥片1	灰色粗粒砂岩	D－1	SD14西溝	3.1	4.6	0.8	12.7
	214	38上	剥片1	灰色中粒砂岩	D－1	黒色粘土層	4.3	5.4	0.9	21.5
	215	38上	剥片1	灰色細粒砂岩	D－2	黒色粘土層	5.35	6.7	0.8	31.8
	216	38上	剥片1	灰色中粒砂岩			3.4	5.0	1.0	11.5
	217	38上	剥片1	灰色中粒砂岩			3.7	4.7	1.2	20.8
	218	38上	剥片1	暗灰色細粒砂岩	C－2	黒色粘土層	2.85	5.7	0.4	9.0
	219	38上	剥片1	暗灰色玄武岩	C－1	黒色粘土層	3.4	6.2	0.8	21.7
	220	38上	剥片1	暗灰色玄武岩		SD14	3.4	5.2	0.6	13.2
	221	38上	剥片1	褐灰色中粒砂岩	D－1	SD14西溝	4.8	7.9	1.1	50.1
	222	38上	剥片1	暗灰色細粒砂岩	D－1	暗灰色粘土層	4.68	3.7	0.95	15.44
	223	38上	剥片1	暗灰色細粒砂岩	C－2	暗灰色粘土層	4.5	4.5	1.0	22.39
	224	38上	剥片1	暗灰色細粒砂岩	B－2	極暗褐色砂質土層	4.6	3.1	1.3	17.1
	225	38上	剥片1	褐～暗灰色中粒砂岩	C－2	黒色粘土層	5.1	6.7	1.0	39.3
	226	38上	剥片1	褐～暗灰色中粒砂岩	D－1	SD14西溝	5.5	7.5	1.0	40.9
	227	38上	剥片1	褐色又は暗灰色凝灰質粗粒砂岩	D－2	黒色粘土層	9.0	9.9	1.9	210.3
	228	38上	剥片1	褐灰色中粒砂岩	D－2	黒色粘土層	8.4	6.2	1.8	87.1
	229	38上	剥片1	褐～暗灰色中粒砂岩	D－1	黒色粘土層	6.0	6.6	1.0	47.1
	230	38上	剥片1	褐～暗灰色中粒砂岩			4.65	6.6	0.8	34.4
	231	38下	剥片2	黒色粘板岩	D－2	黒色粘土層	6.1	2.7	0.55	8.8
	232	38下	剥片2	黒色粘板岩		SR01	5.9	2.9	0.6	10.5
	233	38下	剥片2	暗灰～褐色砂質粘板岩	D－2	黒色粘土層	3.5	4.25	0.65	10.6
	234	38下	剥片2	黒色粘板岩	D－2	黒色粘土層	4.1	2.75	0.7	11.8
	235	38下	剥片2	黒色粘板岩	D－2	黒色粘土層	3.1	5.5	0.7	10.7
	236	38下	剥片2	褐～黒色粘板岩		SD08	5.1	2.7	0.75	10.5
	237	38下	剥片2	褐～黒色粘板岩	D－2	黒色粘土層	2.9	2.4	0.25	2.0
	238	38下	剥片2	褐灰色細粒砂岩	D－2	明黄褐色土層	2.2	2.5	0.6	4.1
	239	38下	剥片2	褐～灰色砂質粘板岩	B－2	極暗褐色砂質土層	4.3	3.5	0.9	17.9
	240	38下	剥片2	褐～灰色粘板岩	D－1	黒色粘土層	4.2	3.8	2.0	47.8
	241	38下	剥片2	褐～黒色粘板岩	D－2	黒色粘土層	3.9	4.8	1.5	9.1
	242	38下	剥片2	褐～黒色頁岩			5.6	4.3	0.6	47.7
	243	38下	剥片2	褐～暗緑色珪質凝灰岩	C－2		3.5	5.0	1.4	32.4
	244	38下	剥片2	褐～暗灰色粘板岩	D－2	黒色粘土層	5.05	8.9	0.9	59.6
	245	38下	剥片2	褐～黒色粘板岩	D－1	黒色粘土層	4.6	2.4	0.8	8.1
	246	38下	剥片2	褐～灰色粘板岩	B－2	極暗褐色砂質土層	5.7	5.1	2.1	59.3
	247	38下	剥片2	黒色粘板岩	D－1	黒色粘土層	3.6	4.3	0.6	8.3
	248	38下	剥片2	褐～黒色粘板岩	B－2	極暗褐色砂質土層	5.1	3.3	1.1	19.1
	249	38下	剥片2	褐～黒色頁岩	D－2	黒色粘土層	4.0	2.8	0.6	6.9
	250	38下	剥片2	暗灰色細粒砂岩	C－2	黒色粘土層	5.9	3.7	1.8	30.2

挿図番号	図版番号	写真図版番号	器種	材質	グリッド	遺構・層位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)
	251	38下	剥片2	褐～黒色頁岩	D－2	黒色粘土層	4.8	3.6	1.2	20.4
	252	38下	剥片2	暗灰色細粒砂岩	B－2		5.2	6.2	1.05	45.5
	253	38下	剥片2	黒色粘板岩	D－1	SD14西溝	6.6	5.5	1.4	53.8
	254	38下	剥片2	黒色粘板岩	D－2	明黄褐色砂礫層	7.5	4.8	1.15	57.6
	255	38下	剥片2	褐～暗灰色粘板岩	D－2	黒色粘土層	5.3	4.6	0.6	19.9
	256	38下	剥片2	褐～暗灰色ホルンフェルス		SP05	9.65	6.9	1.55	82.7
	257	38下	剥片2	褐～暗灰色ホルンフェルス	D－2	SR01 黒色粘土層	12.0	4.1	1.1	61.0
	258	38下	剥片2	黒色粘板岩	D－1	黒色粘土層	7.0	2.4	2.0	48.6
	259	38下	剥片2	褐～黒色粘板岩	D－1	黒色粘土層	7.8	4.0	1.55	69.0
	260	38下	剥片2	暗灰色砂質粘板岩	D－1	明黄褐色砂礫層	9.15	3.45	1.5	40.9
	261	38下	剥片2	褐～暗灰色中粒砂岩	D－2	SR01	6.4	5.7	1.3	59.0
	262	38下	剥片2	黒色粘板岩		SP06	7.3	5.05	1.5	52.1
	263	38下	剥片2	黒色粘板岩	D－2	SR01 黒色粘土層	7.1	4.1	0.85	22.3
	264	38下	剥片2	黒色粘板岩	D－2	黒色粘土層	(8.25)	4.9	(0.65)	(28.73)
	265	38下	剥片2	暗灰色斑れい岩	D－1	黒色粘土層	10.2	2.9	0.7	27.3
	266	38下	剥片2	暗灰色細粒砂岩	B－2	極暗褐色砂質土層	5.6	3.1	0.85	20.1
	267	38下	剥片2	褐～黒色粘板岩		暗黄褐色砂礫層	4.9	4.8	1.3	54.1
	268	38下	剥片2	黒色粘板岩	D－1	黒色粘土層	8.4	6.6	1.2	69.8
	269	38下	剥片2	黒色粘板岩	D－2	明黄褐色砂礫層	9.8	6.4	1.1	80.6
	270	38下	剥片2	灰～褐色中粒砂岩	D－2		10.5	6.4	1.8	149.3

石剣（第66図92）

92は石剣の破片である。両面に磨きをかけて刃を仕上げており、刃部上半を欠損している。

打製刃器（第67図93～96）

打製刃器は４点出土している。いずれも表面に自然面を残し、調整により刃部を作り出している。96は側縁及び刃部に剥離調整を行う。

石錘（第67図97～第68図103）

97～99は有溝石錘であり、楕円形の礫の長軸方向に敲打による溝が付けられている。100～103は有頭石錘である。100は頭部に溝を巡らせている。101・102は敲打により頭部を作り出している。比較的大形の製品であり、外洋性の錘と考えられる。103は両頭の石錘であり、頭部を欠失している。99・101は側面に敲打痕が残り、敲石に転用している可能性が考えられる。

その他の石器（写真図版37－181～38－270）

195～209は砥石の石材と見られる資料である。181～194の軽石は砥石として利用するために持ち込まれた可能性があるが、加工痕は確認されていない。210～270は剥片である。210～230は円形の礫を打ち欠いて剥片を作り出している。

3　木製品

木製品は、流路（SR）や土坑（SK）の内部から多数出土している。そのうち14点を図化しており、いずれも弥生時代中期中葉～後葉に属すると見られる。特に流路に接したSK29及びSK32内からは未製品を含む大量の木製品が出土しており、土坑内に水を張って製作途中の未製品を保管し、加工して使用していたと考えられる。

第75図１～第76図５は舟形隆起を作り出し、柄の孔がまだ作られていない段階の直柄鍬の未製品である。１は広鍬の未製品が二連につながっている。頭部は上端から下に向かって約３分の１のところまで両側面を削って湾曲させており、刃部付近は両側面がほぼ平行している。中央に舟形突起があり、立ち上がりの幅も長さもほぼ同じである。上下の鍬はそれぞれ傾きが異なっており、縦断面、横断面とも方向にずれが見られる。上下の鍬はいずれも刃部の右側が欠損している。全体的に腐食が進んでもろくなっている。

２は広鍬の未製品であり、右側面が一部欠損している。頭部の両側面を切り欠いており、中央に舟型突起がある。隆起の部分は菱形で、周囲に加工痕が見られる。表面は腐食している。

３は広鍬の未製品であり、上部右側面が一部欠損している。平面形は長方形で中央が隆起しており、突起の上面は平坦に作られている。上下端部は木取りの切断痕が見られる。裏面は腐食している。

４は狭鍬の未製品である。上端部と下端部に加工痕が残り、中央が隆起している。全体的に腐食していてもろくなっている。

５は広鍬の未製品であり、上部が欠損している。中央が隆起しており、下端まで続いている。刃部に広がりが見られ、裏面が湾曲している。

第76図６は田下駄である。下端部を欠損しており、２ヶ所の孔を両面から削って作り出している。全体的に腐食が進んでいる。

第76図７は竪杵である。上端部は丸く削っており、先端は平らになっている。右側面と下部が欠損しており、下部には焦痕が残る。側面は上部に向かってやや太くなっており、表面には加工痕が残る。

第76図８～第77図14は加工痕の残る板材である。いずれも樹種は鍬の未製品と同一のアカガシ亜属であり、農耕具の製作のために土坑内に保管された木材であると考えられる。

８は上下先端及び表面上部に加工痕が残り、下部は中央が隆起している。裏面はほぼ平らに調整しているが、下部は右側面が削られて湾曲している。

９は上部右側及び裏面に刃痕のようなものが確認でき、表面上端部と左側面及び下部に加工痕が残る。表面は腐食のため剥がれ、いくつかの段差ができている。

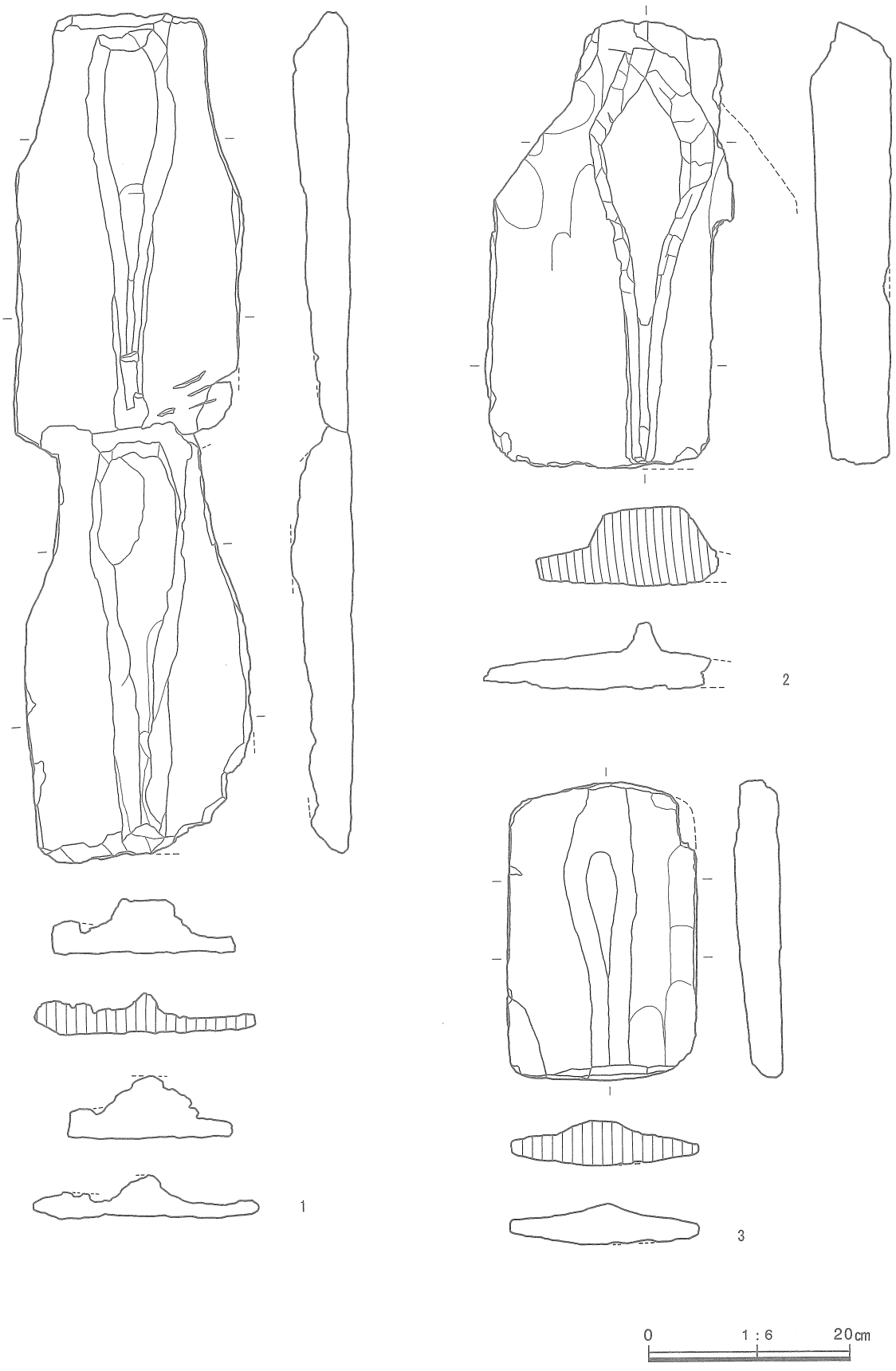
10は左側端に切断した際の刃痕が残り、上端部は削っている。

11は表面の下半分に調整痕や細い刃痕が残存する。下端部には加工痕が残るが、上端部は割れて欠損している。裏面上部は平らに調整しているが、下部は両面を削り、下端部に向かって薄く加工している。

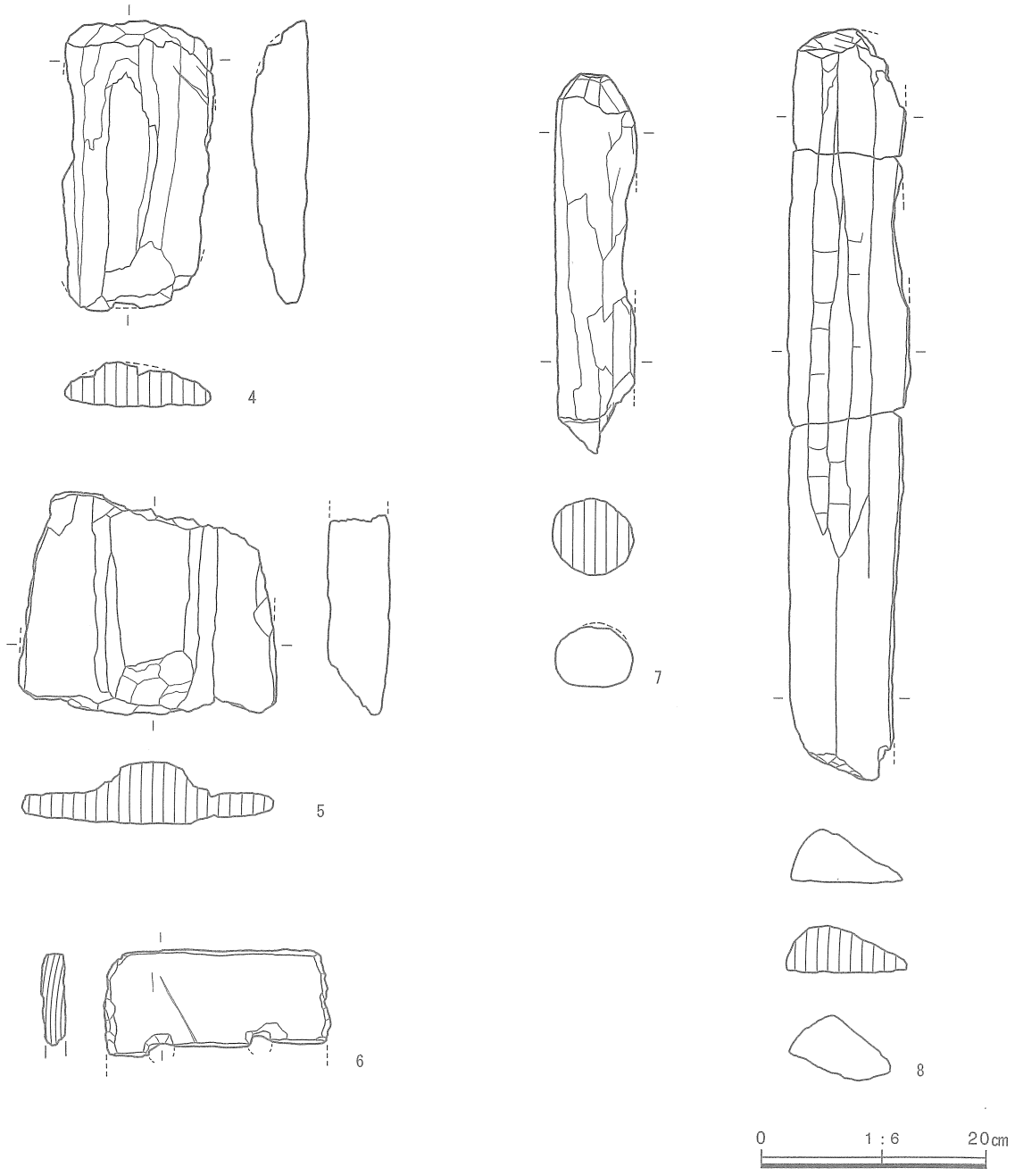
12は上下端に加工痕が残り。表面に加工痕及び細い刃痕が残存する。裏面上部はほぼ平らに調整しているが、下部は両面から削り、下端部に向かって薄く加工している。

13は上下端部に切断した際の刃痕が残り、裏面は湾曲している。左側面は欠損しており、全体的に腐食してもろくなっている。

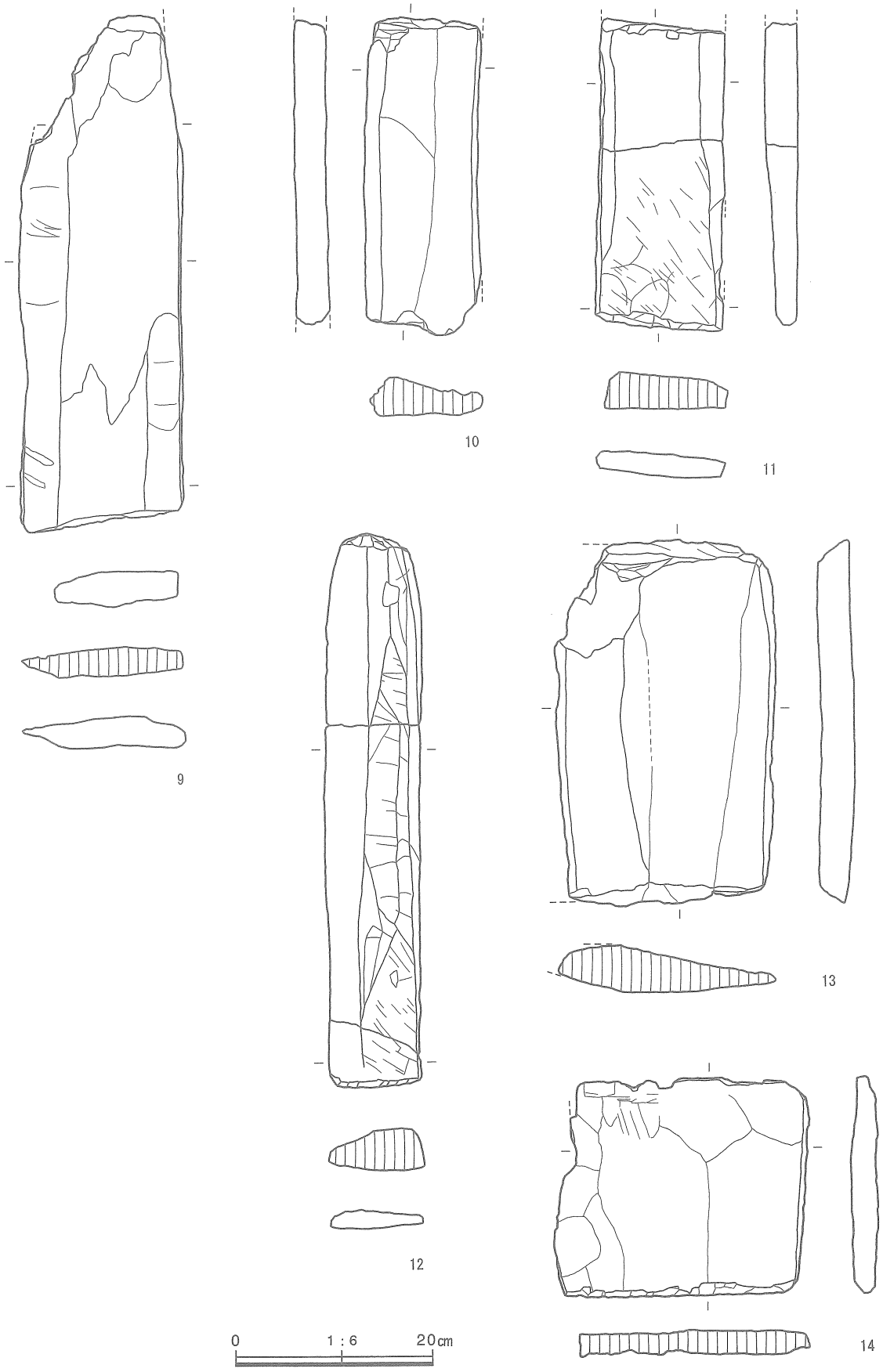
14は上下端部及び裏面に切断した際の刃痕が残り、下端部はV字に切断している。



第75図　木製品１



第76図　木製品２



第77図　木製品３

第10表　木製品一覧

挿図番号	図版番号	写真図版番号	器種	樹種	標本No.	木取り	グリッド	遺構・層位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)
第75図	1	39	広鍬未成品	アカガシ亜属	12543	柾目		SK29	85.4	23.7	6.2
第75図	2	39	広鍬未成品	アカガシ亜属	12537	柾目	D－2	にぶい黄褐色砂層	45.1	(24.8)	7.8
第75図	3	39	広鍬未成品	アカガシ亜属	12542	柾目	D－2	SK25	29.8	19.1	3.8
第76図	4	39	狭鍬未成品	アカガシ亜属	12544	柾目		暗黄褐色砂礫層	25.9	13.6	5.1
第76図	5	39	広鍬未成品	アカガシ亜属	12538	柾目	B－2	SK19	(19.9)	22.9	5.5
第76図	6	40	田下駄	スギ	12540	板目		SR01	(9.4)	20.2	2.1
第76図	7	40	竪杵	アカガシ亜属	12539	柾目		SR02	(33.9)	7.3	6.8
第76図	8	40	板材	アカガシ亜属	12549	柾目		SK32	67.2	10.9	5.9
第77図	9	40	板材	アカガシ亜属	12547	柾目		SK32	52.8	16.7	3.6
第77図	10	40	板材	アカガシ亜属	12545	柾目		SK32	(32.5)	(12.2)	3.9
第77図	11	40	板材	アカガシ亜属	12546	柾目		SK32	(32.1)	13.5	3.8
第77図	12	40	板材	アカガシ亜属	12550	柾目		SK32	56.6	10.1	4.3
第77図	13	40	板材	アカガシ亜属	12548	柾目		SK32	37.5	22.6	4.9
第77図	14	40	板材	アカガシ亜属	12541	柾目	D－2東	SK25	22.2	26.1	2.6

第5章　まとめ

1　有東遺跡出土の弥生時代中期土器について

今回の調査における出土土器は中期中葉から後葉のものが中心である。中期中葉の古い時期の要素を残す土器としては、沈線による区画の内部に条痕が施される平沢型に類似する壺がSD09・SK23・SP02等の遺構において散見されている。中期中葉後半の南関東地方の土器は中里系と呼ばれており、壺の沈線内の条痕が見られなくなり、縄文の施文後に沈線による２～３重の区画が施される。駿河地方におけるこの時期に相当する土器は有東遺跡第16次調査SK05出土土器が基準とされている。本調査でこれらの段階に相当すると見られる土器はSR02において出土しており、瓜郷式の古い段階の壺や嶺田式の壺を伴っている。甕としては磨消線文甕が出土している。なお、SR02以外の遺構でも、図化していない磨消線文甕の破片がSD08・13・14、SK21・23・28、SR01・02の各遺構及び遺構外の黒色粘土層から多数出土している。また、SD14においても太描の沈線による区画が施される土器が出土しているものの、文様構成の形骸化が始まっており、付加沈線が見られなくなる瓜郷式の新しい段階の土器を伴っていることから、SD14出土土器は中期中葉後半の中でもより新しい段階に属する可能性が考えられる。

中期後葉の土器はSR01や遺構外において多く出土しており、大きく２段階に分類できる。中期後葉前半の土器として、帯縄文を沈線で区画して結紐文などの文様を施す壺や櫛描文系の壺が見られ、甕は横位羽状文甕が多く出土している。中期後葉後半には、壺に鋸歯文や波状文と直線文による文様が施され、栗林式の影響も見られるようになる。しかし、これらの土器は本調査においては遺構に伴う出土がほとんど見られないこともあり、詳細な時期区分については不明な部分が多い。

2　有東遺跡における集落の変遷について

これまでに実施された有東遺跡の調査結果に基づき、弥生時代中期から後期における集落の変遷についてまとめると次のようになる。

集落の形成は中期中葉に開始されており、遺跡の東部（第４次・第８次・第16次）を中心に活動の跡が認められる。その後、集落は北西方向に広がっていき、弥生時代中期の集落は第１次調査地付近を中心に展開していくと考えられている（文献14)。これまでの調査では中期の明確な竪穴住居跡は検出されていないが、第４次・第８次・第10次・第11次等の各調査において、広範囲に密集する小穴群が検出されている。小穴は礎板や柱根を残すものが多く、多数の建物が広範囲に広がっていた可能性が高い。これらの集落域は久能街道微高地上に立地しており、自然流路である川によって区切られている。第４次調査区では川の方向に併行する溝が検出されており、第11次調査においても居住域内を区画していたと推定される溝が検出されている。これらの川跡や溝の検出状況から、弥生時代中期の居住域は、巨視的には一つの居住域によって構成されており、この広範囲の居住域が、川や溝によっていくつかの小居住域に分割されていることが推定されている（伊藤 1991)。

中期後半の墓域は北東部（第８次・第15次・第16次・第19次）及び南西部（３次・５次・６次）の２ヶ所に分かれて立地している。いずれも集落の隣接地に位置しているが、集落とは異なる小微高地上に位置しており、川および低地によって集落と隔てられている。

中期の水田については不明な点が多いが、第４次調査において川跡から中期中葉段階の土器に伴う木製農耕具や、その製作具としての石器の出土が見られることから、有東遺跡において中期中葉から水稲

農耕が開始していた可能性が指摘されている（文献５）。中期中葉の確実な水田遺構は検出されていないが、中期後半の水田の存在を示す遺構として、第８次調査区において水田の痕跡が確認されているほか、第11次調査区において疑似畦畔状遺構による小区画が検出されている。

弥生時代後期以降は居住域のほぼ全域が水田域へと移行し、水田が広範囲に広がる。この水田化の要因の一つとして、弥生後期の小海進に伴う湿地面積の拡大が生じたことが推定されている（文献５・平野 1990・伊藤 1991）。後期におけるこのような水田域の拡大は、鷹ノ道遺跡や瀬名遺跡など周辺遺跡の多くで認められている。また、有東遺跡の南西側には有東梳子遺跡・登呂遺跡において水田域が新設されている。これらの遺跡における水田は連続するものである可能性が高く、周辺地域への水田域の拡大に連なるものであることが推定されている。

一方、居住域は水田化により規模が縮小及び分立化が進み、それぞれが集落を構成するようになる。第５次調査区や第11次調査区においては後期前半の住居跡が検出され、その上位で水田が確認されており、後期の中での水田域の移動または拡大を示していると見られている。

今回の調査地点では第１面において弥生後期～古墳前期と考えられる水田跡が検出され、第２面において弥生中期中葉～後葉の掘立柱建物跡、溝状遺構、小穴等が検出された。また、中期中葉～後葉の出土遺物として多量の石器、木製品が認められている。柱穴の可能性のある小穴が多く検出され、出土遺物の量も多いことから、本調査地点は中期中葉から後葉における有東遺跡の居住域の中心部の一角に含まれる区域であると考えられる。また、検出された流路は第４次・第８次調査区で検出されている川跡と連結する可能性が考えられ、直線上に掘られたSD08などの溝は居住域を区画する溝の一つである可能性も推定できる。

3　有東遺跡における石器製作について

本調査における石器の出土は、ほとんどが流路（SR）とその周辺及び土坑（SK）の中に集中しており、石器製作具と考えられる敲石・砥石及び木製品の生産具と考えられる太型蛤刃石斧・柱状片刃石斧・扁平片刃石斧等のほか、石器製作に伴って生じたと見られる剥片や未製品が多く出土している。

片刃石斧の製作工程については、有東遺跡第４次調査及び川合遺跡の報告において荒割り・調整剥離・研磨の段階に分類されている。本調査区においても荒割り及び調整剥離段階の未製品が出土しており、特に荒割り段階の未製品が半数以上を占めている。第４次調査及び川合遺跡の出土品については、荒割りの段階ですでに研磨が施される資料が見られることが確認されており、本調査区出土の石斧未製品についても同様に荒割りの段階で研磨された未製品の存在が確認された。また、調整剥離の段階で折損している資料も多く見られる。

本調査においては、石斧及び砥石の製作のために採集されたと見られる未加工の石材も出土している。これらの石斧の石材は安倍川流域付近において採集されたと見られる凝灰岩を用いているものが大半であり、現在でも安倍川および藁科川流域において同種の石材を手に入れることができる。また、砥石の石材として使われている砂岩は静岡層群に含まれるものであり（伊藤 1992）、川合遺跡においては長尾川や瀬名川の河原において採集され、有東遺跡においては八幡山・谷津山の路頭から採集された可能性が推定されている。中期後半の静岡平野では、集落において必要な石器は基本的に各自で生産し、消費していたと考えられており、今回の調査においても石器製作の道具や未製品が多く出土している点から、付近で石材を採集し、集落内で石器製作を盛んに行っていたことが推定される。

4　有東遺跡出土の木製品について

今回出土した木製品は全て中期後半の資料であり、図化した以外にも多量の木製品が出土している。農具としては、鍬の未製品が土坑（SK）から出土しており、製作途中の木製農具を土坑内に水を張って保管していた可能性が推定される。第４次調査においても同様に、河川跡から未製品を含む多量の木製品が出土しており、広鍬・狭鍬・組み合わせの鋤などの農具が多く出土していることから、集落内で木製品の製作が行われていたと考えられている。

弥生時代中期の静岡平野では、瀬名遺跡において弥生中期後葉の水田が検出されている以外には明確な水田遺構を検出する遺跡は少ないが、有東遺跡においても中期後葉の水田の痕跡を示す遺構などが検出されている。稲作農耕が導入されたと考えられる中期後半の段階から木製農具の基本的な組み合わせが完成していたと考えられている。また、木製品の加工具としての太型蛤刃石斧・柱状片刃石斧・扁平片刃石斧などの石器も、弥生時代中期中葉に基本的な組み合わせが完成した状態で導入されていると考えられており（平野 1990）、水田域が明確ではないものの、木製農具や出土状況から見て、中期後半の段階から稲作農耕が開始されていた可能性を示す貴重な資料であると考えられる。

本書の作成にあたっては、次の方々に有益なご指導・ご助言を賜った。記して感謝の意を申し上げたい。

（敬称略・五十音順）伊藤通玄、篠原和大、平野吾郎

参考文献

伊藤淳史 1996「太平洋沿岸における弥生文化の展開」『YAY！弥生土器を語る回20回到達記念論文集』

伊藤寿夫 2002「弥生時代の生産域（水田）と集落」『静岡県における弥生時代集落の変遷』静岡県考古学会

伊藤通玄 1992「川合遺跡より出土した石器の材質」『川合遺跡 遺物編２』静岡県埋蔵文化財調査研究所

加藤明秀・芹沢長介 1938「静岡市有東杉畷馬捨場弥生式遺跡」『考古学第９巻第９号』東京考古学会

加藤芳朗 1983「有東遺跡をめぐる地形・地質的背景」『有東遺跡Ⅰ』静岡県教育委員会

加納俊介・石黒立人編 2002『弥生土器の様式と編年 東海編』木耳社

静岡県教育委員会 1983『有東遺跡Ⅰ下 静岡市警察署建設用地内埋蔵文化財調査報告書』静岡県文化財調査報告書第28集

静岡県埋蔵文化財調査研究所 1990『川合遺跡（遺構編）平成元年度静清バイパス（川合地区）埋蔵文化財発掘調査報告書 本文編』静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告第25集

静岡県埋蔵文化財調査研究所 1996『川合遺跡（遺物編１）平成７年度静清バイパス（川合地区）埋蔵文化財発掘調査報告書 土器・土製品本文編』静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告第83集

静岡県埋蔵文化財調査研究所 1992『川合遺跡（遺物編２）平成３年度静清バイパス（川合地区）埋蔵文化財発掘調査報告書 石製品・金属製品本文編』静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告第36集

静岡県埋蔵文化財調査研究所 1996『川合遺跡（遺物編３）平成元年度静清バイパス（川合地区）埋蔵文化財発掘調査報告書 木製品本文編』静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告第84集

静岡県埋蔵文化財調査研究所 2004『瀬名川遺跡Ⅱ 平成13～16年度（都）北街道線緊急地方道路整備事業（街路B）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告第155集

篠原和大 2008「静岡・清水平野における弥生遺跡の分布と展開」『静岡県考古学研究40』

中日本高速道路株式会社横浜支社・静岡県埋蔵文化財調査研究所 2007『小瀬戸遺跡・栗ヶ沢遺跡 第二東名建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 静岡市－１』静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告第176集

中野宥 1988「登呂遺跡の再検討」『日本における稲作農耕の起源と展開』日本考古学会静岡大会実行委員会・静岡県考古学会

平野吾郎 1990「東海地方における水田稲作の開始について」『研究紀要Ⅲ』静岡県埋蔵文化財調査研究所

有東遺跡調査関係文献

文献１　杉原荘介 1951「静岡市有東第一遺跡」『日本考古学年報１』日本考古学協会

文献２　後藤守一 1951「静岡市有東第二遺跡」『日本考古学年報１』日本考古学協会

文献３　中野　宥 1984「登呂遺跡第６次調査と周辺遺跡」『登呂遺跡発見40周年記念シンポジウム資料』登呂遺跡シンポジウム実行委員会

文献４　伊藤寿夫 1988「有東遺跡」『日本考古学協会設立40周年記念シンポジウム 日本における稲作農耕の起源と展開―資料集―』日本考古学協会静岡大会実行委員会・静岡県考古学会

文献５　静岡県教育委員会 1983『有東遺跡Ⅰ』静岡県文化財調査報告書第28集

文献６　静岡市教育委員会 1990『静岡市の埋蔵文化財発掘調査の概要 平成元年度』

文献７　静岡市教育委員会 1992『静岡市の埋蔵文化財発掘調査の概要 平成２年度』

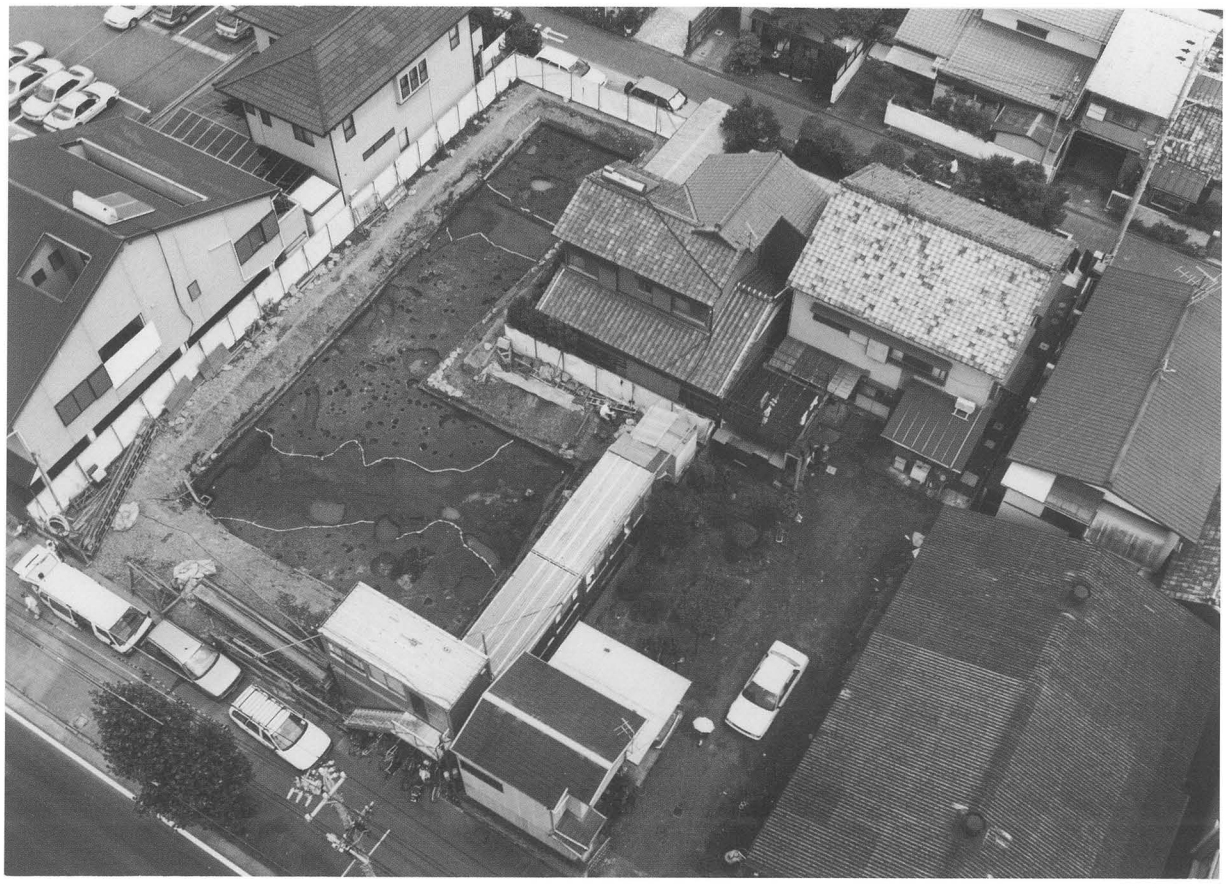
文献８　伊藤寿夫 1991「静岡市有東遺跡における弥生時代集落の検討」『静岡市立登呂博物館館報２―平成３年度―』静岡市登呂博物館

文献９　静岡市教育委員会 1993『ふちゅーるNo.１　平成３年度静岡市文化財年報』
文献10　静岡市教育委員会 1995『ふちゅーるNo.３　平成５年度静岡市文化財年報』
文献11　静岡市教育委員会 1997『ふちゅーるNo.５　平成７年度静岡市文化財年報』
文献12　静岡市教育委員会 1997『有東遺跡第14次調査報告書』静岡市埋蔵文化財調査報告43
文献13　静岡市教育委員会 1997『有東遺跡第15次発掘調査報告書』静岡市埋蔵文化財調査報告40
文献14　静岡市教育委員会 1997『有東遺跡第16次発掘調査報告書』静岡市埋蔵文化財調査報告39
文献15　静岡県埋蔵文化財調査研究所 1998『静岡県埋蔵文化財調査研究所年報14（平成９年度事業概要）』
文献16　静岡市教育委員会 1999『ふちゅーるNo.７　平成９年度静岡市文化財年報』
文献17　静岡市教育委員会 2001『ふちゅーるNo.９　平成11年度静岡市文化財年報』
文献18　静岡市教育委員会 2001『有東遺跡（第19次発掘調査）』静岡市埋蔵文化財調査報告56
文献19　静岡県埋蔵文化財調査研究所 2002『有東遺跡―第20次発掘調査報告書―』静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告第134集
文献20　パル文化財研究所 2008『静岡県静岡市有東遺跡―店舗建設に伴う第21次発掘調査報告書―』
文献21　静岡市教育委員会 1987『有東梅子遺跡』
文献22　静岡市教育委員会 1989『有東梅子遺跡２　第３次発掘調査報告書』

写　真　図　版

図版1

遺跡遠景（南より）



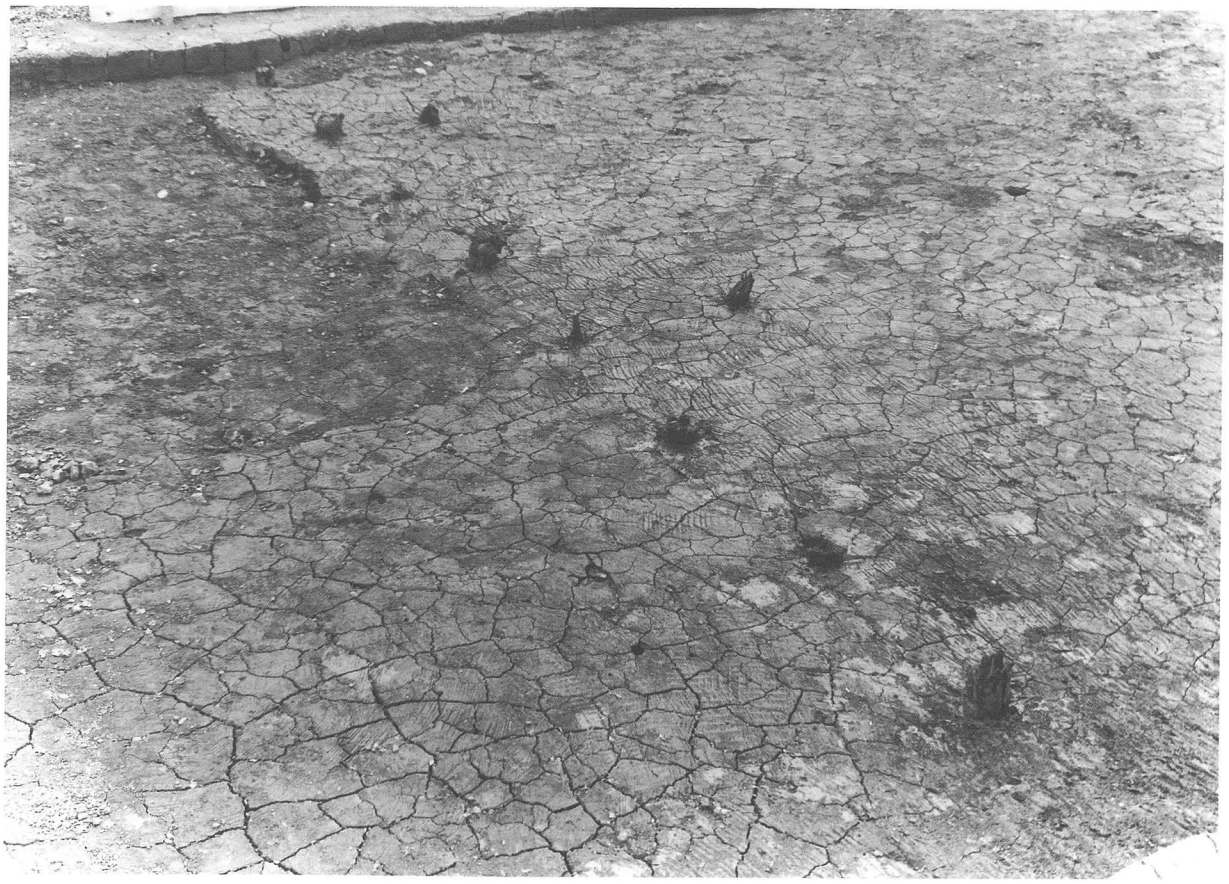
調査区近景（北より）

図版２

調査区南壁土層堆積状況（北より）

第１面完掘状況（北西より）

図版３



第１面杭列検出状況（東より）

第１面粘土ブロック検出状況（東より）

図版４

SD04付近（西より）

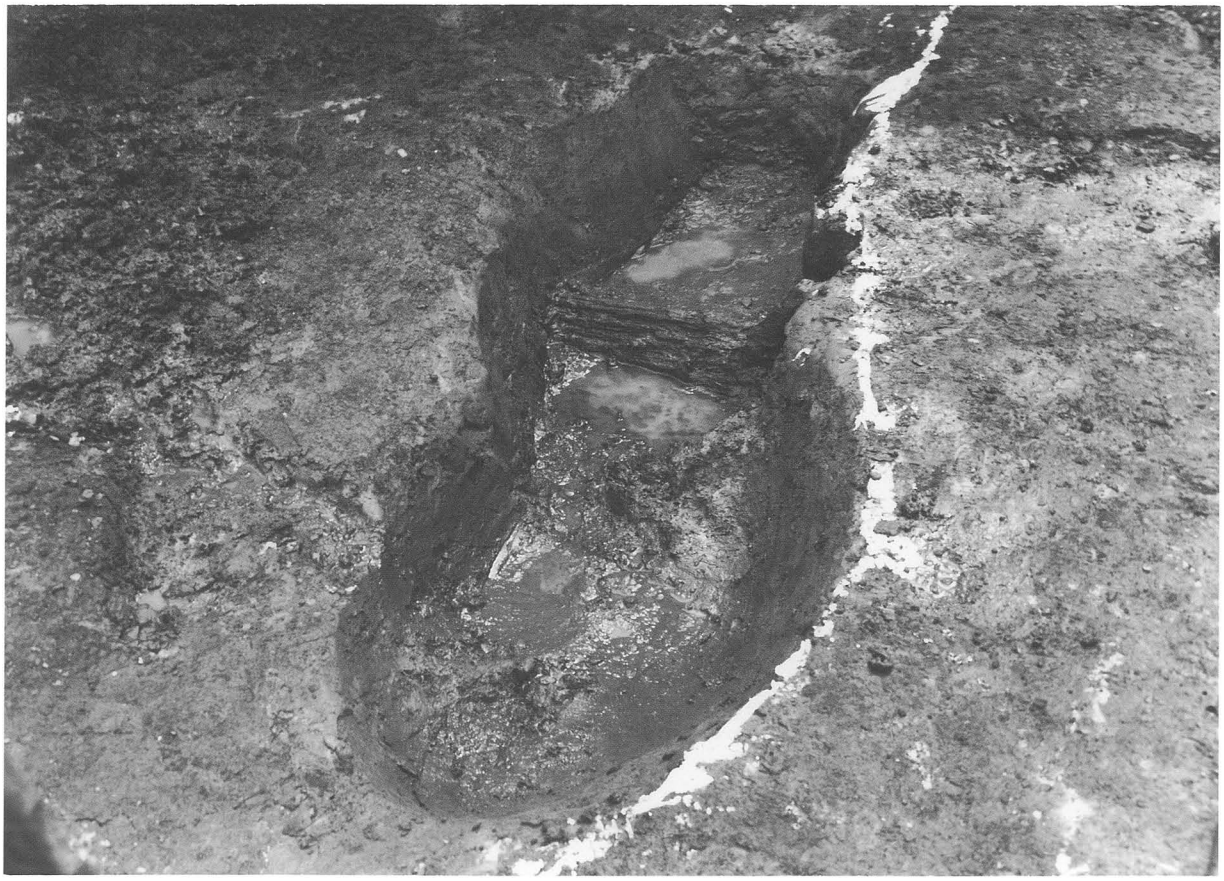
SD08西壁土層（東より）

SD08・SK19検出状況（北より）

SD08・SK19付近（北より）

図版６

SD13検出状況（北より）



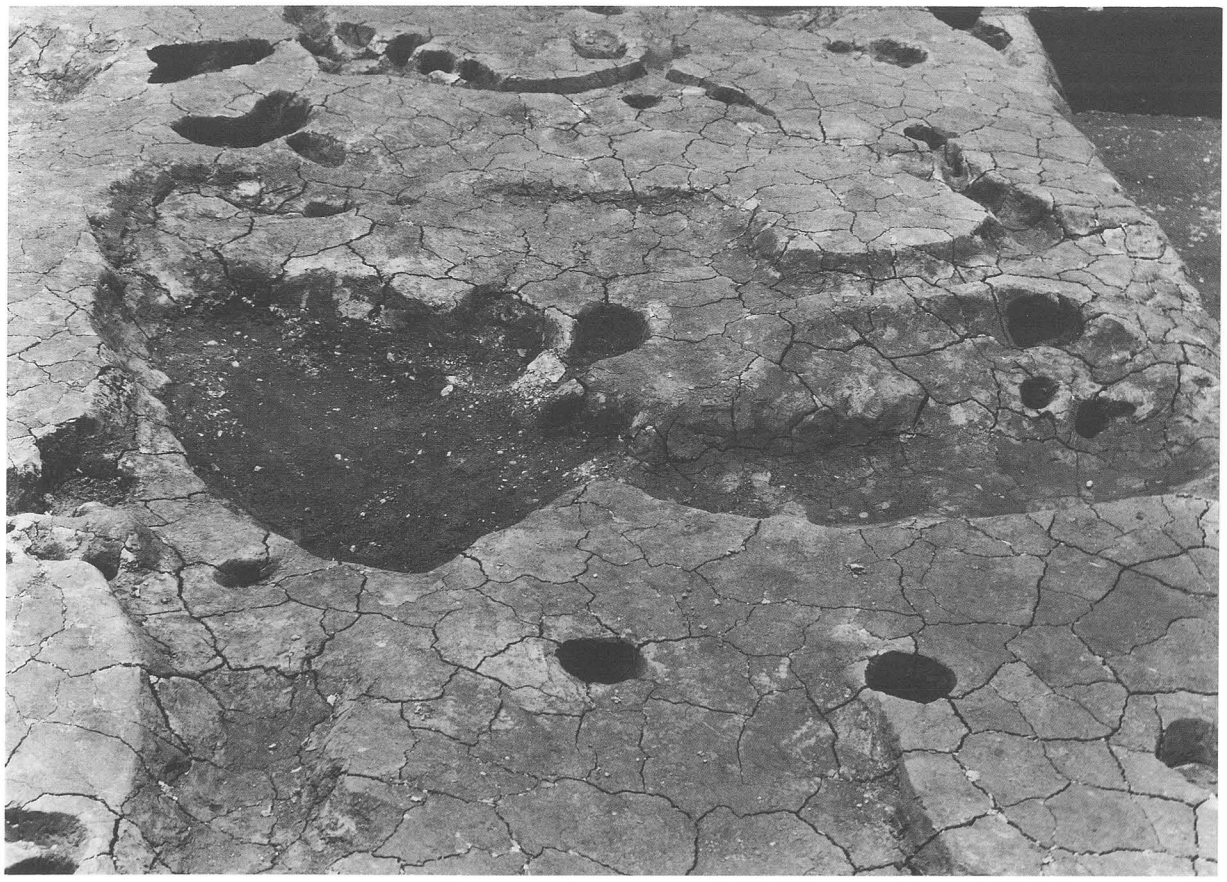
SD14検出状況（東より）

図版7

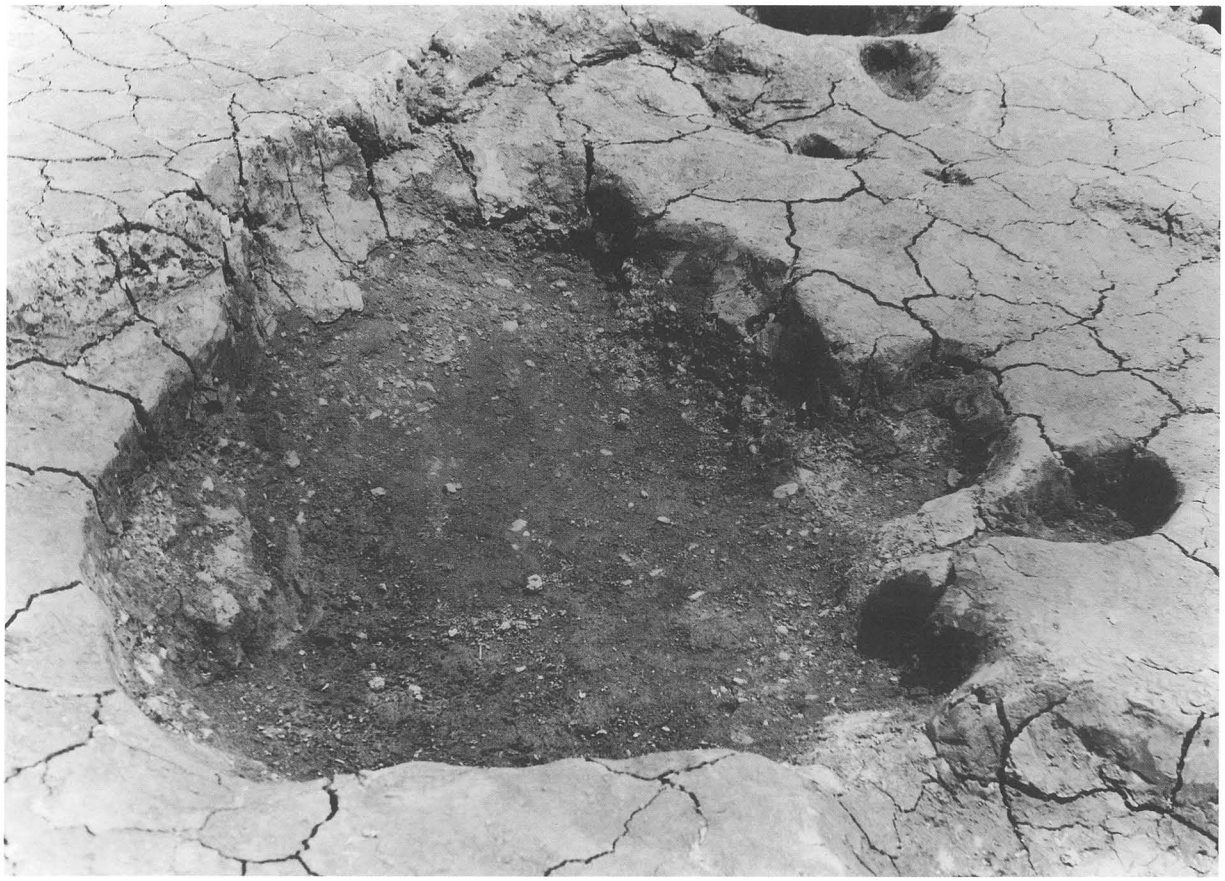
SK01検出状況（北西より）

SK01完掘状況（北より）

図版８

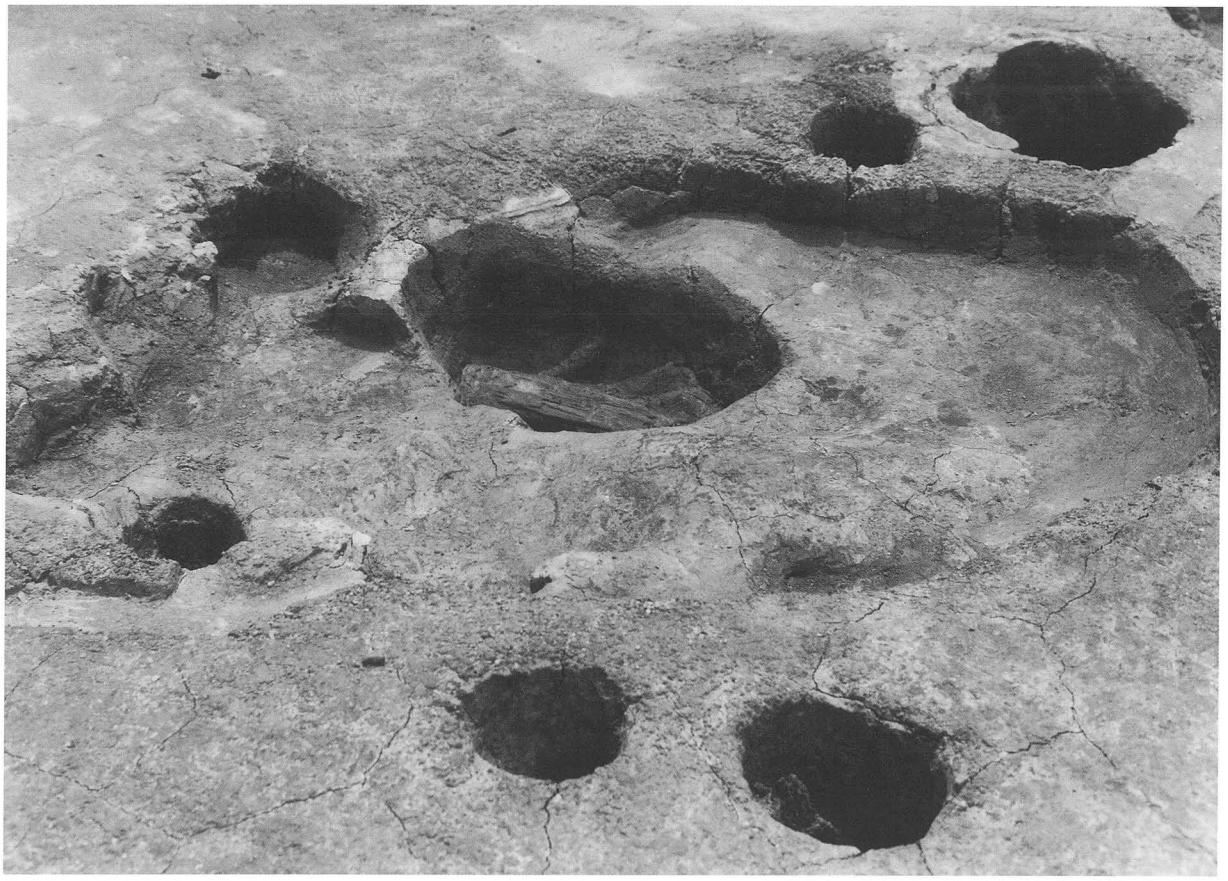


SK08付近（北より）



SK08検出状況（東より）

図版９



SK20検出状況（北より）

SK25検出状況（北より）

図版10

SK28検出状況（東より）

SK29上面検出状況（北より）

SK29下面検出状況（南より）

SK30検出状況（東より）

図版12

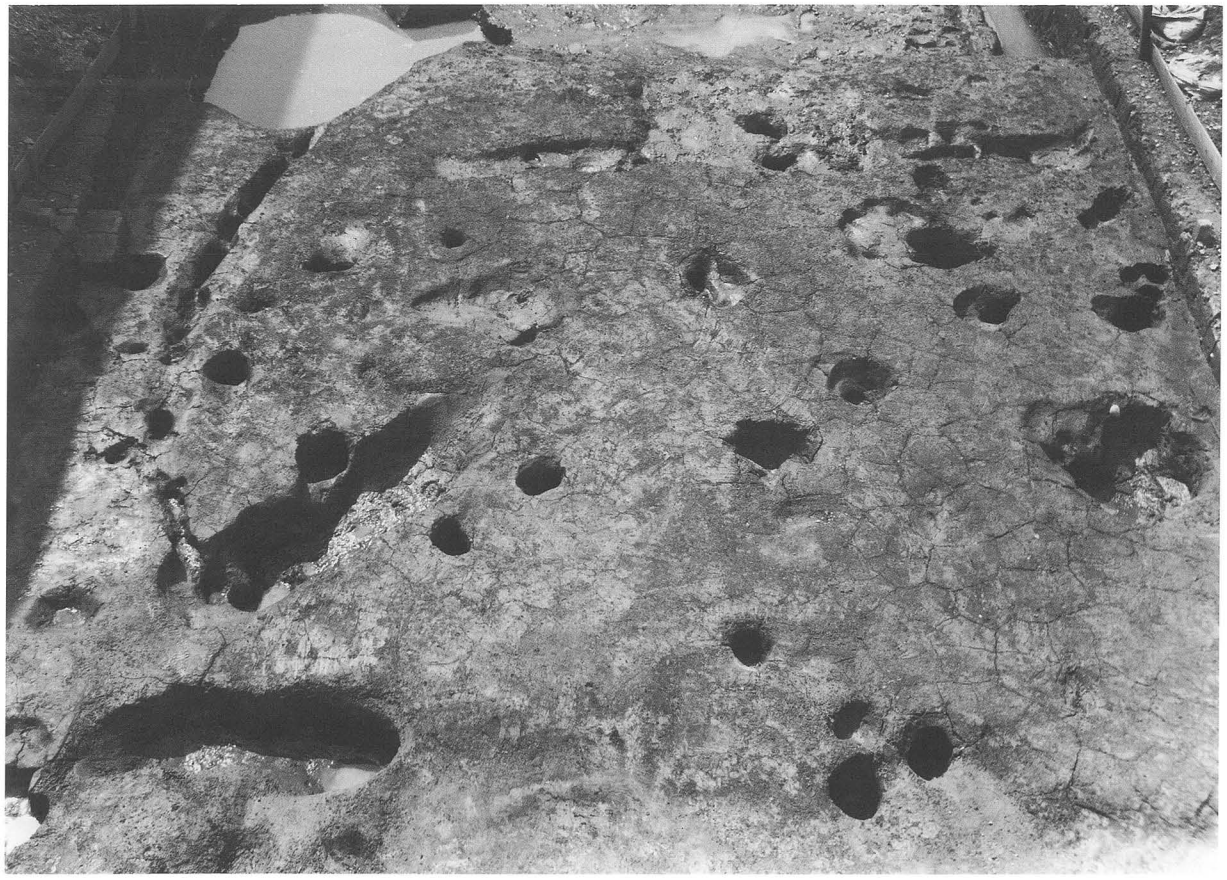
SK32検出状況（南より）

SR01・02検出状況（南西より）

北側ピット群（北東より）

中間部ピット群（南より）

図版14



中間部ピット群（北より）

南側ピット群（北より）

南側ピット群（北東より）

南側ピット群（南西より）

図版16

調査区全景（北より）

調査区全景（南より）

17

20

25

26

28

29

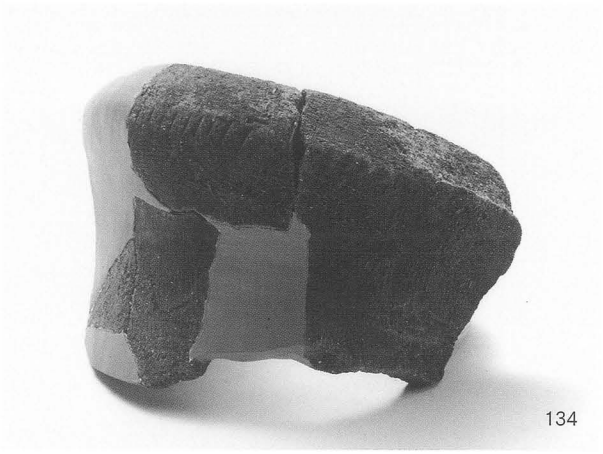
91

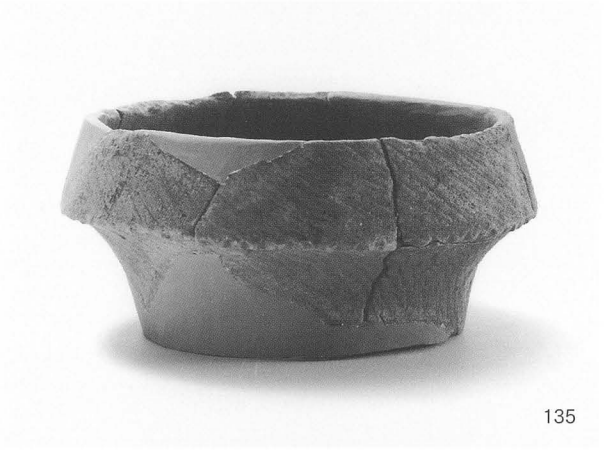
127

SD14・SK08・SK29出土土器

図版18

133


134


135

139

142

282

284

302

SX01・SR01・SR02出土土器

図版19

338

352

347

355

351

483

357

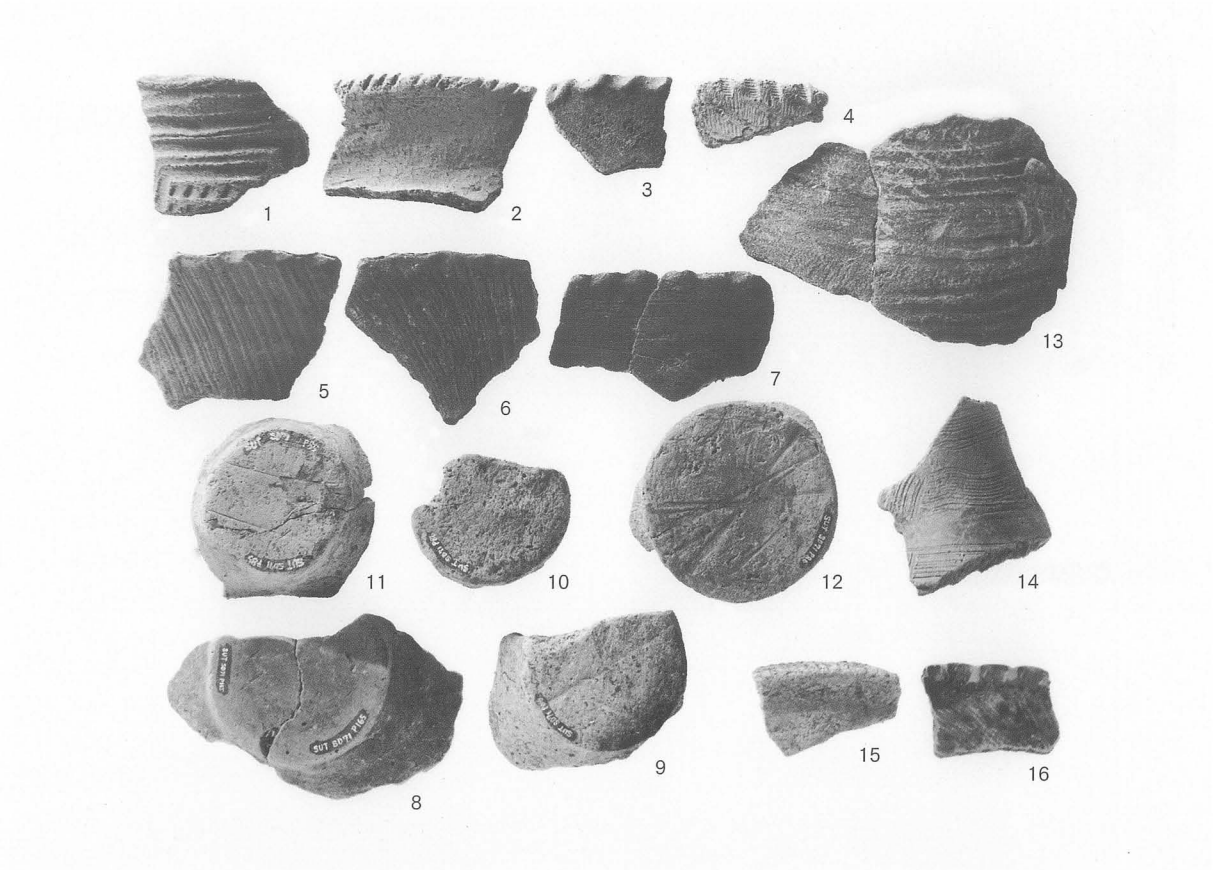
358

481

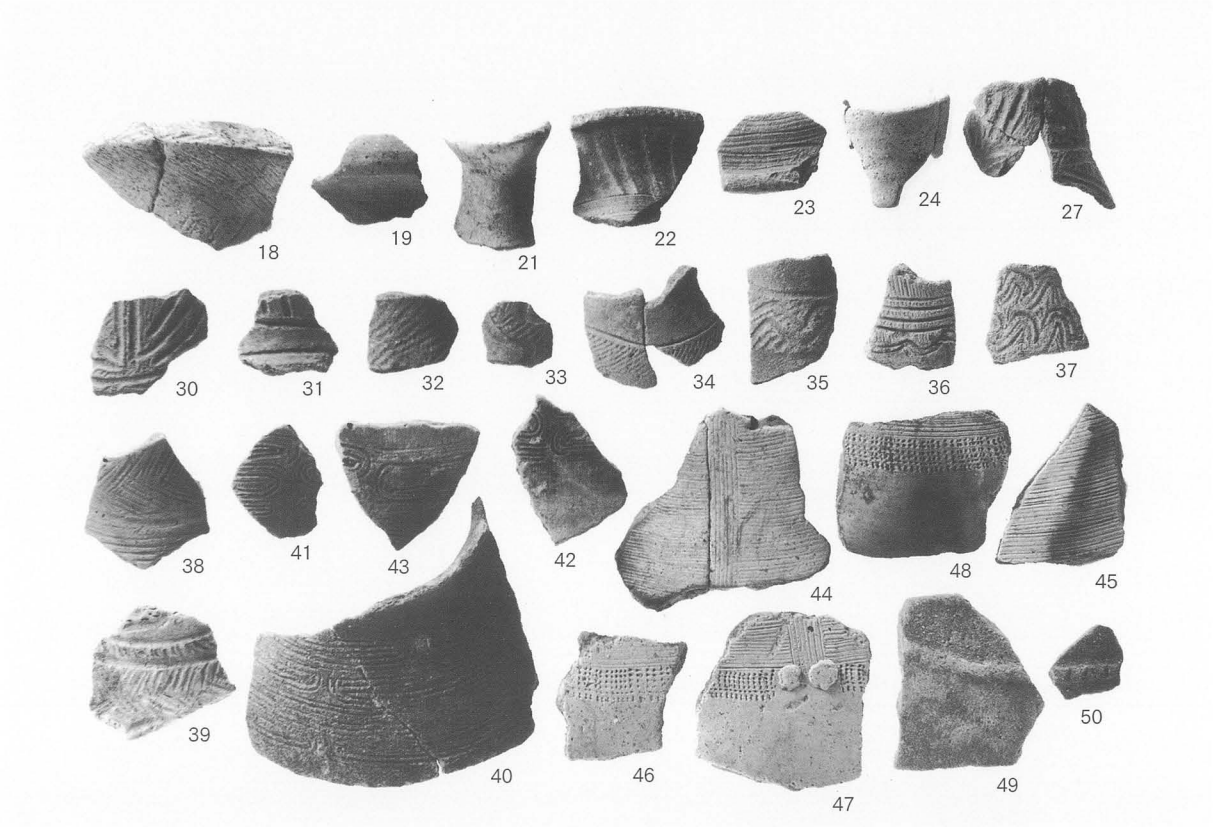
482

遺構外出土土器

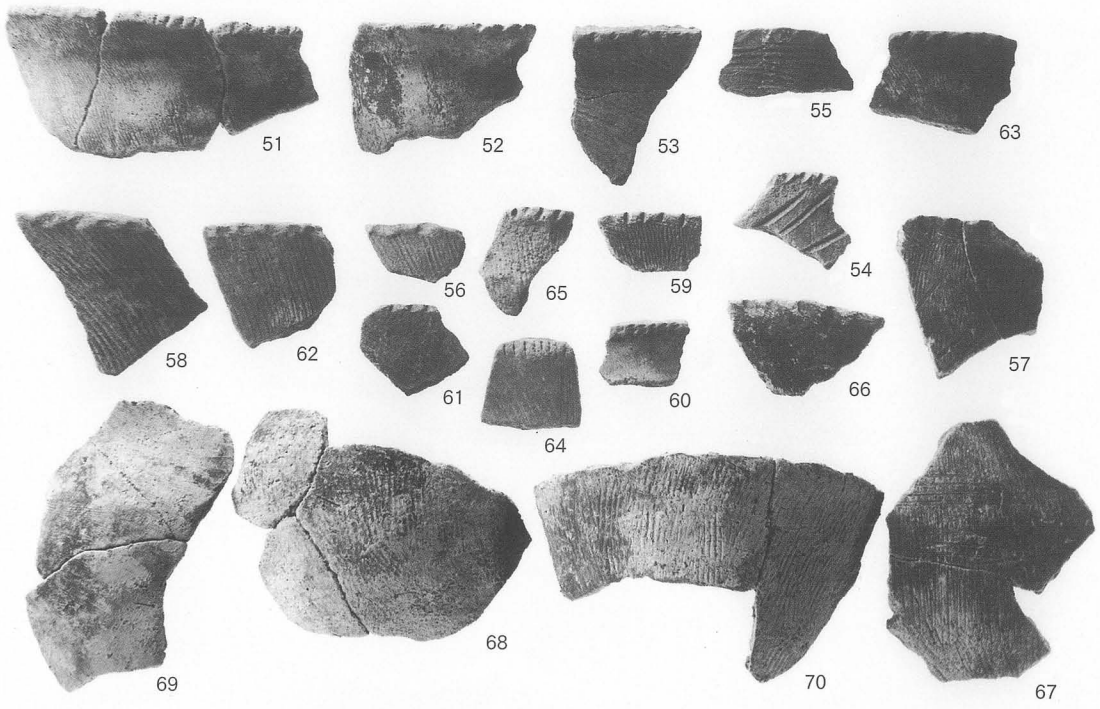
図版20



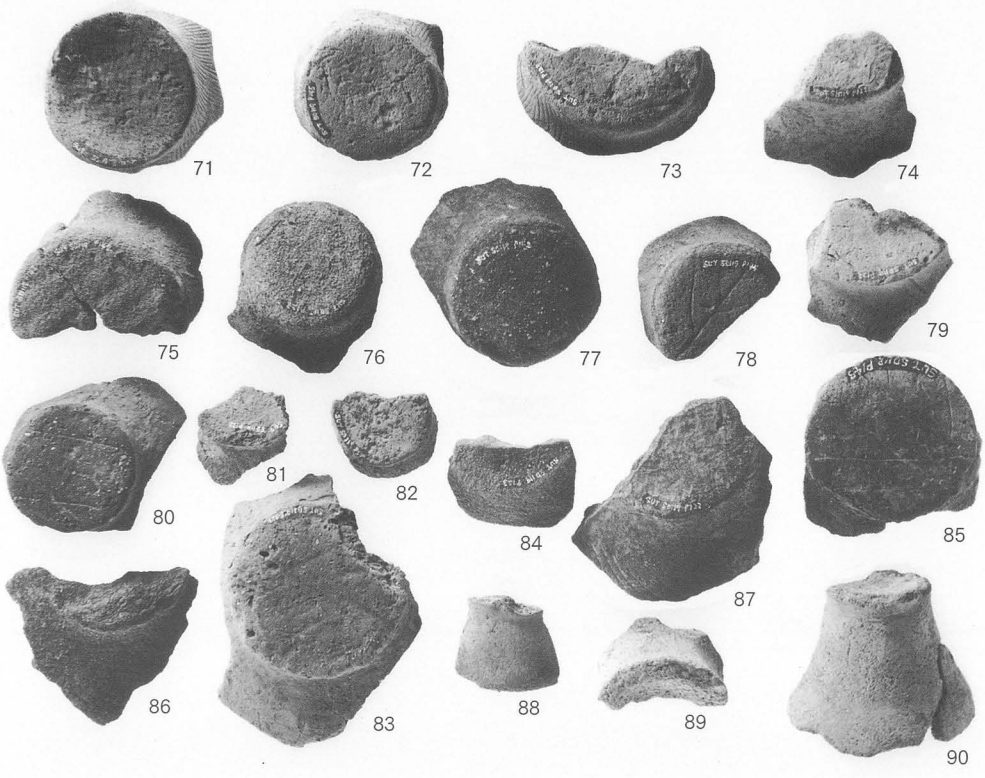
SD08・SD09・SD13出土土器



SD14出土土器（壺）

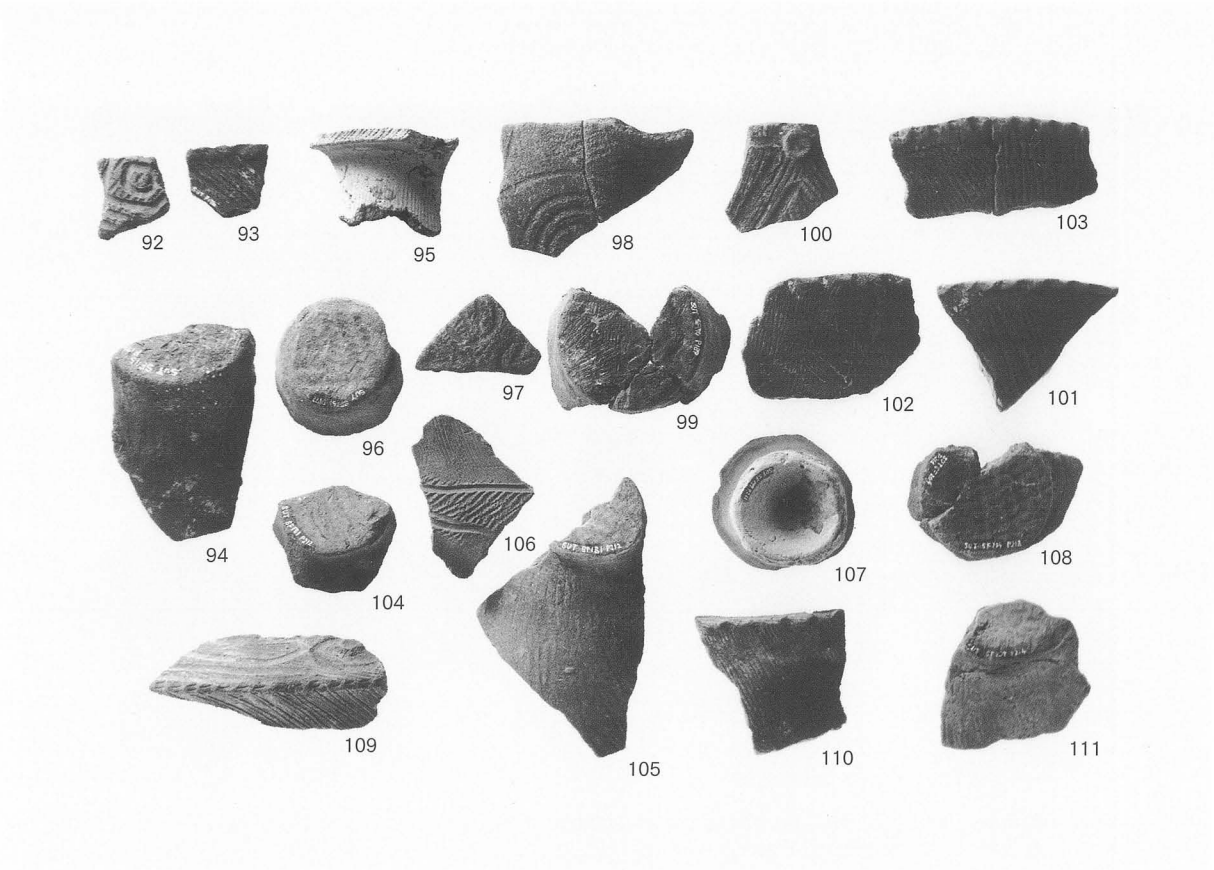


SD14出土土器（甕）

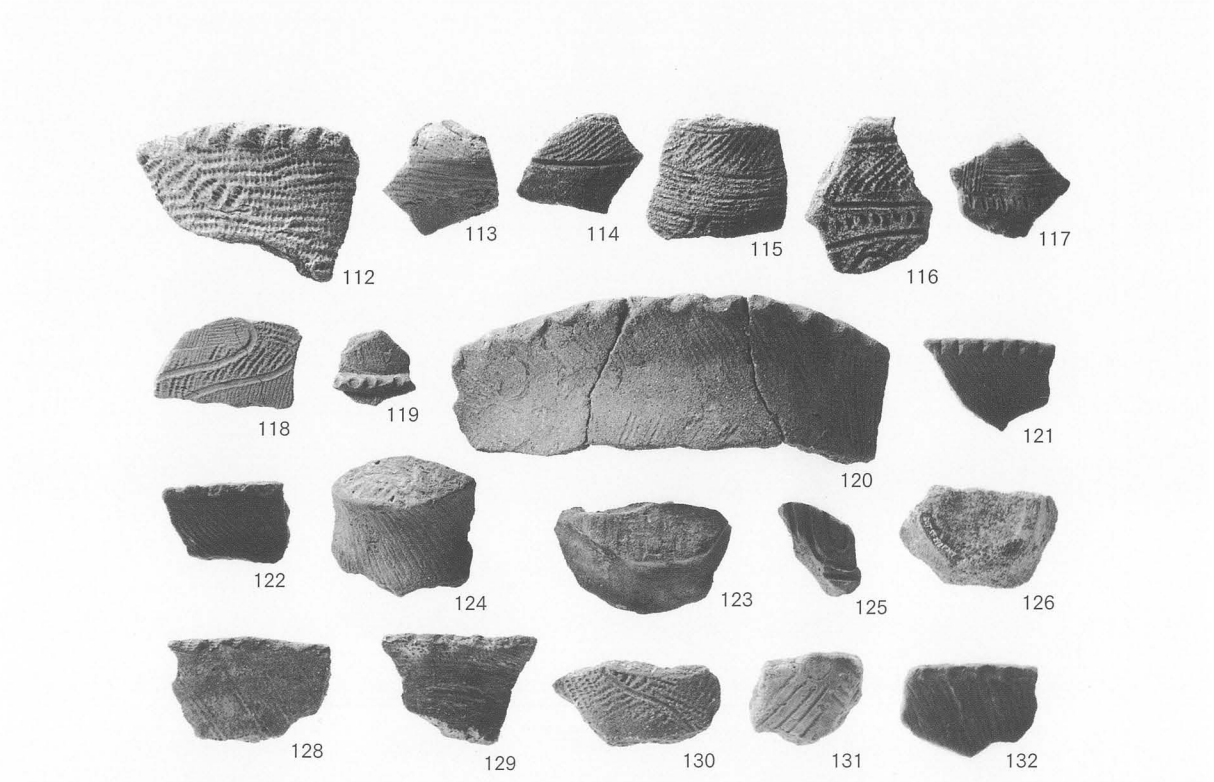


SD14出土土器（底部）

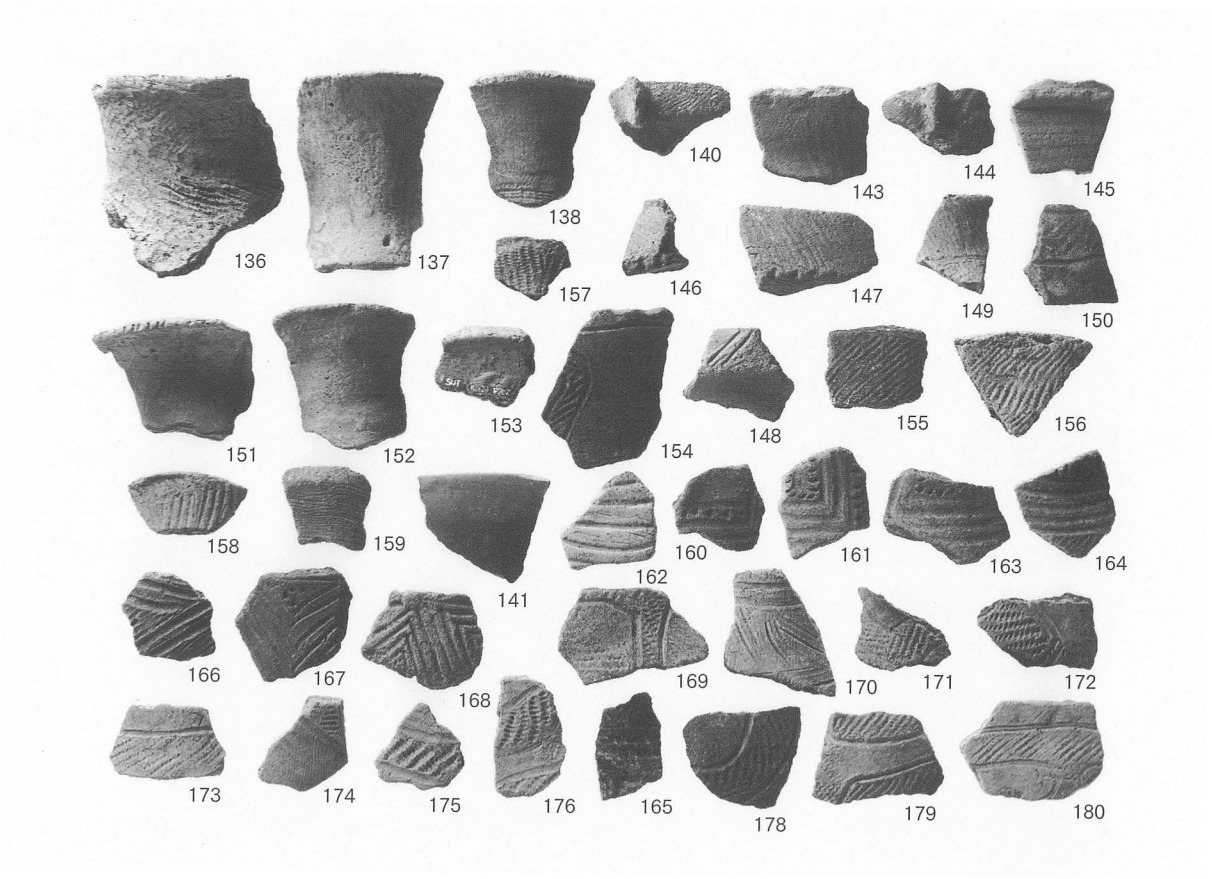
図版22



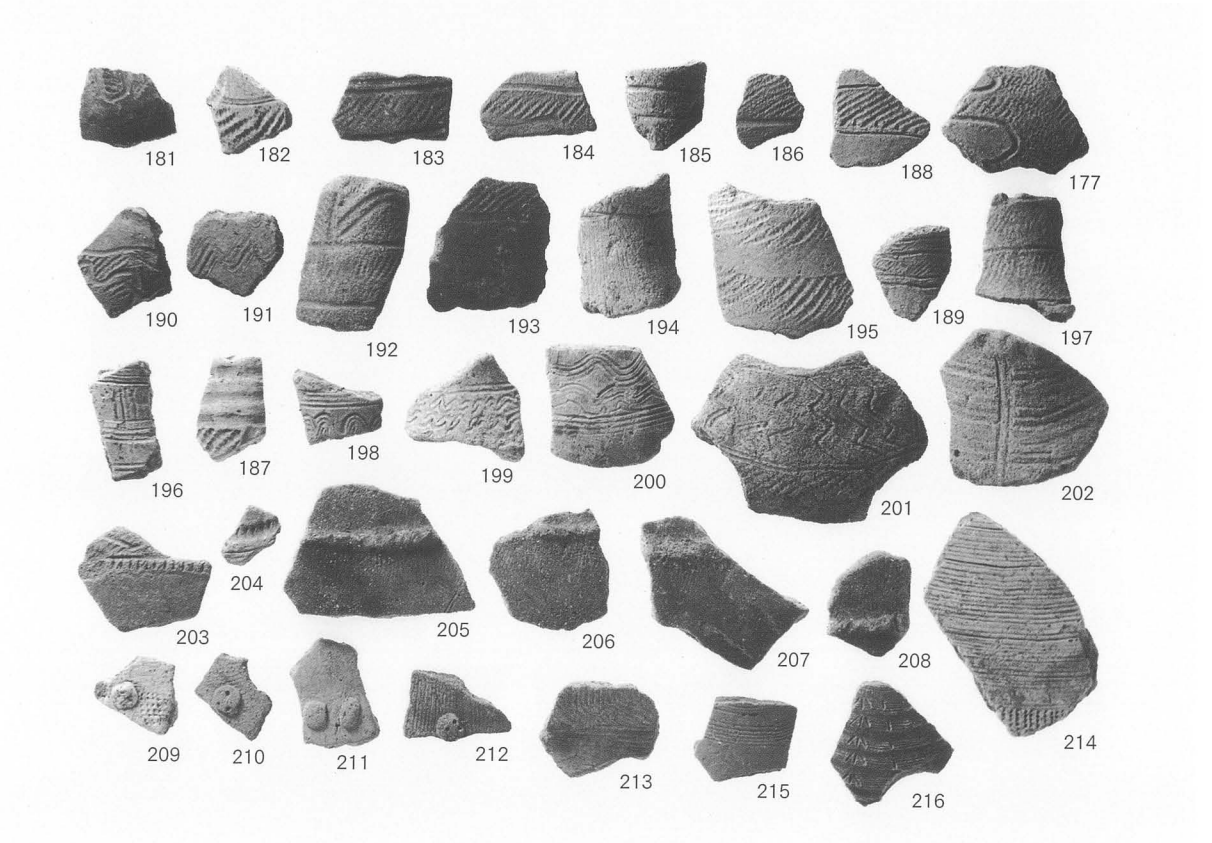
SK08～SK27出土土器



SK28・SK29出土土器

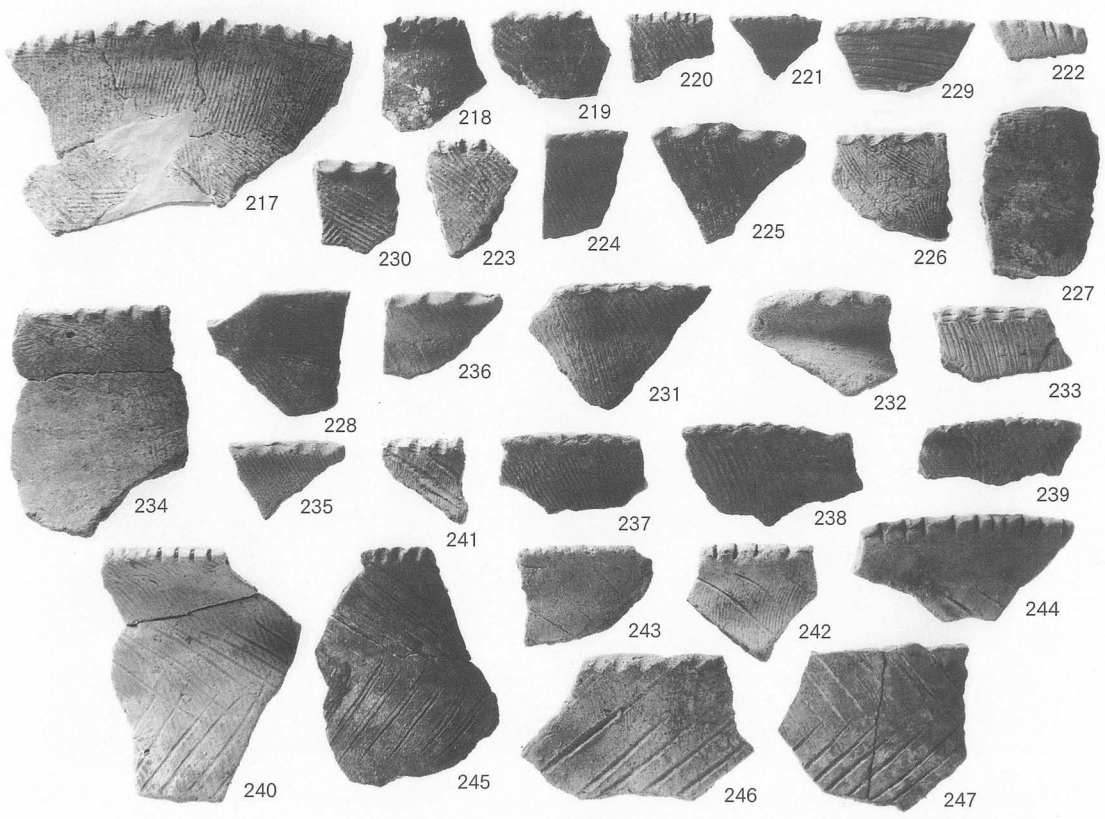


SR01 出土土器（壺１）

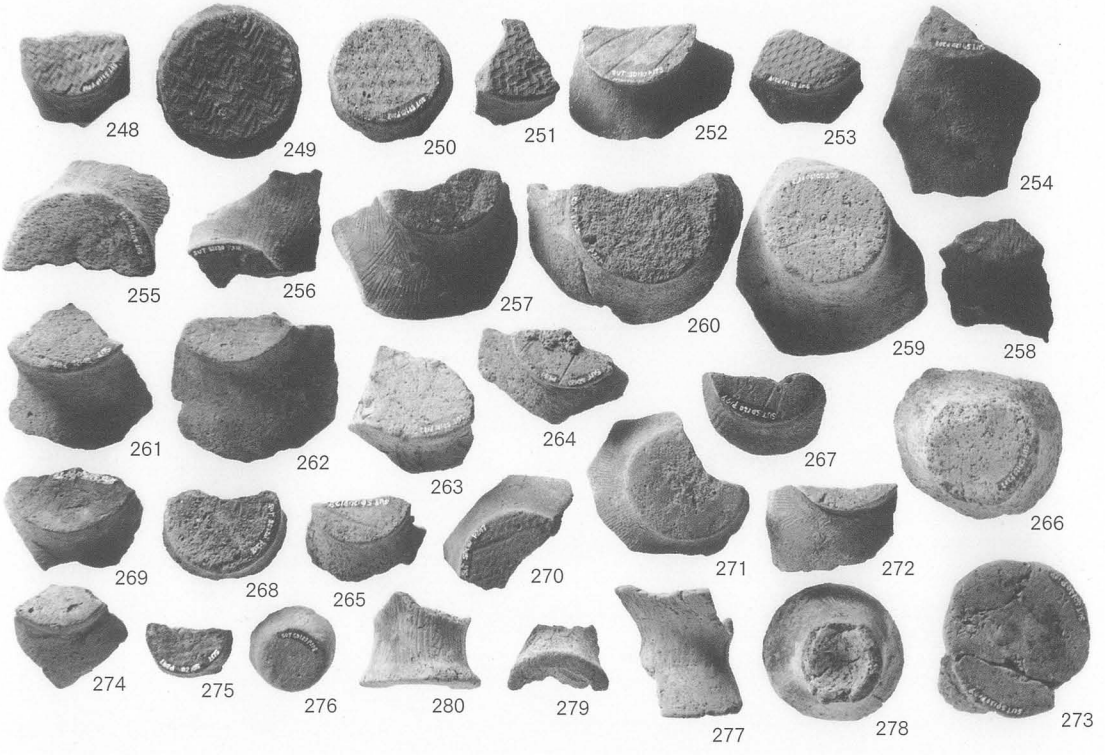


SR01 出土土器（壺２）

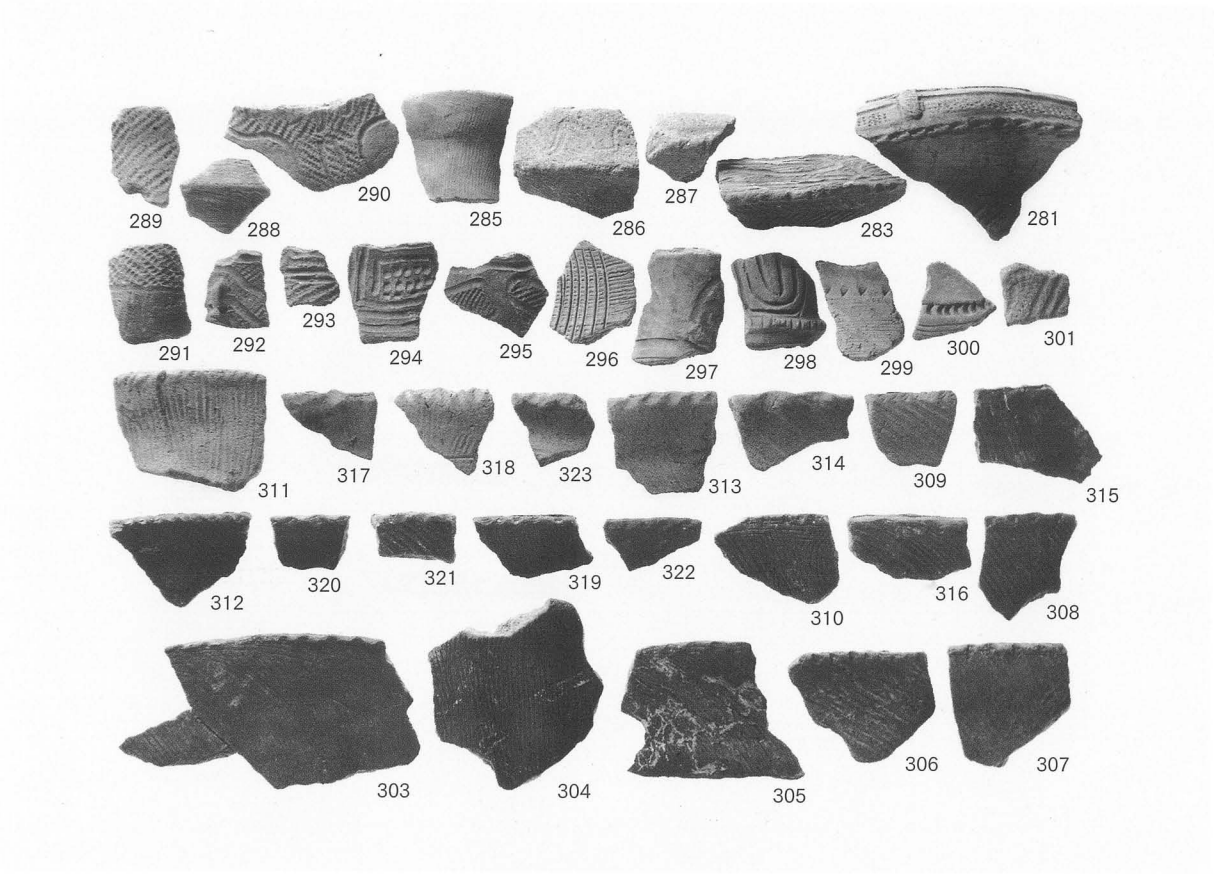
図版24



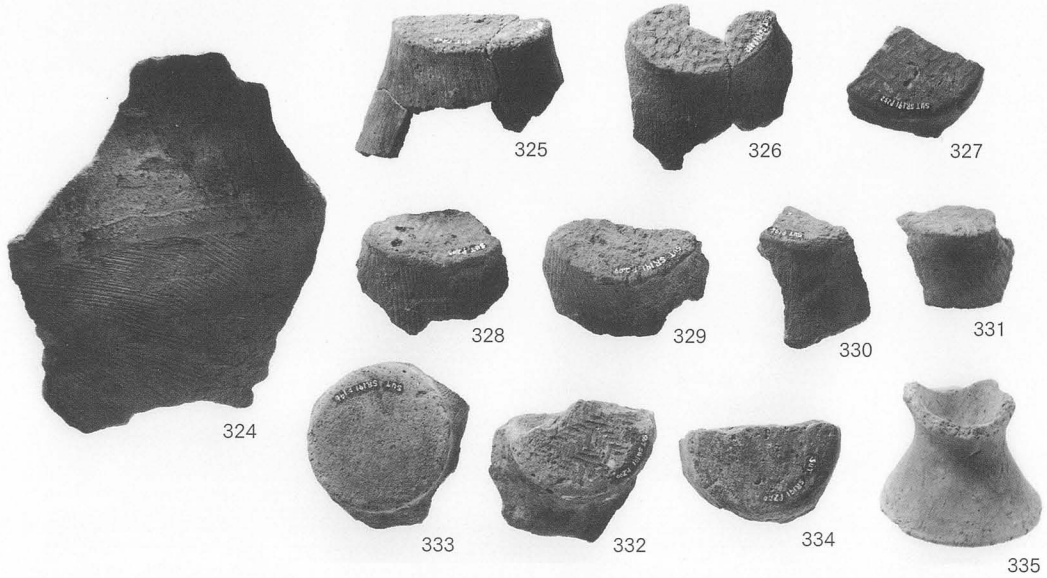
SR01 出土土器（甕）



SR01 出土土器（底部）

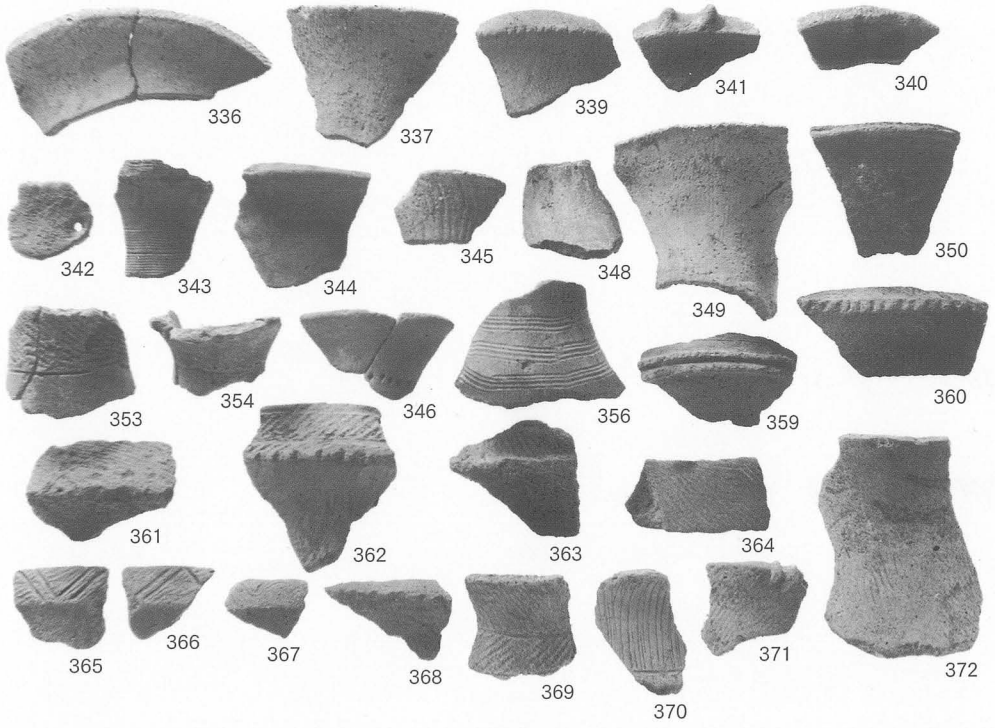


SR02出土土器（壺・甕）

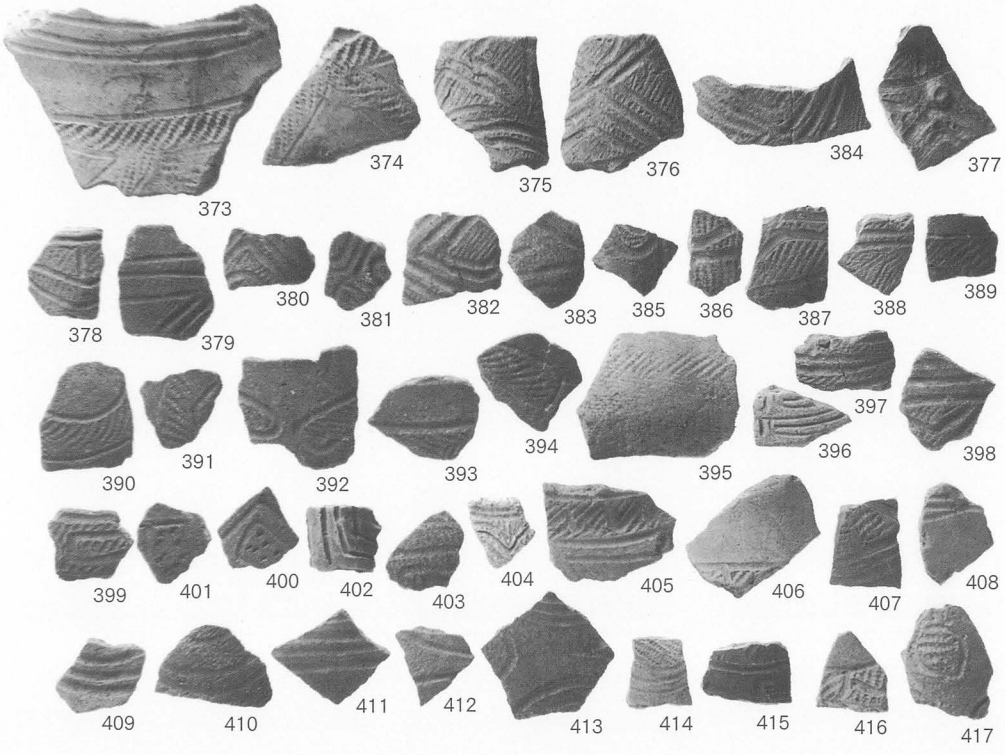


SR02出土土器（甕・底部）

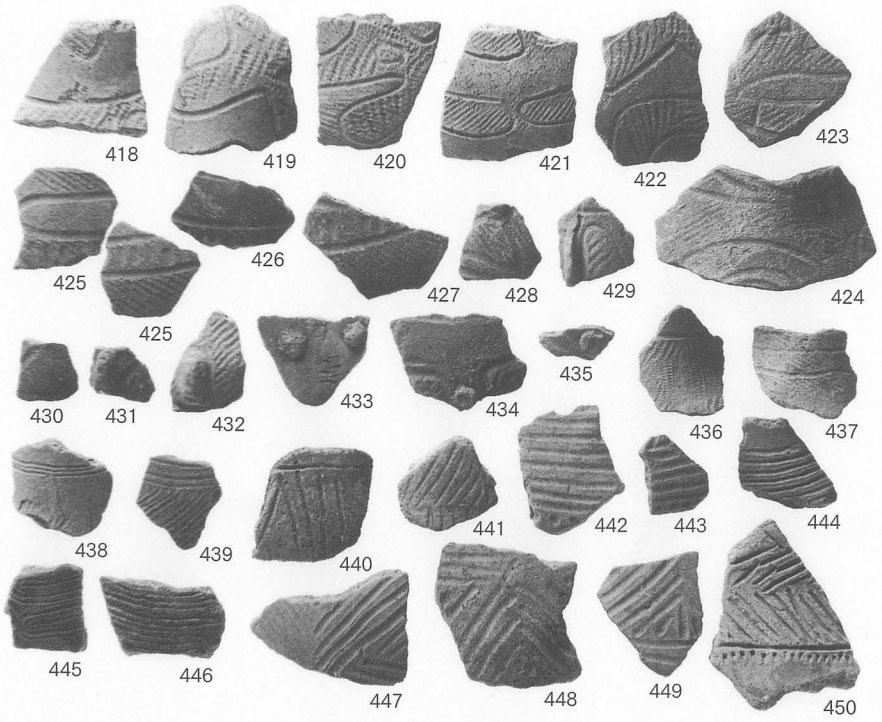
図版26



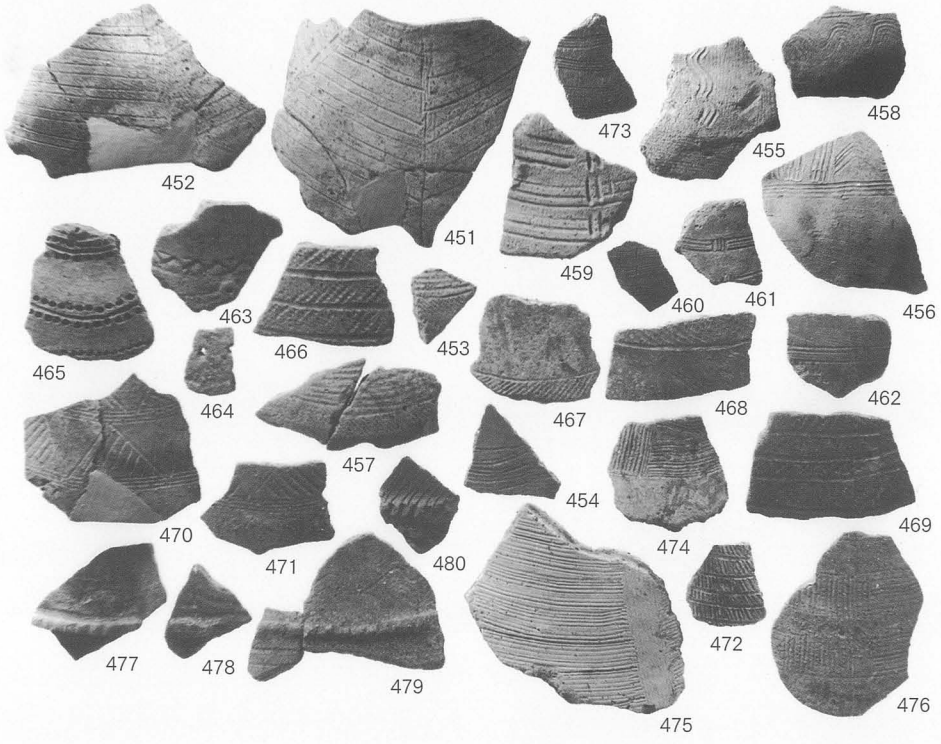
遺構外出土土器（壺１）



遺構外出土土器（壺２）

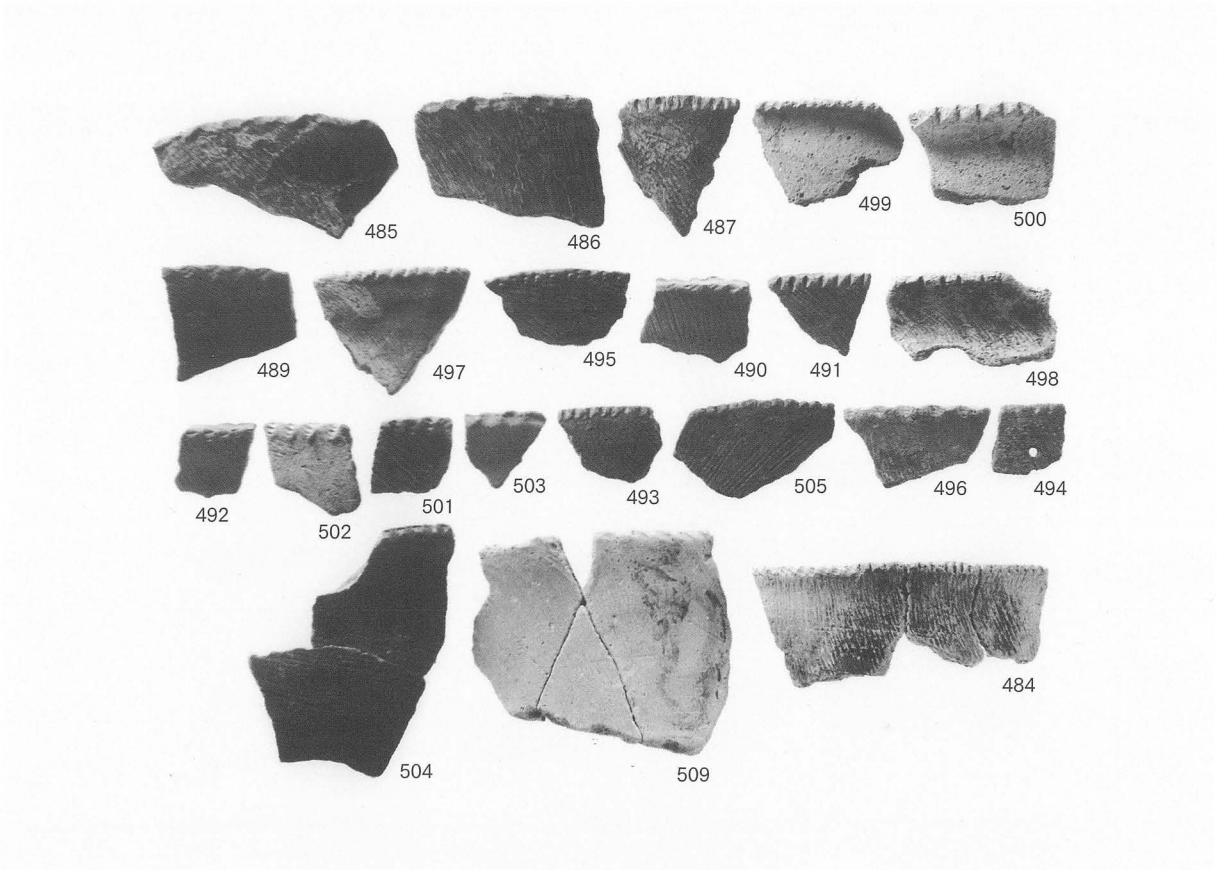


遺構外出土土器（壺３）

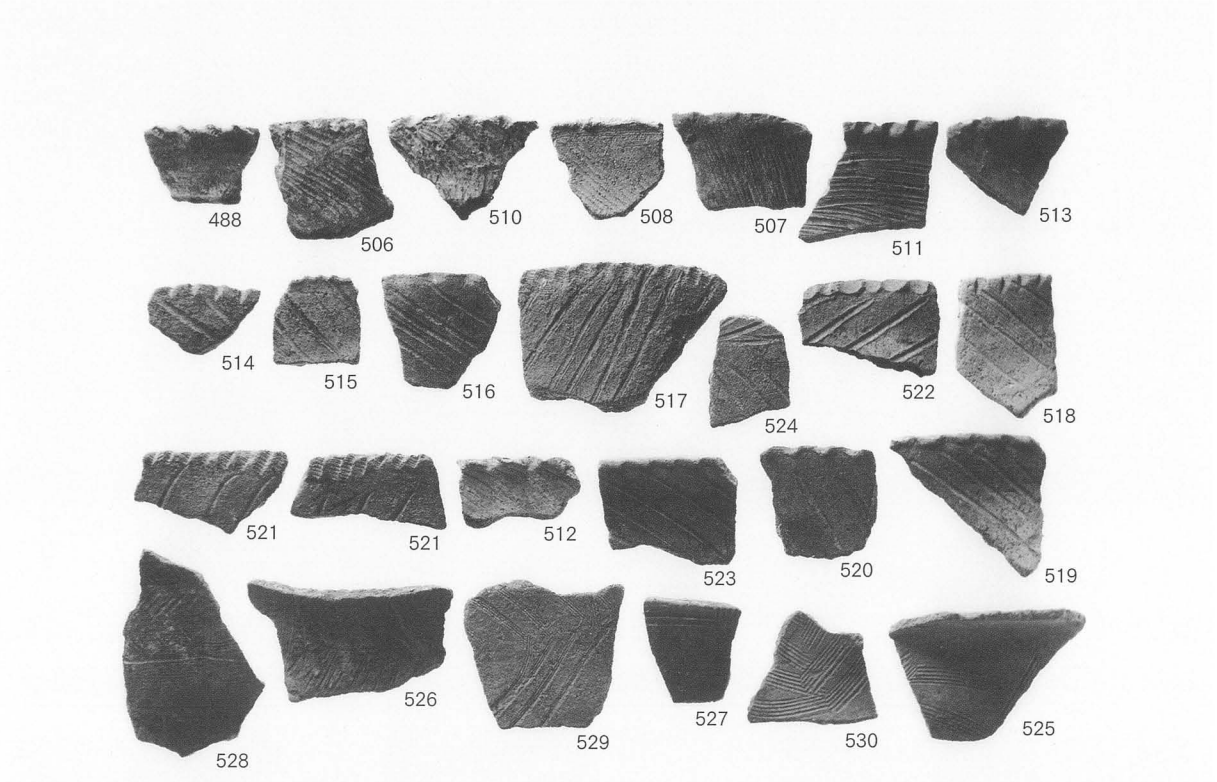


遺構外出土土器（壺４）

図版28

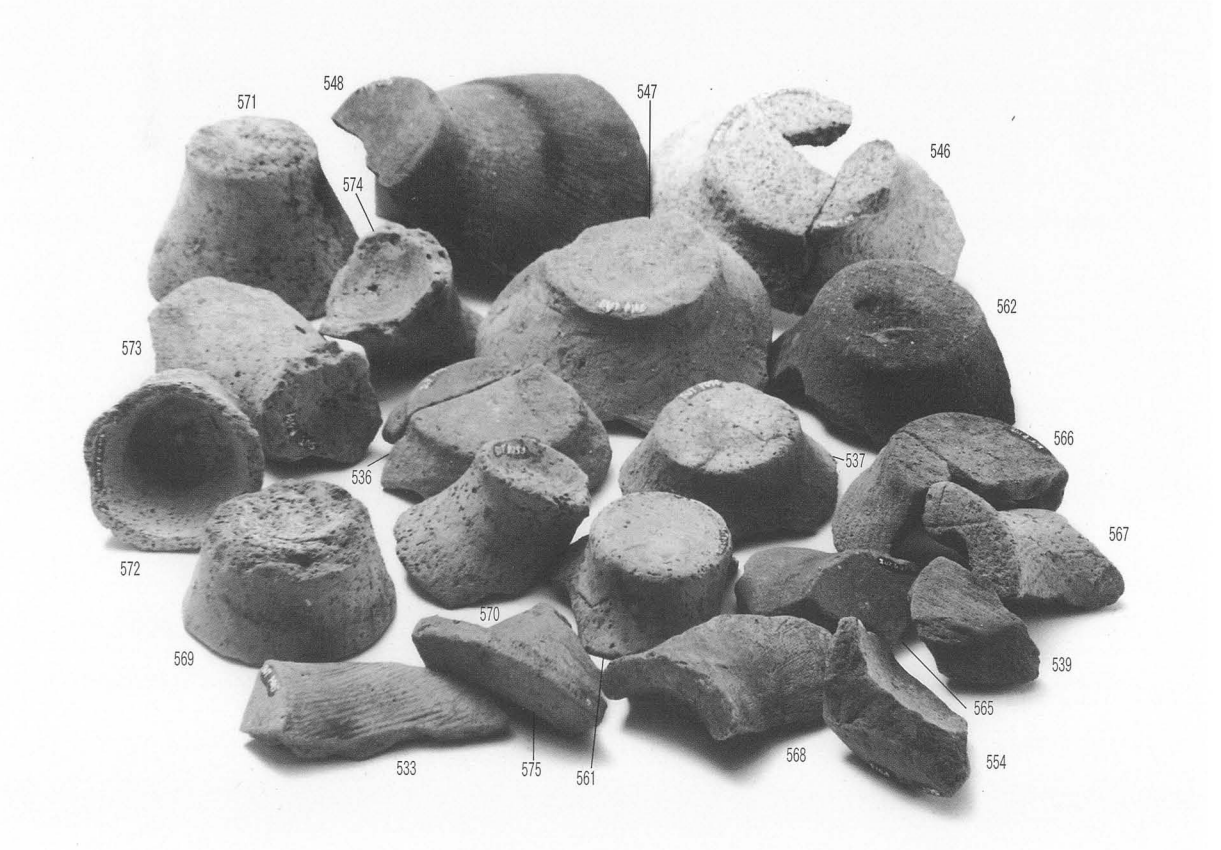


遺構外出土土器（甕１）



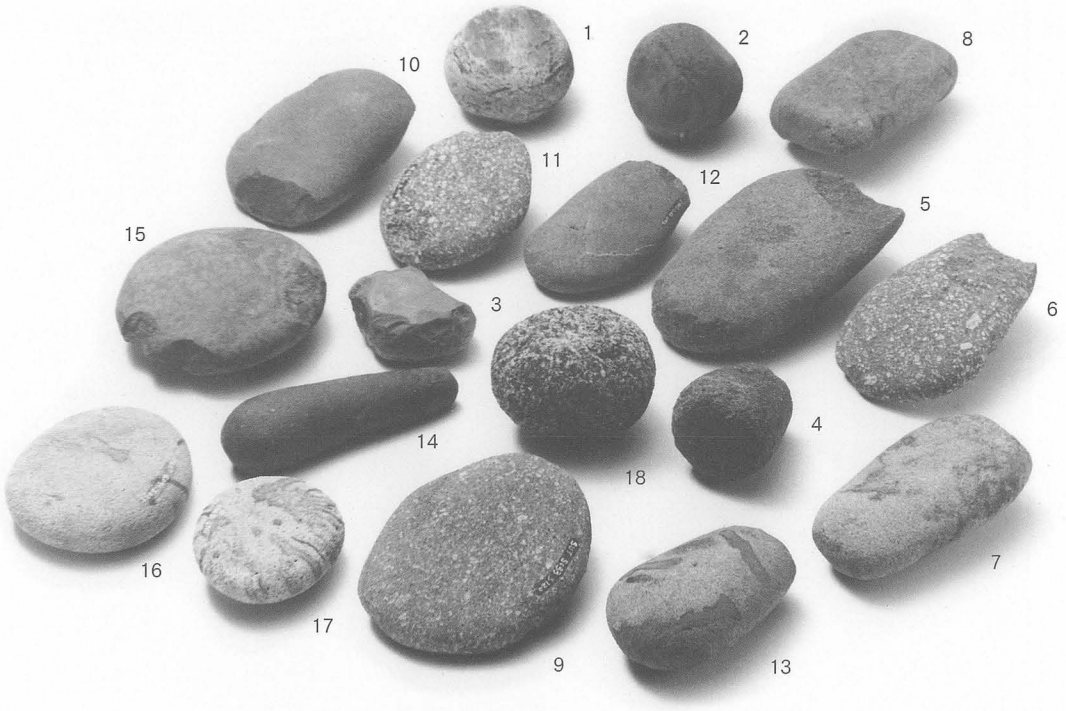
遺構外出土土器（甕２）

遺構外出土土器（底部１）

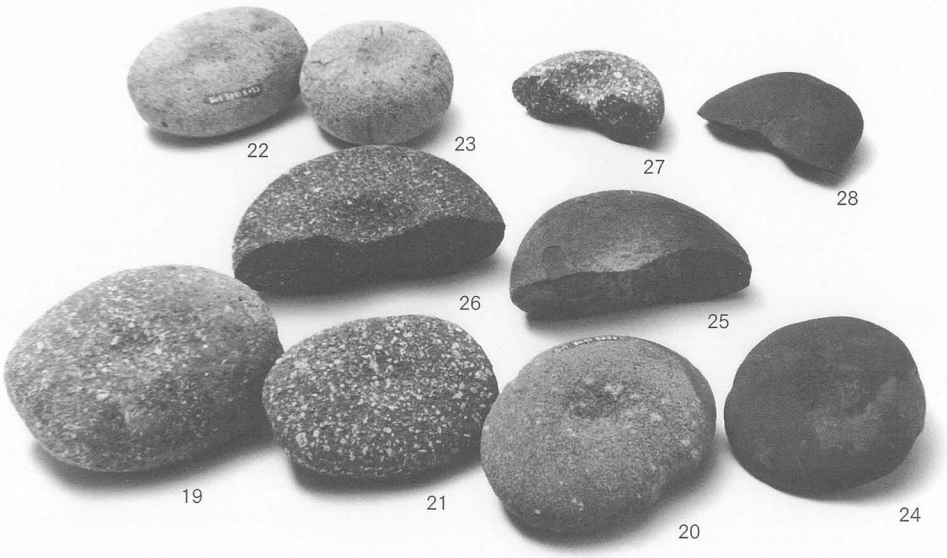


遺構外出土土器（底部２）

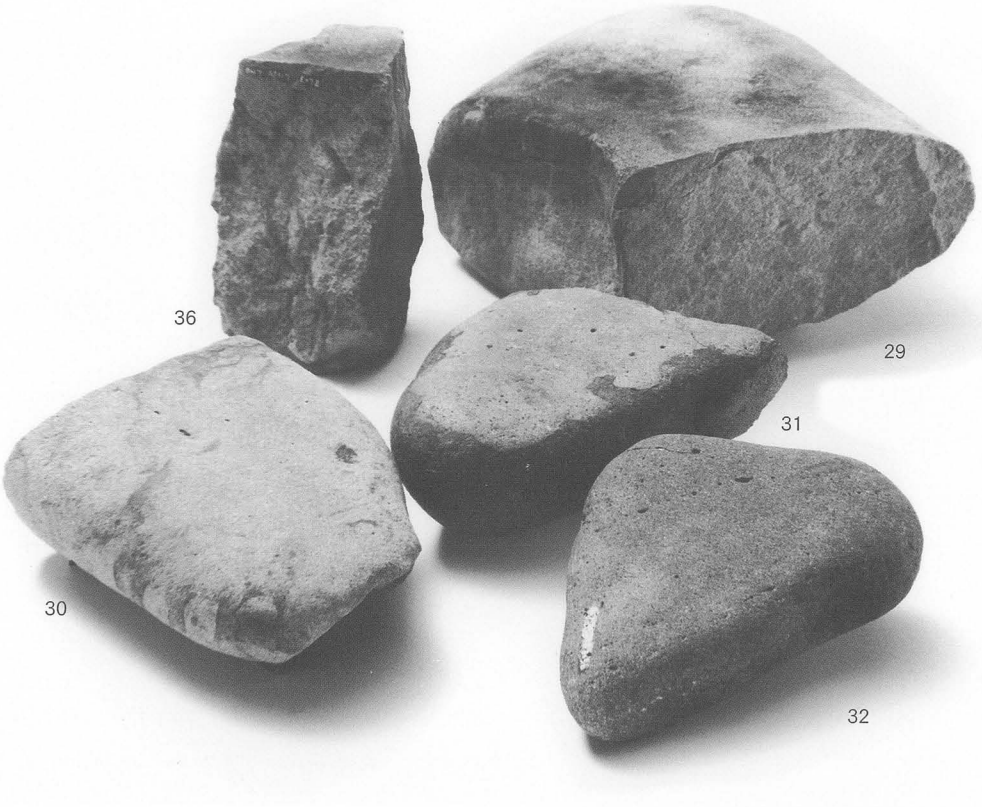
図版30



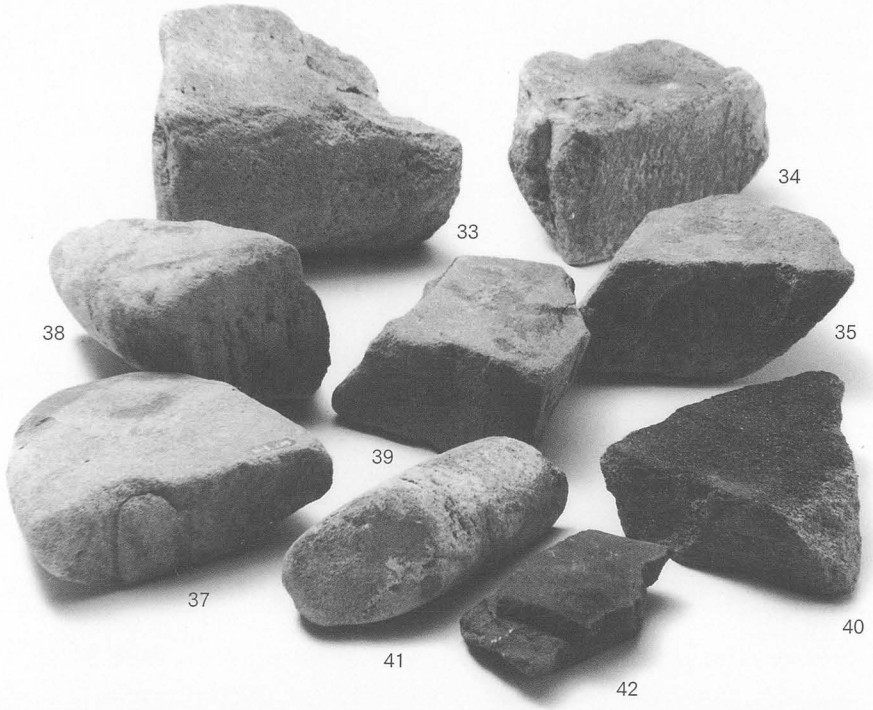
敲石



凹石

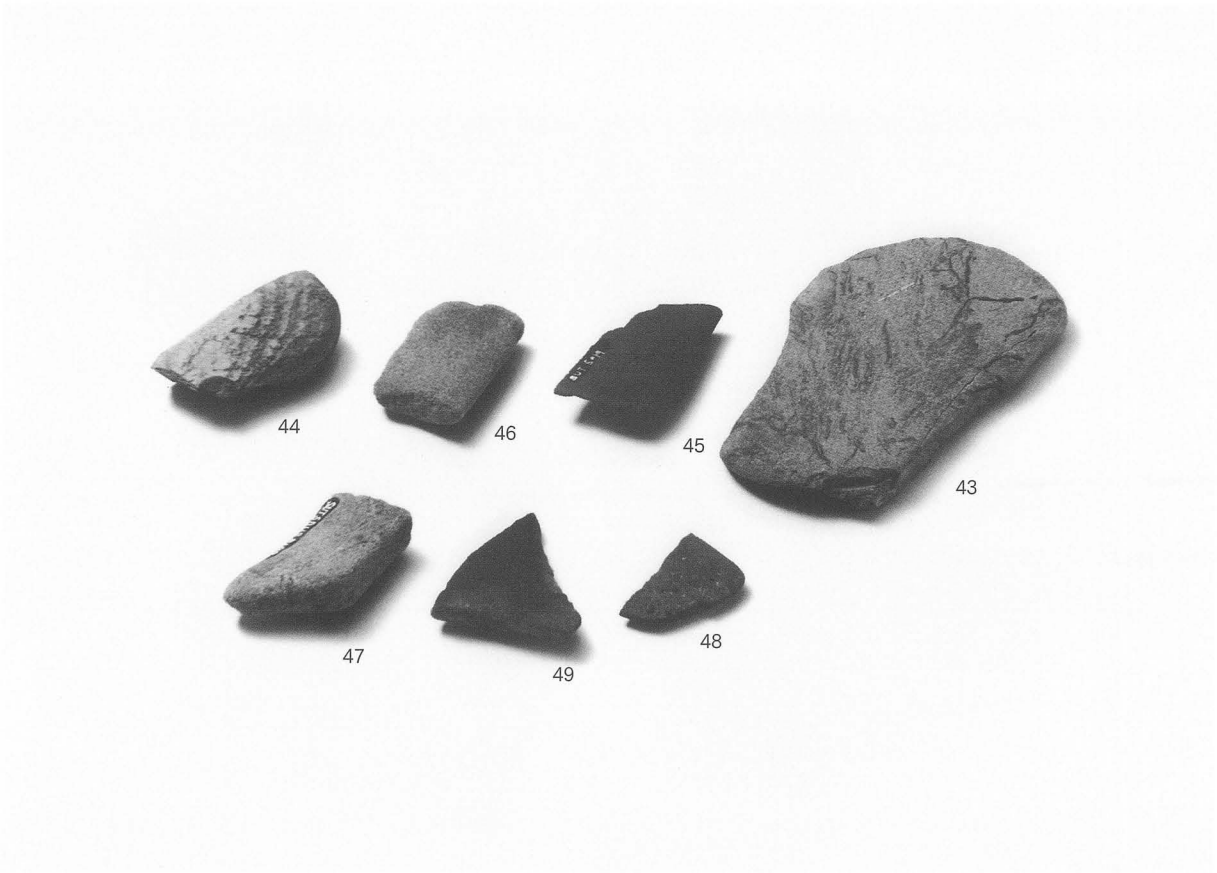


砥石１



砥石２

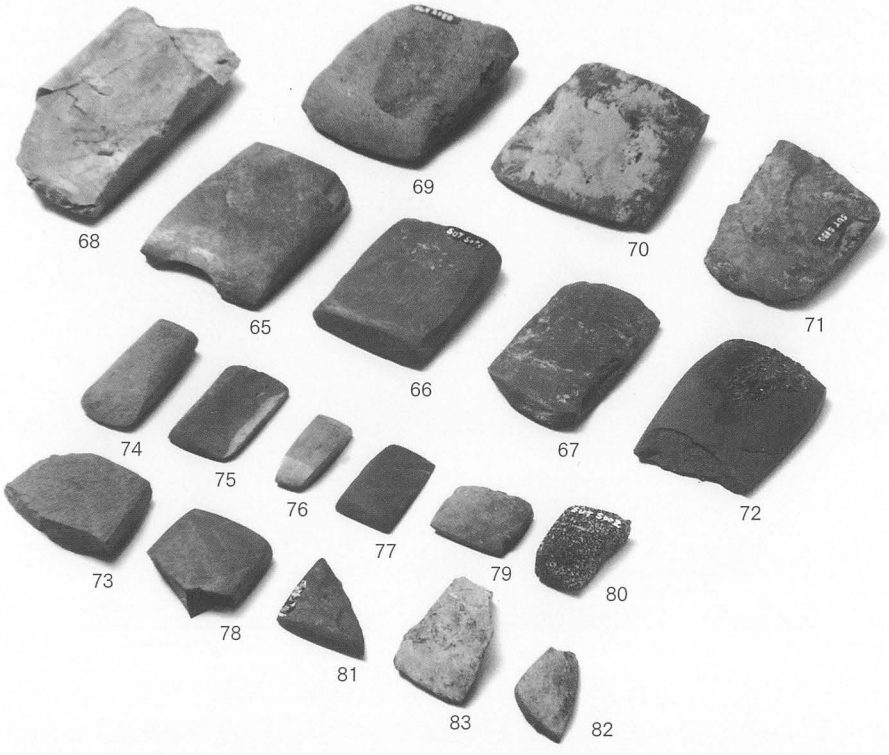
図版32



砥石３

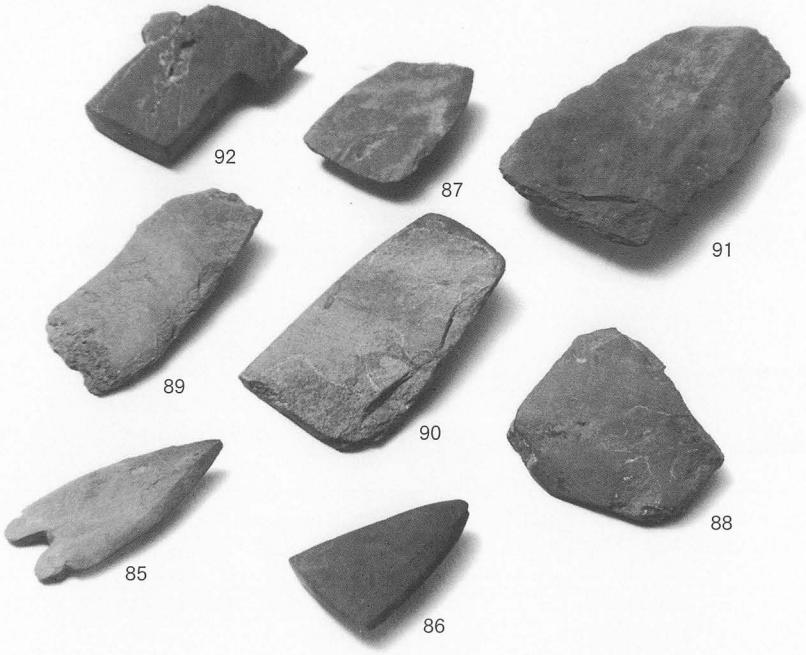
太型蛤刃石斧

柱状片刃石斧・乳棒状磨製石斧



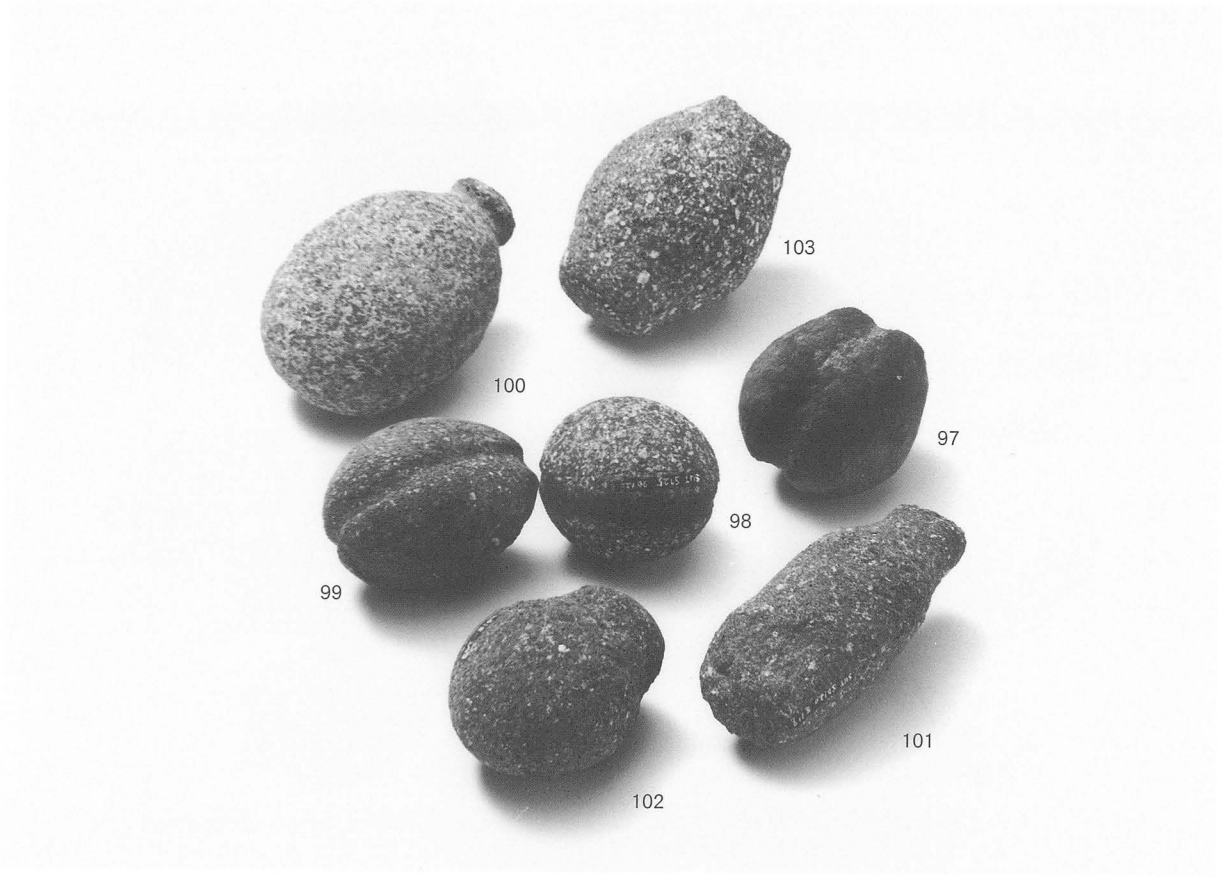
扁平片刃石斧

図版34

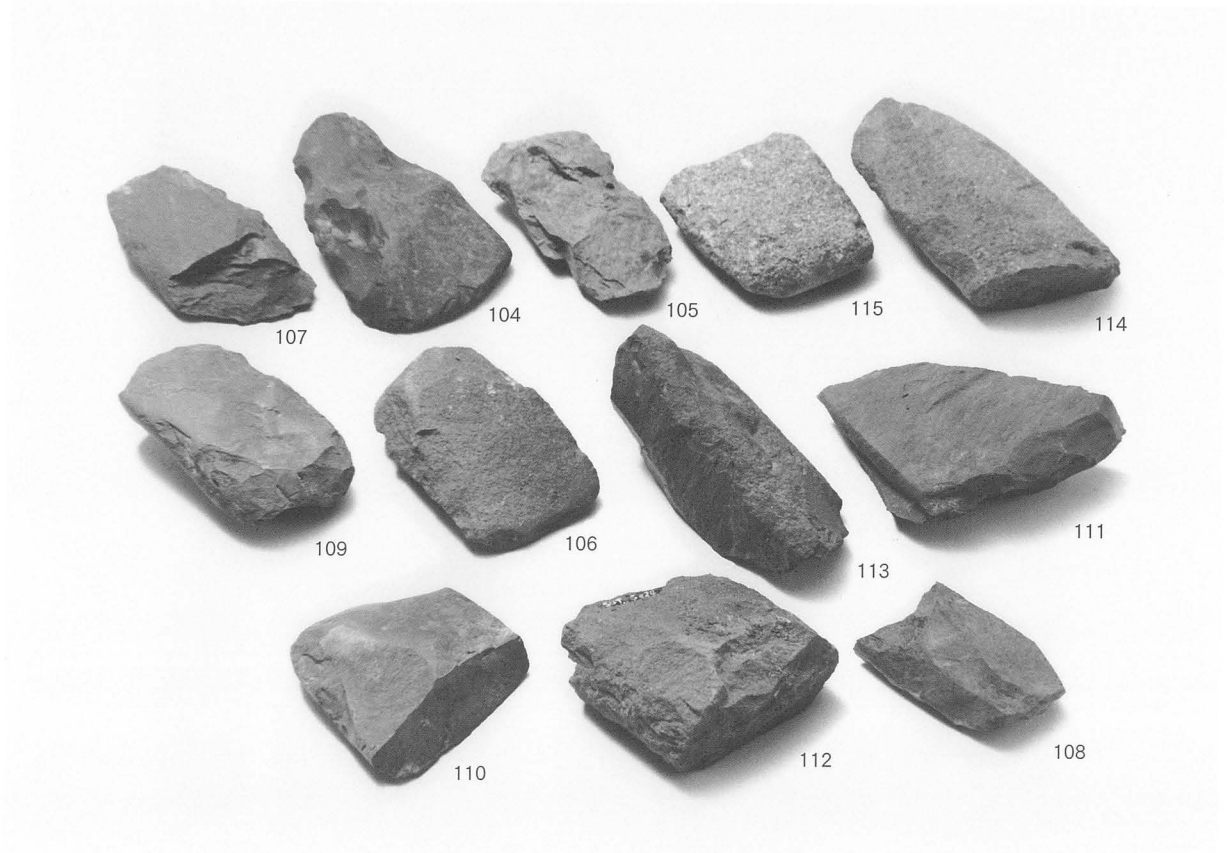


磨製石鏃・石剣

打製刃器

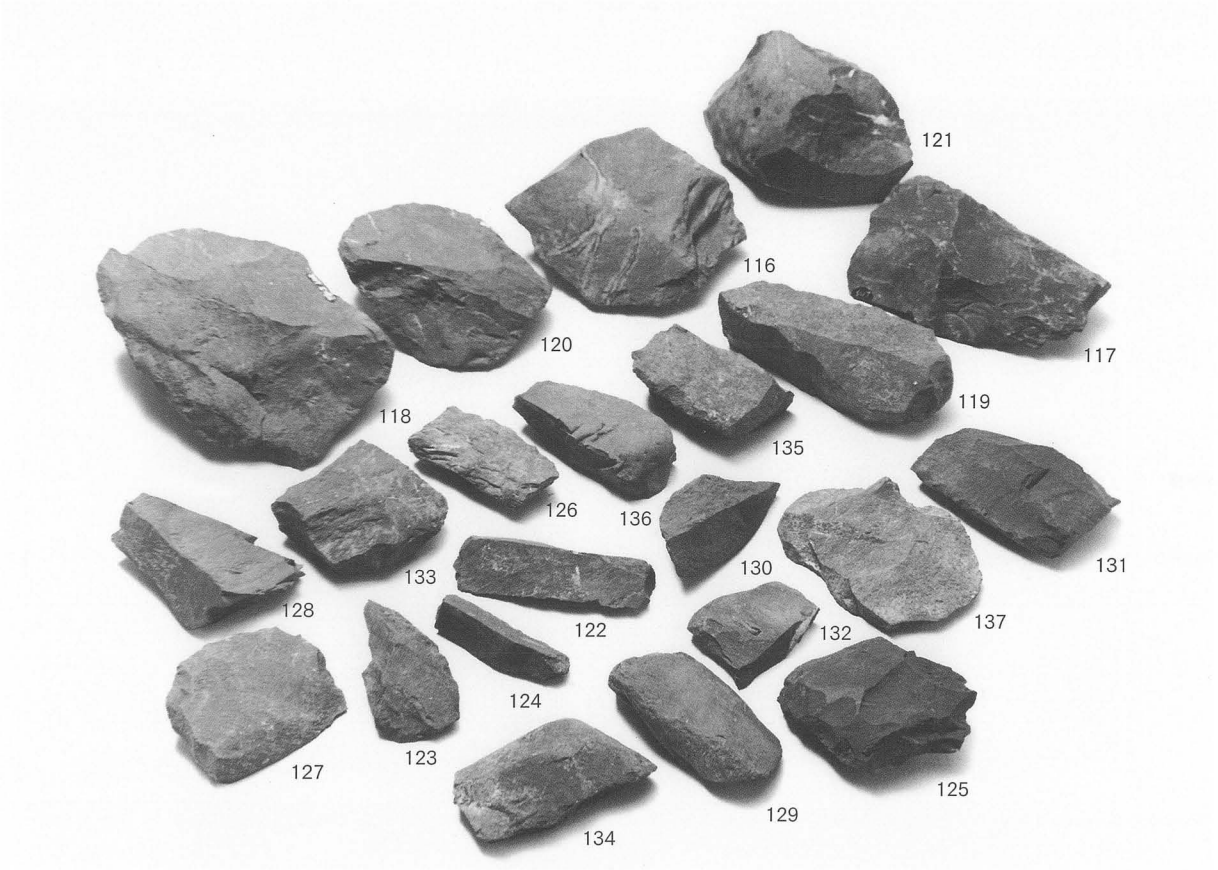

103
100
97
98
99
101
102

石錘

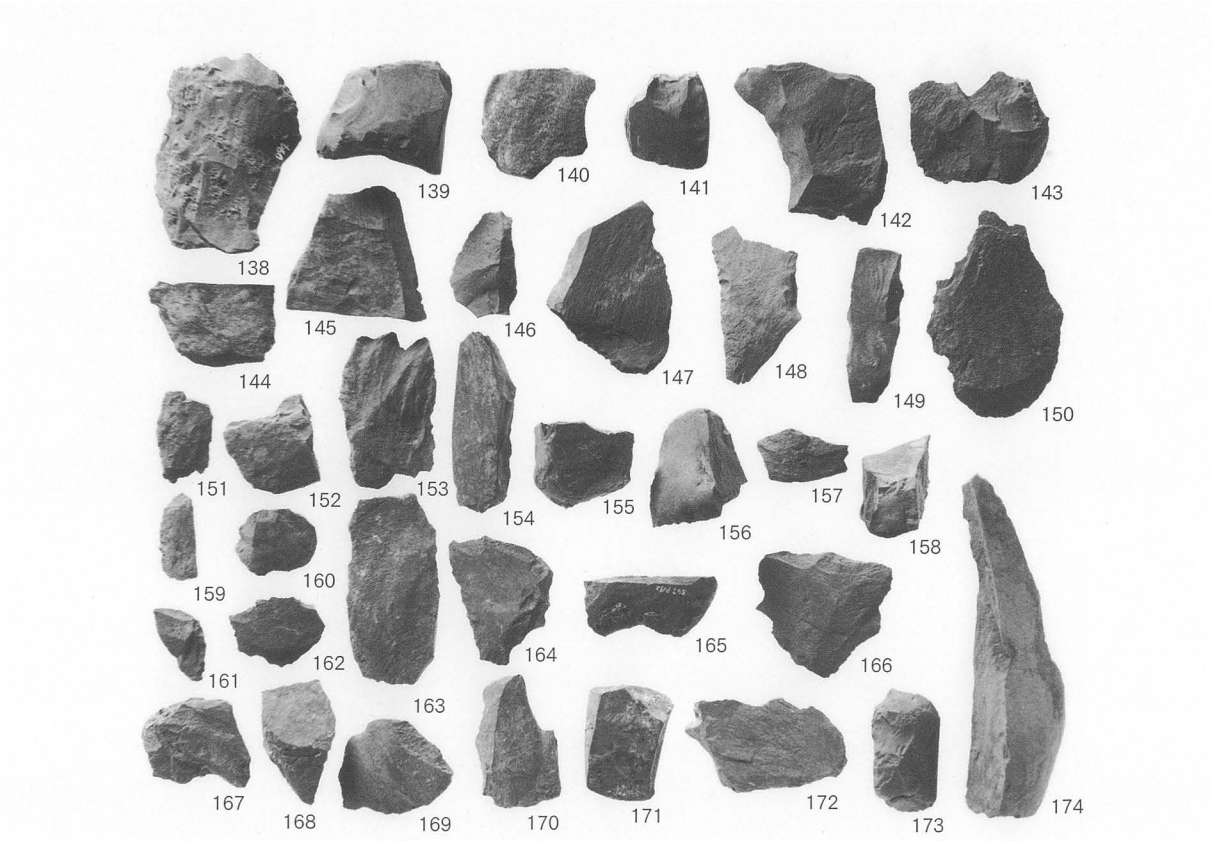

107
104
105
115
114
109
106
113
111
110
112
108

石斧未製品 1

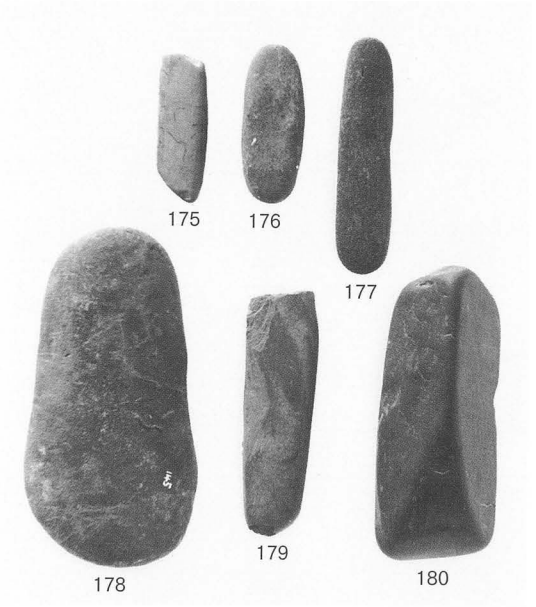
図版36



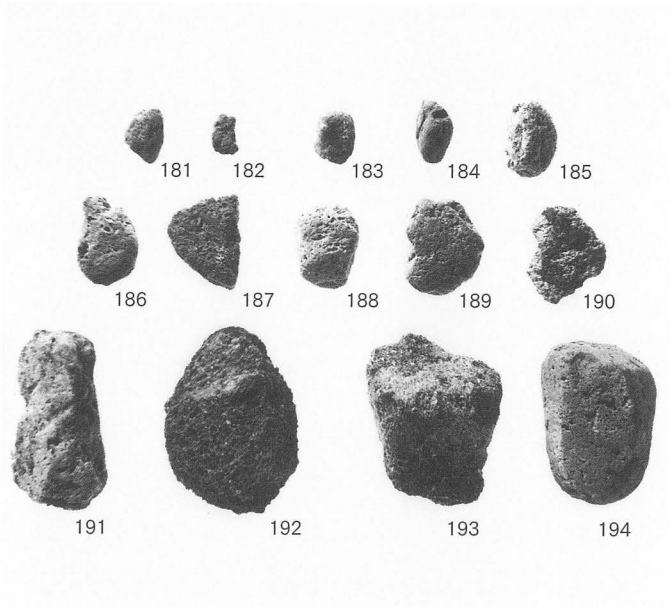
石斧未製品２



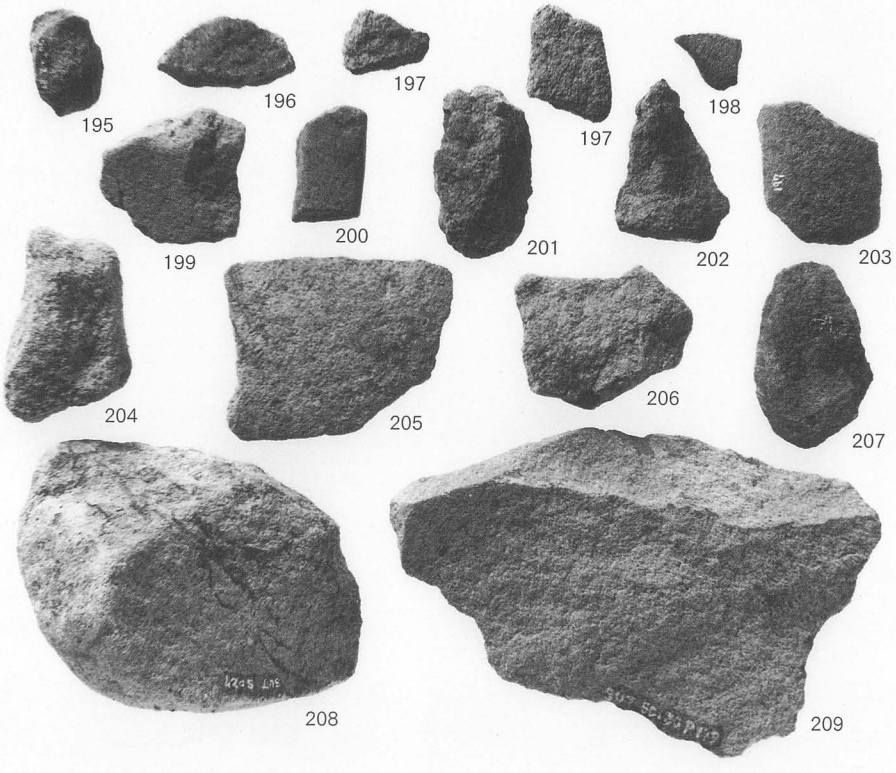
石斧未製品３



石斧未製品４

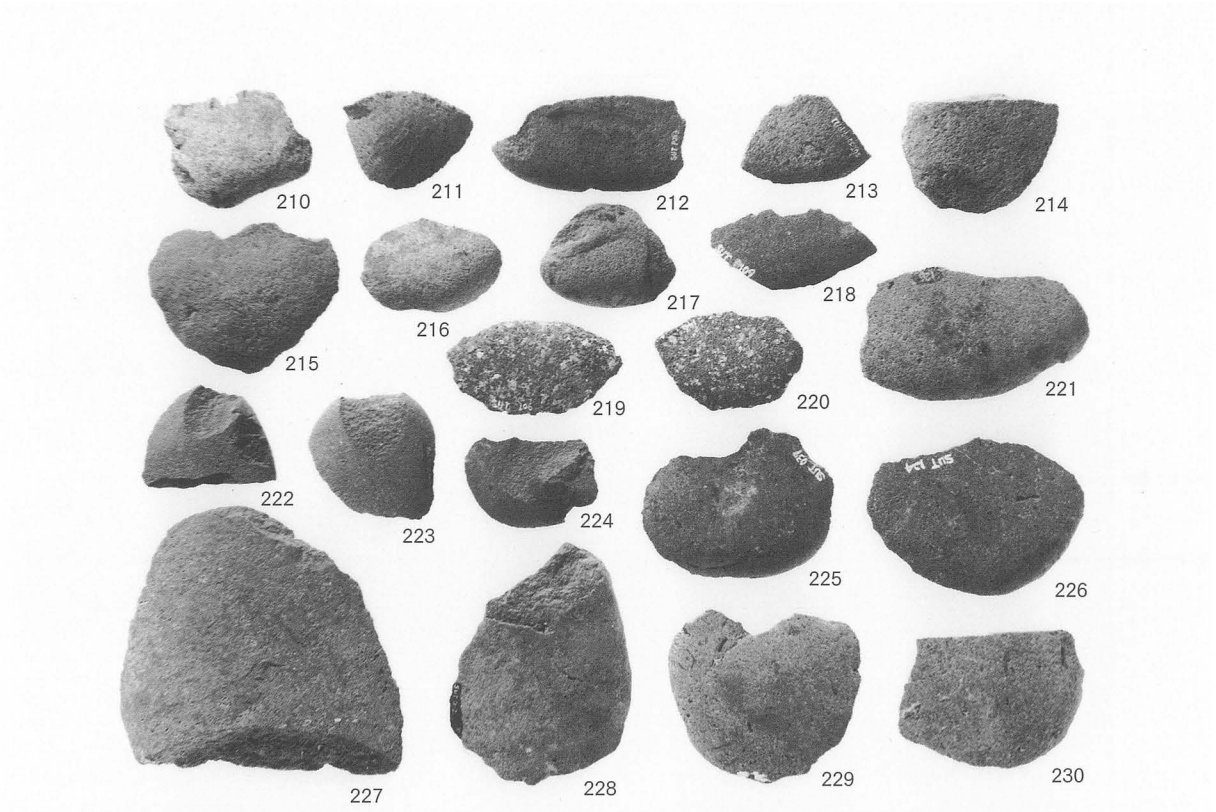


軽石

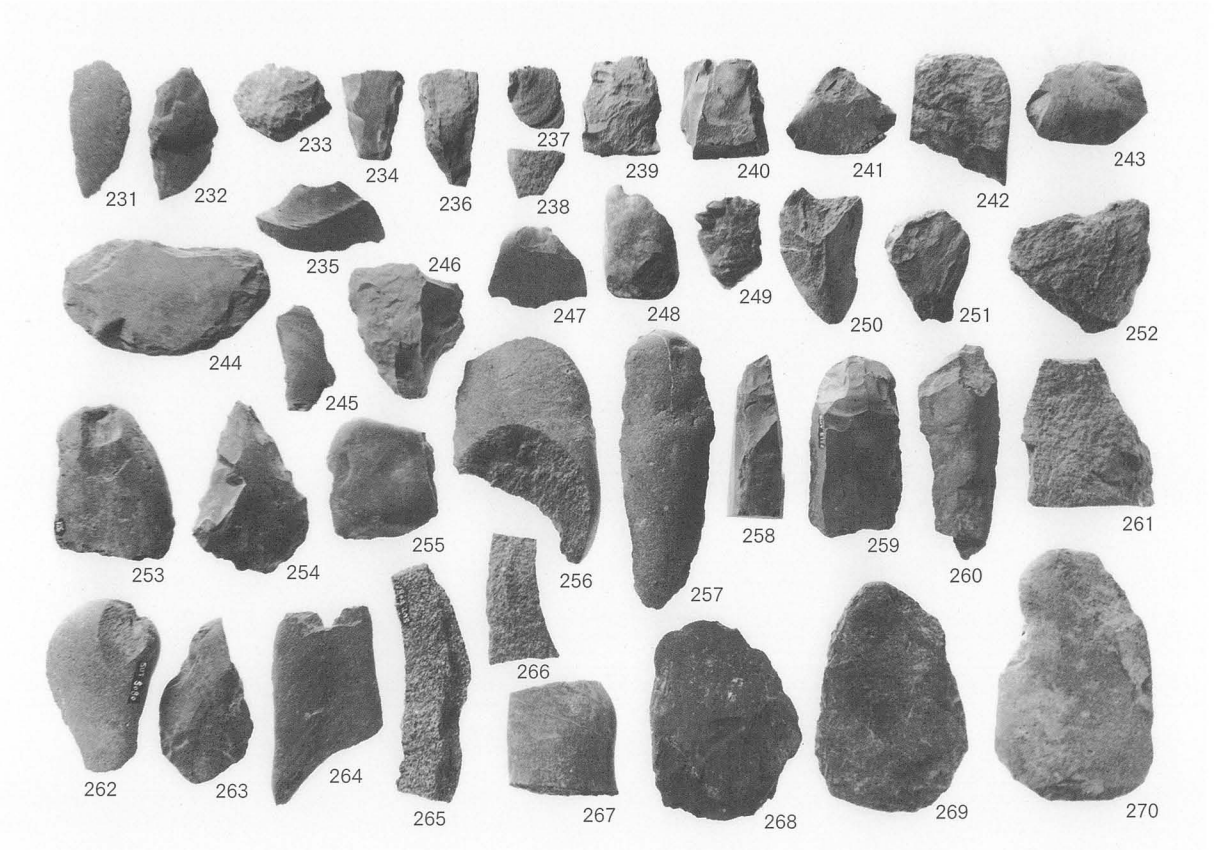


砥石材

図版38


210
211
212
213
214
215
216
217
218
219
220
221
222
223
224
225
226
227
228
229
230

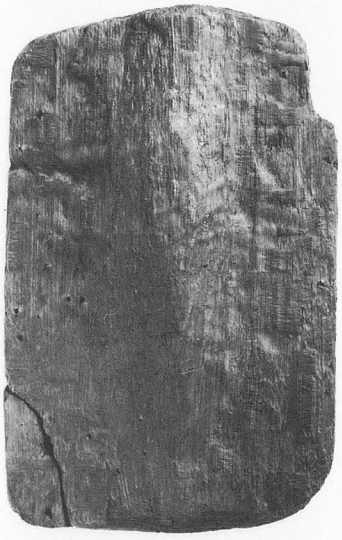
剥片 1


231
232
233
234
236
237
238
239
240
241
242
243
235
246
244
247
248
249
250
251
252
245
253
254
255
256
257
258
259
260
261
262
263
264
265
266
267
268
269
270

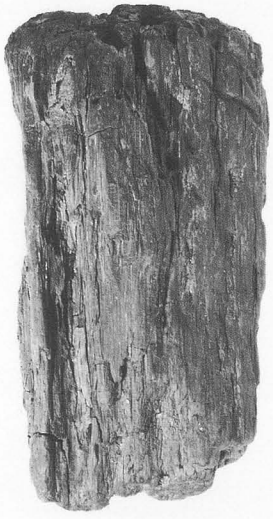
剥片 2

1

2



3

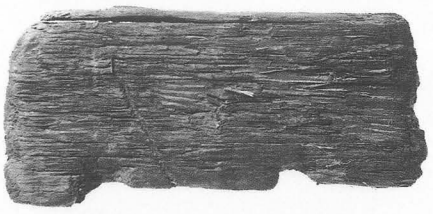


4

5

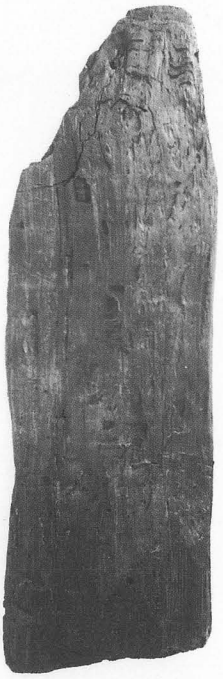
木製品 1

図版40

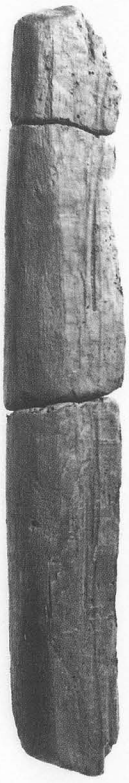


6

7

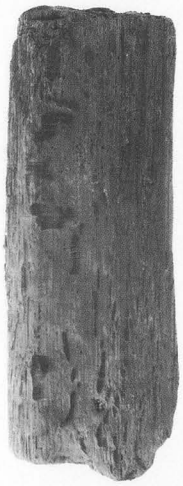


9



8

12



10

11

13

14

木製品２

SD08出土遺物

SK08出土遺物

図版42

SK23出土遺物

SK25出土遺物

SK28出土遺物

SK29出土遺物

図版44

SD14出土遺物

SR02出土遺物

報告書抄録

ふりがな	うとういせき
書名	有東遺跡
副書名	第二東名建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
シリーズ名	静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告
シリーズ番号	第235集
編著者名	五味奈々子
編集機関	財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所
所在地	〒422－8002　静岡県静岡市駿河区谷田23－20
	TEL 054－262－4261（代表）　FAX 054－262－4266
発行年月日	2011年1月31日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯 （世界測地系）	東経 （世界測地系）	発掘期間	発掘面積	発掘原因
		市町名	遺跡番号					
うとういせき 有東遺跡	しずおかしするがく 静岡市駿河区 ふじみだい 富士見台	22201	B76	34° 57' 54"	138° 24' 45"	19970521 ～ 19970723	425㎡	開発等の事業に伴うもの（道路）

所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
有東遺跡	田畑	弥生時代後期 ～ 古墳時代前期	水田		
	集落	弥生時代中期	掘立柱建物・溝状遺構・土坑・流路・小穴	弥生土器・石器・木製品	

要約

弥生時代の静岡平野には多くの遺跡が分布しており、その中でも有東遺跡は弥生時代の大規模な集落跡の一つであると考えられ、これまでに多くの調査が行われてきた。今回の調査では、掘立柱建物・溝・土坑などの遺構を検出し、遺構内からは弥生時代中期後半の土器・石器・木製品が出土した。今回の調査地点は有東遺跡における弥生時代中期後半の集落域の中心部に位置すると見られる。また、石器や木製品の未製品が大量に出土しており、それらの製作工程を復元する上で貴重な資料であると言える。

静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告　第235集

有東遺跡

第二東名建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
静岡市－2

平成23年1月31日　発行

編集・発行　財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所
〒422-8002　静岡県静岡市駿河区谷田23－20
TEL　054－262－4261㈹
FAX　054－262－4266
印　刷　所　みどり美術印刷株式会社
〒410-0058　沼津市沼北町2丁目16番19号
TEL　055－921－1839㈹